

赤羽根遺跡

太陽光発電所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

S B エナジー株式会社
群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

序 文

長野原町は、群馬県の北西部に位置し、「八ッ場ダム」に伴う生活再建事業の進行とともに新しいまちづくりを進めています。

長野原町内には、縄文時代中期後半の拠点集落である長野原一本松遺跡・横壁中村遺跡や天明3年の浅間山の大爆発により発生した泥流被災状況を伝える東宮遺跡・小林家屋敷跡に代表されるように、多数の貴重な遺跡の存在が知られています。

教育委員会では、文化財保護事業の一環として、町の貴重な文化遺産である遺跡を保護するとともに、失われていく遺跡の記録保存に努めています。

今回報告する赤羽根遺跡の発掘調査は太陽光発電所の建設事業に伴い、記録保存を目的として実施されたものです。事業地は赤羽根遺跡の包蔵地範囲とほぼ重なります。この遺跡の調査は発掘作業及び整理作業・報告書作成作業を2ヶ年の計画で実施されました。

本調査はこれまでほとんど開発が及ばない当地区的山側を面的に調査したもので、特色ある成果を挙げることができました。成果の詳細は本編に譲りますが、本書が町民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、郷土長野原の歩んできた道のりを知る一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書発刊にあたり、多大なるご指導・ご協力をいただきました関係機関および関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和2年3月

長野原町教育委員会
教育長 市村 隆宏

例　言

1. 本書は、群馬県吾妻郡長野原町大字大津所在の赤羽根遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は太陽光発電所建設工事に伴う発掘調査として、S B エナジー株式会社の委託を受けた長野原町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査から報告書作成に至るまでの調査事業費は、原因者負担による。
4. 発掘・整理調査は富田孝彦（長野原町教育委員会）の指導・監修のもと、委託を受けた株式会社歴史の杜の茂木孝行を中心に行なった。
5. 調査は、発掘調査を平成 30 年 10 月 1 日から平成 30 年 12 月 28 日及び平成 31 年 4 月 1 日から 7 月 19 日まで、整理調査及び報告書作成を平成 30 年 1 月 5 日から令和 2 年 3 月 23 日までの期間で実施した。
6. 各遺跡の出土遺物ならびに図面・写真は、全て長野原町教育委員会が保管している。
7. 整理調査の各作業分担は以下の通りである。
監修：富田　編集：茂木・笹井彩
執筆：富田（第 1 章第 1 節・2 節）
茂木（第 3 節、第 2 章第 3 節、第 3 章、第 4 章）・笹井（第 2 章第 1 節・2 節）
遺構・遺物写真撮影：茂木・小澤将人
実測指示：茂木・笹井　遺物実測：小澤・桑原霞・笹井・篠原信子・日野花江
拓本・トレース：桑原・篠原・菅谷聰・日野・深井美紀
図版および写真図版作成：小澤・笹井・菅谷・深井

8. 本文中の図番号・表番号は通し番号で 1 から付した。
9. 発掘調査の中で、一部の作業を委託した。
表土掘削・埋め戻し：東光建設株式会社
10. 発掘・整理調査及び報告書作成にあたり、次の方々から非常に多くの御指導・御助言を賜りました。
記して感謝申し上げます。（五十音順敬称略）
石坂茂・大塚昌彦・小野和之・神谷佳明・小原俊行・桜岡正信・笹澤泰史・関口博幸・関根慎二・
高島英之・谷藤保彦・塙本師也・中澤悟・藤巻幸男・山口逸弘
群馬県ハッカダム水源地域対策事務所・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

11. 長野原町教育委員会の調査体制は以下の通りである。

調査主体：長野原町教育委員会

平成 30 年～

調査組織　教育長　市村　隆宏

　　教育課長　矢野今朝治（～平成 30 年 3 月 31 日）

　　佐藤　忍（平成 30 年 4 月 1 日～）

　　教育課補佐　富田 孝彦（文化財係長兼務 平成 30 年 4 月 1 日～ 文化財保護対策室長）

　　文化財係　市川 勇氣（社会教育係兼務 ～平成 30 年 12 月 31 日）

　　福川 刚史（地域おこし協力隊 平成 29 年 4 月 1 日～令和元年 6 月 30 日）

　　高田 靖之（子ども子育て支援室兼務 平成 31 年 4 月 1 日～）

調査参加者　柿本 六美・坂井 春栄・向出 治恵

凡 例

1. 本書で使用した地図は1:2,500「長野原都市計画図」(長野原町 1994)、1:25,000「長野原」「大前」(国土地理院 2016)、1:200,000「長野」(国土地理院 2012)である。

2. 挿図の方位は座標北を示す。

3. 挿図の縮尺については下記の通りであり、各挿図中に示してある。

調査区全体図：1・2・4・5区…1/600、3区…1/800としている。

遺構：竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡（鍛冶工房跡含む）・柱列・陥し穴・遺物集中…1/60

ヤックラ…1/40 カマド・鍛冶炉・土坑（炭窯含む）・土器埋設遺構・焼土遺構…1/30

烟跡…1/80 道跡…平面図 1/400・断面図 1/40

溝跡…平面図 1/800 (SD01)・1/400 (SD02)・1/100 (SD03・04)・断面図 1/60

遺物：復元土器…1/4 土器片…1/3 石皿…1/4

打製石斧・磨製石斧・凹石・磨石・台石・羽口・鍛冶滓類・鉄床石…1/3

石匙・スクレイパー・鉄製品…1/2 尖頭器・石礫・泥面子…1/1

なお、遺物出土状況図に示した遺物実測図の縮尺は任意である。

4. 遺構の略号については以下の通りである。

SA：柱列 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SF：道跡 SI：竪穴住居跡 SJ：土器埋設遺構

SK：土坑 SN：烟跡 SU：遺物集中 SX：竪穴状遺構 P：ビット

5. 挿図に示した遺物の詳細は、観察表に記してある。観察表における復元土器の法量は左側が口径、中央が器高、右側が底径を表す。

6. 本書における遺構・遺物の計測値について、()は現存値、< >は推定値を示す。

7. 遺物観察表中の焼成については、土器表面と内部で色調が異なり、内部まで十分に火が通っていないと考えられるものを「不良」とし、色調に変化が見られないものは「良好」とした。

8. 本文並びに土層注記で使用したテフラの略号は、YPK：浅間・草津黄色軽石（浅間草津テフラ）のみである。

9. 土層に示した混入物は、量の多い順に大量・多量・含む・少量・微量とした。

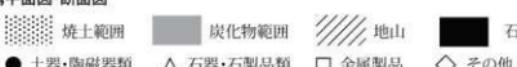
10. 土層や土器の色調に関しては、「新版標準土色帳 38 版」(2015)の色名を参考にした。土器の色調は観察表において、外面／内面の順で記し、同一の色調の場合は一つで表現した。

11. 遺構の深さは、本文中に特に記していない場合は確認面からの最深部の深さである。

12. 写真図版中の調査区全景は、ドローンによる空撮画像を使用している。

13. 挿図中のスクリーンショット・記号は以下の通りである。

遺構平面図・断面図



遺物実測図



※土器の欠損部に関しては点描で表現しているが、土師器・須恵器などは破断面を描かないものもある。

断面塗りつぶしは須恵器・灰釉陶器を示している。

目 次

例言・凡例	
目次	
第1章 調査概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 試掘確認調査の成果	1
第3節 調査の方法	1
(1) 発掘調査	1
(2) 発掘調査の経過	7
(3) 整理調査・報告書作成の経過	7
第2章 遺跡の立地と環境	9
第1節 遺跡の位置	9
第2節 周辺の遺跡	9
(1) 旧石器時代	9
(2) 繩文時代	9
(3) 弥生時代	10
(4) 古墳時代	10
(5) 奈良・平安時代	10
(6) 中世	10
(7) 近世	10
第3節 基本層序	13
第3章 検出された遺構と遺物	16
第1節 繩文時代の遺構と遺物	16
(1) 穴状遺構	16
(2) 土坑	27
(3) 土器埋設遺構	33
第2節 平安時代の遺構と遺物	37
(1) 穴状住跡	37
(2) 鋼冶工房跡	73
(3) 陷し穴	81
(4) 炭窯	112
(5) 遺物集中	116
第3節 中世から近世の遺構と遺物	116
(1) 掘立柱建物跡	116
(2) 柱列	118
(3) 方形穴状遺構	121
(4) 溝跡	121
(5) 道跡	126
(6) 番跡	127
(7) ヤックラ	127
第4節 その他の遺構と遺物	128
(1) 土坑	128
(2) ピット	145
(3) 焚土遺構	145
(4) 遺構出土遺物	149
第4章 まとめ	156
遺物観察表	

挿 図 目 次

第1図 試掘確認調査トレーナー位置図 (1/2,000)	2	第5図 小グリッド設定図	6
第2図 試掘出土遺物実測図① (1/1・1/3)	3	第6図 調査区位置図 (1/2,500)	8
第3図 試掘出土遺物実測図② (1/2・1/3・1/4)	4	第7図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (広域・1/200,000)	11
第4図 中グリッド設定図 (1/4,000)	6	第8図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25,000)	11

第9図	基本土柱状図(1/30)	14
第10図	1区2・3面目全体図(1/600)	17
第11図	2区2面目全体図(1/600)	18
第12図	3区1面目全体図(1/800)	19
第13図	3区2面目全体図(1/800)	20
第14図	4区1面目全体図(1/600)	21
第15図	4区2面目全体図(1/600)	22
第16図	4区3面目全体図(1/600)	23
第17図	5区1面目全体図(1/600)	24
第18図	5区2面目全体図(1/600)	25
第19図	SX01 実測図(1/60)	26
第20図	SX01 出土遺物実測図 (1/1・1/3)	27
第21図	SK01 実測図(1/30)	28
第22図	SK08 実測図(1/30)	29
第23図	SK09 実測図(1/30)	30
第24図	SK10・122 実測図(1/30)	31
第25図	縄文時代土坑出土遺物実測図 (1/1・1/2・1/3・1/4)	32
第26図	SJ01～05 実測図(1/30)	34
第27図	土器埋設遺構出土遺物実測図① (1/4)	35
第28図	土器埋設遺構出土遺物実測図② (1/4)	36
第29図	土器埋設遺構出土遺物実測図③ (1/4)	37
第30図	SI01 実測図(1/60)	38
第31図	SI01 挖り方実測図(1/60)	39
第32図	SI01 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)	40
第33図	SI01 遺物出土状況図(1/60)	41
第34図	SI01 カマド・カマド掘り方 遺物出土状況図(1/30)	42
第35図	SI01 出土遺物実測図 (1/2・1/4)	43
第36図	SI02 実測図(1/60)	44
第37図	SI02 挖り方(1/60)・ SI02 カマド実測図(1/30)	45
第38図	SI02 カマド掘り方実測図(1/30)	46
第39図	SI02 出土遺物実測図(1/3・1/4)	46
第40図	SI03 実測図(1/60)	47
第41図	SI03 挖り方実測図(1/60)	48
第42図	SI03 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)	49
第43図	SI03 出土遺物実測図(1/3・1/4)	50
第44図	SI04 実測図(1/60)	51
第45図	SI04 挖り方実測図(1/60)	52
第46図	SI04 出土遺物実測図(1/4)	52
第47図	SI05 実測図(1/60)	53
第48図	SI05 挖り方実測図(1/60)	54
第49図	SI05 カマド実測図(1/30)	54
第50図	SI05 カマド遺物出土状況図 (1/30)	55
第51図	SI05 出土遺物実測図(1/2・1/4)	56
第52図	SI06 実測図(1/60)	57
第53図	SI06 断面図(1/60)	58
第54図	SI06 挖り方実測図(1/60)	59
第55図	SI06 カマド実測図(1/30)	60
第56図	SI06 遺物出土状況図(1/60)	61
第57図	SI06 カマド掘り方実測図(1/30)	62
第58図	SI06 カマド遺物出土状況図 (1/30)	62
第59図	SI06 炭化物・焼土出土状況図 (1/60)	63
第60図	SI06 出土遺物実測図① (1/2・1/4)	63
第61図	SI06 出土遺物実測図②(1/2)	64
第62図	SI07・08 実測図(1/60)	65
第63図	SI07・08 挖り方実測図(1/60)	66
第64図	SI07・08 カマド実測図(1/30)	66
第65図	SI07・08 カマド掘り方実測図 (1/30)	67
第66図	SI07 出土遺物実測図(1/3・1/4)	67
第67図	SI09 実測図(1/60)	68
第68図	SI09 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30)	69
第69図	SI09 出土遺物実測図(1/4)	70
第70図	SI10 実測図(1/60)	71
第71図	SI10 挖り方実測図(1/60)	72
第72図	SI10 カマド実測図(1/30)	72
第73図	SI10 カマド掘り方実測図(1/30)	73
第74図	SI10 出土遺物実測図(1/4)	73
第75図	SB01 実測図(1/60)	73
第76図	SB01 炉実測図(1/30)	74
第77図	SB01 遺物出土状況図(1/30)	75
第78図	SB01 鋸造剥片・粒状津分布図	77
第79図	SB01 鋸治津分布図	78
第80図	SB01 出土遺物実測図① (1/3・1/4)	79
第81図	SB01 出土遺物実測図②(1/3)	80

第 82 図	SBO1 出土遺物実測図③ (1/3)	81
第 83 図	SK06・11 実測図 (1/60)	82
第 84 図	SK13～15 実測図 (1/60)	83
第 85 図	SK16・17 実測図 (1/60)	84
第 86 図	SK18・20 実測図 (1/60)	85
第 87 図	SK22・23・25 実測図 (1/60)	87
第 88 図	SK26・32・33 実測図 (1/60)	88
第 89 図	SK35～37 実測図 (1/60)	90
第 90 図	SK39・41・42 実測図 (1/60)	91
第 91 図	SK43・46・53 実測図 (1/60)	93
第 92 図	SK56 実測図 (1/60)	94
第 93 図	SK57 実測図 (1/60)	95
第 94 図	SK58・62・63 実測図 (1/60)	96
第 95 図	SK81・82 実測図 (1/60)	97
第 96 図	SK83・84 実測図 (1/60)	99
第 97 図	SK85～87 実測図 (1/60)	100
第 98 図	SK88～90 実測図 (1/60)	101
第 99 図	SK101～103 実測図 (1/60)	102
第 100 図	SK105～107 実測図 (1/60)	104
第 101 図	SK108～110 実測図 (1/60)	106
第 102 図	SK111～114 実測図 (1/60)	108
第 103 図	SK115・116 実測図 (1/60)	109
第 104 図	SK117・118 実測図 (1/60)	110
第 105 図	SK119～121 実測図 (1/60)	111
第 106 図	SK47・55 実測図 (1/30)	113
第 107 図	SK68・79・98 実測図 (1/30)	114
第 108 図	SU01 実測図 (1/60)	116
第 109 図	SU01 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	116
第 110 図	SBO2 実測図 (1/60)	117
第 111 図	SBO2 出土遺物実測図 (1/4)	118
第 112 図	SA01 実測図 (1/60)	119
第 113 図	SA02・03 実測図 (1/60)	120
第 114 図	SX02 実測図 (1/60)	121
第 115 図	SD01 実測図 (1/40・1/800)	122
第 116 図	SD02 実測図 (1/40・1/400)	123
第 117 図	SD03・04 実測図 (1/40・1/100)	124
第 118 図	溝跡出土遺物実測図 (1/1・1/2・1/3・1/4)	124
第 119 図	SF01・02 実測図 (1/40・1/400)	125
第 120 図	SN01 実測図 (1/80)	126
第 121 図	1・2号ヤックラ実測図 (1/40)	127
第 122 図	3号ヤックラ実測図 (1/40)	128
第 123 図	SK02～05 実測図 (1/30)	129
第 124 図	SK07・12・19・21 実測図 (1/30)	130
第 125 図	SK24・27～31 実測図 (1/30)	132
第 126 図	SK34・38・40 実測図 (1/30)	133
第 127 図	SK44・45・54 実測図 (1/30)	135
第 128 図	SK59～61・64～66 実測図 (1/30)	136
第 129 図	SK67・69～73 実測図 (1/30)	138
第 130 図	SK74～77 実測図 (1/30)	140
第 131 図	SK78・80・91・92 実測図 (1/30)	141
第 132 図	SK93～96 実測図 (1/30)	143
第 133 図	SK97・104 実測図 (1/30)	144
第 134 図	ピット出土遺物実測図 (1/4)	145
第 135 図	1・3・4・6・8号焼土実測図 (1/30)	146
第 136 図	9～13号焼土実測図 (1/30)	148
第 137 図	14～16号焼土実測図 (1/30)	149
第 138 図	遺構外出土遺物実測図① (1/4)	150
第 139 図	遺構外出土遺物実測図② (1/3・1/4)	151
第 140 図	遺構外出土遺物実測図③ (1/3)	152
第 141 図	遺構外出土遺物実測図④ (1/1・1/3)	153
第 142 図	遺構外出土遺物実測図⑤ (1/1・1/2・1/3)	154
第 143 図	遺構外出土遺物実測図⑥ (1/3)	155
第 144 図	遺構外出土遺物実測図⑦ (1/4)	156

捲 表 目 次

第 1 表	試掘確認調査トレンチ一覧表	3
第 2 表	試掘トレンチ出土遺物観察表	4
第 3 表	発掘・整理調査工程表	7
第 4 表	周辺の遺跡	12
第 5 表	SIO1 ピット計測表	37
第 6 表	SIO2 ピット計測表	43
第 7 表	SIO3 ピット計測表	48
第 8 表	SIO4 ピット計測表	50

第9表	SI05 ピット計測表	56	第15表	SBO2 ピット計測表	116
第10表	SI06 ピット計測表	64	第16表	SAO1 ピット計測表	118
第11表	SI07 ピット計測表	64	第17表	SAO2 ピット計測表	119
第12表	SI10 ピット計測表	70	第18表	SAO3 ピット計測表	119
第13表	SBO1 ピット計測表	73	第19表	ピット観察表	145
第14表	SBO1 出土鍛造剝片・粒状滓・ 鍛治滓集計表	78	第20表	平安時代住居跡諸属性一覧	157
			第21表	出土遺物観察表	158

図版目次

P L 1	試掘2・7・9・11・18・30・32・34・ 35・39号トレンチ出土遺物		5.	SK25 全景（南西から）	
P L 2	1. 赤羽根遺跡遠景（北上空から） 2. 1~3区全景（南上空から）		6.	SK26 全景（南東から）	
P L 3	1. 4・5区全景（南上空から） 2. SX01 遺物出土状況（東から） 3. SK01 全景（南から） 4. SK08 剥片等出土状況（東から） 5. SK09 全景（東から）		7.	SK32 全景（南から）	
P L 4	1. SJ01 遺物出土状況（南から） 2. SJ02 遺物出土状況（南から） 3. SJ03 遺物出土状況（南西から） 4. SJ04 遺物出土状況（東から） 5. SIO1 全景（西から）		8.	SK35 全景（南から）	
P L 5	1. SIO2 全景（西から） 2. 4区3面トレンチ掘削状況 (南上空から) 3. SIO1 カマド全景（西から） 4. SIO2 カマド全景（西から） 5. SIO3 全景（西から）		P L 9	1. SK37 全景（南から） 2. SK41 全景（南東から） 3. SK57 全景（南西から） 4. SK63 全景（南から） 5. SK81 全景（南西から） 6. SK115 全景（南から）	
P L 6	1. SIO4 全景（西から） 2. SIO5 全景（西から） 3. SI06 炭化材・土屋根検出状況（西から） 4. SI06 磐石（南から） 5. SI06 全景（西上空から）		7.	SK68 炭窯 炭化物出土状況（南から） 8. SK79 炭窯 断ち割り状況（南から）	
P L 7	1. SI07・08 全景（西から） 2. SI09 全景（西から） 3. SI10 全景（北西から） 4. SBO1 全景（南上空から） 5. SBO1 鍛冶工房中心部（南から）		P L 10	1. SB02・SA02・03 全景（南上空から） 2. SK98 炭窯 炭化材出土状況（南西から） 3. SX02 全景（南から） 4. SB02 全景（南から） 5. SD02 全景（南から）	
P L 8	1. SB01 4号炉使用面（南から） 2. SK06 全景（南から） 3. SK11 全景（南から） 4. SK15 全景（南から）		P L 11	1. SD01 全景（南上空から） 2. SF01 全景（南上空から） 3. SNO1 全景（南上空から） 4. SF02 全景（北西から） 5. 3号ヤックラ全景（南から） 6. SIO6 炭化材取り上げ作業	
			P L 12	SX01・土器埋設遺構出土遺物	
			P L 13	土器埋設遺構・縄文時代土坑出土遺物	
			P L 14	縄文時代土坑・SIO1・02・03 出土遺物	
			P L 15	SIO3・04・05・06・07・09 出土遺物	
			P L 16	SI10・鍛冶工房出土遺物	
			P L 17	掘立柱建物跡・遺物集中・溝跡・ピット・ 遺構外出土遺物	
			P L 18	遺構外出土遺物	
			P L 19	遺構外出土遺物	
			P L 20	遺構外出土遺物	
				報告書抄録	

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成27年6月上旬にS Bエナジー株式会社より太陽光発電所建設事業の計画が示され、埋蔵文化財の取り扱いについて、長野原町教育委員会教育課文化財係に照会があった。対象地は周知の包蔵地「赤羽根遺跡（No.98）」の全域と「大久保II遺跡（No.100）」に隣接していることから、試掘確認調査の必要がある旨を説明し、調査実施の合意を得た。文化財保護法第93条第1項の規定により、平成27年11月11日付で関係書類（開発に伴う文化財調査願書・「発掘届」）が提出された。同年12月10日～12月16日に教育委員会文化財担当の立会いのもと、立木で重機の入る箇所は制限されたが、対象地内に11本の試掘坑（トレンチ）を設定し、遺構の有無および土層の堆積状況の事前調査を行なった。その結果、11本中6本で縄文時代～平安時代を中心とした遺構・遺物が検出され、また地形と併せて対象地全体をA～Fの6つのエリアに分けることができた。さらに事業予定地の増減がある中、エリア毎の詳細な内容が求められたことから、大規模な伐採後の平成28年4月20日～5月17日に対象地内に30本の試掘坑（トレンチ）を設定し、追加調査を実施した。その結果、エリア毎の遺跡の内容及び表上から遺物包含層まで深さを大まかに把握することができた（第1図・第1表）。この結果を踏まえ、事業計画範囲や工法の工夫などの摺り合わせ協議を重ねて、エリア毎での調査対象面積を確定していった。その後、電源接続案件プロセスによる事業決定まで一定期間を要したが、その間調査計画の策定、調査体制の検討や調査費用の積算、地権者の承諾、委託契約締結などを経て、調査体制は長野原町直営ではあるが民間発掘会社の調査員支援というかたちを探り、調査期間は平成30・31（令和元）年度の2ヶ年計画（発掘作業及び整理作業・報告書作成作業）で、平成30年10月1日より本調査を実施する運びとなった。

第2節 試掘確認調査の成果（第1～3図／第1・2表／PL1）

上述した通り、平成27年12月10日～12月16日、平成28年4月20日～5月17日までの2回に分けて事業予定地内に41本の試掘坑（トレンチ）を設定し、遺構の有無および土層の堆積状況を記録する試掘確認調査を実施した。そのうち17本で縄文時代～平安時代を中心とした住居跡や土坑などの遺構が検出され、テンバコ3箱分の遺物が出土した。その当時の開発予定面積45,936m²に対して試掘確認面積は1,593.8m²であった。この調査概要は以前報告しているので詳細はそちらを参照願いたい（長野原町教育委員会2017・2018）。

この試掘確認調査結果に基づき、掘削工事予定箇所の遺構・遺物検出範囲、並びに道路敷設予定箇所の遺構・遺物の検出範囲を大まかな発掘調査区域とし、1～5の調査区、20,174m²を最終的な調査対象面積とした。この調査結果で得られた各調査区の様相は発掘調査のそれと比べてみると概ね合致しており、調査前に実施した当該調査の有効性が追認されたといえよう。

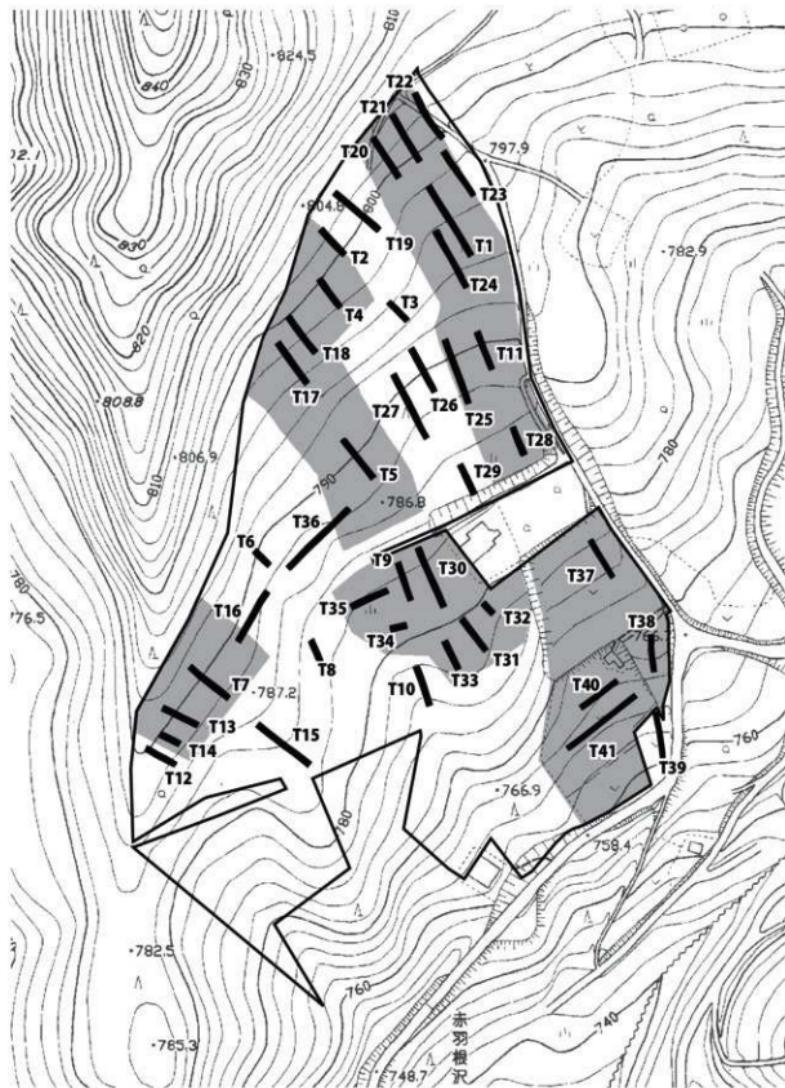
第3節 調査の方法

（1）発掘調査

今回の太陽光発電所建設工事に伴う埋蔵文化財調査事業では、開発総面積45,936m²の内20,174m²を調査対象として1～5区の調査区に分けて発掘調査を行なった。

a. 表土除去

表土除去の前段階として、調査区及び排土置き場には伐採後の切り株が数多く存在するため、伐根を行なった上で表土除去に移った。両作業ともに重機（バックホー）、根や排土の運搬はクローラーを使用した。排土置き場は、初年度は開発地内の調査区外とし、次年度は初年度終了時点を終了した2・3区内を充てた。その



第1図 試掘確認調査トレンチ位置図(1/2,000)

線で区画された区域が、事業区域である。その中で、以下のような措置をとった。

■：事業区域

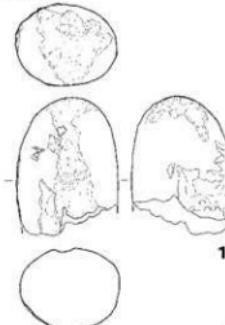
■：埋蔵文化財調査必要区域

■：試掘トレンチ

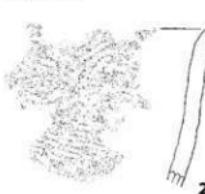
第1表 試掘確認調査トレンド一覧表

トレンド名	調査区 内／外	検出遺構	表土からの深さ	掲載の有無	備考
1	内		1.34 m		
2	内	縄文時代土坑	1.02 ~ 1.68 m	○	第2図1
3	外		1.4 m		
4	内		1.05 m		
5	内	陥し穴（平安）1基	0.85 m		
6	外		1.15 ~ 1.85 m		
7	内	縄文早期末～前期前半土坑2基、煙の歎サク痕	0.62 m	○	第2図2
8	外	煙の歎サク痕	0.57 m		
9	内	中期前葉包含層、時期不明土坑1基	0.86 m	○	第2図3
10	外		1.04 ~ 1.75 m		
11	内	平安時代住居1軒	0.92 m	○	第3図4
12	外		1.12 m		
13	内		0.85 m		
14	内		0.88 m		
15	外		0.8 m		
16	内／外		0.9 m		
17	内		1.12 m		
18	内	縄文前期初頭土坑1基	1.12 m	○	第3図5
19	外		0.7 m		
20	内	陥し穴（平安）1基	0.8 m		
21	内		0.65 m		
22	内		0.65 m		
23	内		0.77 m		
24	内	土坑	0.93 m		
25	内		0.92 m		
26	外		1.1 m		
27	外		1.06 m		
28	内	平安時代土坑	1.65 m		
29	外		2.08 m		
30	内		0.75 m	○	第3図6・7
31	内		0.55 m		
32	内	陥し穴を再利用した平安時代の焼土坑	0.55 m	○	第3図8
33	内		0.88 m		
34	内	鍛冶関連遺物（羽口・鉄滓）	0.88 m	○	第3図9
35	内	陥し穴	0.76 m	○	第3図10
36	内／外		1.4 m		
37	内	陥し穴	0.9 m		
38	内		0.55 m		
39	外	平安時代住居	0.9 m	○	第3図11～13
40	内	陥し穴	0.57 m		
41	内	埋没谷の末流と考えられる溝状遺構	0.52 m		

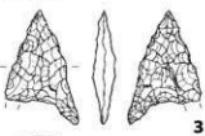
2トレンド



7トレンド

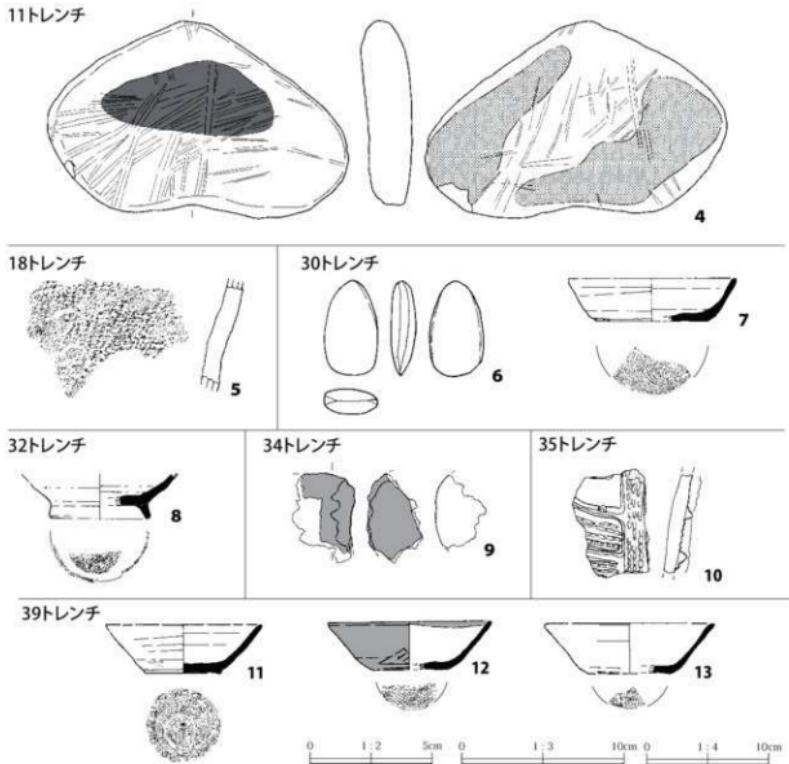


9トレンド



0 1:1 3cm 0 1:3 10cm

第2図 試掘出土遺物実測図①(1/1・1/3)



第3図 試掘出土遺物実測図②(1/2・1/3・1/4)

第2表 試掘トレンチ出土遺物観察表

試掘2トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法規 (口径/高さ/底径) (m)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
2-1	1	礫石器類・磨石	長 (8.4) / 幅 6.1 / 厚 4.9	重畠 307g。表面に凹みを持つが、一般的な凹石とは形狀が異なる。ハガレは鋸行によるものか、被熱によるものか不明。 裏面は付着物が側面にかけて残っているのが、被熱により剥がれ残った胎表面の可能性もある。	—	安山岩	—	50%程度存。 試験2トレンチ

試掘7トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法規 (口径/高さ/底径) (m)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
2-2	1	織文土器・深鉢	— / (0.7) / —	外面文様は不明瞭。おそらく無節文と思われるが全体不明。	やや不良	織羅・白色粉	明赤褐色 に少し赤褐色	試験7 トレンチSK02

試掘9トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法規 (口径/高さ/底径) (m)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
2-3	1	剥片石器 類・石器	長 2.3 / 幅 1.4 / 厚 0.4	重量 0.9g。凹面無算跡。背面押圧剝離。 石材は透明度が高く結晶構造を呈する。 基部欠損。	—	黒曜石	—	80%残存。 試験9 トレンチ

試掘 11 トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法量 (口径/器高/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
3-4	1	石製品・ 砾石	長 12.4 / 幅 7.4 / 厚 1.9	重量 196g。表面は主として右下から左上にかけて縦状の使用痕を認めるが、刃輪方向のものが新しい。裏面は左右に磨面があり、削き残った中央に縦状の使用痕が見られる。被熱によるためか、色調は本来のものではないと思われる。	—	安山岩	—	完存。 試掘 11 トレンチ S01

試掘 18 トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法量 (口径/器高/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
3-5	1	繩文土器・ 深鉢	— / (6.9) / —	外面に単節 RL 繩文を施す。	良好	砂粒・砂粒	赤褐色 / 明赤褐色	破片資料 試掘 18 トレンチ

試掘 30 トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法量 (口径/器高/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
3-6	1	焼製石斧・ 磨製石斧	長 5.8 / 幅 3.3 / 厚 1.5	重量 47g。全面よく擦れ滑らか。表面は内腹では確認できない。	—	蛇紋岩	—	完存。 試掘 30 トレンチ
3-7	1	須恵器・ 杯	< 13.7 > / < 3.5 > < 9.2 >	内外面口クロナデ。底部回転糸切り痕。口クロロは鋭く不明瞭。	還元焰・ 良好	砂粒	灰	口脚部～底部 30% 残存。 試掘 30 トレンチ

試掘 32 トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法量 (口径/器高/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
3-8	1	須恵器・ 碗	— / (4.2) / 8.0	内外面口クロナデ。底部回転糸切り痕。	還元焰・ 良好	砂粒・黑色粒	灰白 / 黄灰	体部～高台部 40% 残存。 試掘 32 トレンチ S01

試掘 34 トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法量 (口径/器高/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
3-9	1	土製品・ 甌	長 (3.6) / 幅 — / 厚 0.5	重量 37.0g。端部は汎化している。内径 不明。	—	砂粒	黑褐色 / 灰	先端部 20% 程 度残存。 試掘 34 トレンチ

試掘 35 トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法量 (口径/器高/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
3-10	1	繩文土器・ 深鉢	— / (6.0) / —	外面には縦位で幅広の隕帶を貼付し、次いで水平方向に幅の狭い隕帶を貼付する。幅広の隕帶と上方区画内には連續刺突文が施される。	良好	砂粒	にぶい赤褐色 / 黒褐色	破片資料 (体部) 試掘 35 トレンチ

試掘 39 トレンチ出土遺物観察表

探査No	回収No	器種	法量 (口径/器高/底径) (cm)	特徴 (形態・手法等)	焼成	胎土・材質等	色調 (外面/内面)	備考
3-11	1	須恵器・ 杯	< 12.7 > / 4.0 / 6.2	内外面口クロナデ。底部回転糸切り痕。 外側全体部に墨書きがあるが欠損のため文字 判読不能。	還元焰・ 砂粒・黑色粒・ やや不真	にぶい黄褐色	口脚部～底部 40% 残存。 試掘 39 トレンチ S01	試掘 39 トレンチ・ 40% 残存。 試掘 39 (底部完存)。 トレンチ S01
3-12	1	須恵器・ 杯	< 13.4 > / 4.0 / < 7.6 >	内外面口クロナデ。底部回転糸切り痕。 外側全体部に墨書き。	還元焰・ 砂粒・白色粒	黄褐色 / 白	口脚部～底部 40% 残存。 試掘 39 トレンチ	試掘 39 トレンチ
3-13	1	須恵器・ 杯	< 14.0 > / 4.1 / < 6.8 >	内外面口クロナデ。底部回転糸切り痕。 良好	還元焰・ 砂粒・白色粒	褐色 / 白	口脚部～底部 15% 残存。 試掘 39 トレンチ	試掘 39 トレンチ

掘削の際は、試掘調査で確認された土層を参考に掘削を行なった。バケットの爪には鉄板を装着し、遺構を傷付けないよう配慮した。また、近世～繩文までの時期差があるため、土層で遺構が検出されない場合には繩文時代の遺構確認面まで下げることとし、更にローム漸移層上面まで掘削した。

b. 遺構確認

遺構確認は表土除去後に人力で行なった。各調査区ともに戦後の開発に伴って掘削されている箇所が多く、壁が失われている住居跡や上面が削平されている陥し穴も認められた。それとは逆に古代～近世にかけての土砂崩れにより埋没したと思われる谷もあり、十分注意しながら遺構の平面形を確認した。繩文時代に関しては万全を期すため遺構が検出されなかつた谷部にローム層に達するトレンチを掘削して最終確認とした。

c. 遺構掘削及び遺物の取り上げ

遺構の掘削作業は、遺構の平面形を確定した後で、適宜土層観察用ベルトを設定して行なった。竪穴住居跡・竪穴状遺構はベルトを十字に設定し、掘削を行なった。陥穴は短軸で半裁して土層を観察し、長軸でエレベーション実測を基本とした。

遺物の取り上げについては、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状態の良いものは出土状況図またはドット図を作成し、標高を計測して取り上げた。その他の遺物は、出土層位に留意して層位ごとに取り上げた。

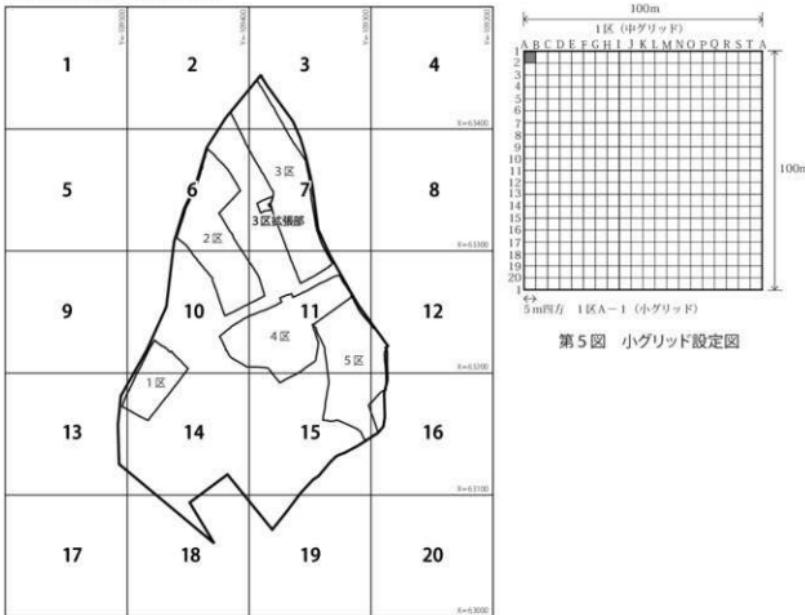
d. 遺構実測図の作成および遺構の写真撮影

遺構実測図は、光波測距儀を用いて全体図、土層断面図（セクション図）、遺物出土状況図、完掘状況遺構平面囖を作成し、必要に応じてエレベーション図（遺構縦・横断囖）の作成も行なった。全体図を1/200、竪穴住居跡のカマド、個別の遺物出土状況図を1/10、その他の図面を1/20で図化した。

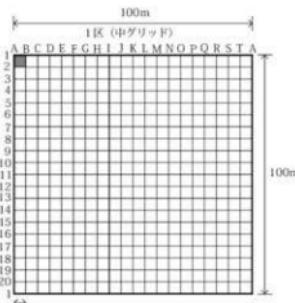
遺構の記録写真是、35mm小型一眼レフカメラとデジタルカメラを併用して撮影した。モノクローム・カラーリバーサルの2種類のフィルムを使用し、両者同一カットを3枚1単位で露出を変えて撮影した。空中写真撮影はドローンを用いて行なった。

e. グリッド設定

今回発掘調査をした赤羽根遺跡についてはグリッド設定を行なった。第IX系の国家座標（X=635000、Y=-109600）を起点として東へ400m、南へ500mの範囲を20分割して「中グリッド」を設定して1～20までの数字を付した（第4図）。「中グリッド」をさらに5m四方の区画で400等分したものを「小グリッド」とし、Y軸上を5mごとにアルファベットを、X軸上を5mごとに数字を付して、1H-15のように表現した（第5図）。このグリッドは今回の事業を対象に設定したものであるため、以前長野原町が実施した他事業や、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施したハッカダム建設工事に伴う発掘調査で設定しているグリッドとは整合していない。



第4図 中グリッド設定図(1/4,000)



第5図 小グリッド設定図

(2) 発掘調査の経過（第6図）

発掘調査は、前述した通り平成30・31年度の2ヶ年にわたって行なった。平成30年度の発掘調査は、平成30年10月1日から開始した。初日は重機による伐根作業と調査区の設定を行なった。2日から表土掘削に切り替え、重機作業は土山の整形を終了した11月19日まで継続した。10月9日から遺構検出作業を開始し、19日からは遺構の掘削も開始した。12月28日まで調査を行い、1～3区の調査完了をもって平成30年度の発掘調査を終了した。

平成31年度の発掘調査は、平成31年4月1日から調査区設定と重機による表土掘削を開始した。6日からの遺構検出と掘削は、新たに住居跡の検出された3区拡張部から開始し、令和元年7月19日までに拡張部を含む4区及び5区の調査を終了した。この間6月22日に現地説明会を行い、数多くの地元民の参加を得た。

(3) 整理調査・報告書作成の経過

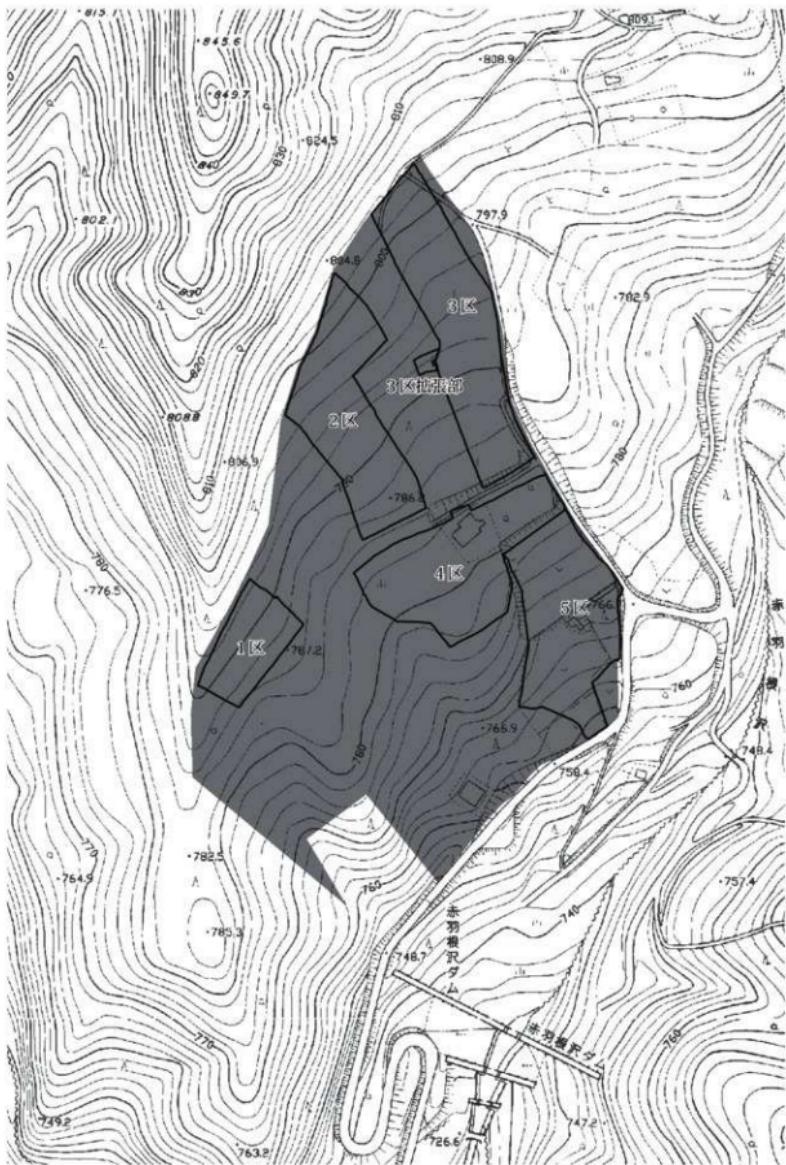
太陽光発電所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務は、発掘調査から報告書刊行まで1年6ヶ月の計画で実施された。平成30年度は、発掘調査が12月に終了したので、平成31年1月～3月に出土遺物の洗浄・注記、接合・復元、実測図作成、遺物観察表作成などの基礎整理作業を行なった。平成30年度分の出土遺物、遺構図面・写真、遺物実測図・写真などの成果品は、平成31年3月末に納品した。平成31年度は、発掘調査は7月に終了し、8月～11月に基礎整理作業を行なった。出土遺物の総量はテンバコで30箱となり、令和元年12月から資料・出土遺物の整理作業と報告書編集作業を開始し、翌年3月に終了し入稿した。1年6ヶ月の発掘調査・整理調査・報告書作成作業の経過は第3表に記載した。

また、令和元年11月3日の長野原町文化祭に出土遺物などの展示を行なった。

第3表 発掘・整理調査工程表

発 掘 調 査	年 H 30			H 31				R 1						R 2					
	月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
赤羽根遺跡1区																			
赤羽根遺跡2区																			
赤羽根遺跡3区・拡張部																			
赤羽根遺跡4区																			
赤羽根遺跡5区																			

基礎 整 理 ・ 作 図	年 H 30			H 31				R 1						R 2					
	月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
H30 年度	洗浄・注記 接合・復元																		
	実測・トレース 遺物観察																		
H31 年度	洗浄・注記 接合・復元																		
	実測・トレース 遺物観察 銅治関連遺物 計測・抽出																		
報告書編集	遺物	遺物図版作成 遺物写真撮影 遺物写真図版作成																	
	遺構	遺構図修正 遺構図版作成 遺構写真図版作成																	
本文																			
編集・校正・資料整理																			



第6図 調査区位置図(1/2,500)

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の位置

本遺跡は長野原町の西端に所在し、草津町・嬬恋村との境付近に位置する。周囲に山々が連なる山間地であり、北西には草津白根山、北に王城山・高間山、南東に丸岩・菅峰、南西に浅間山など、1,000～2,000m級の山々がそびえる。

吾妻郡内を東流する吾妻川は、長野県境の鳥居峠に源を発し、渋川市白井と渋川市渋川の境界付近で利根川に合流する。本遺跡の西には吾妻川の支流である遅沢川が国道292号線に並行して流れ、東には遅沢川に注ぐ赤羽根沢が流れる。群馬県北西部は吾妻川によって群馬県の平野部と分断される形となり、地理的にも文化的にも長野県と関わりが深い。長野原町の所在する西吾妻地域は、現在の長野などの異なる文化圏が隣接する地であり、渋峠・万座峠・鳥居峠・地蔵峠などを通じて往来ができた。これらの地域とは人や物の往来が古くから盛んであったことが出土遺物などからも窺い知れる。また、本遺跡に隣接して、高崎から草津温泉を経て北信州へと至る旧草津道がかつて通っていた。

第2節 周辺の遺跡（第7・8図／第4表）

長野原町における遺跡の調査は、昭和29年の勘場木遺跡の調査を始めに、昭和38・47・48年には群馬県教育委員会による分布調査が行われた。昭和62年からは八ッ場ダム建設に先立ち、長野原町教育委員会によって詳細分布調査が実施され、183ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。以降、長野原町教育委員会による調査が行われ、平成6年から令和元年までは八ッ場ダム建設事業に伴う発掘調査が公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって進められた。

ここでは、本遺跡周辺に位置する遺跡と、本遺跡と類似する点のある遺跡について概観する。

（1）旧石器時代

現在、旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域では応桑泥流やYPkが厚く堆積しており、それより下位の発掘調査が進まない現状にあり、今後の調査の進展が待たれる。

（2）縄文時代

長野原町内では、八ッ場ダム関連遺跡を中心に縄文時代の大集落が多数知られている。林中原II遺跡では前期初頭の住居跡が2軒確認されており、の中中期から後期にかけて大規模集落が形成される端緒となっている。同じく前期初頭の坪井遺跡では、花積下層I式土器と塚田式土器がともに出土した。主に関東地方に分布する花積下層I式土器と長野県に主に分布する塚田式土器の共存は、関東と甲信との異なる文化圏の交流を示すものである。前期前葉から中葉では、暮坪遺跡・長戸II遺跡で小規模な集落跡が確認されている。

中期の集落遺跡としては坪井遺跡・勘場木遺跡・解II遺跡などが挙げられる。中期末葉には柄鏡形敷石住居跡が見られるようになり、中期後半の大規模集落である坪井遺跡では加曾利E III・E IV期の敷石住居跡が確認されている。解II遺跡では、中期中葉から後期の集落跡が発見され、敷石住居跡が3軒検出された。

後期に入る遺跡数は減少するが、中期からの集落が継続する傾向が見られる。林中原II遺跡は、中期から規模を縮小しながらも後期中葉まで継続している。林中原I遺跡・向原遺跡などでは敷石住居跡が発見された。後期中葉以降には遺跡数は減少し、後期後葉からはさらに減少していく。

(3) 弥生時代

近年の調査の進展に伴い、長野原町内の縄文時代晚期末葉～弥生時代中期前半の資料は増加傾向にあるが、本遺跡周辺には分布が乏しい。上原Ⅲ遺跡では埋設土器を含む中期初頭の土器が数点出土している。林中原Ⅱ遺跡では中期前半の住居跡や土坑が確認された。その他、向原遺跡で中期前半の土坑が1基検出されている。後期では、寺久保遺跡で土器片が表探されている。

(4) 古墳時代

本遺跡周辺では古墳は確認されておらず、集落遺跡も発見されていない。東吾妻町に範囲を広げると、小泉宮戸遺跡で終末期の円墳1基と後期の竪穴住居跡が確認されている。

(5) 奈良・平安時代

本遺跡周辺には奈良時代と断定できる遺跡は確認されていない。長野原町教育委員会の分布調査によると羽根尾Ⅱ遺跡が散布地とされている。東吾妻町では小泉宮戸遺跡で飛鳥～奈良時代の集落跡が確認されており、律令期初頭の計画的集落と見られている。

平安時代に入る9世紀後半～10世紀前半には遺跡数が急激に増え、吾妻川左岸を中心に集落遺跡が各地で確認される。本遺跡周辺では長歟Ⅰ・Ⅱ遺跡・東原Ⅰ遺跡・三平Ⅰ遺跡などが知られている。上原Ⅲ遺跡では鍛冶工房跡と考えられる遺構が確認されており、鍛冶関連施設や職人が遺跡周辺に存在したことが推定される。東吾妻町では、小泉宮戸遺跡で鍛冶遺構1基と製鉄炉2基が検出されている。また、中之条町（旧六合村）では熊倉遺跡で9世紀末～10世紀にかけての集落跡が確認されている。農耕に適さない山間の高地に立地しており、本遺跡と類似する点も多く注目される。

(6) 中世

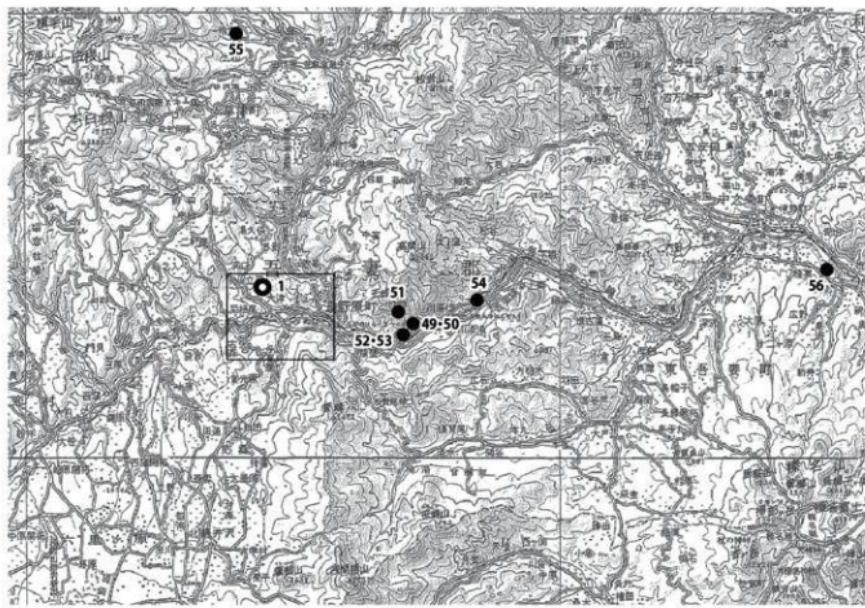
城館遺跡では長野原城（箱岩城）跡・羽根尾城跡が挙げられる。斎藤氏・常田氏などの居城であった長野原城は一部調査されており、道跡や天明泥流に埋没した烟跡が検出された。その他、土塁・堀切・物見台などが残っている。羽根尾城は城峯山の山頂に立地する羽尾（海野）氏の本拠であり、土塁・堀切が残る。

平安時代に急増した集落遺跡は中世には再び減少に転じていくが、近年の調査により徐々に遺跡数は増加している。東原Ⅰ・Ⅲ遺跡・林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡・三平Ⅰ遺跡など、吾妻川左岸を中心に掘立柱建物跡を持つ集落遺跡が分布している。これらは同じく掘立柱建物跡を持つ集落である本遺跡と類似する例である。

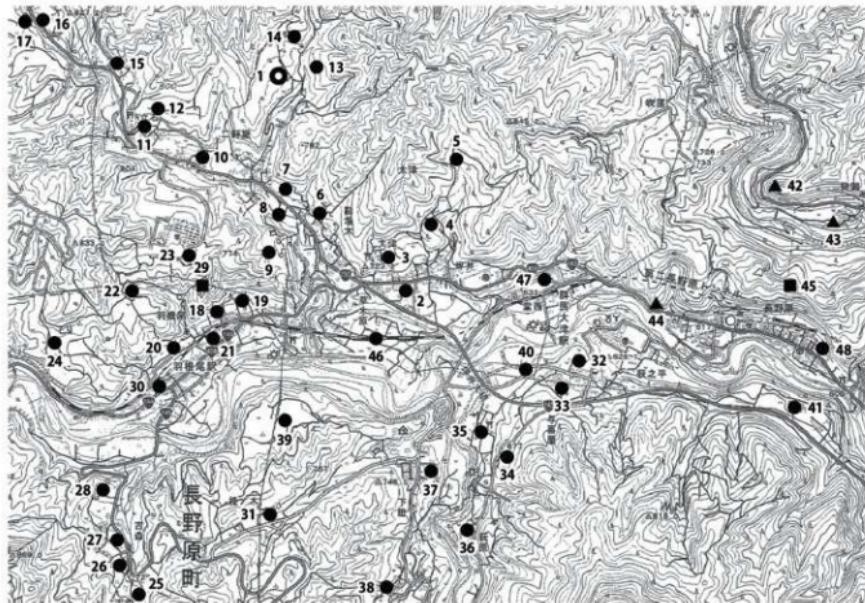
(7) 近世

天明3年（1783年）に起きた浅間山噴火は、浅間山麓に位置する当地域に甚大な被害をもたらした。吾妻川流域では、この時の噴火に伴う泥流堆積物（天明泥流）下の遺跡がよく保存されており、町遺跡・小林家屋敷跡などでは民家跡が確認された。東原Ⅲ遺跡では、泥流下ではない江戸時代後期の礎石建物跡1軒が検出された。また、当時の烟跡も天明泥流に埋没したものが知られており、町遺跡や長野原城跡で確認されている。

江戸時代には、湯治旅や寺社参詣が盛んになり、多くの人が草津温泉や善光寺を目指して草津道を往来した。旧草津道が通っていた本遺跡の脇には『赤羽根の一里松』があり、その根元に「左草津へ 右入山へ」と刻まれた道しるべが今も残っている。



第7図 遺跡の位置と周辺の遺跡(広域・1/200,000)



第8図 遺跡の位置と周辺の遺跡(1/25,000)

第4表 周辺の遺跡

長原野町

No.	遺跡名	町名	種別	時代	概要	備考
1	赤羽根遺跡	98	集落跡 その他	縄文・平安	本遺跡。平成27・30・31年度調査(町)。	文献 33
2	坪井遺跡	86	集落跡	縄文・弥生・平安	平成3・10・12・13・14・23・24・26・29年度調査(町)。塙、中期後半の掘立柱建物跡。平安・中世 文前期初頭花穂下唇1式・暁田式土器。中期後半の掘立柱建物跡。弥生中期土器。平安時代集落。	文献 1,2,4,8,10,11,12,26,28,32 「坪井遺跡図」No.3123 旧大津坪井遺跡
3	高平遺跡	88	散布地	縄文・平安		文献 2
4	寺久保遺跡	89	散布地	縄文・弥生	縄文中朝。黒曜石片・弥生後期土器片出土。	文献 2
5	寺沢遺跡	90	散布地	縄文	中期。	文献 2
6	鹿場木遺跡	91	集落跡	縄文	昭和29年度調査(県)。中期後半の住居跡1軒。前期～後期の土器片など。	文献 1,2,43,117 県指定史跡勘場木石器時代住居跡を含む。「鹿場木遺跡図」No.3124 旧勘場木石器時代住居跡
7	熊野遺跡	92	散布地	縄文	平成15年度調査(町)。	文献 2,14
8	井天遺跡	93	散布地	平安		文献 2
9	鹿生遺跡	94	散布地	縄文	中期。石器片出土。	文献 2
10	立石遺跡	95	散布地	縄文・平安	平成16年度調査(町)。縄文土器片・黒曜石剥片出土。	文献 1,2,16 「地図」No.3125
11	櫛I遺跡	96	散布地	縄文・平安		文献 2
12	櫛II遺跡	97	集落跡	縄文	昭和63年度調査(町)。中期中葉～後期。住居跡4軒(うち敷石文庫3,3,117 住居3軒)、中期中葉の埋設土器など。	文献 2
13	大久保I遺跡	99	散布地	縄文	中期。	文献 2
14	大久保II遺跡	100	散布地	不明		文献 2
15	森井遺跡	101	散布地	縄文・平安	平成14年度調査(町)。縄文中期。	文献 2,12
16	洞口遺跡	102	散布地	平安	平成31年度試掘調査(町)。	文献 2
17	向山遺跡	106	散布地	平安	石片出土。	文献 2
18	羽根尾原遺跡	112	散布地	平安	昭和4年度調査(町)。	文献 2
19	羽根尾原北遺跡	113	散布地	平安	平成18・25年度試掘調査(町)。	文献 1,28,19 旧羽根尾原遺跡
20	小瀬I遺跡	114	散布地	平安		文献 2 旧小瀬遺跡
21	羽根尾II遺跡	115	散布地	奈良	奈良時代の散布地とされる。	文献 2
22	宮のI遺跡	116	散布地	平安		文献 2
23	喜坪遺跡	117	集落跡	縄文・平安	平成12年度調査(町)。縄文時代前期前葉ニツ木式窓の集落跡。	文献 2,9,10 「地図」No.3851 旧羽根尾原
24	馬場原遺跡	118	散布地	縄文・平安	打製石斧・磨石出土。	文献 2
25	田之原遺跡	119	散布地	縄文	中期。	文献 2
26	中嶋遺跡	120	散布地	縄文	裏面石片出土。	文献 2
27	鹿防原遺跡	121	散布地	縄文	石皿・チャート片出土。	文献 2
28	上古原遺跡	122	散布地	縄文・平安	チャート片・磁器出土。	文献 2
29	羽根尾城跡	123	城跡	中世	様式部の山城で本丸・二の丸・水の手などが残る。羽尾(海野)氏の居城。	文献 1,2,42,119 「地図」No.3851 旧羽根尾原
30	小瀬II遺跡	220	その他	近世	平成23年度試掘調査(町)。	文献 26
31	梅木沢遺跡	125	散布地	縄文	前期。	文献 2
32	長歴I遺跡	126	集落跡	平安	平成15年度調査(町)。平安時代の住居跡・土坑。	文献 2,14
33	長歴II遺跡	127	集落跡	縄文・平安	平成2・3・15・21・28年度調査(町)。縄文前期～中期の住居跡・土坑。平安時代の住居跡。	文献 4,12,22,33
34	長歴III遺跡	128	散布地	平安		文献 2
35	新原I遺跡	129	散布地	平安		文献 2
36	新原II遺跡	130	散布地	縄文・平安	縄文中期。	文献 2
37	外輪原I遺跡	135	散布地	縄文・弥生	平成15・16年度調査(町)。縄文早期～後期。石壁・石岸・土器片出土。弥生中期土器。	文献 1,2,14,16 「地図」No.3120 旧与喜屋下田遺跡
38	北沢I遺跡	136	散布地	縄文・平安	縄文中期。石臼・敷石出土。	文献 2
39	外輪原II遺跡	141	散布地	縄文		文献 2
40	旧新井村跡	143	集落跡	近世	昭和55年度調査(町)。天明泥流によって埋没した村落跡。屋敷・土坑・石臼などを検出。	文献 1,2,49,118
41	向原遺跡	75	集落跡	縄文・弥生	平成5・19年度調査(町)。縄文後期前半の敷石住居・弥生前期～中期の土坑。	文献 2,6,19,117
42	油郡岩陰群	81	その他	縄文・弥生		文献 2
43	貝浦原岩陰群	82	その他	不明		文献 2
44	遠西原岩陰群	83	その他	不明	岩陰2ヶ所にわたる。	文献 2
45	長野原城跡	85	城跡	中世・近世	平成23年度調査(事)。天明泥流下の烟跡が出土。土堀・堀切・土器・瓶・土坑などが残る。	文献 1,2,45,125 「地図」No.3814 旧長野原城
46	草木原遺跡	87	散布地	縄文・平安	天明4・50年度調査(町)。天明泥流下の屋敷・磁石建物・土蔵・土器・瓶・土坑などが残る。	文献 2,17,20
47	小林家屋敷跡	211	その他	近世	平成23・26・30年度調査(事)。天明泥流下の屋敷・磁石建物・土蔵などが残る。	文献 11,12,13
48	町遺跡	219	集落跡	近世	平成23・26・30年度調査(事)。天明泥流で埋没した集落・生産跡。	文献 32,96,125,130
49	東原I遺跡	38	散布地	縄文・平安	平成17・18・24・26年度調査(町)。平成20年度調査(事)。	文献 2,17,18,28,32,94,123
50	東原III遺跡	40	散布地	平安・中世	縄文前期～中期後半の陥入穴・土坑・中世近世柱立建物跡。	文献 2,14,94,123,124
51	上原III遺跡	43	集落跡	縄文・平安	平成18・19・20・21・22・23年度調査(事)。縄文中期半柱立建物跡。弥生中期土坑。平安館治工房・住居跡・焼土遺構・陥入穴。	文献 2,18,31,109,111
52	林中原I遺跡	45	集落跡	縄文・平安	平成14・22年度調査(町)。平成16・19～37年調査(事)。	文献 2,12,14,16,17,18,19,22,31, 「林中原I遺跡図」No.122,14,130 旧中原I遺跡
53	林中原II遺跡	46	集落跡	縄文・平安	平成14・21・23・24・25・26・27・28・29・30年度調査(事)。縄文中期半～後期初期の點石墓葬。縄文中期後半住居・土坑・中世の「林城」・豊穴状構造・区画溝・掘立柱建物跡。	文献 2,14,16,17,18,22,23,31,123,124

54	三平1遺跡	3	集落跡	縄文・弥生・平成 20・26 年度調査（町）・平成 10・16・17・24・25・30 年 平安・中世 度調査（事）・縄文時代早期～前期の集落跡、弥生時代前期～中期の土坑、平安時代の陥入穴・竪穴住居跡、中世の掘立柱建物跡。手引金具をはじめとして、各時代とも長野県域と共通性が認められる。	文献 2,20,27,32,92,108,109,130
----	-------	---	-----	---	------------------------------

中之条町

No.	遺跡名	町No.	種別	時代	概要	備考
55	熊倉遺跡	72	集落跡	平安	昭和 37～39 年度調査（群大）、昭和 56～59 年度調査（旧六合 文献 142,143,144 村）。平安住居跡、灰釉陶器など。	

東吾妻町

No.	遺跡名	町No.	種別	時代	概要	備考
56	小泉宮戸遺跡	92	集落跡	縄文・弥生・平成 13 年度調査（町）・縄文中朝鮮穴住居跡、弥生中期～後期の文献 145 古墳・奈良・土坑・ガラス小玉、古墳時代終末期の円墳 1 基、後期窓穴住居跡。 平安・中世・奈良時代前半～平安時代前半の集落跡、平安時代中葉～後葉の銀 近世 治遺構・製鉄炉、中近世の掘立柱建物跡。		

第3節 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、A～F の 6 ケ所で確認した。調査区ごとに 1 ケ所を基本とするが、4 区中央の谷部は試掘確認調査の段階でも指摘されているように層位が逆転している箇所があり、前期の遺物の下層に中期の遺物が出土することから基本層序に加えることとした。最高所である 3 区北端の標高 804 m から 5 区南端の 758 m まで遺跡内の標高差が 44 m あり、急傾斜であるため度々の土砂崩れに見舞われた状況も観察される。

第 I 層 暗褐色土：表土で、戦後の開発後に堆積した褐色土とクマザサ等の植物根混合土。粘性は弱く、しまりがない。粒子が粗く、崩れやすい。

第 II 層 暗褐色土：近代の堆積土で、戦前の表土である。粒子は粗く、しまり・粘性は弱い。試掘確認調査のトレーナーで認められるが、今回の調査では侵食や削平により失われている。

第 III 層 暗灰褐色土：粒子細かく、しまりあり。粘性やや強い。ローム粒（ ϕ 0.1～0.5cm）を含み、ロームブロック（ ϕ 0.5～2.5cm）も少量含む。

第 IV 層 黒褐色土：粒子細かく、しまり・粘性共にやや強い。ローム粒（ ϕ 0.1～0.5cm）を微量含む。YPk（ ϕ 0.1～0.5cm）微量含む。

第 V 層 暗茶褐色土：しまりあり、粘性あり。YPk（ ϕ 0.1～0.5cm）少量含む、平安時代遺物包含層。

第 VI 層 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。YPk（ ϕ 0.1～0.5cm）含む、縄文時代遺物包含層。

第 VII 層 黑褐色土：粒子やや粗い。しまりあり、粘性あり。YPk（ ϕ 0.1～3.5cm）多量含む。

第 VIII 層 黑褐色土：粒子細かく、しまり・粘性やや強い。YPk（ ϕ 0.1～0.5cm）少量含む。ローム粒（ ϕ 0.1～0.5cm）を含む。4 区中央谷部で第 VI 層下にあるものの、性質は第 V 層に近い。

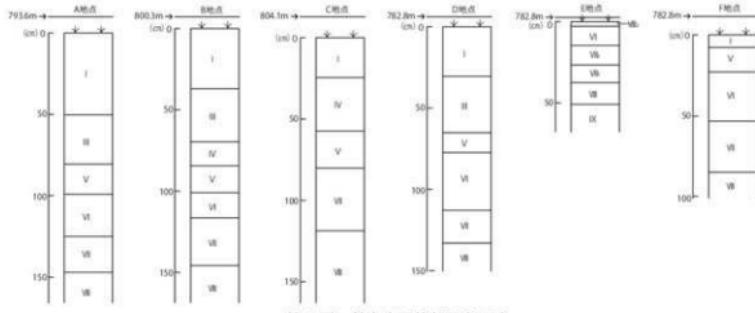
第 VII₃ 層 黑褐色土：粒子細かく、しまり・粘性やや強い。YPk（ ϕ 0.1～0.5cm）微量含む。ローム粒（ ϕ 0.1～0.5cm）を含む。第 VII₂ 層下に位置するが、性質は第 IV 層に近い。

第 VII₂ 層 明褐色土：やや軟質で、粘性が弱い。いわゆるローム漸移層である。ローム粒（ ϕ 0.1～0.5cm）を大量に含む。

第 VII₁ 層 明褐色土：第 VII₂ 層に類似するが、第 VI 層の上位に位置する。第 VII₁ 層に比べ、粘性は更に弱い。

第 IX 層 淡黄色土：いわゆる関東ローム層であるが、場所により粘性が失われたり、逆に粘土化する箇所もあり、尾根部と谷部で性質が異なる。

以上の第 VII₂・VII₃・VII₁ 層は土砂崩れによる層位の逆転として捉えられ、出土する遺物にもその傾向が認められる。



第9図 基本土層柱状図(1/30)

参考文献（第4表の文献番号に対応）

番号

- 長野原町 1976 「長野原町誌」上巻
- 長野原町教育委員会 1990 「長野原町の道路一町内道路詳細分布調査」長野原町埋蔵文化財調査報告第1集
- 長野原町教育委員会 1990 「解説Ⅱ道路」長野原町埋蔵文化財調査報告第2集
- 長野原町教育委員会 1992 「長政Ⅱ道路・坪井道路」長野原町埋蔵文化財調査報告第3集
- 長野原町教育委員会 1995 「柳沢城跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第4集
- 長野原町教育委員会 1996 「向原道路」長野原町埋蔵文化財調査報告第5集
- 長野原町教育委員会 1996 「滝原地区道路」長野原町埋蔵文化財調査報告第6集
- 長野原町教育委員会 2000 「坪井道路Ⅰ」長野原町埋蔵文化財調査報告第7集
- 長野原町教育委員会 2001 「芦坪道路」長野原町埋蔵文化財調査報告第8集
- 長野原町教育委員会 2002 「町内道路Ⅰ」長野原町埋蔵文化財調査報告第9集
- 長野原町教育委員会 2003 「町内道路Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第10集
- 長野原町教育委員会 2003 「町内道路Ⅲ」長野原町埋蔵文化財調査報告第11集
- 長野原町教育委員会 2005 「小林家屋敷跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第12集
- 長野原町教育委員会 2004 「町内道路Ⅳ」長野原町埋蔵文化財調査報告第13集
- 長野原町教育委員会 2004 「林宮原遺跡Ⅰ」長野原町埋蔵文化財調査報告第14集
- 長野原町教育委員会 2005 「町内道路Ⅴ」長野原町埋蔵文化財調査報告第15集
- 長野原町教育委員会 2006 「町内道路Ⅵ」長野原町埋蔵文化財調査報告第16集
- 長野原町教育委員会 2008 「町内道路Ⅶ」長野原町埋蔵文化財調査報告第17集
- 長野原町教育委員会 2009 「町内道路Ⅷ」長野原町埋蔵文化財調査報告第18集
- 長野原町教育委員会 2010 「町内道路Ⅸ」長野原町埋蔵文化財調査報告第19集
- 長野原町教育委員会 2010 「林宮Ⅰ道路Ⅳ」長野原町埋蔵文化財調査報告第20集
- 長野原町教育委員会 2011 「町内道路Ⅹ」長野原町埋蔵文化財調査報告第21集
- 長野原町教育委員会 2012 「町内道路Ⅺ」長野原町埋蔵文化財調査報告第22集
- 長野原町教育委員会 2012 「林宮原遺跡Ⅱ」長野原町埋蔵文化財調査報告第23集
- 関東電力群馬支店・長野原町教育委員会 2014 「山岸Ⅳ道路」長野原町埋蔵文化財調査報告第24集
- 長野原町教育委員会 2013 「町内道路Ⅻ」長野原町埋蔵文化財調査報告第25集
- 長野原町教育委員会 2013 「三平Ⅰ道路」長野原町埋蔵文化財調査報告第26集
- 長野原町教育委員会 2013 「町内道路ⅩⅢ」長野原町埋蔵文化財調査報告第27集
- 長野原町教育委員会 2014 「町内道路ⅪⅣ」長野原町埋蔵文化財調査報告第28集
- 関東電力群馬支店・長野原町教育委員会 2014 「滝原Ⅳ遺跡」長野原町埋蔵文化財調査報告第29集
- 長野原町教育委員会 2015 「林地区道跡群」長野原町埋蔵文化財調査報告第30集
- 長野原町教育委員会 2016 「町内道路ⅩⅤ」長野原町埋蔵文化財調査報告第31集
- 長野原町教育委員会 2017 「町内道路ⅩⅥ」長野原町埋蔵文化財調査報告第32集
- 長野原町教育委員会 2018 「町内道路ⅩⅦ」長野原町埋蔵文化財調査報告第33集
- 長野原町教育委員会 2018 「観余道路」長野原町埋蔵文化財調査報告第34集
- 長野原町教育委員会 2019 「町内道路ⅩⅧ」長野原町埋蔵文化財調査報告第35集
- 長野原町教育委員会 2020 「長野原地区道路群」長野原町埋蔵文化財調査報告第36集
- 長野原町教育委員会 2020 「長野原地区道路群（2）」長野原町埋蔵文化財調査報告第37集
- 長野原町教育委員会 2020 「町内道路ⅩⅨ」長野原町埋蔵文化財調査報告第38集
- 長野原町教育委員会 2020 「福壁地区道路群」長野原町埋蔵文化財調査報告第39集
- 小川政治郎編 1936 「吾妻郡志」吾妻郡教育会
- 山崎一・山口武夫 1972 「吾妻郡城垣史」
- 塙野新一 1972 「群馬県吾妻郡長野原町（群馬県史跡指定）跡場木道路」
- 山崎一 1978 「群馬県古墳墓の研究」上巻
- 群馬県 1988 「群馬県史」資料編1

46. 群馬県教育委員会 1988 「群馬県の中世城館跡」
47. 長野原町教育委員会 1989 「長野原町の文化財」
48. 長野原町 1993 「長野原町の自然」ハッ場ダム・ダム湖予定地及び周辺地域文化財調査報告書
49. 群馬県立歴史博物館 1995 第52回企画展「天明の没落と抜け」
50. 上毛新聞社 1999 「群馬県遺跡大辞典」
51. 登懸野古宿文化資料館 2000 第30回企画展「利根川流域の鐵文草創期」
52. かみつけの里博物館 2000 第6回特別展「銅について考える」
53. 群馬県教育委員会 2001 「群馬の史跡（原始古代編）」
54. 笠懸野古宿文化資料館 2004 第39回企画展「武の尖った土器」
55. 群馬県立歴史博物館 2004 第77回企画展「新見考古遺報展 群馬発掘情報 石室の入り口を通り抜けると…」
56. 浅間御文ミュージアム 2004 「浅間御文焼」
57. 群馬県立教育学部編 2004 「『群馬』左近博士 調査収集考古遺物・調査資料目録」雄山園
58. (財)群理文編 2005 「群馬の道路2 関東時代」
59. (財)群理文編 2005 「群馬の道路7 中世～近代」
60. かみつけの里博物館 2007 第16回特別展「江戸時代、浅間山大噴火」
61. 原田昌幸 2007 「日本の美術No.495 銅文土器 草創期・早期」至文堂
62. 小林達雄編 2008 「続図録文土器」
63. 間 俊明 2010 「浅間山大噴火の爪痕―天明三年浅間山災害道路」新泉社
64. (公財)群理文編 2013 「群馬災害と考古学」
65. 宮坂武男 2015 「信濃をめぐる墳墓の山城と館」上野編」戎光洋出版
66. 群馬県教育委員会 2017 「群馬県古墳紀覧一本文・一覧表編」
67. 間 俊明・諸田康成 1999 「天明三年浅間災害に関する地誌的研究」「研究紀要16」(財)群理文
68. 白石光男・山口逸弘 1999 「外輪原1号墳出土の鐵文前期土器」群馬考古学手帳9「群馬土器研究会」
69. 富田季彦 2000 「外輪原1号墳出土の鐵文土器」群馬考古学手帳10「群馬土器研究会」
70. 谷藤邦彦・閔根慎二 2002 「群馬県内出土の鐵文時代石製装身具集成」「研究紀要20」(財)群理文
71. 閔根慎二 2003 「群馬県における加賀利E式土器の地域社」第16回開文セミナー 中期後半の再検討 鐵文セミナーの会
72. 間 俊明 2005 「天明三年浅間山噴火災害道路の調査と成果」「日本歴史」吉川弘文館
73. 間 俊明 2006 「天明鉄流はどう進んだ?」「ぐんま史料研究」24群馬県立文書館
74. 中央防災会議 2006 「「783天明浅間山噴火報告書」内閣府
75. 谷藤邦彦 2007 「撲滅時代中期の住居と施設について一櫛原中村道路覚書」「研究紀要25」(財)群理文
76. 谷藤邦彦 2007 「加賀利E式の系統を引く土器群一北関東における後期初頭の様相」第20回開文セミナー 中期終末から後期初期の再検討」鐵文セミナーの会
77. 閔根慎二 2008 「浅間山を纏う鐵文土器」「研究紀要26」(財)群理文
78. 黒澤伸弘・大西雅広 2009 「茨城県、栃木県、群馬県内の江戸後期における生産と流通」「江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通」関東・東北・北海道編」
79. 山口逸弘 2010 「「勝坂式」土器に関する再検討」「研究紀要28」(財)群理文
80. 桥本 淳 2010 「中部地方における鐵文早期比縞紋土器の編年一ハッ場ダム周辺出土資料の位置付け」「研究紀要28」(財)群理文
81. 鈴木徳建 2012 「堀之内式土器研究の諸問題ー堀之内式の概観と周辺諸型式」第25回開文セミナー 鐵文後期土器研究の現状と課題」鐵文セミナーの会
82. 山口逸弘 2013 「吾妻川中流域における鐵文時代中期後葉の土器様相—加賀利E式古段階を中心として—」「研究紀要31」(公財)群理文
83. 大塚昌彦 2014 「天明三年浅間泥流埋没道路の守備作と高崎軒所」群馬県立女子大学第2期群馬学センターリサーチフェロー研究報告集」群馬県立女子大学群馬学センター
84. 山口逸弘 2015 「吾妻川中流域における「堀之上式」の一様相一報告書「長野原一本松道路(6)」を中心として」「研究紀要33」(公財)群理文
85. 小川由也・宮田忠洋・向出博之 2015 「北関東地域における後期往日土器の様相」第28回開文セミナー 鐵文後期土器研究の現状と課題」開文セミナーの会
86. 山口逸弘 2016 「鐵文吹口縁曲隆線土器についてー「横堅類型」の提唱ー」「地域考古学 地域考古学研究会
87. 大塚昌彦 2016 「天明三年浅間泥流下土の土器・石器」「群馬県地盤文化研究協議会
88. 谷藤邦彦・森谷昌也 2017 「群馬県内出土の石棒・石劍・石刀集成一鐵文時代後期前葉以降」「研究紀要35」(公財)群理文
89. 谷藤邦彦・閔根慎二・鈴木佑太郎 2018 「群馬県内の柄頭石(敷石)・住居集落」「研究紀要36」(公財)群理文
90. 路木雄雄 2018 「鐵文後期前半における土器型式の存立構造一関東信越地域の「型式と諸類型」一」「地域考古学3号」地域考古学研究会
91. 大木神一郎 2019 「群馬県北部吾妻川流域の後期弥生遺跡について」「研究紀要37」(公財)群理文
92. (財)群理文・国交省 2002 「ハッ場ダム発掘調査集成(1)」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第2集
93. (財)群理文・国交省 2007 「三平I・II道路」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第13集
94. (財)群理文・国交省 2010 「東原I・II・III道路」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第35集
95. (財)群理文・国交省 2014 「林中原I道路・長野原城」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第43集
96. (公財)群理文・国交省 2015 「町道路」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第45集
97. (公財)群理文・国交省 2015 「上原I道路・上原III道路・林宮原道路」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第46集
98. (公財)群理文・国交省 2016 「林中原II道路」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第47集
99. (公財)群理文・国交省 2017 「上原III道路(2)・久々戸道路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第50集
100. (公財)群理文・国交省 2018 「林中原II道路(2)」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第60集
101. (公財)群理文・国交省 2019 「林中原II道路(3)」ハッ場ダム建設工事に伴う理藏文化財発掘調査報告書第63集
102. (財)群理文 2005 「年報24」

103. (財) 群理文 2008 「年報 27」
104. (財) 群理文 2009 「年報 28」
105. (財) 群理文 2010 「年報 29」
106. (財) 群理文 2011 「年報 30」
107. (財) 群理文 2012 「年報 31」
108. (公財) 群理文 2013 「年報 32」
109. (公財) 群理文 2014 「年報 33」
110. (公財) 群理文 2015 「年報 34」
111. (公財) 群理文 2016 「年報 35」
112. (公財) 群理文 2017 「年報 36」
113. (公財) 群理文 2018 「年報 37」
114. (公財) 群理文 2019 「年報 38」
115. (財) 群理文 1996 「道跡は今 第 2 号」
116. (財) 群理文 1996 「道跡は今 第 3 号」
117. (財) 群理文 1997 「道跡は今 第 4 号」
118. (財) 群理文 1997 「道跡は今 第 5 号」
119. (財) 群理文 2000 「道跡は今 第 8 号」
120. (財) 群理文 2000 「道跡は今 第 10 号」
121. (財) 群理文 2003 「道跡は今 第 11 号」
122. (財) 群理文 2003 「道跡は今 第 16 号」
123. (財) 群理文 2009 「道跡は今 第 17 号」
124. (財) 群理文 2010 「道跡は今 第 18 号」
125. (財) 群理文 2012 「道跡は今 第 20 号」
126. (財) 群理文 2013 「道跡は今 第 21 号」
127. (財) 群理文 2014 「道跡は今 第 22 号」
128. (財) 群理文 2015 「道跡は今 第 23 号」
129. (財) 群理文 2016 「道跡は今 第 24 号」
130. (財) 群理文 2019 「道跡は今 第 27 号」
131. 山口透弘 2016 「林中原Ⅱ道跡—縄文時代中期～後期の環状集落—」『理文群馬 61』(公財) 群理文
132. (公財) 群理文・長野原町教育委員会 2018 平成 30 年度調査道路発表会「発掘されたハッ場の軌跡」
133. (公財) 群理文 2016 平成 28 年度最新情報展 第 1 期「台地地域の縄文文化：古代人の心」
134. (公財) 群理文 2017 平成 29 年度最新情報展 第 1 期「よみがえった江戸時代の村—天明三年浅間泥流下の発掘調査から」
135. (公財) 群理文 2018 平成 29 年度最新情報展 第 3 期「一万年につづく粉食文化—縄文クッキーからおつきりこみまで—」
136. (公財) 群理文 2019 平成 30 年度最新情報展 第 3 期「古代の装身具」
137. (公財) 群理文 2019 令和元年度最新情報展 第 1 期「ハッ場の縄文時代」
138. (公財) 群理文 2019 令和元年度最新情報展 第 2 期「江戸時代の天明記流に被災した村」
139. 松島栄治 2010 理蔵文化財講座「天明三年の地盤社会—鎌原の発掘からハッ場ダムまで」
140. 飯森成広 2016 理蔵文化財講座「発掘された群馬の城」
141. 関 俊明 2016 理蔵文化財講座「江戸民家—天明三年の浅間焼き前日の風景—」
142. 六合村教育委員会 1983 「熊倉道跡—昭和 57 年度調査の概要—」
143. 六合村教育委員会 1984 「熊倉道跡—山積み集落の探求—」
144. 能登 健 1983 「熊倉道跡の再調査」『群馬文化 193』群馬県地域文化研究協議会
145. 吾妻町教育委員会 2003 「町内遺跡」 小泉宮戸遺跡|吾妻町理蔵文化財発掘調査報告書第 13 集

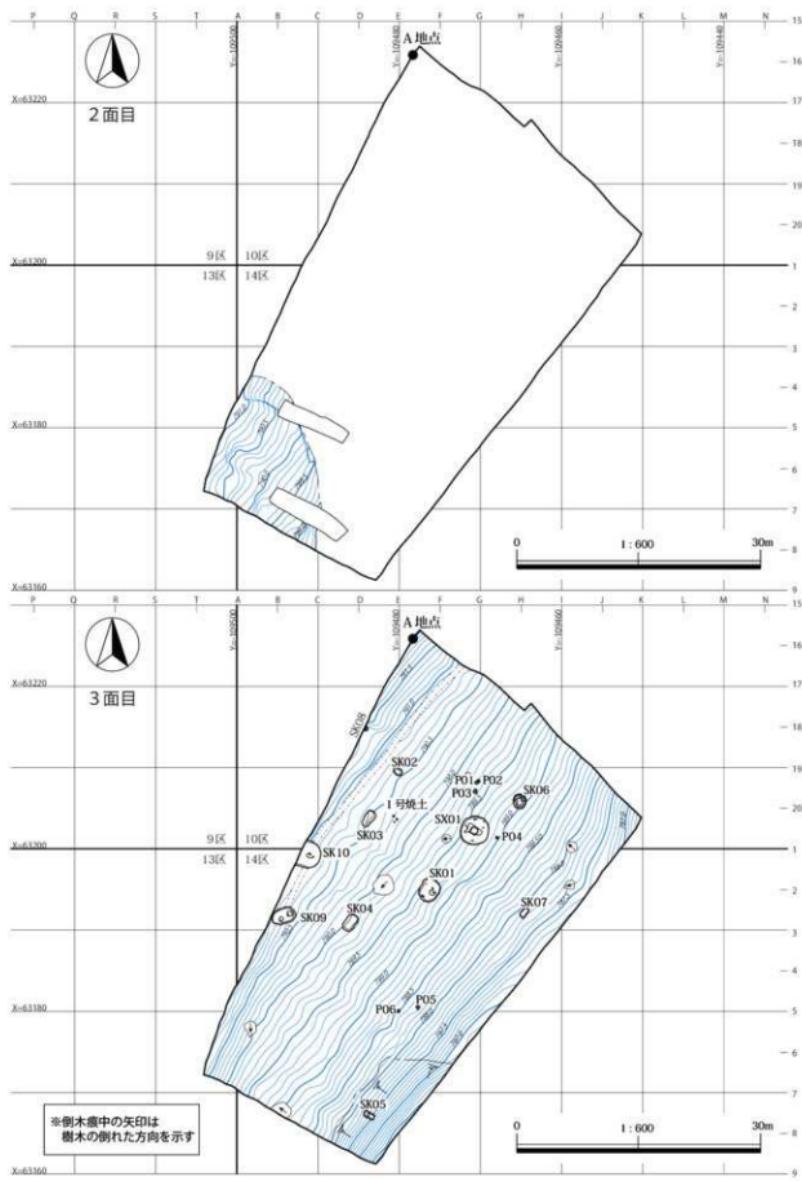
第3章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

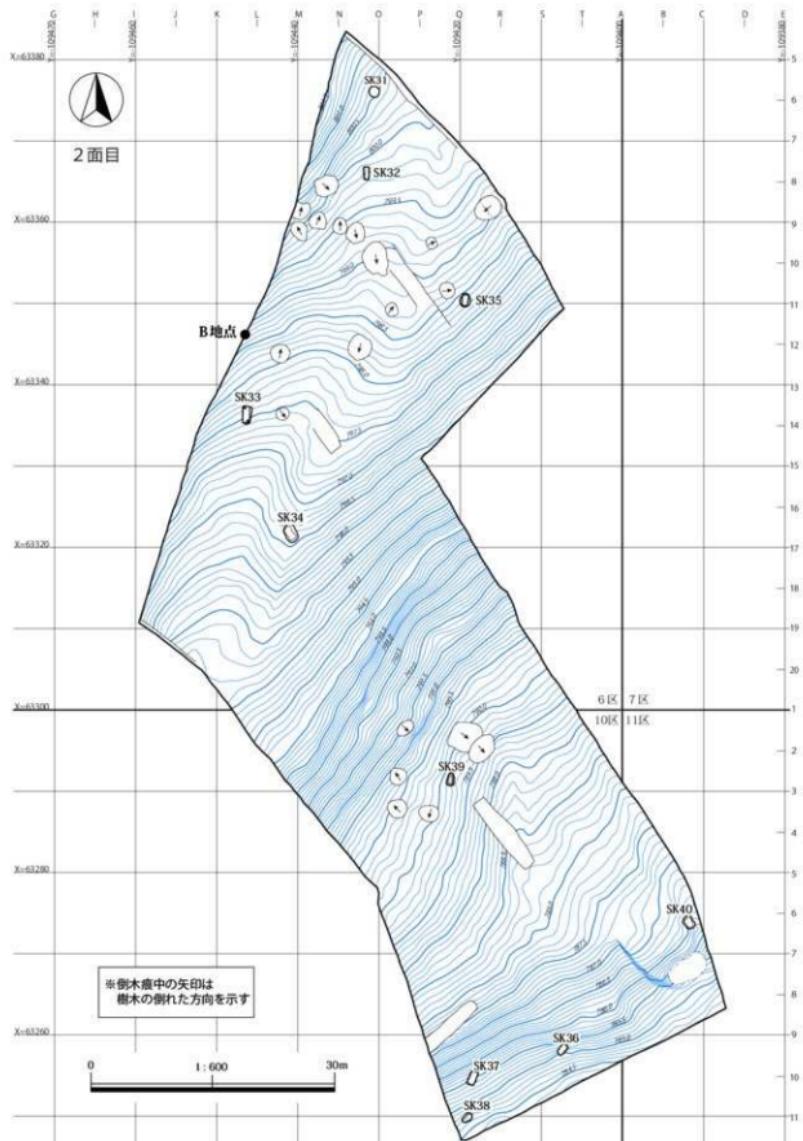
(1) 竪穴式遺構

SX01 (第 19・20 國／第 21 表／PL 3・12)

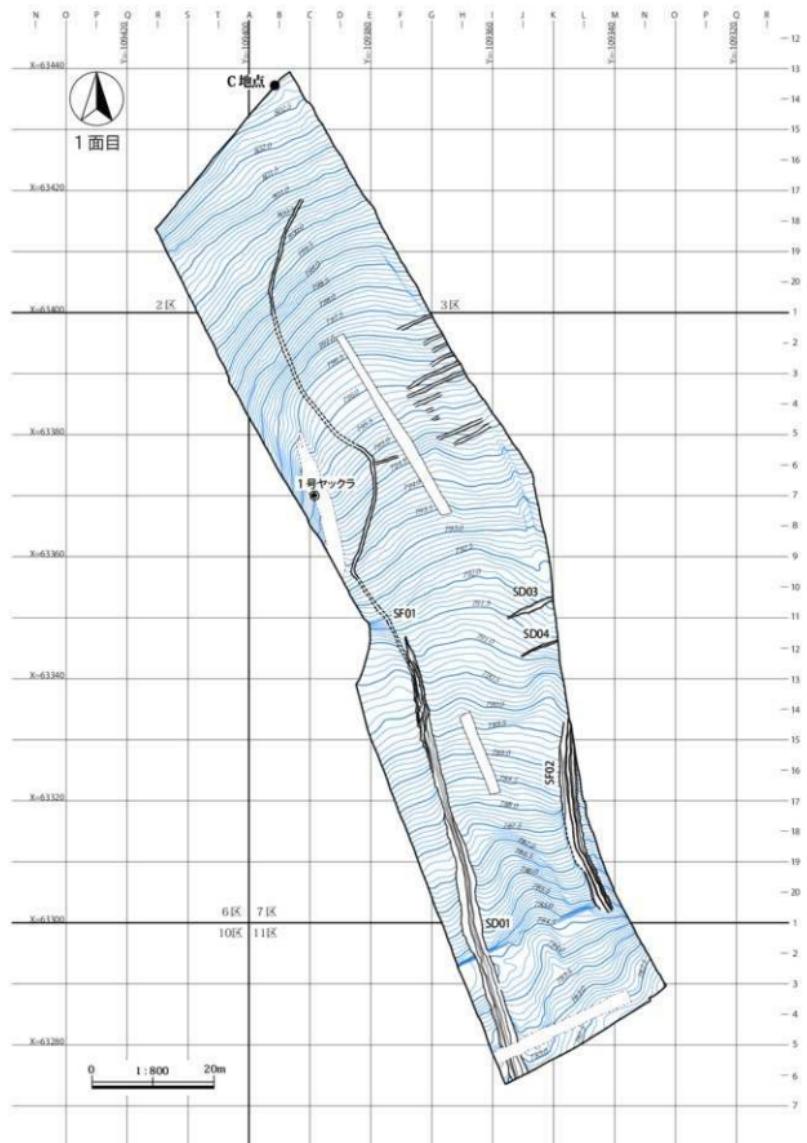
位置 10 F - 20 (1 区 3 面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 壁は下端部のみ残存し、不良。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 3.68 m、短軸 3.56 m、深さ 20cm。 **主軸方位** N - 50° - E **壁面** 北から北西にかけては階段状に立ち上がる。他は外傾して立ち上がるが、東側の一部は失われている。 **床面** ほぼ平坦だが、地形に沿って南東側へわずかに傾斜している。中央の浅い窪みの南東と北西の両側に硬化面が認められる。 **柱穴** 竪穴内部で確認できなかった。 **炉跡** 炉跡は確認されなかった。 **その他の施設** 中央に長軸 1.03 m、短軸 0.98 m、深さ 9 cm の窪みを持つ。 **遺物** 塚田式土器が 3 点出土し、うち 2 点を図示した。この遺構で主体的なのが石器製作に伴う遺物で、台石



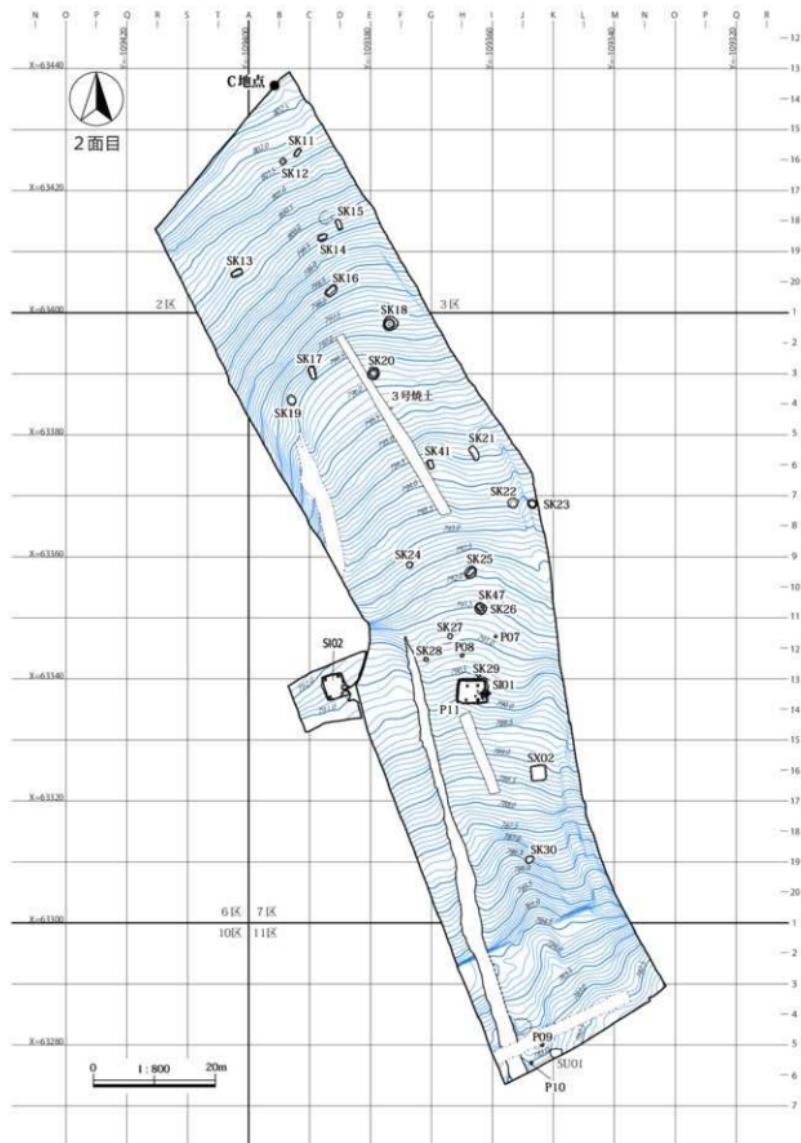
第10図 1区2・3面目全体図(1/600)



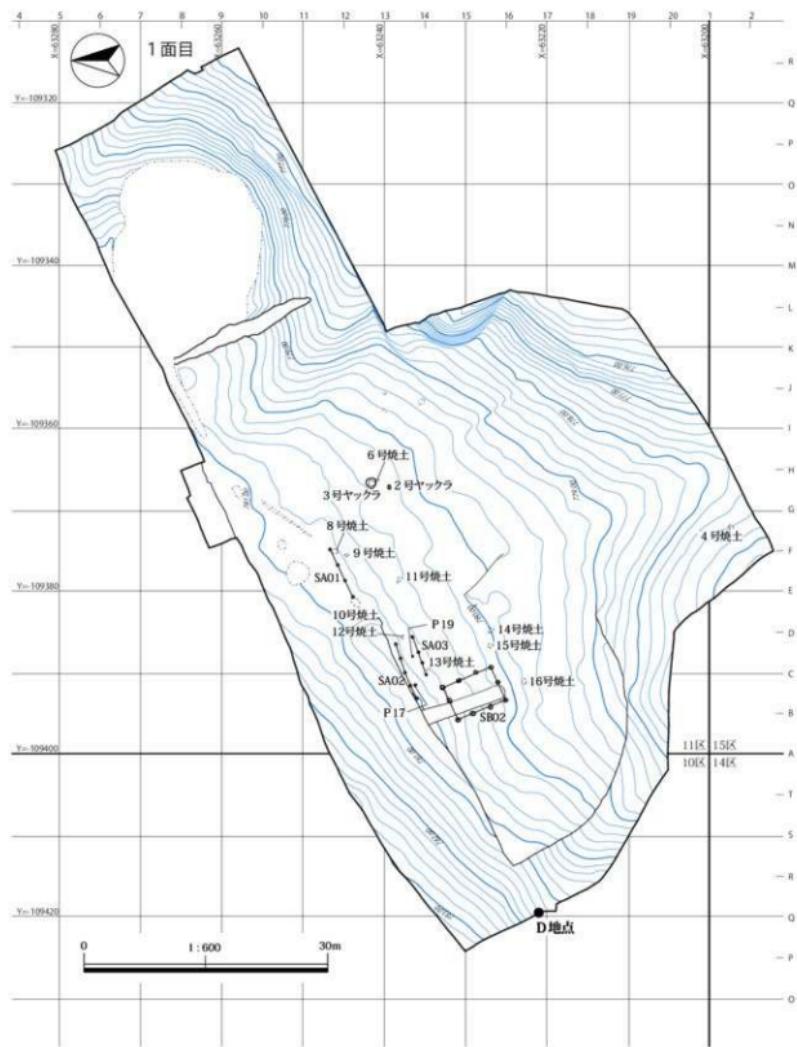
第11図 2区2面目全体図(1/600)



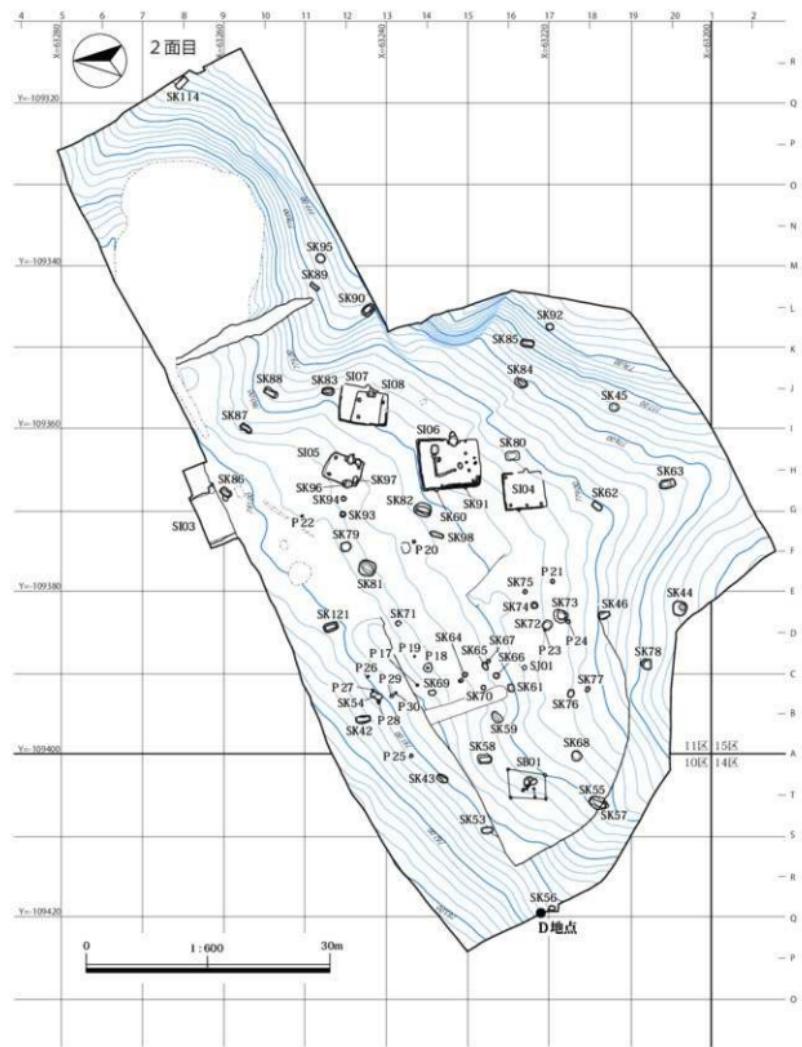
第12図 3区1面図全体図(1/800)



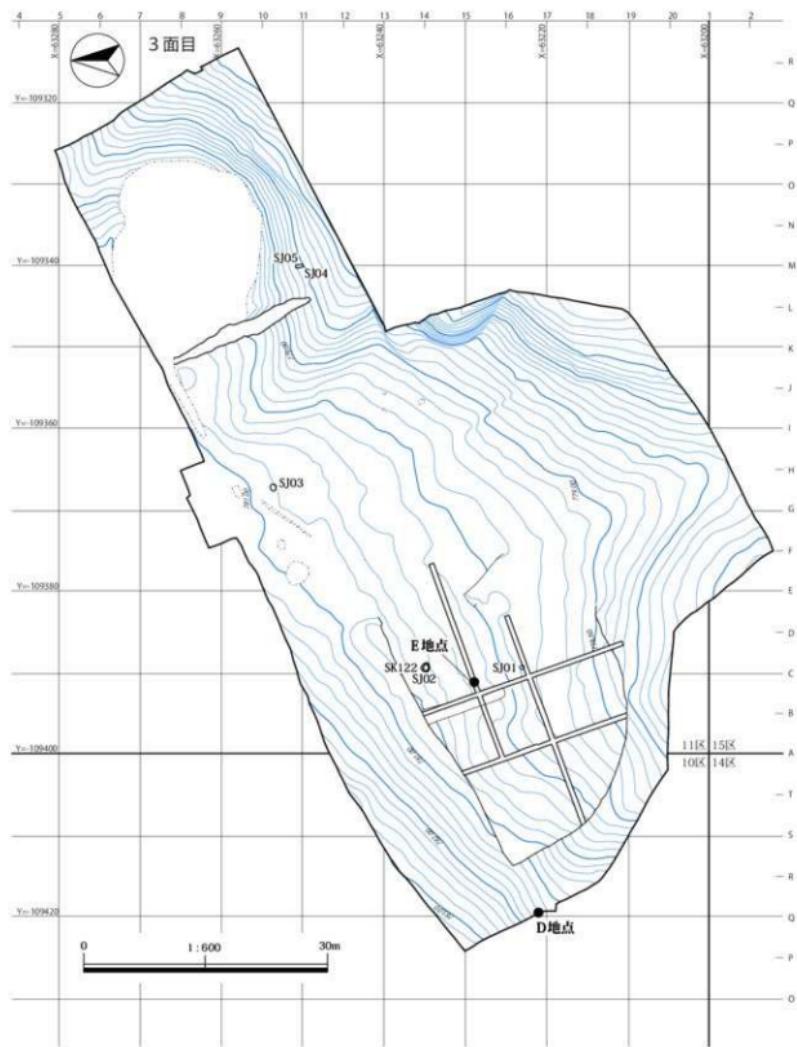
第13図 3区2面全体図(1/800)



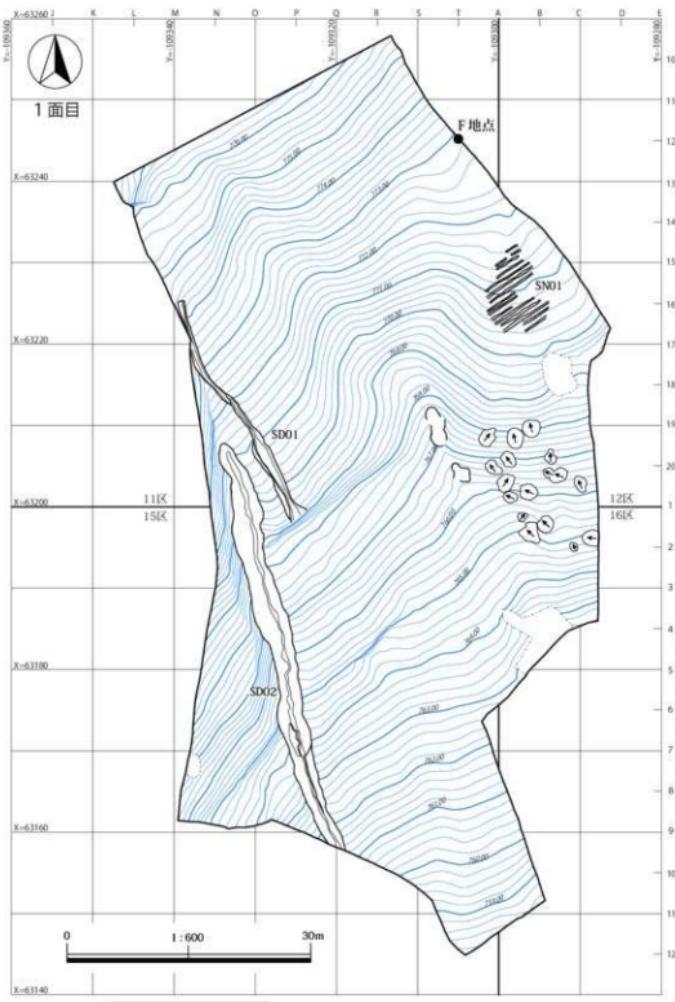
第14図 4区1面目全体図(1/600)



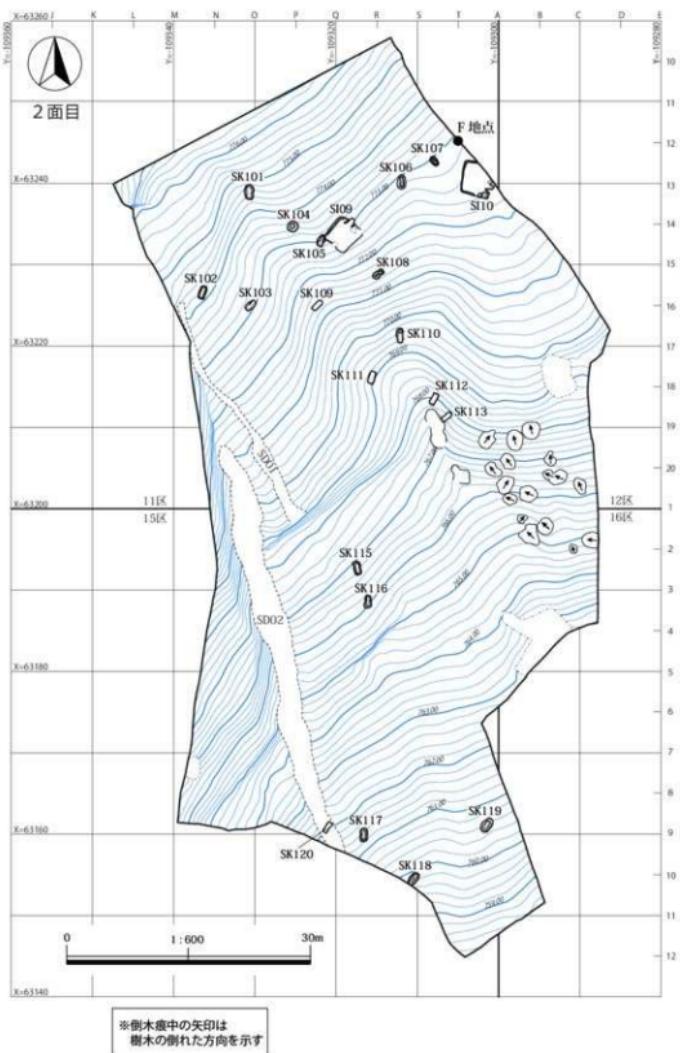
第15図 4区2面目全体図(1/600)



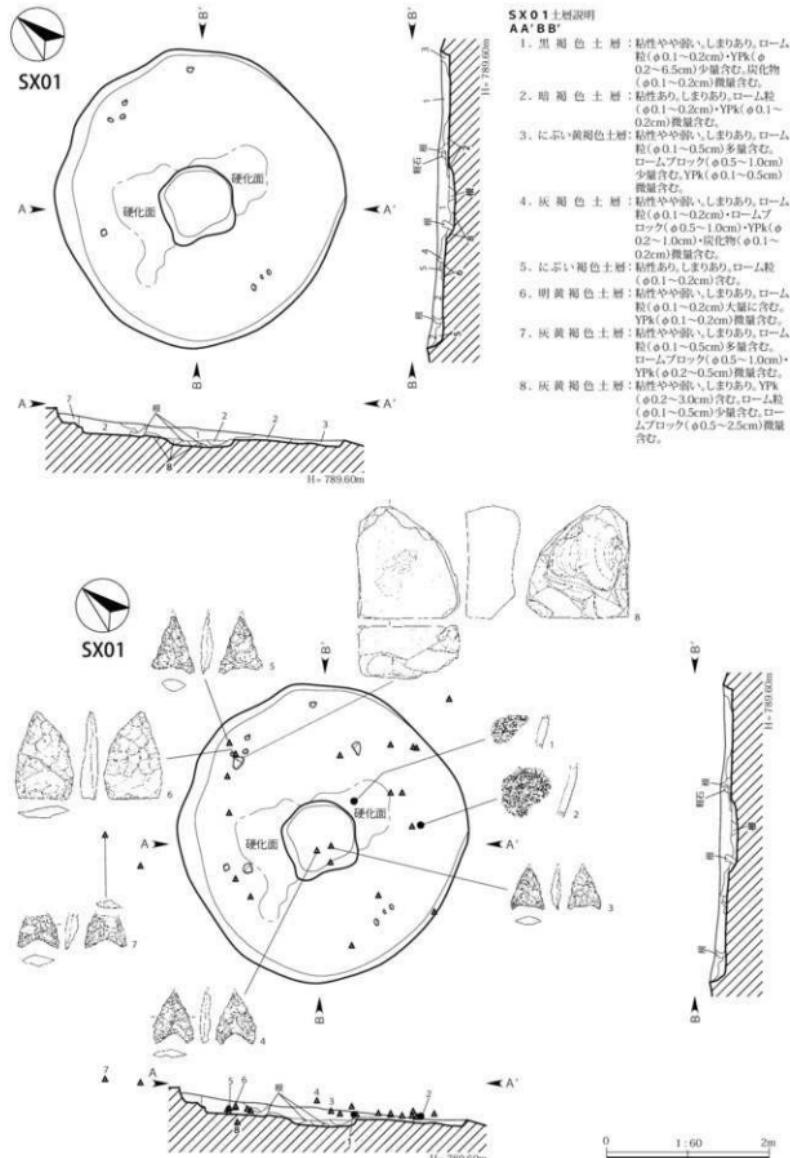
第16図 4区3面目全体図(1/600)



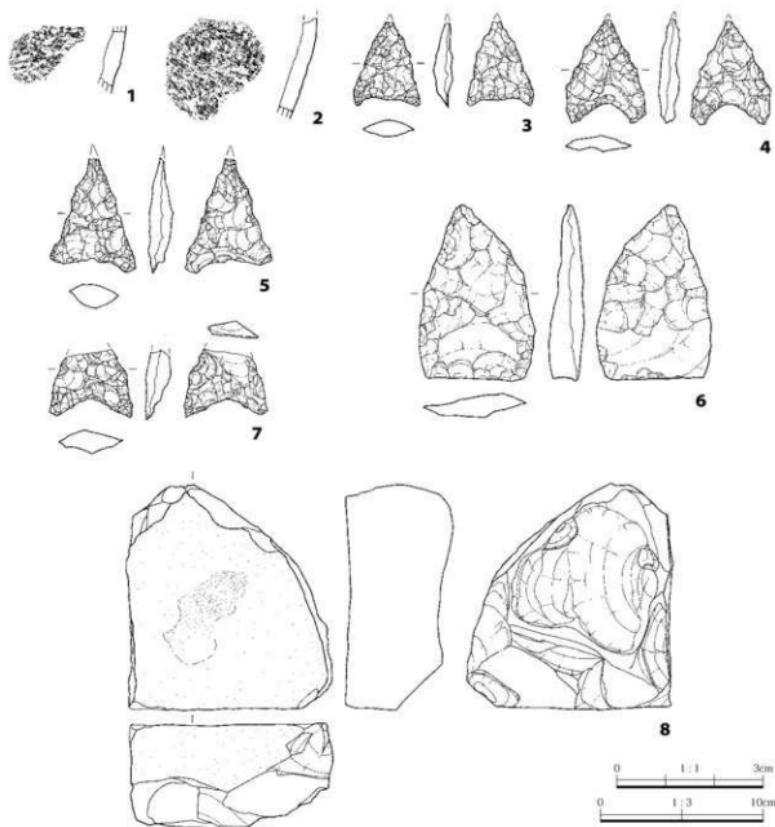
第17図 5区1面目全体図(1/600)



第18図 5区2面全体図(1/600)



第19図 SX01実測図(1/60)



第20図 SX01出土遺物実測図(1/1・1/3)

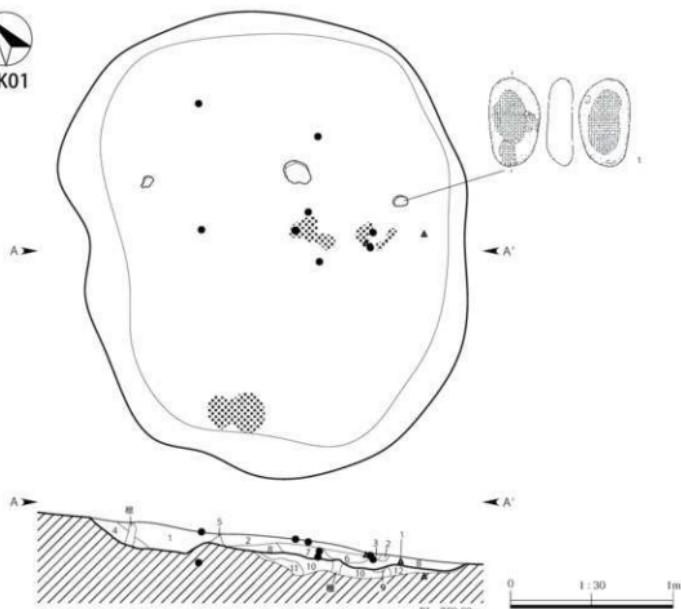
3点、尖頭器1点、石鎌5点、黒曜石片78点、チャート片6点が出土し、8点を示した。参考 出土遺物から縄文時代前期初頭に帰属する石器製作工房跡と考えられる。また、土器片はSK01のものと同一個体と見られることから、二つの遺構の関係性が指摘される。

(2) 土坑

SK01 (第21・25図／第21表／PL 3・13)

位置 14 E - 2 (1区3面中央) 重複関係 なし。 遺存状態 削平により上面が失われている。覆土上層は黒～黒褐色土、下層は灰黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸 286cm、短軸 230cm、深さ 22cm。主軸方位 N - 38° E 壁面 大きく外傾して立ち上がる。

底面 中央が盛り上がる凸形。 燃土 燃土が底面中央及び南西端部で検出された。燃土厚は中央のものが5cm、南西のものは4cm。長期の使用は認められない状態にある。 遺物 縄文土器深鉢片2点、縄文土器小片



SK01 土壌説明
AA'

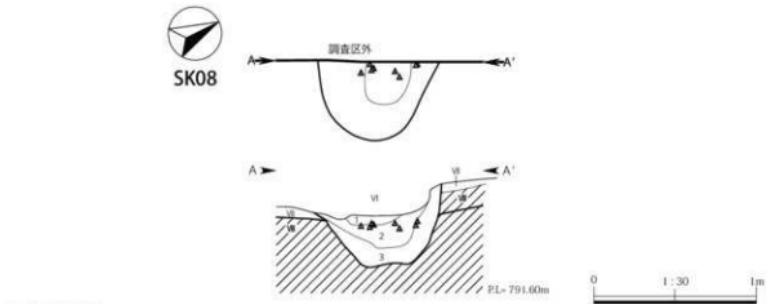
1. 黒 色 土 層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)・焼土粒(φ0.1~0.2cm)・YPk(φ0.2~0.4cm)微量含む。
2. 黒 褐 色 土 層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)・焼土粒(φ0.1~0.2cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
3. にぶい 黄褐色土層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・焼土粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
4. 灰 褐 色 土 層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・焼土粒(φ0.1~0.2cm)微量含む。
5. 灰 色 土 層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・焼土粒(φ0.1~0.3cm)含む。
6. 暗赤褐色土層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・焼土粒(φ0.1~0.2cm)含む。炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
7. 灰 褐 色 土 層 : 粘性弱い。しまりあり。焼土粒(φ0.1~0.2cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
8. 灰 黄褐色土層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.2cm)多量含む。焼土粒(φ0.1~0.2cm)やや多量含む。炭化物(φ0.1cm)微量含む。
9. 灰 黄褐色土層 : 粘性弱い。しまりあり。焼土粒(φ0.1~0.2cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1cm)微量含む。
10. 浅 黄色土層 : 粘性やや強い。しまりあり。ローム粒(φ0.1cm)大量に含む。焼土粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)少量含む。YPk(φ0.5~1.0cm)・炭化物(φ1.0cm)微量含む。
11. 灰 褐色土層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1cm)含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.2cm)・焼土粒(φ0.1~0.2cm)微量含む。
12. にぶい 黄褐色土層 : 粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ0.1cm)含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.5~1.5cm)・焼土粒(φ0.1cm)・炭化物(φ1.0~0.2cm)微量含む。

第21図 SK01実測図(1/30)

10点、黒曜石製剝片8点、黒曜石製チップ11点、珪質頁岩製剝片1点、磨石1点が出土し、磨石1点を図示した。**備考** SX01に隣接し、同一個体と思われる塚田式土器の尖底部が出土していることから、一对の遺構として機能していたことが想定できる。

SK08 (第22図／PL 3・14)

位置 10 D - 18 (4区東壁北寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 北西部の約半分は調査区外であるが、概ね良好。 **覆土** 上層にはにぶい黄褐色土、下層は褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸残存部48cm、短軸74cm、深さ32cm。 **主軸方位** N - 65° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 黒曜石製剝片11点、石器8点が出土し、小破片のため剝片11点のみ写真掲載した。 **備考** VII層上面から掘り込まれており、出土した石器と合わせ、縄文時代前期初頭に帰属するものと考えられる。



SK08 土層説明

A A'

- にぶい黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$ ）、炭化物（ $\phi 0.1 \sim 1.0\text{cm}$ ）含む、YPk（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）少量含む、燒土粒（ $\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$ ）微量含む。
- にぶい黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）、YPk（ $\phi 0.2 \sim 2.5\text{cm}$ ）含む、ロームブロック（ $\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$ ）微量含む。
- 褐色土層：粘性あり、しまりあり、ロームブロック（ $\phi 0.5 \sim 5.0\text{cm}$ ）多量含む、ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）、YPk（ $\phi 0.2 \sim 1.0\text{cm}$ ）少量含む。

第22図 SK08実測図(1/30)

SK09 (第23・25図／第21表／PL 3・13)

位置 14 B-2 (4区東端南寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 灰褐色～にぶい黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸298cm、短軸186cm、深さ6cm。 **主軸方位** N-69°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 南方向に傾斜するが、概ね平坦。 **焼土** 焼土が東側と南西側で検出された。焼土厚はそれぞれ6cm、7cm。 **遺物** 繩文土器深鉢片1点と、根穴の影響により原位置を失っているが、石器1点が出土し、石器1点を図示した。 **備考** 出土した土器片から繩文時代前期に帰属するものと考えられる。

SK10 (第24・25図／第21表／PL 13)

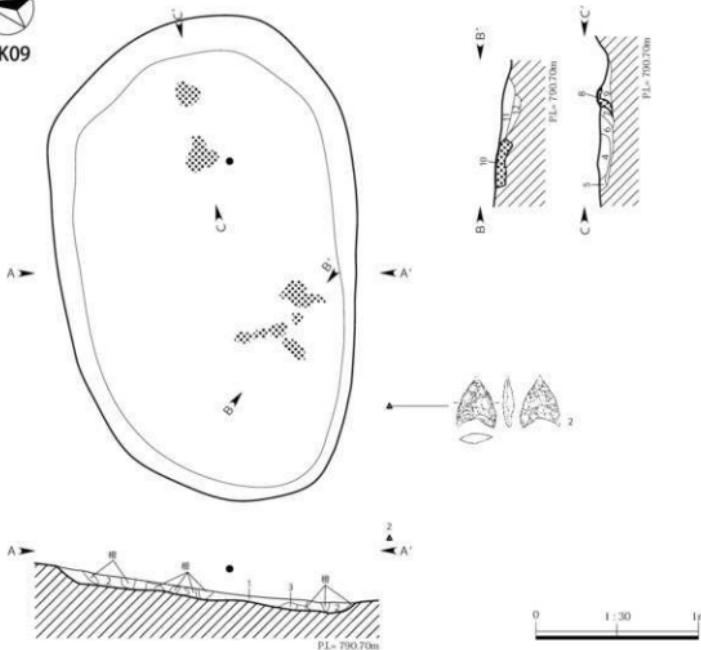
位置 14 B-1 (1区西端中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 西部の約半分は調査区外で、上位のほとんどが削平されて床面近くが残存するのみである。 **覆土** にぶい黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸残存部254cm、短軸338cm、深さ2cm。 **主軸方位** N-65°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **焼土** 底面東側中央で検出された。焼土厚は6cm。焼成は弱く、短期使用と考えられる。 **遺物** 黒曜石製削片2点、尖頭器1点、スクレイバー1点が出土し、尖頭器1点、スクレイバー1点を図示した。 **備考** 出土した石器から繩文時代前期の土坑と判断した。

SK122 (第24・25図／第21表／PL 14)

位置 11 C-14 (4区西側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 灰黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整椭円形を呈する。規模は長軸118cm、短軸98cm、深さ28cm。 **主軸方位** N-68°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 塚田式土器が1点出土し、図示した。 **備考** 出土遺物から繩文時代前期初頭に帰属するものと考えられる。



SK09

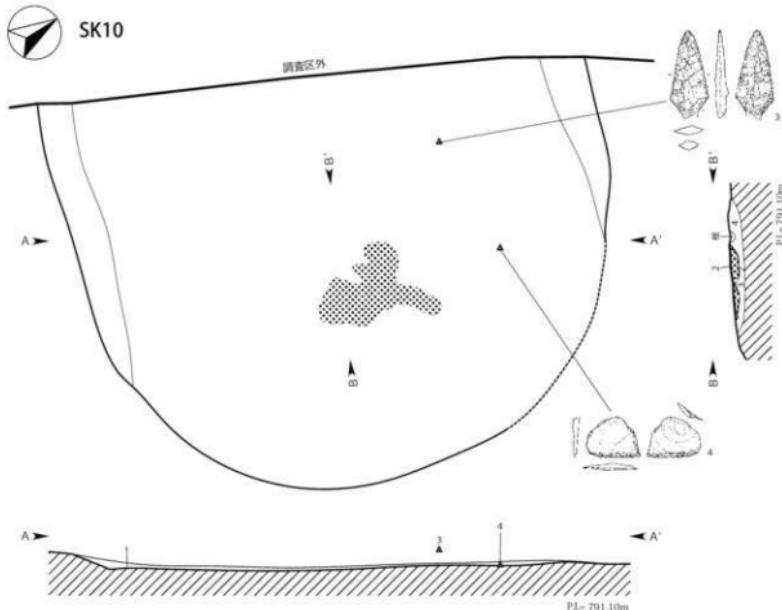


SK09 土層説明

AA'・BB'・CC'

- 灰褐色土層：粘性弱い、しまりあり。焼土粒(φ0.1~0.3cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・Ypk(φ0.2~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- に赤い黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり。ロームブロック(φ0.5~1.2cm)大層に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。焼土粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。Ypk(φ0.2~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- 明黃褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。ローム粒(φ0.5~1.5cm)多量含む。焼土粒(φ0.1~1.0cm)少量含む。Ypk(φ0.2~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- 浅黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.3cm)多量含む。焼土粒(φ0.1~0.5cm)含む。Ypk(φ0.2~1.0cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。炭化物(φ0.1~0.4cm)含む。焼土粒(φ0.1~0.3cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・Ypk(φ0.2~0.5cm)微量含む。
- に赤い黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)含む。Ypk(φ0.1~0.5cm)少量含む。焼土粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- 黄褐色土層：粘性やや弱い、しまり弱い。ローム粒(φ0.5~3.5cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。Ypk(φ0.2~1.0cm)少量含む。
- に赤い褐色土層：粘性弱い、しまりあり。焼土粒(φ0.1~2.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・炭化物(φ0.1~1.0cm)含む。Ypk(φ0.2~1.0cm)微量含む。
- 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまり強い。焼土粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・焼土粒(φ0.1~1.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・Ypk(φ0.2~0.5cm)微量含む。
- に赤い黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・Ypk(φ0.2~0.5cm)・焼土粒(φ0.1~0.2cm)微量含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- 淡黄色土層：粘性あり。しまりやや弱い。ローム粒(φ0.5~2.5cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。Ypk(φ0.2~2.5cm)微量含む。

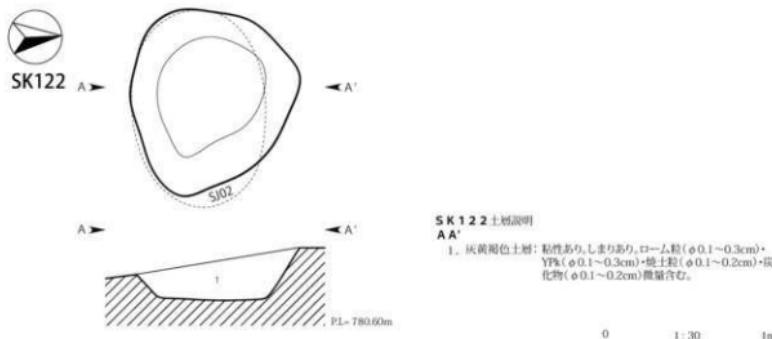
第23図 SK09実測図(1/30)



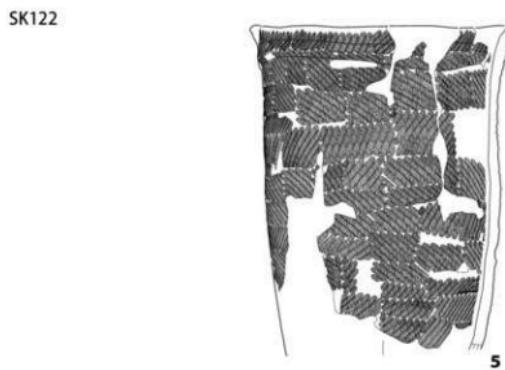
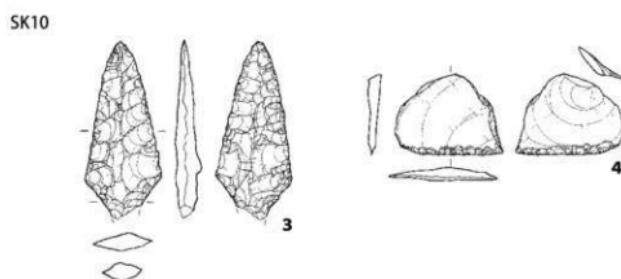
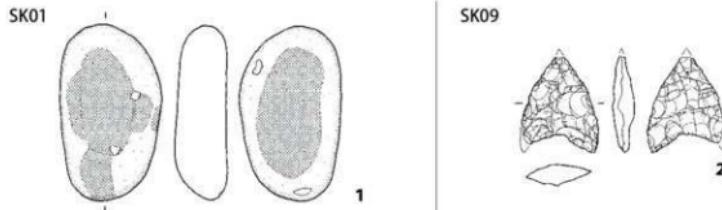
SK10 土則說明

- A' B' B'**

 1. にふる・黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、炭化物（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）含む、ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）、燒土粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）少量含む、YPK（ $\phi 0.2 \sim 1.5\text{cm}$ ）微量含む。
 2. 黄 色 土 層：粘性弱い、しまりやや強い、燒土粒（ $\phi 0.1 \sim 1.5\text{cm}$ ）多量含む、ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）、ローム・ブロック（ $\phi 0.5 \sim 2.5\text{cm}$ ）含む、YPK（ $\phi 0.2 \sim 0.5\text{cm}$ ）微量含む。
 3. にふる・黄褐色土層：粘性あり、しまり強く、ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）多量含む、ローム・ブロック（ $\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$ ）、YPK（ $\phi 0.2 \sim 0.5\text{cm}$ ）、燒土粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）少量含む。
 4. 黄 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$ ）大量に含む、ローム・ブロック（ $\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$ ）少量含む、YPK（ $\phi 0.2 \sim 0.5\text{cm}$ ）微量含む。



第24回 SK10・122実測図(1/30)



0 1:1 3cm 0 1:2 5cm 0 1:3 10cm 0 1:4 10cm

第25図 繩文時代土坑出土遺物実測図(1/1+1/2+1/3+1/4)

(3) 土器埋設遺構

SJ01 (第 26・27 図／第 21 表／PL 4・12)

位置 11 C - 16 (4 区 3 面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上面が失われる。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 58cm、短軸 50cm、深さ 14cm。 **主軸方位** N - 71° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** ほぼ平坦だが、中央が土器に沿ってわずかに窪む。

遺物 阿玉台 I a 式の浅鉢が 1 点出土し、図示した。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期前半に帰属するものと考えられる。

SJ02 (第 26～28 図／第 21 表／PL 4・13)

位置 11 C - 14 (4 区 3 面中央) **重複関係** SK122 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 土砂崩れの影響を受け不良。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 120cm、短軸 82cm、深さ 12cm。 **主軸方位** N - 88° - E **壁面** 西は外傾して立ち上がり、東は大きく開く。 **底面** 東に向かってわずかに傾斜し、西から 2/3 ほどの位置から東に向かって開く。 **遺物** 後沖式の深鉢 1 点と周囲を対称に打ち欠く緑色片岩製の石皿が 1 点出土し、図示した。 **備考** 挖り窪めた所に埋設したというよりも、下位の土坑が埋設する過程で成立した窪みに、土器と石皿を安置したように観察される。出土遺物から縄文時代中期前半に帰属するものと考えられる。

SJ03 (第 26・28 図／第 21 表／PL 4・12)

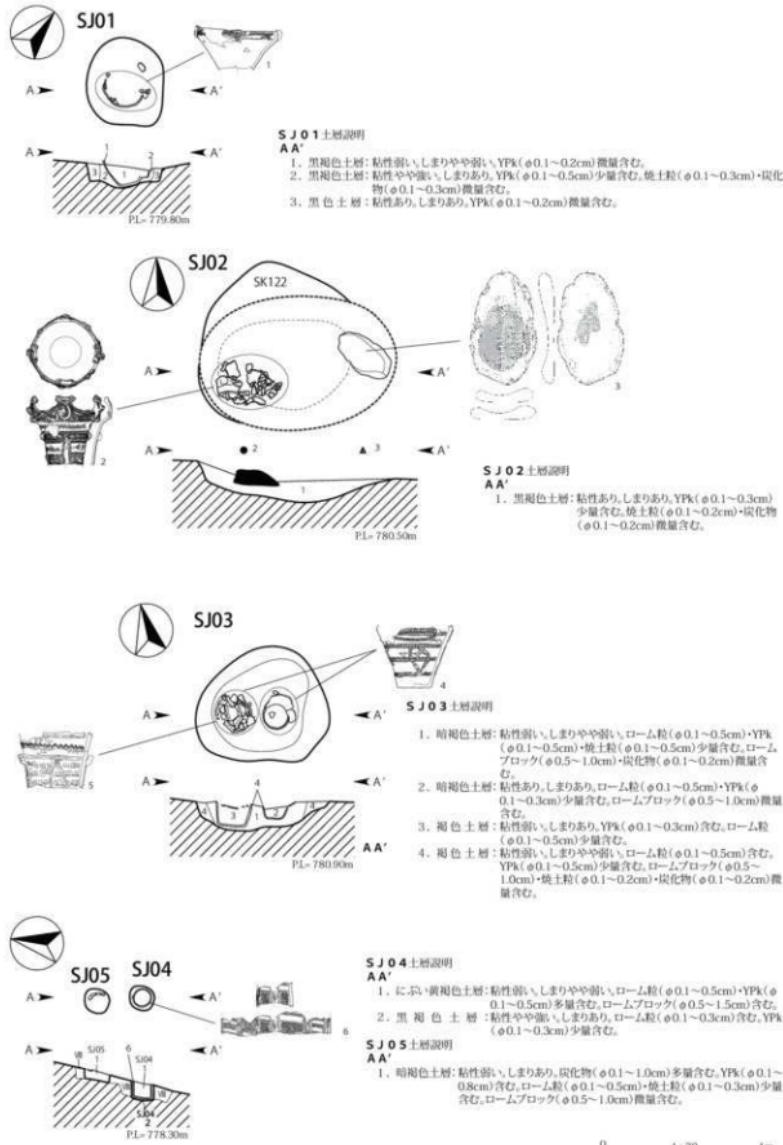
位置 11 G - 10 (4 区 3 面中央東側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上端が削平されている。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不正円形を呈する。規模は長軸 82cm、短軸 70cm、深さ 16cm。 **主軸方位** N - 80° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹状を呈する。 **遺物** 阿玉台 I a 式の深鉢が 2 点並んで出土し、図示した。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期前半に帰属するものと考えられる。

SJ04 (第 26・29 図／第 21 表／PL 4・12)

位置 11 L - 10 (4 区 3 面東側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上半が削平により失われている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 16cm、短軸 14cm、深さ 10cm。 **主軸方位** N - 35° - E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 平坦。 **遺物** 後沖式の深鉢が 1 点出土し、図示した。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期前半に帰属するものと考えられる。

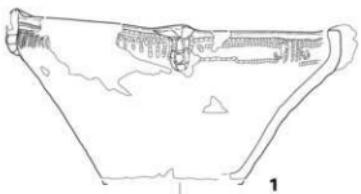
SJ05 (第 26 図)

位置 11 L - 11 (4 区 3 面東側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上半が削平により失われている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 16cm、短軸 14cm、深さ 6 cm。 **主軸方位** N - 35° - E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 平坦。 **遺物** 小破片のため型式は不明だが、縄文中期前半の土器片 3 点が出土した。小破片のため図示しなかった。 **備考** 出土遺物から縄文時代中期前半に帰属するものと考えられる。



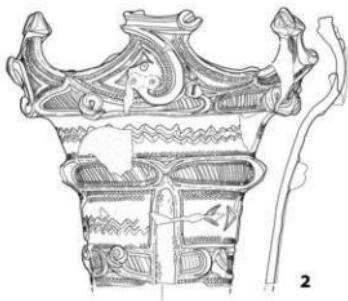
第26図 SJ01～05実測図(1/30)

SJ01



1

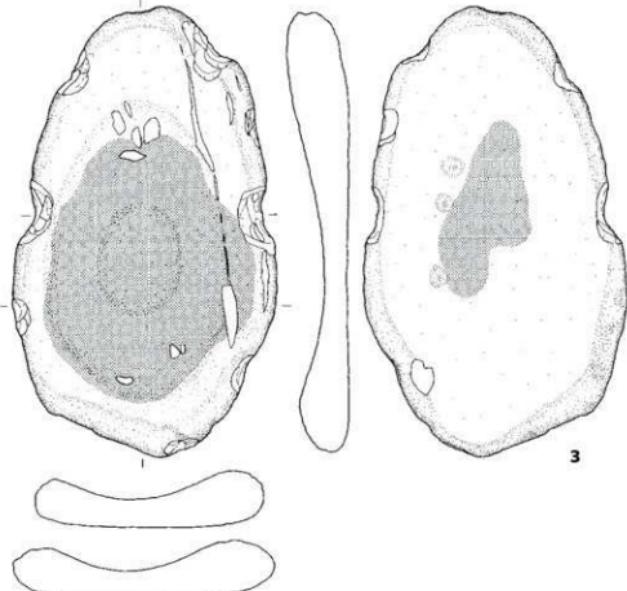
SJ02



0 1:4 10cm

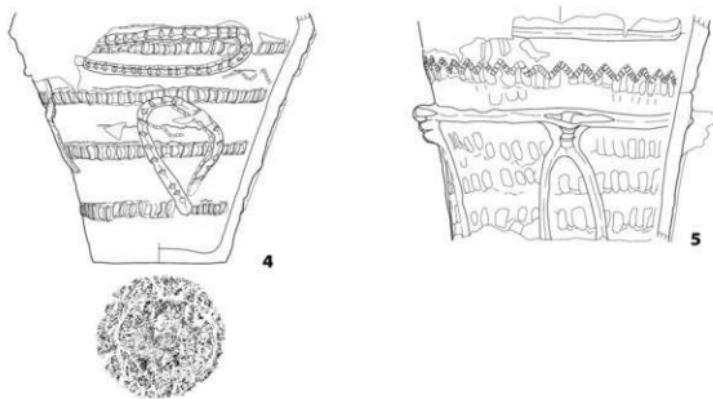
第27図 土器埋設遺構出土遺物実測図①(1/4)

SJ02



3

SJ03

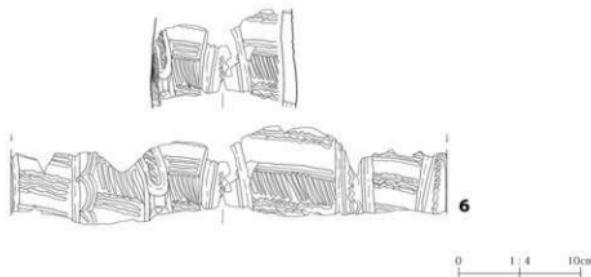


4

5

第28図 土器埋設遺構出土遺物実測図②(1/4)

0 1:4 10cm



第29図 土器埋設遺構出土遺物実測図③(1/4)

第2節 平安時代の遺構と遺物

(1) 穫穴住居跡

SI01 (第30～35図／第5・20・21表／PL 4・5・14)

位置 7H-13 (3区2面中央) **重複関係** 試掘調査時に検出されたP11と重複し、本遺構の方が古い。
遺存状態 南東向き斜面谷部に位置しているため上半を雨水の浸食により失っているが、遺存状態は比較的良好である。 **覆土** 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。1層目の黒色土は寛永宝・陶磁器が出土し、近世の遺構であるSD01の覆土と類似することから、江戸時代の堆積と判断される。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は主軸 5.17 m、副軸 4.18 m、深さ 40cm、底面積は 14.5m²。 **主軸方位** N-90°-E **壁・壁溝** 壁高は東壁で 39cm、西壁で 26cm、南壁で 19cm、北壁で 52cm。いずれも外傾して立ち上がる。壁溝は全ての壁で確認された。溝幅は 10～18cm、床面からの深さは 15cm。 **床面** 直床式で全体に貼床が確認された。やや南方向に傾斜するが、概ね平坦。 **柱穴** P1～P4まで確認された。平面形は円形を呈する。全てのピットがその位置から主柱穴

と考えられる。それぞれの規模は、第5表に記載する。 **カマド** 東壁の中央南寄りに位置する。

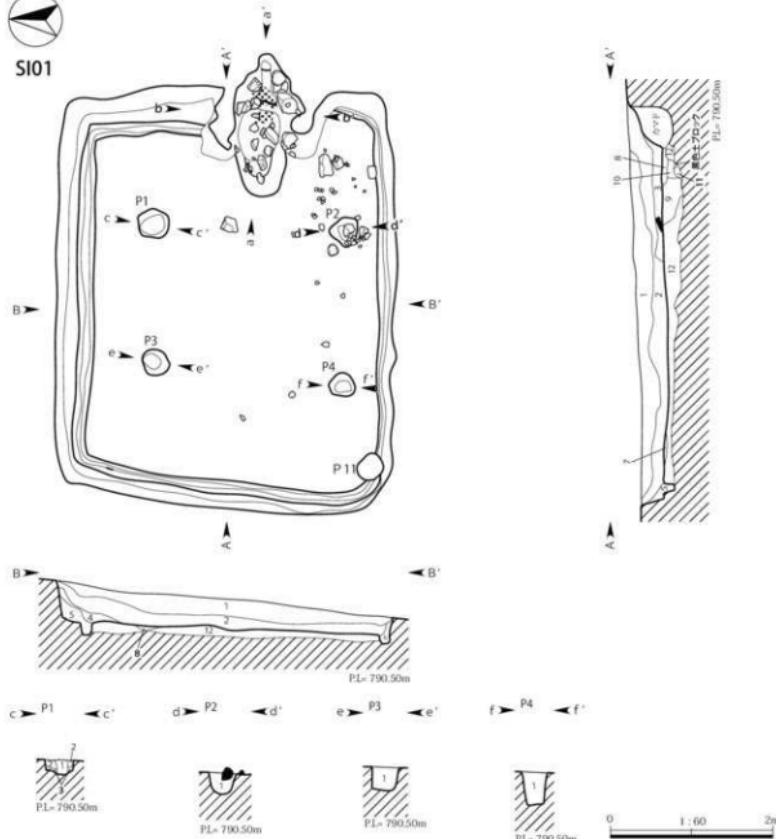
遺存状態は良好である。規模は残存長 191cm、残存幅 76cm。火床面と考えられる窪みが 16cm掘り込まれており、焼土部分は 12cmの厚さを有する。使用面に灰層が認められる。煙道付近が強く焼成化しており、長期の使用をうかがわせる。地山の黒色土を掘り込んで外形を造り、袖や天井部に角礫が支持材として使用されていた。また、付近の陥し穴から採取されたと思われる粘土化したロームが袖の被覆材や天井の構築材として使用されている。 **その他の施設** 貯蔵穴は確認されなかった。床下土坑はカマド北西側に隣接する形で検出された。規模は長軸 80cm、短軸 72cm、床面からの深さ 28cm。平面形は隅丸方形で、覆土には焼土を多く含んでいる。 **遺物検出状況** 覆土上層から繩文土器片や石礫、前出の古錢等が出土し、流れ込みと判断される。土師器甕を主体とし、須恵器杯は少量混じる程度だが、掘り方からは須恵器杯が出土している。その他に床面近くから鉄製品（鍼）が出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器甕 4点、須恵器杯 4点、須恵器甕 1点、鉄製品（鍼）1点を図示した。 **備考** 本遺構は、中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第5表 SI01 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	床下土坑
長軸長 (cm)	37	36	33	32	80
短軸長 (cm)	35	33	32	28	72
深さ (cm)	16	25	29	41	28



SI01



SI01 土層説明 AA'・BB'

1. 黒褐色土層 : 脱性あり。しまりやや強い。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・YPk(φ0.2~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
2. 暗褐色土層 : 脱性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.3cm)・YPk(φ0.2~0.5cm)少量含む。炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
3. 灰黃褐色土層 : 脱性あり。しまりやや強い。粘土ブロック(φ0.2~0.3cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.2~0.5cm)・焼土粒(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)少量含む。
4. 暗褐色土層 : 脱性やや弱い。しまりやや弱い。YPk(φ0.2~0.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
5. 黑褐色土層 : 脱性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・YPk(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
6. 黑褐色土層 : 脱性弱い。しまりやや弱い。YPk(φ0.1~0.2cm)・粘土ブロック(φ0.2~0.5cm)・YPk(φ0.2~0.5cm)微量含む。
7. 灰黃褐色土層 : 脱性弱い。しまりやや弱い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ0.5~1.0cm)・粘土粒(φ0.2~1.0cm)・焼土粒(φ0.1~1.0cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.2cm)微量含む。
8. にじみ赤褐色土層 : 脱性やや弱い。しまりやや強い。燒土粒(φ0.2~1.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ0.2~1.0cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
9. にじみ棕色土層 : 脱性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ0.2~2.5cm)・粘土ブロック(φ0.2~2.0cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ0.1~0.5cm)微量含む。
10. 淡棕色土層 : 脱性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ0.2~1.5cm)微量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.8cm)・粘土ブロック(φ0.2~1.0cm)微量含む。
11. 明黄褐色土層 : 脱性弱い。しまりやや強い。YPk(φ0.1~1.5cm)・燒土粒(φ0.2~1.0cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~2.5cm)・粘土ブロック(φ0.2~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
12. 暗褐色土層 : 脱性あり。しまりやや強い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~1.0cm)・燒土粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ0.1~0.5cm)微量含む。

第30図 SI01実測図(1/60)

S101P1 土層説明

c c'

- 暗赤色土層：粘性やや強い。しまりやや強い。YPh(φ 0.2~0.5cm)少量含む。ローム粒(φ 0.1~0.2cm)・焼土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
- 褐灰色土層：粘性やや強い。しまりやや強い。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・焼土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。YPh(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
- 明黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや強い。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ 0.5~3.5cm)含む。YPh(φ 0.1~0.2cm)・焼土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。

S101P2 土層説明

d d'

- 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。ローム粒(φ 0.1~0.2cm)・焼土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。

S101P3 土層説明

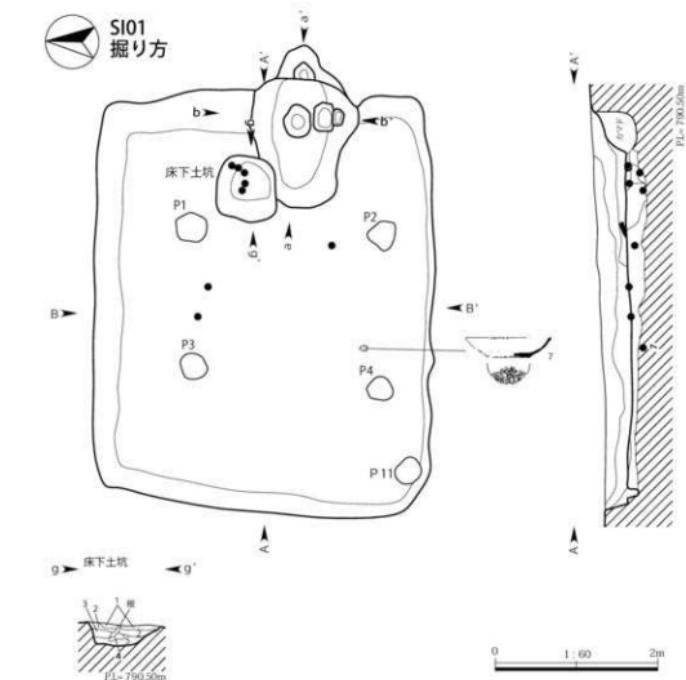
e e'

- 黒色土層：粘性強い。しまりあり。YPh(φ 0.2~1.0cm)微量含む。ローム粒(φ 0.1~0.2cm)・焼土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。

S101P4 土層説明

f f'

- 黒褐色土層：粘性強い。しまりあり。ローム粒(φ 0.1~0.2cm)・YPh(φ 0.2~1.0cm)・焼土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。



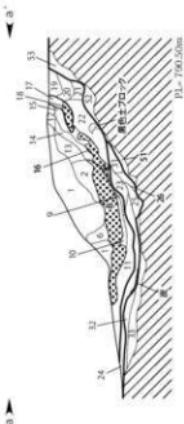
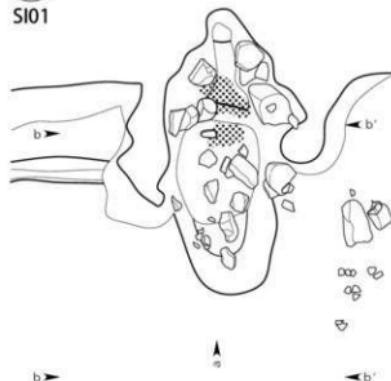
S101床下土坑土層説明

g g'

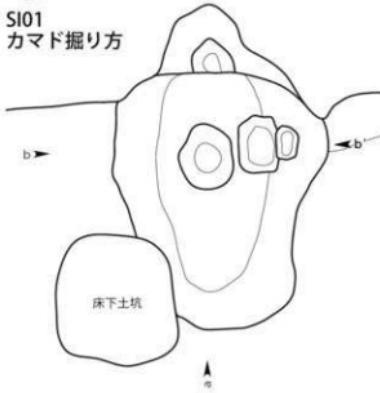
- にぶい赤褐色土層：粘性やや弱い。しまりやや強い。焼土粒(φ 0.2~1.5cm)含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・YPh(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ 0.2~1.0cm)微量含む。ロームブロック(φ 0.5~1.0cm)微量含む。
- にぶい褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。焼土粒(φ 0.1~2.5cm)・粘土ブロック(φ 0.2~0.5cm)含む。YPh(φ 0.1~0.5cm)・YPh(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ 0.2~1.5cm)微量含む。
- 淡褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。焼土粒(φ 0.2~1.5cm)微量含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・YPh(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ 0.2~1.0cm)微量含む。
- 暗褐色土層：粘性弱い。しまりやや強い。YPh(φ 0.1~1.5cm)・焼土粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
- 明黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや強い。YPh(φ 0.1~1.0cm)含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ 0.2~1.0cm)微量含む。YPh(φ 0.1~0.5cm)微量含む。

第31図 S101掘り方実測図(1/60)

SI01



SI01
カマド掘り方



16. 棕色土層：粘性あり。しまりやや弱い。ほぼ焼土化した粘土で構成される。YPk(φ0.1~0.2cm)少量含む。
17. 灰褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.1cm程度)・粘土ブロック(φ0.1cm程度)多量含む。YPk(φ0.1~0.2cm)微量含む。
18. 棕色土層：粘性弱い。しまりやや強い。ほぼ焼土化した粘土で構成される。YPk(φ0.1~0.2cm)微量含む。

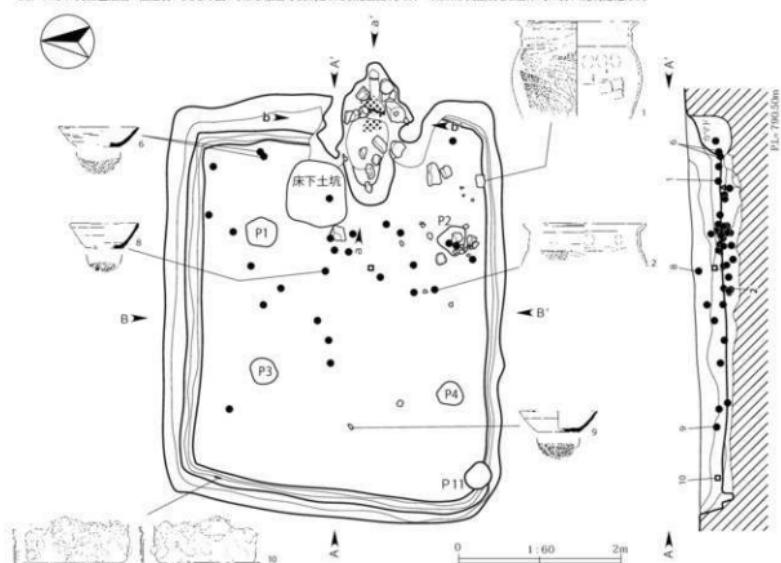
第32図 SI01カマド・カマド掘り方実測図(1/30)

**SI01カマド土層調査①
a a' b b'**

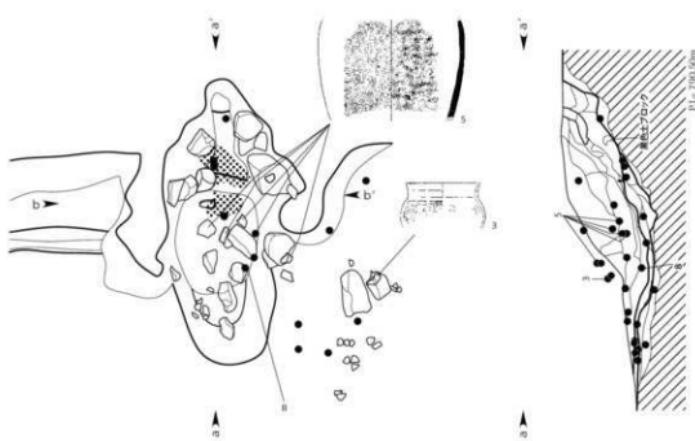
1. 暗褐色土層：粘性あり。しまりやや弱い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。燒土粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)微量含む。
2. 赤灰色土層：粘性やや弱い。しまりやや弱い。粘土ブロック(φ0.1~1.0cm)多量含む。燒土粒(φ0.1~1.0cm)含む。YPk(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
3. 黒色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・YPk(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
4. 棕色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ほぼ焼土で構成される。YPk(φ0.1~0.4cm)含む。
5. 暗赤灰色土層：粘性あり。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.1~0.3cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
6. にぶい赤褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。粘土ブロック(φ0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
7. 黑色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.1~1.5cm)含む。粘土ブロック(φ0.2~0.5cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
8. 棕色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ほぼ焼土化した粘土で構成される。YPk(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
9. 暗赤灰色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。炭化物(φ0.1~0.5cm)・焼土粒(φ0.1~0.3cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.2cm)微量含む。
10. 暗赤灰色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
11. 赤灰色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.1~0.5cm)含む。YPk(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.2cm)微量含む。
12. 灰褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.2~0.5cm)含む。YPk(φ0.2~0.5cm)・燒土粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)微量含む。
13. 黑色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ0.2~0.5cm)・燒土粒(φ0.1~0.3cm)・粘土ブロック(φ0.1~0.2cm)微量含む。
14. にぶい褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk(φ0.1~2.0cm)・粘土ブロック(φ0.2~2.0cm)多量含む。燒土粒(φ0.1~1.0cm)含む。
15. 暗褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ0.1~0.3cm)・粘土ブロック(φ0.2~1.0cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.3cm)・YPk(φ0.1~0.4cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。

S101カマド土坑説明図
a a' b b'

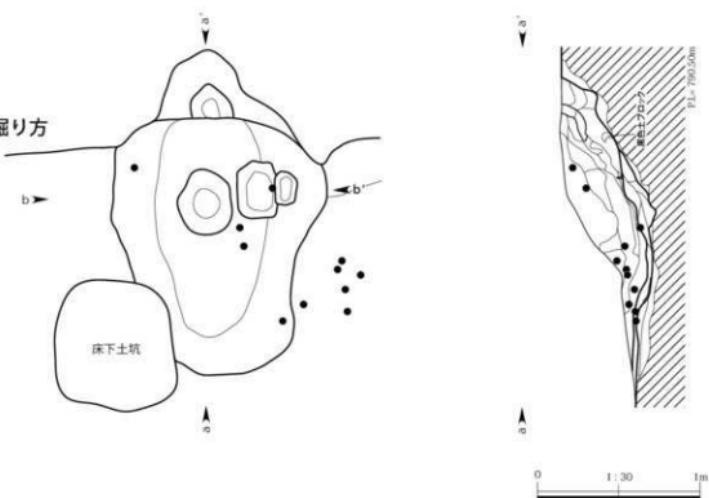
19. 明 色 土 壁 : 粘性あり、しまりあり、粘土ブロック(φ 0.2~1.0cm)大量に含む。焼土粒(φ 0.1~1.0cm)含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
20. 赤 灰 色 土 壁 : 粘性あり、しまりあり、焼土粒(φ 0.1~0.5cm)多量含む。YPk(φ 0.1~0.4cm)・粘土ブロック(φ 0.2~1.0cm)少量含む。
21. 褐 灰 色 土 壁 : 粘性あり、しまりあり、焼土粒(φ 0.1~0.2cm)・焼土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1cm程度)微量含む。
22. に赤褐色土層 : 粘性弱い、しまり弱い、焼土粒(φ 0.1~1.0cm)・粘土ブロック(φ 0.1~1.0cm)多量含む。炭化物(φ 0.1~0.5cm)含む。YPk(φ 0.2~0.5cm)・灰少量含む。
23. 灰 赤 色 土 壁 : 粘性あり、しまり弱い、焼土粒(φ 0.1~2.0cm)多量含む。焼土粒(φ 0.1~1.0cm)・炭化物(φ 0.1~1.0cm)・灰含む。YPk(φ 0.2~0.5cm)少量含む。
24. に赤褐色土層 : 粘性やや弱い、しまりあり、焼土粒(φ 0.1~1.5cm)・粘土ブロック(φ 0.1~2.0cm)多量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)・灰微量含む。
25. に赤褐色土層 : 粘性弱い、しまり強い、焼土粒(φ 0.1~1.0cm)・粘土ブロック(φ 0.1~2.5cm)多量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)・灰含む。
26. 黒 色 土 壁 : 粘性弱い、しまりあり、炭化物(φ 0.1~0.8cm)多量含む。粘土ブロック(φ 0.1~1.0cm)・灰含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)・焼土粒(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
27. 黑 灰 色 土 壁 : 粘性あり、しまりあり、焼土粒(φ 0.1~0.5cm)含む。粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
28. 灰 白 色 土 壁 : 粘性弱い、しまりやや強い、粘土ブロック(φ 0.1~1.5cm)大量に含む。焼土粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
29. 浅 黄褐色土層 : 粘性弱い、しまりあり、粘土ブロック(φ 0.1~1.5cm)多量含む。焼土粒(φ 0.1~1.0cm)含む。炭化物(φ 0.1~1.0cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
30. 棕 色 土 壁 : 粘性弱い、しまりあり、ほぼ焼土で構成される。YPk(φ 0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ 0.1~1.5cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
31. に赤褐色土層 : 粘性弱い、しまり弱い、ほぼ焼土で構成される。YPk(φ 0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ 0.1~1.0cm)含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
32. 黄 棕 色 土 壁 : 粘性弱い、しまり弱い、ほぼ粘土化したロームで構成される。YPk(φ 0.1~1.5cm)微量含む。
33. 床下土坑 : 粘性弱い、しまり弱い、ほぼ谷筋周辺で構成される。YPk(φ 0.1~1.5cm)微量含む。
34. 浅 黄褐色土層 : 粘性弱い、しまり弱い、ほぼ焼土で構成される。焼土粒(φ 0.1~2.0cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
35. 床 下 土 壁 : 粘性やや弱い、しまり強い、ほぼ焼土で構成される。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
36. 床 下 土 壁 : 粘性やや弱い、しまり強い、ほぼ粘土で構成される。黑色土を少額含む。YPk(φ 0.1~1.5cm)・焼土粒(φ 0.1~2.5cm)微量含む。
37. 棕 色 土 壁 : 粘性弱い、しまり弱い、ほぼ焼土で構成される。黑色土ブロック(φ 1.0cm)含む。YPk(φ 0.1~2.5cm)少量含む。
38. 灰 灰 色 土 壁 : 粘性弱い、しまりやや弱い、粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)多量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
39. 灰 黄褐色土層 : 粘性弱い、しまりやや弱い、ほぼ粘土で構成される。
40. 灰 灰 色 土 壁 : 粘性あり、しまりあり、ほぼ粘土微粒子で構成される。焼土粒(φ 0.1~0.5cm)含む。炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
41. 黑 灰 色 土 壁 : 粘性あり、しまりやや弱い、YPk(φ 0.1~0.5cm)少量含む。粘土ブロック(φ 0.1~2.0cm)微量含む。
42. 褐 土 壁 : 粘性あり、しまりやや弱い、YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
43. 喷 泥 土 壁 : 粘性あり、しまりやや弱い、YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
44. 棕 色 土 壁 : 粘性弱い、しまり弱い、ほぼ焼土で構成される。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
45. 黑 灰 色 土 壁 : 粘性やや弱い、しまり強い、YPk(φ 0.1~0.8cm)・暗褐色土ブロック(φ 0.8cm)含む。粘土ブロック(φ 0.1~1.0cm)少量含む。
46. 黑 色 土 壁 : 粘性やや弱い、しまり強い、YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
47. 褐 土 壁 : 粘性弱い、しまり弱い、粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)多量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
48. 浅 黄褐色土層 : 粘性あり、しまり弱い、粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
49. 黑 灰 色 土 壁 : 粘性あり、しまりあり、粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)微量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
50. 黑 灰 色 土 壁 : 粘性あり、しまりあり、粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)微量含む。焼土粒(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
51. 黑 色 土 壁 : 粘性弱い、しまりやや弱い、焼土粒(φ 0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)・灰含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
52. 黑 色 土 壁 : 粘性あり、しまりあり、
53. に赤褐色土層 : 粘性弱い、しまり強い、ほぼ焼土で構成される。焼土粒(φ 0.1~0.5cm)微量含む。全体的に弱い焼成変化。



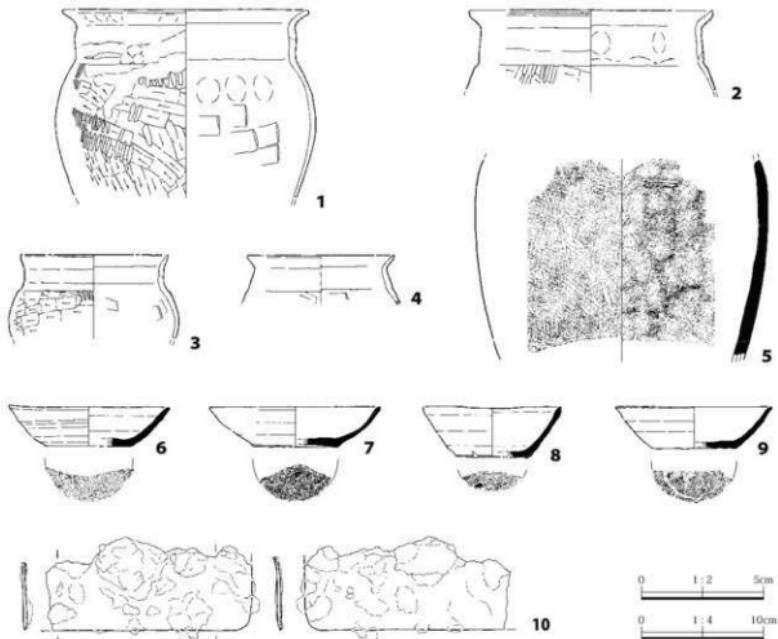
第33図 S101遺物出土状況図(1/60)



SI01
カマド掘り方



第34図 SI01カマド・カマド掘り方遺物出土状況図(1/30)



第35図 SI01出土遺物実測図 (1/2・1/4)

SI02 (第36～39図／第6・20・21表／PL 5・14)

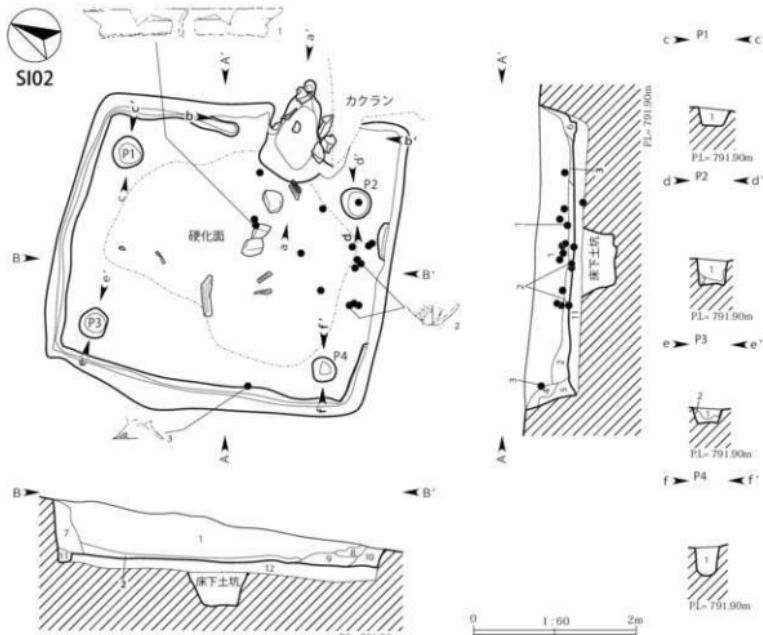
位置 7D-13 (3区2面西端拡張部) **重複関係** なし。 **遺存状態** カマドの一部を壊乱により失っているが、遺存状態は良好である。 **覆土** 褐灰色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は主軸 3.78 m、副軸 4.04 m、深さ 67 cm、底面積は 11.03 m²。 **主軸方位** N-70°-E **壁・壁溝** 壁高は東壁で 38 cm、西壁で 61 cm、南壁で 23 cm、北壁で 64 cm。いずれも外傾して立ち上がる。壁構は東・北・西及び南壁の一部で確認された。溝幅は 8～15 cm、床面からの深さは 5～12 cm。

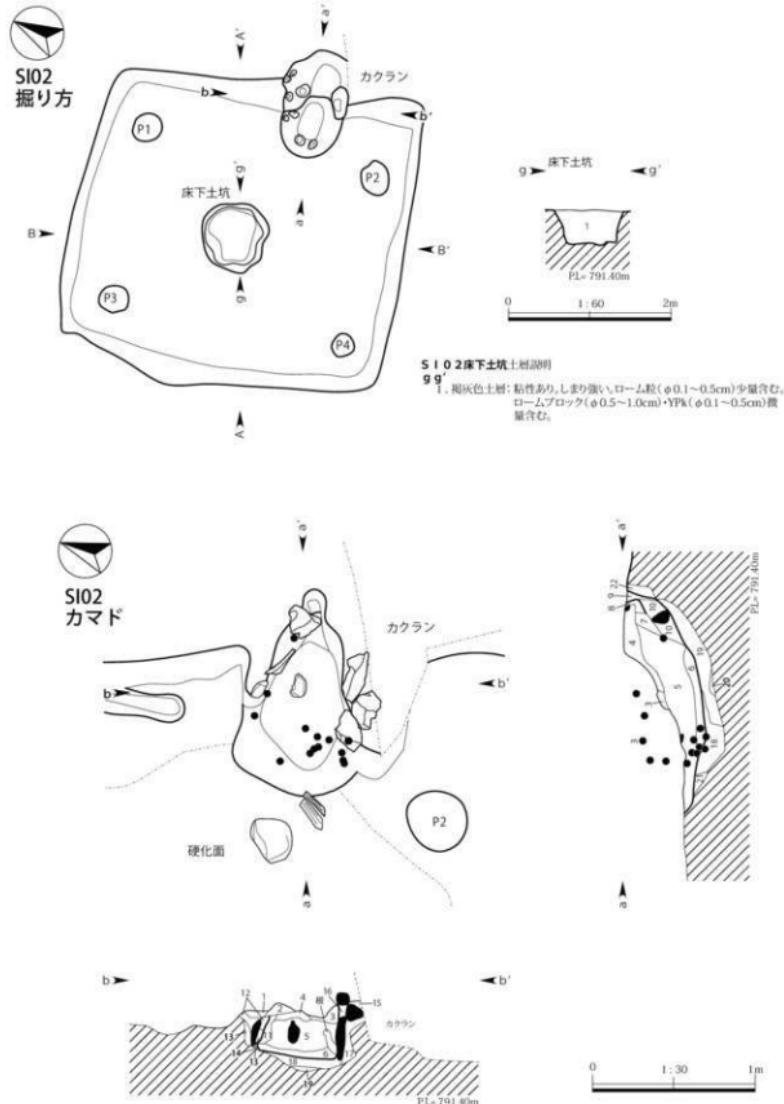
床面 直床式で、全体に貼床が確認された。やや南方向に傾斜するが、概ね平坦。 **柱穴** P1～P4まで確認された。平面形は円形を呈する。全てのピットがその位置から主柱穴と考えられる。それぞれの規模は、第6表に記載する。 **カマド** 東壁の南寄りに位置する。遺存状態は良好である。規模は

残存長 128 cm、残存幅 67 cm。火床面と考えられる窪みが 20 cm ほど掘り込まれている。掘り方に焼土は多量に混じるが、燃焼による焼土化は認められない。地山の黒色土を掘り込んで外形を造り、袖や天井部に角礫が支持材として使用されていた。また、付近の陥し穴から採取されたと思われる粘土化したロームが袖の被覆材や天井の構築材として使用されている。燃焼部中央には支脚が遺存している。 **その他の施設** 貯蔵穴は確認されなかった。床下土坑は住居中央に検出された。平面形は円形で、規模は直径 84 cm、床面からの深さ 40 cm。覆土は 1 層で人為堆積を示す。 **遺物検出状況** 覆土上層から縄文土器が出土し、流れ込みと判断される。土

第6表 SI02 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	床下土坑
長軸長 (cm)	40	38	37	31	84
短軸長 (cm)	37	36	32	30	84
深さ (cm)	22	32	19	35	40

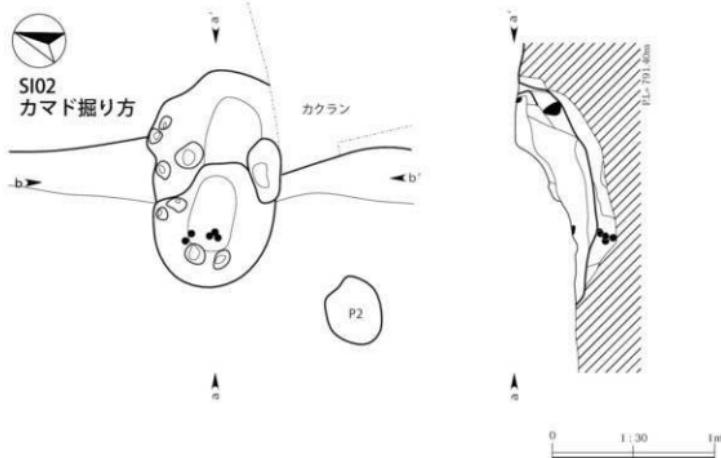




5.1.2 カマド土掘説明

a-a', b-b'

1. 黒褐色土層 : 粘性弱い・しまりあり、焼土粒(φ 0.1~0.3cm)・粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
2. 棕褐色土層 : 粘性弱い・しまりやや強い、ほぼ焼土粒で構成される。YPk(φ 0.1~0.4cm)微量含む。
3. 黑褐色土層 : 粘性弱い・しまりあり、焼土粒(φ 0.1~0.8cm)・粘土ブロック(φ 0.1~2.0cm)含む。炭化物(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
4. 淡黄色土層 : 粘性弱い・しまりやや強い、焼土粒(φ 0.1~0.8cm)・粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
5. 棕褐色土層 : 粘性弱い・しまりやや強い、焼土粒(φ 0.1~4.0cm)多量含む。粘土ブロック(φ 0.1~3.0cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
6. 春褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、ほぼ焼土粒で構成される。YPk(φ 0.1~1.0cm)微量含む。
7. 黑褐色土層 : 粘性弱い・しまりあり、粘土ブロック(φ 0.1~1.0cm)含む。焼土粒(φ 0.1~0.8cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
8. 明赤褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、ほぼ焼土粒で構成される。
9. 黑褐色土層 : 粘性弱い・しまりやや強い、YPk(φ 0.1~0.4cm)・桃土粒(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
10. 黑褐色土層 : 粘性弱い・しまりあり、焼土粒(φ 0.1~0.5cm)含む。粘土ブロック(φ 0.1~1.0cm)微量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
11. 黑褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、YPk(φ 0.1~0.5cm)・桃土粒(φ 0.1~0.5cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.3cm)・粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
12. にぶい赤褐色土層 : 粘性弱い・しまりあり、焼土粒(φ 0.1~0.5cm)微量含む。YPk(φ 0.1~1.0cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
13. 棕褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、ほぼ焼土粒で構成される。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
14. 棕褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、焼土粒(φ 0.1~0.5cm)大量に含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
15. 黑褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、ほぼ焼土粒で構成される。YPk(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
16. 棕褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、ほぼ焼土粒で構成される。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
17. にぶい赤褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。炭化物(φ 0.1~0.4cm)微量含む。
18. にぶい赤褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、焼土粒(φ 0.1~2.0cm)微量含む。炭化物(φ 0.1~1.0cm)含む。灰少量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
19. 黑褐色土層 : 粘性やや強い・しまりやや強い。
20. 黑褐色土層 : 粘性やや強い・しまりやや強い。
21. 黑褐色土層 : 粘性やや強い・しまりやや強い、YPk(φ 0.1~0.5cm)・桃土粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.3cm)・灰微量含む。
22. 春褐色土層 : 粘性弱い・しまり強い、ほぼ焼土粒で構成される。YPk(φ 0.1~0.3cm)微量含む。

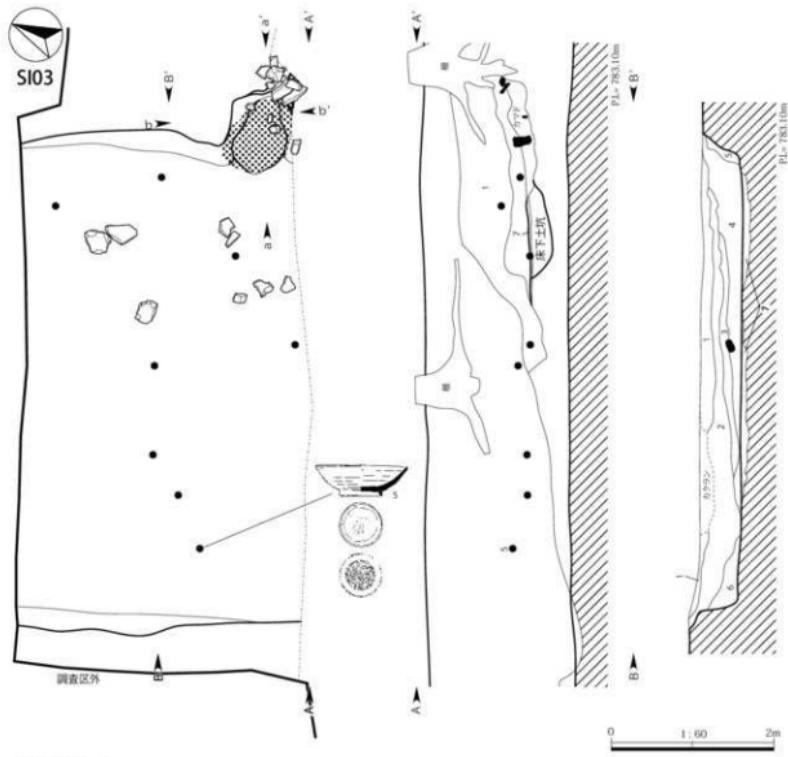


第38図 SiO2カマド掘り方実測図(1/30)



第39図 SiO2出土遺物実測図(1/3・1/4)

師器甕を主体とし、須恵器杯は少量混じる程度。**遺物** 出土遺物のうち、土師器甕1点、土師器台付甕2点を図示した。**備考** 本遺構は、中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。



SI03 土壌剖面

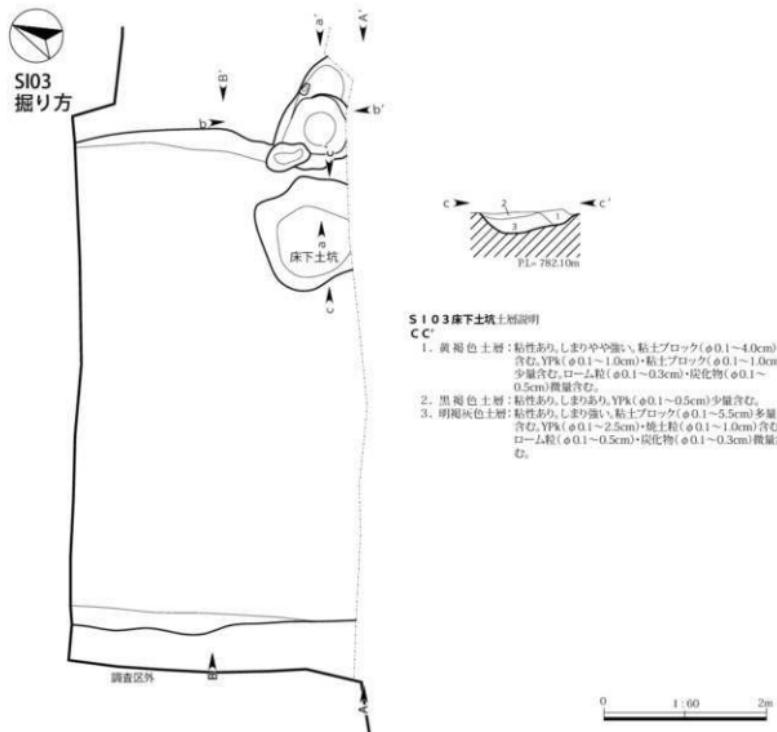
AA'BB'

1. 黒色土層：粘性あり。しまりやや弱い。YPA(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりやや弱い。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・YPk(φ0.1~0.4cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。
3. 灰黃褐色土層：粘性やや弱い。しまりやや弱い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ0.1~0.5cm)含む。YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。燒土粒(φ0.1~0.4cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)微量含む。
4. 暗褐色土層：粘性あり。しまりやや弱い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.8cm)少量含む。燒土粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)・粘土ブロック(φ0.1~0.5cm)微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性やや弱い。しまりやや弱い。炭化物(φ0.1~1.0cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)・燒土粒(φ0.1~0.3cm)・粘土ブロック(φ0.1~0.5cm)微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性やや弱い。しまりやや弱い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)微量含む。
7. 灰白色土層：粘性やや弱い。しまりやや弱い。粘土ブロック(φ0.1~0.5cm)大量に含む。燒土粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.3cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。

第40図 SI03実測図(1/60)

SI03 (第40~43図/第7・20・21表/P L 5・14)

位置 7D-13 (4区2面中央北拡張部) **重複関係** なし。 **遺存状態** 戦後の削平により南端が失われ、北側には塩ビ管が埋設されているため、それより先は調査ができなかった。カマドの一部も破壊されており、残存は不良である。 **覆土** 黒褐色土を基とし、自然堆積を示す。南の土層断面では根による影響、造成客土、土砂崩れ等により覆土の大半が失われている。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。規模は主軸 5.88 m、副軸残存部 3.5 m、深さ 55 cm、底面積は残存部の推定で 21.09 m²。**主軸方位** N-67°-E **壁・壁溝** 壁高は東壁で 43 cm、西壁で 55 cm、南北は不明。東西はともに外傾して立ち上がる。

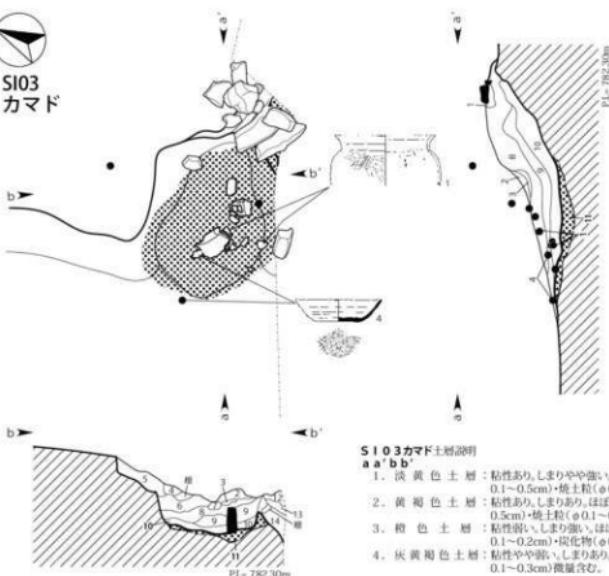


第41図 SI03掘り方実測図(1/60)

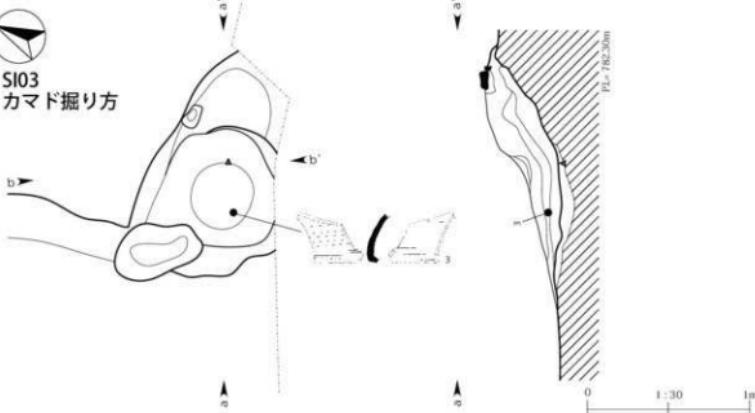
壁溝は検出されなかった。 床面 直床式で、全体に貼床が確認された。ほぼ平坦な床面。 柱穴 なし。
カマド 東壁の南寄りに位置すると思われる。右袖や煙道が失われている。規模は残存長 137cm、残存幅 63cm。火床面と考えられる窓みが 7cmほど掘り込まれており、焼土の厚さは 12cmを測る。地山の黒色土を掘り込んで外形を造り、袖や天井部に角礫が支持材として使用されていた。また、付近の陥し穴から採取されたと思われる粘土化したロームが袖の被覆材や天井の構築材として使用されている。燃焼部中央には節理面の整った立方体の支脚が遺存している。 **その他の施設** 貯蔵穴は確認されなかった。床下 第7表 SI03 ピット計測表
 床下土坑
 長軸長(cm) 144
 短軸長(cm) (115)
 深さ(cm) 24

遺物検出状況 覆土全体から前期前半から中期前半にかけての繩文土器片が出土し、土砂崩れによる流れ込みと判断される。当該期の遺物は覆土では土師器甕を主体とし、須恵器杯は少量混じる程度だが、カマド及び周辺では須恵器の比率が増加する。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器甕 2点、須恵器大甕 1点、須恵器杯 1点、須恵器椀 2点を図示した。須恵器椀の 1点は「町」と書かれた墨書き土器である。

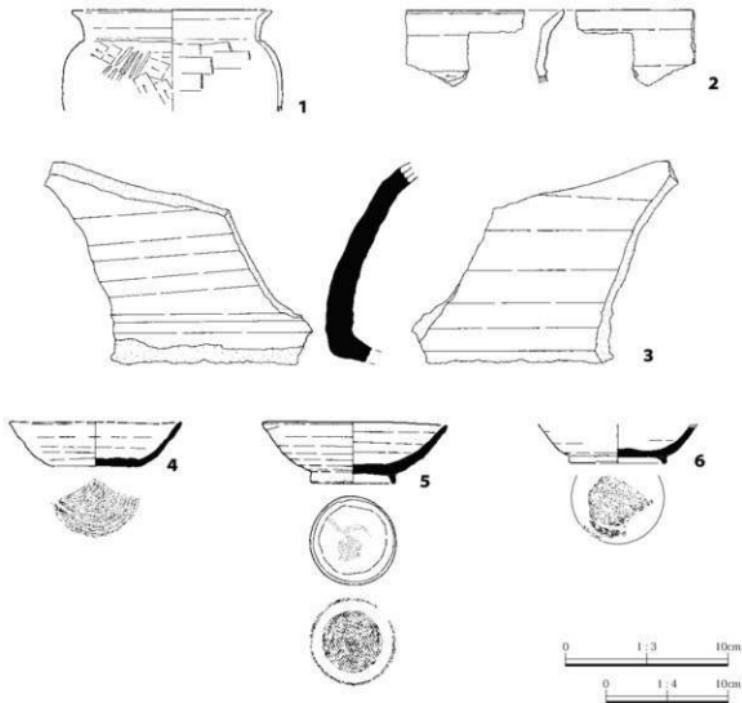
備考 本遺構は、大型の竪穴住居跡と推定される。帰属時期は、出土遺物から 9世紀後半と考えられる。

SI03
カマド

5. 黒 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
6. にふる黄棒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。
7. 灰 黄 棒 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
8. 和 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。
9. 黑 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。
10. 黑 棒 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
11. 淡 黄 棒 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
12. にふる黄棒色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。
13. 淡 黄 棒 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。
14. 淡 黄 棒 色 土 層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。

SI03
カマド掘り方

第42図 SI03カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第43図 SI03出土遺物実測図 (1/3・1/4)

SI04 (第44～46図／第8・20・21表／PL 6・15)

位置 11 G-16 (4区2面中央南寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 戦後の削平により壁溝やピットを除き失われており、残存は不良である。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。

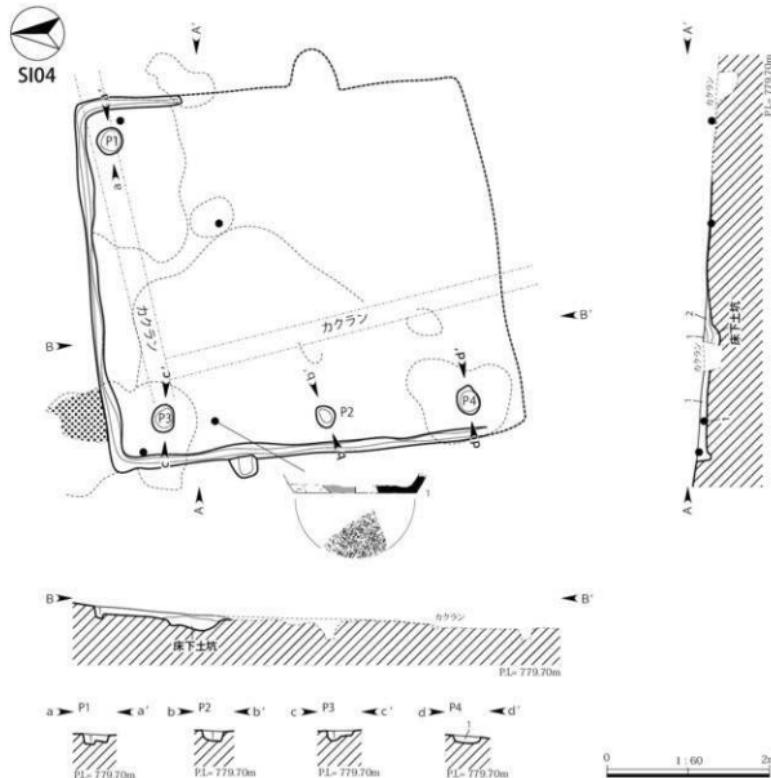
平面形と規模 平面形は隅丸方形を呈する。規模は主軸 4.6 m、副軸残存部 5.06 m、深さは最も残りの良い部分で 7 cm、底面積は残存部の推定で 21.3 m²。

主軸方位 N-87°-E **壁・壁溝** 壁高は東と南の壁が残存せず、西壁で 8 cm、北壁で 9 cm。西・北はともに外傾して立ち上がる。壁溝は東・北・西で確認され、溝幅は 8 ~ 20 cm、深さは床面から 5 cm。**床面** 直床式で、貼床は認められない。ほぼ平坦な床面と思われるが、東から南にかけて失われている。**柱穴** P1 ~ P4 まで確認された。平面形は基本的に円形を呈する。P1・P3・P4 のピットがその位置から主柱穴、P2 は副柱穴と考えられる。それぞれの規模は、第8表に記載する。**力**

マド 東壁の南寄りに位置すると思われる。掘り方も残っていないが、地山である YPK 上面がわずかに被熱して色調が変化しており、その部分にカマドを想定した。**他の施設** 貯蔵穴は確認されなかつた。床下土坑は住居北西に検出された。平面形は不整形方形で、規模は長軸 100 cm、短軸 68 cm、床面からの深さ 14 cm。**遺物検出状況** 覆土がほとんど失われているが、縄文土器や剥片が流れ込んでいる。遺物の出土

第8表 SI04 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	床下土坑
長軸長 (cm)	33	28	34	35	100
短軸長 (cm)	32	23	26	28	68
深さ (cm)	12	12	12	9	14



SI04 土層説明

A-A' 土層説明

- 黒褐色土層：粘性あり、しまり強い。燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）含む。炭化物（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・粘土ブロック（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
- 黒色土層：粘性あり、しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。

S104P1 土層説明

a-a'

- 褐色土層：粘性弱い、しまり強い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。燒土粒（ $\phi 0.1cm$ 程度）・炭化物（ $\phi 0.1cm$ 程度）極めて微量に含む。

S104P2 土層説明

b-b'

- にぶい 黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量に含む。

S104P3 土層説明

c-c'

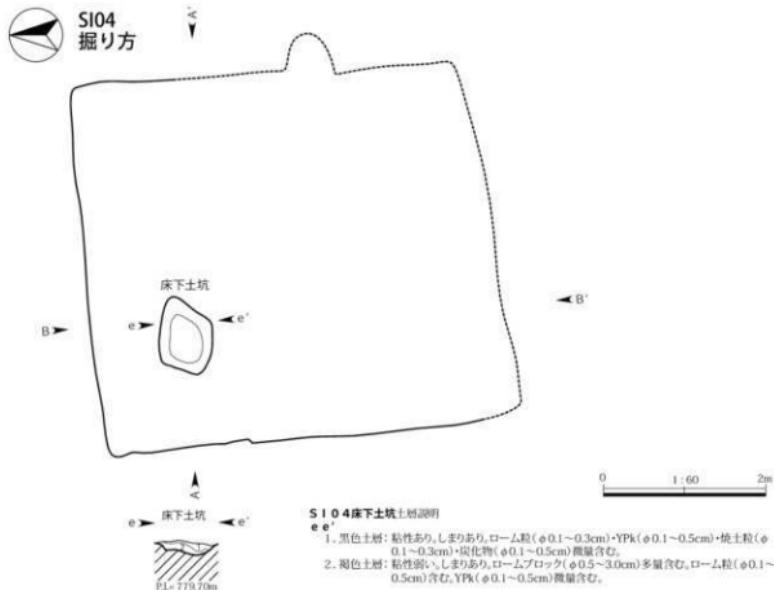
- にぶい 黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim2.0cm$ ）多量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。

S104P4 土層説明

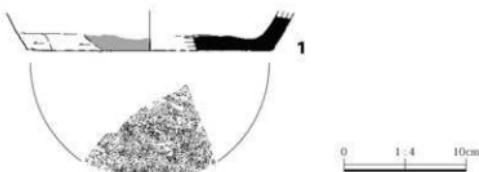
d-d'

- 灰黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）含む。YPk（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）少量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）微量含む。

第44図 SI04実測図(1/60)



第45図 SI04掘り方実測図(1/60)



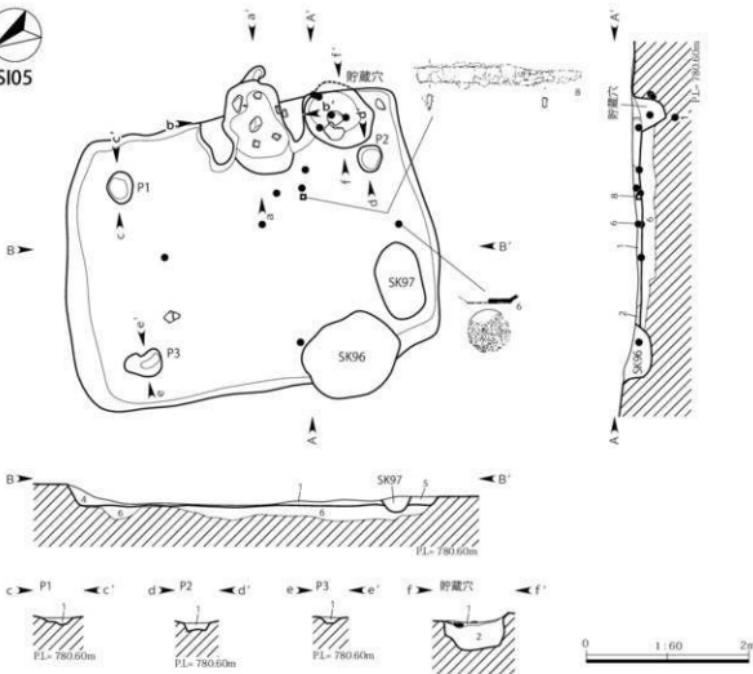
第46図 SI04出土遺物実測図(1/4)

自体が少なく、土師器・須恵器も小破片が占める。 **遺物** 出土遺物のうち、須恵器壺1点を図示した。 **備考** 本遺構は、中型の竪穴住居跡と推定される。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

SI05 (第47~51図/第9・20・21表/P L 6・15)

位置 11 H-12 (4区2面中央北寄り) **重複関係** SK96・97と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 根や土坑により床面の荒れ方が激しく、削平により上半が失われているが、遺存状態は比較的良好である。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は主軸3.55m、副軸4.52m、深さ19cm、底面積は12.01m²。**主軸方位** N-115°-E **壁・壁溝** 壁高は東壁で12cm、西壁で24cm、南壁で11cm、北壁で27cm。いずれも外傾して立ち上がる。壁溝は検出されなかった。**床面**


S105 土層説明
AA' BB'

1. 黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。炭化物($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。ローム粒($\phi 0.1\sim0.3cm$)・YPk($\phi 0.1\sim0.5cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim1.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim0.5cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。
3. 明黄褐色土層：粘性あり、しまり弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)多量含む。粘土ブロック($\phi 0.1\sim1.5cm$)含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim2.0cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。
4. 暗色土層：粘性あり、しまりやや弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim1.0cm$)・YPk($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。炭化物($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。
5. 暗色土層：粘性あり、しまりやや強い。炭化物($\phi 0.1\sim1.0cm$)含む。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。
6. 暗色土層：粘性あり、しまりやや強い。ロームブロック($\phi 0.5\sim2.5cm$)多量含む。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)含む。焼土粒($\phi 0.1\sim1.0cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim0.5cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim0.5cm$)微量含む。

S105 P1 土層説明
CC'

1. 暗褐色土層：粘性弱い、しまり強い。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)多量含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim2.0cm$)含む。炭化物($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim0.5cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。

S105 P2 土層説明
dd'

1. 暗黄褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・粘土ブロック($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim1.0cm$)・YPk($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。

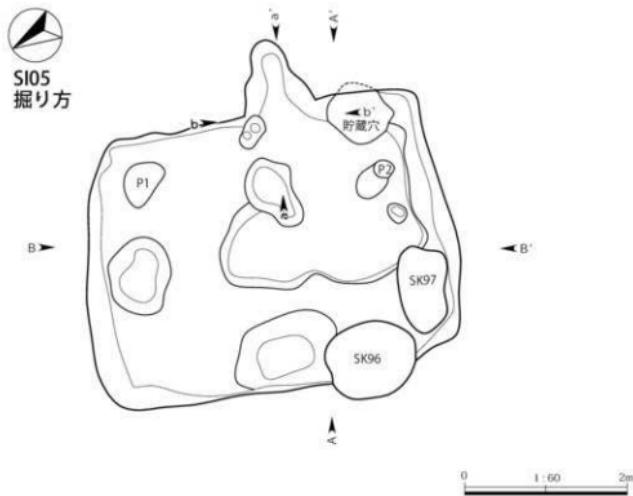
S105 P3 土層説明
ee'

1. 明褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。ロームブロック($\phi 0.5\sim2.5cm$)含む。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim1.0cm$)微量含む。

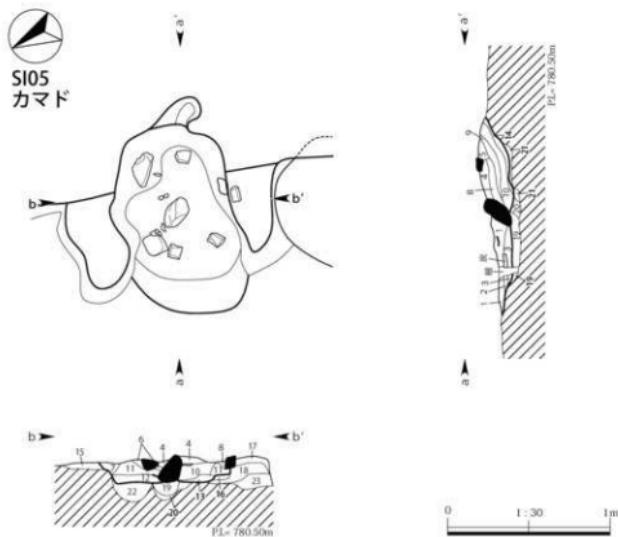
S105 肝藏穴 土層説明
ff'

1. 黄褐色土層：粘性あり、しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim1.0cm$)・YPk($\phi 0.1\sim0.5cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。
2. 暗色土層：粘性弱い、しまりやや弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim1.5cm$)含む。YPk($\phi 0.1\sim0.5cm$)微量含む。

第47図 S105実測図(1/60)



第48図 SI05掘り方実測図 (1/60)

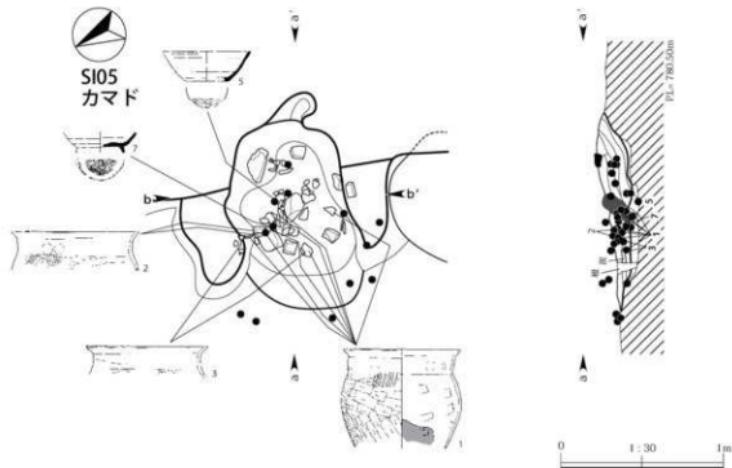


第49図 SI05カマド実測図 (1/30)

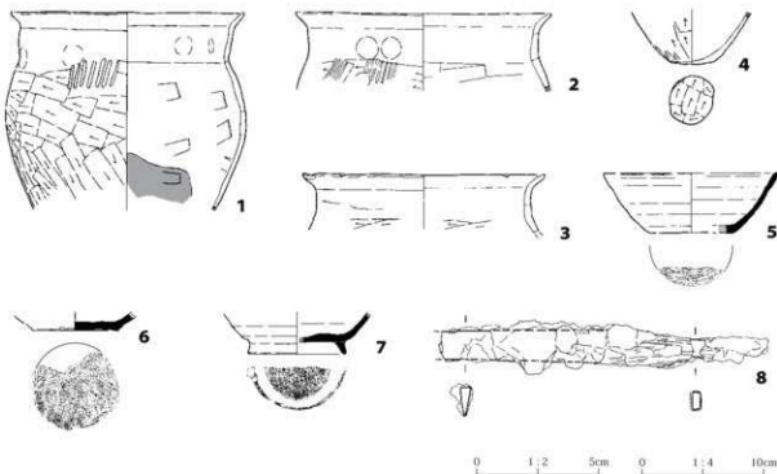
S I O S カマド土壌調査

a a' b b'

1. に、ぶ、黄褐色土層：粘り弱い、しまあり、ロームブロック（ $\phi 0.1\sim1.5cm$ ）、燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）少量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。
 2. 褐 黄 色 土 層：粘り弱い、しまあり、焼土粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）・灰微量含む。
 3. に、ぶ、黄褐色土層：粘り弱い、しまあり、燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
 4. に、ぶ、黄褐色土層：粘り弱い、しまあり、ロームブロック（ $\phi 0.1\sim1.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.5cm$ ）微量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。
 5. 灰 黄 色 土 層：粘り弱い、しまあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
 6. 棕 色 土 层：粘り弱い、しまあり、ほぼ土粒で構成される。
 7. 黑 褐 色 土 层：粘り弱い、しまあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
 8. 黑 褐 色 土 层：粘り弱い、しまあり、焼土粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
 9. に、ぶ、黄褐色土層：粘りや弱い、しまりやや弱い、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim0.8cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.8cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。
 10. に、ぶ、赤褐色土層：粘り弱い、しまあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim1.5cm$ ）微量含む。燒土粒（ $\phi 0.1\sim2.0cm$ ）含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。
 11. 浅 黄 色 土 层：性質弱い、しまりやや弱い、ほぼ土粒で構成される。燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
 12. に、ぶ、黄褐色土層：粘り弱い、しまあり、YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）微量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim0.8cm$ ）微量含む。
 13. 厚 黄 色 土 层：粘りや弱い、しまりやや弱い、从大量に含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）・燒化物（ $\phi 0.1\sim0.8cm$ ）微量含む。
 14. 黑 褐 色 土 层：粘りや弱い、しまりやや弱い、从大量に含む。焼化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
 15. 灰 黄 色 土 层：粘り弱い、しまあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。トームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
 16. 浅 白 色 土 层：粘り弱い、しまあり、燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
 17. 厚 黄 色 土 层：粘り弱い、しまりやや弱い、トームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）微量含む。トーム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.5cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。
 18. に、ぶ、赤褐色土層：粘りやや弱い、しまりやや弱い、燒土粒（ $\phi 0.1\sim2.5cm$ ）微量含む。粘土ブロック（ $\phi 0.3\sim1.5cm$ ）含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.5cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
 19. 厚 黄 色 土 层：粘りやや弱い、しまりやや弱い、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.2cm$ ）・灰含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim5.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
 20. 棕 色 土 层：粘りやや弱い、しまりやや弱い、燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）大量に含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・焼化物（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）微量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
 21. 厚 黄 色 土 层：粘り弱い、しまりやや弱い、燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。
 22. に、ぶ、粗褐色土層：粘りやや弱い、しまりやや弱い、燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）微量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.5cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）含む。焼化物（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。
 23. 黑 褐 色 土 层：粘り弱い、しまりやや弱い、燒土粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。



第50図 SI05カマド遺物出土状況図(1/30)



第51図 SI05出土遺物実測図(1/2・1/4)

直床式で、全体に貼床が確認された。やや東方向に傾斜するが、概ね平坦。柱穴 P1 ~ P3まで確認された。

平面形は円形を呈する。全てのピットがその位置から主柱穴と考えられる。それぞれの規模は、第9表に記載する。

カマド 東壁の中央やや南寄りに位置する。遺存状態は良好である。規模は残存長 130cm、残存幅 74cm。火床面と

考えられる窪みが 10cmほど掘り込まれている。掘り方に焼土は多量に混じるが、燃焼による焼土化は弱い。

地山のロームを掘り込んで外形を造り、袖や天井部に角礫が支持材として使用されていた。また、付近の陥し穴から採取されたと思われる粘土化したロームが袖の被覆材や天井の構築材として使用されている。

その他施設 住居東壁カマド右側に貯蔵穴が確認された。一部オーバーハングして壁に食い込む形状を呈し、平面形は梢円形、規模は長軸 91cm、短軸 75cm、床面からの深さ 50cm。

遺物検出状況 覆土の大半が失われていると思われるが、縄文土器片や剥片は下層まで流れ込んでいる。主体は土師器甕、須恵器杯は客体、他に木質部の残る刀子が出土している。

遺物 出土遺物のうち、土師器甕 4点、須恵器杯 2点、須恵器碗 1点、刀子 1点を図示した。**備考** 本遺構は、中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から 9世紀後半と考えられる。

SI06 (第 52 ~ 61 図／第 10・20・21 表／PL 6・11・15)

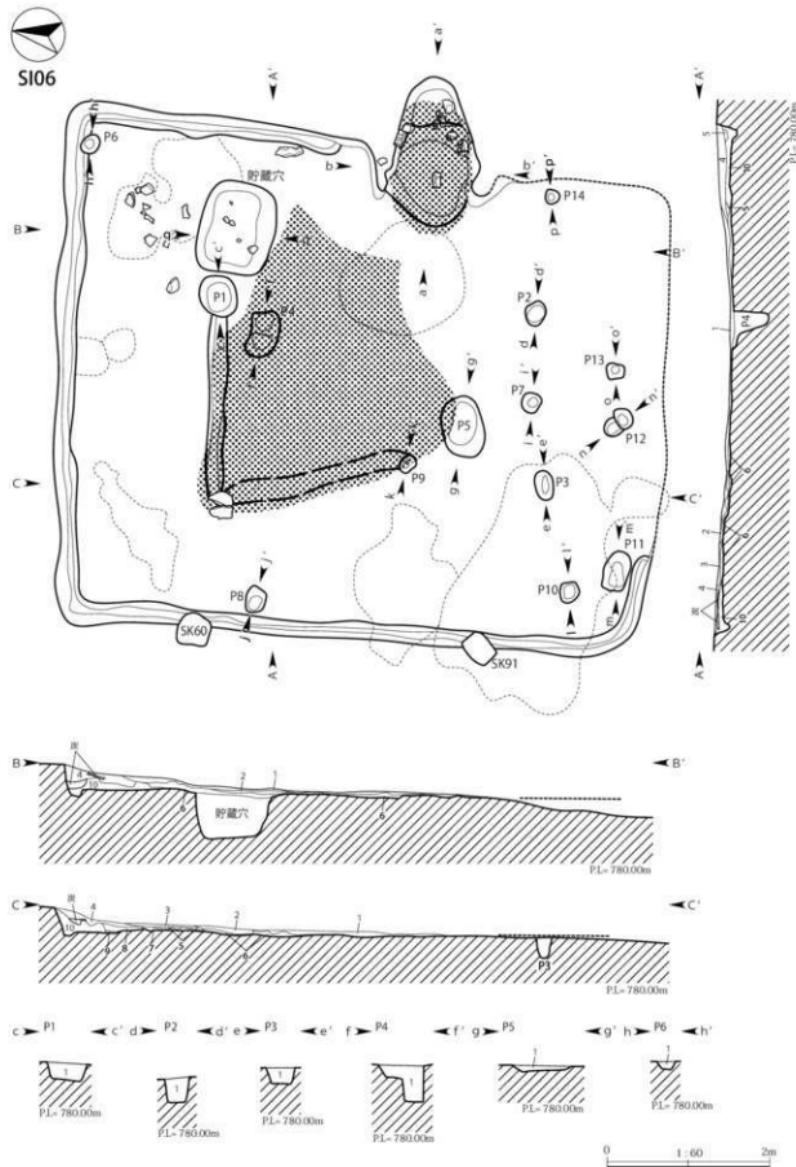
位置 11H-14 (4 区 2 面 中央) **重複関係** SK60・91 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 戰後の削平と近年の造成により、住居の南半分が失われている。北半分の残存は良好だが、一部根や撓乱の影響を受ける。

覆土 炭化材や焼土が濃密に分布し、覆土下半は焼失住居の倒壊状況を示す。上部は暗褐色土主体の自然堆積を示す。

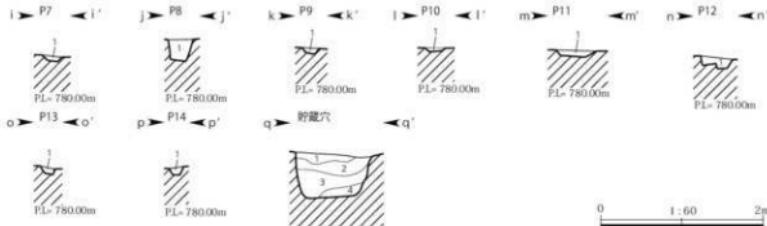
平面形と規模 平面形は開丸長方形を呈する。規模は主軸 6.3 m、副軸残存部は 7.48 m、深さ 20cm、底面積は推定 38.46m²。

主軸方位 N-85°-E **壁・壁溝** 壁高は、残存しない南壁を除き、東壁で 17cm、西壁で 10cm、北壁で 31cm。いずれも外傾して立ち上がる。壁溝は東・北・西及び南北の一部に残り、他の部分は失われているものと思われる。溝幅は 18 ~ 28cm、床面からの深さ 6.7cm。建て替

第9表 SI05 ピット計測表				
	P1	P2	P3	貯蔵穴
長軸長 (cm)	39	32	46	91
短軸長 (cm)	32	29	26	75
深さ (cm)	8	9	8	50



第52図 SI06実測図(1/60)



S106 土層説明

A A' B B' C C'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり強い、焼土粒（φ0.1～1.5cm）・炭化物（φ0.1～2.0cm）少量含む。YPh（φ0.1～2.0cm）微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性弱い、しまりや中強い、YPh（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.1～0.2cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりや中強い、炭化物（φ0.1～0.2cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.2cm）・焼土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
4. 灰褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.2cm）・YPh（φ0.1～0.2cm）・焼土粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。
5. にじみ黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.2cm）含む。焼土粒（φ0.1～0.2cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。
6. 暗褐色土層：粘性弱い、しまりあり、焼土粒（φ0.1～0.5cm）多量含む。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・YPh（φ0.1～0.2cm）微量含む。
7. 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり、炭化物（φ0.1～0.5cm）多量含む。焼土粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）微量含む。
8. 褐色土層：粘性弱い、しまりあり、炭化物（φ0.1～0.4cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。YPh（φ0.1～0.3cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
9. 淡褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ほぼ焼土粒で構成される。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。
10. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、炭化物（φ0.1～0.5cm）大量に含む。YPh（φ0.1～0.3cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。

S106P1 土層説明

c c'

1. にじみ黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む。YPh（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P2 土層説明

dd'

1. 喀褐色土層：粘性あり、しまりあり、焼土粒（φ0.1～0.3cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）・焼土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P3 土層説明

ee'

1. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.3cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P4 土層説明

ff'

1. 喀褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む。YPh（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P5 土層説明

gg'

1. 喀褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.3cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P6 土層説明

hh'

1. 喀褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む。焼土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P7 土層説明

ii'

1. 喀褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.3cm）少量含む。YPh（φ0.1～0.3cm）・焼土粒（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P8 土層説明

jj'

1. 喀褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）少量含む。YPh（φ0.1～0.3cm）・焼土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P9 土層説明

kk'

1. 喀褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）少量含む。YPh（φ0.1～0.3cm）・焼土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P10 土層説明

ll'

1. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.3cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P11 土層説明

mm'

1. にじみ黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～1.5cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。

S106P12 土層説明

nn'

1. にじみ黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。

S106P13 土層説明

oo'

1. にじみ黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。

S106P14 土層説明

pp'

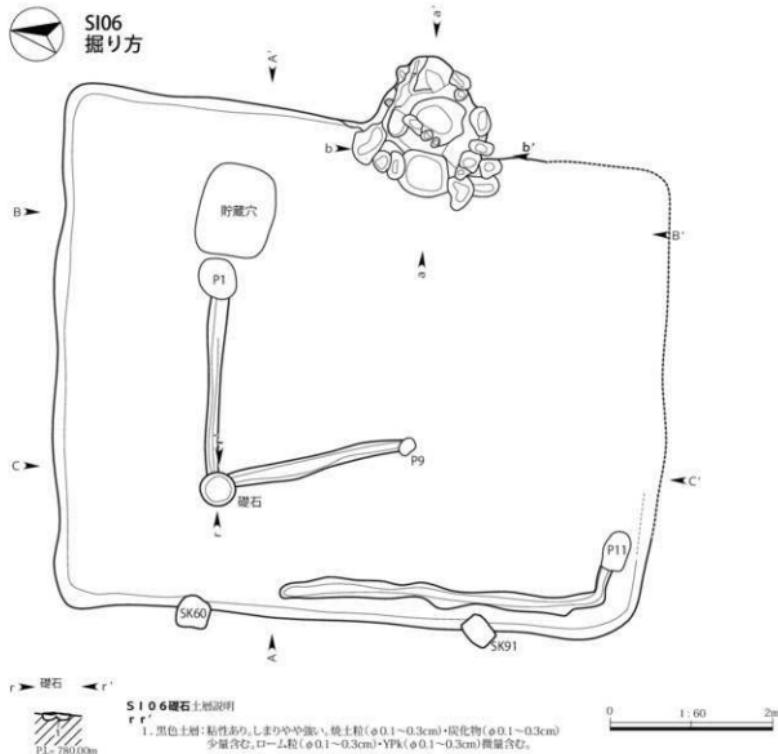
1. にじみ黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・YPh（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。

第53図 S106断面図(1/60)

SI06貯藏穴土層説明

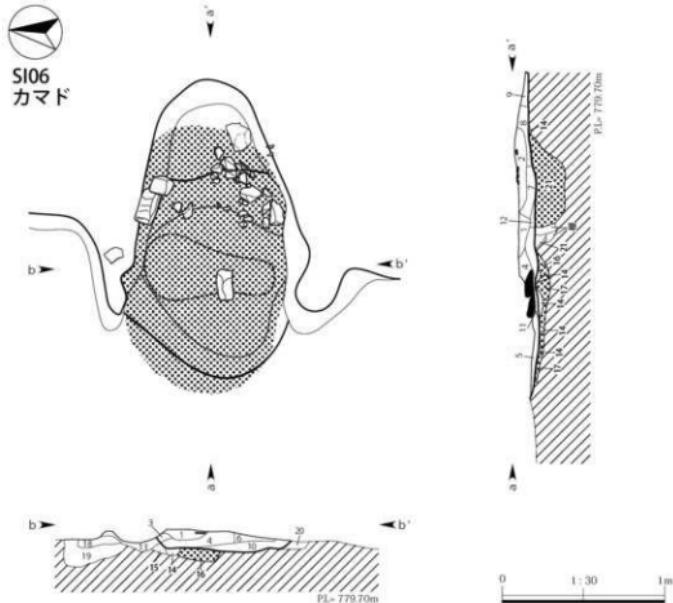
qq

1. 黄褐色土層: 粘性あり、しまりあり、焼土粒(φ0.1~5.5cm)・炭化物(φ0.1~4.5cm)多量含む。Ypk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性あり、しまりあり、炭化物(φ0.1~2.0cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・Ypk(φ0.1~0.5cm)・焼土粒(φ0.1~1.5cm)微量含む。
3. 灰褐色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・Ypk(φ0.1~1.0cm)含む。焼土粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)微量含む。
4. 淡黄色土層: 粘性弱い、しまり弱い、ほぼYpkで構成される。



第54図 SI06掘り方実測図(1/60)

えが行われたものと思われ、旧壁溝が西から南西の一部に残存する。その規模は、建て替え後の壁溝と概ね同様である。**床面** 直床式で、貼床は認められない。南半分は推測になるが、概ね平坦だと判断される。**柱穴** P1 ~ P14まで確認された。平面形は円形もしくは楕円形を呈する。P1 ~ 3がその位置から主柱穴と考えられるが、床面には礎石も検出されており、P5は礎石の抜き取り穴とも判断される。新旧の柱穴があるものと想定され、P4は改築前の柱穴であった可能性がある。それぞれの規模は、第10表に記載する。**カマド** 東壁の中央や南寄りに位置する。根穴による破壊が顕著で、上半も失われ、遺存状態は良好とは言い難い。規模は残存長182cm、残存幅108cm。火床面と考えられる窪みが8cmほど掘り込まれており、厚さ2cmの焼土を持つ。地山のロームを掘り込んで外形を造り、袖や天井部に角礫が支持材として使用されていた。そ

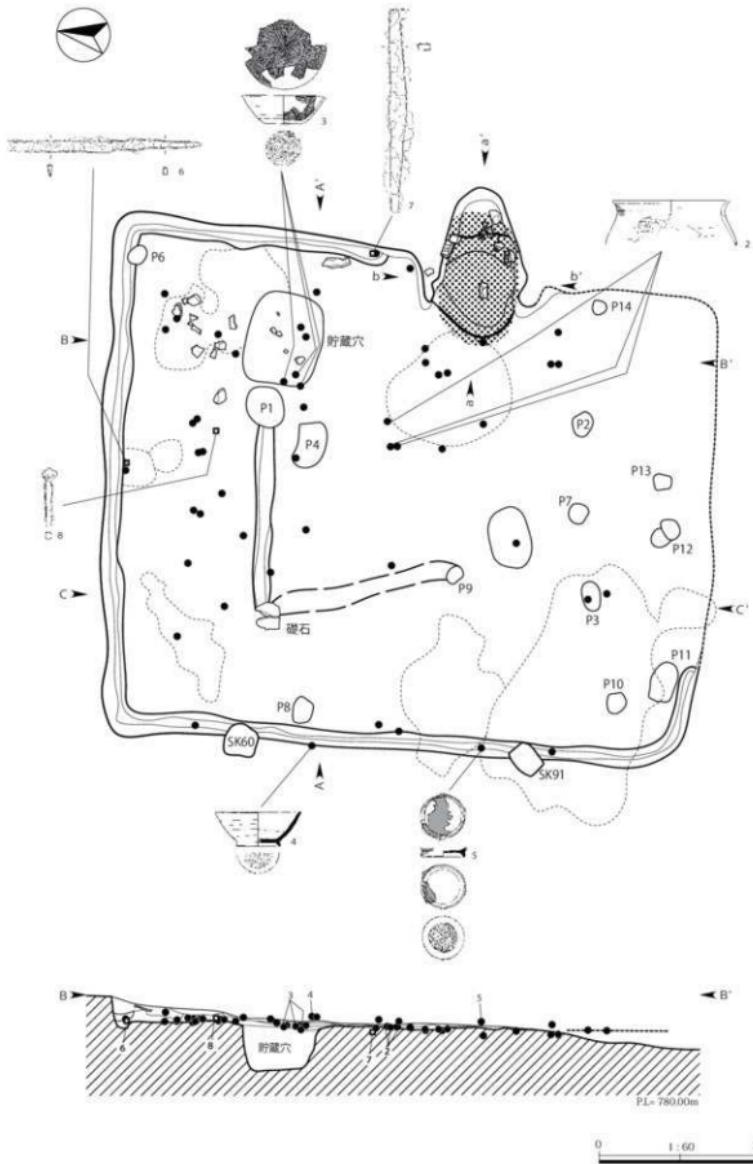


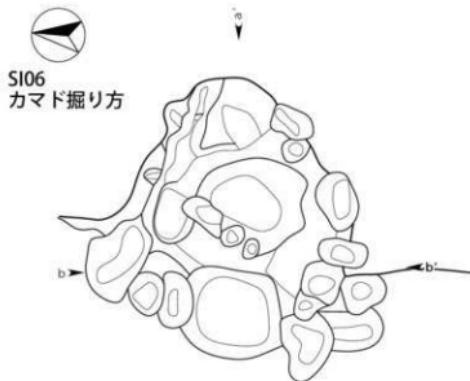
SI06カマド土層説明
a-a' b-b'

1. 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。燒土粒(φ 0.1~2.0cm)含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ 0.1~1.0cm)含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
3. 明赤褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ 0.1~1.0cm)多量含む。YPk(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
4. 暗灰褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ 0.1~1.0cm)含む。燒土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
5. 暗褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ 0.1~1.0cm)含む。燒土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
6. 暗褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ 0.1~1.0cm)含む。燒土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
7. 浅黄色土層：粘性弱い。しまり弱い。ほぼ粘土で構成される。
8. に赤い黄褐色土層：粘性あり。しまりあり。粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)多量含む。燒土粒(φ 0.1~0.3cm)少量含む。ロームブロック(φ 0.5~1.0cm)・炭化物
- 〔φ 0.1~0.2cm〕微量含む。
9. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・燒土粒(φ 0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)・炭化物(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
10. に赤い黄褐色土層：粘性やや弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ 0.1~0.3cm)含む。炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
11. 褐灰色土層：粘性あり。しまりあり。灰大量に含む。燒土粒(φ 0.1~0.2cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
12. 暗褐色土層：粘性あり。しまりあり。粘土ブロック(φ 0.1~0.5cm)含む。燒土粒(φ 0.1~0.3cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.2cm)・灰微量含む。
13. 暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)少量含む。ロームブロック(φ 2.5cm程度)・YPk(φ 0.1~0.2cm)・燒土粒(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
14. 灰褐色土層：粘性あり。しまりあり。燒土粒(φ 0.1~2.0cm)含む。炭化物(φ 0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.3cm)微量含む。
15. 明黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)大量含む。燒土粒(φ 0.1~0.5cm)微量含む。ロームブロック(φ 4.0cm程度)微量含む。
16. 棕褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ 0.1~1.5cm)多量含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
17. 棕褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。燒土粒(φ 0.1~1.5cm)微量含む。YPk(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
18. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒(φ 0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
19. に赤い黄褐色土層：粘性あり。しまりあり。ロームブロック(φ 0.5~7.5cm)多量含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・YPk(φ 0.1~1.0cm)少量含む。燒土粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
20. 明黄色土層：粘性弱い。しまり強い。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ 0.5~1.5cm)・燒土粒(φ 0.1~0.8cm)・炭化物(φ 0.1~0.7cm)少量含む。
21. 黄褐色土層：粘性弱い。しまり強い。ほぼ燒土粒で構成される。YPk(φ 0.1~0.3cm)微量含む。

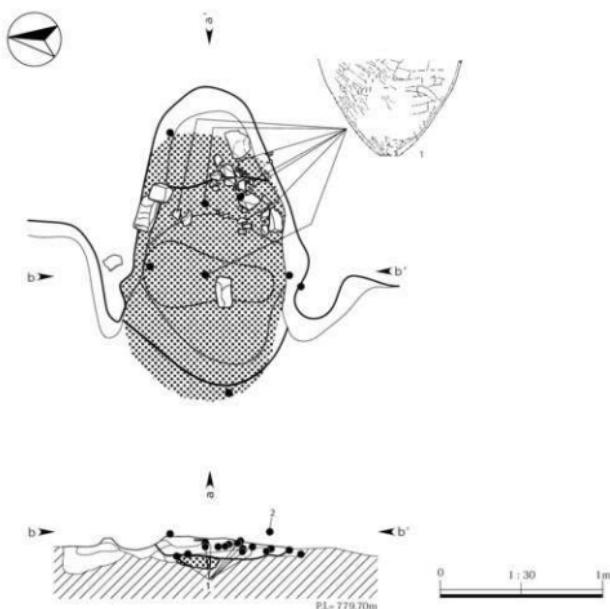
第55図 SI06カマド実測図(1/30)

のうち1点は節理面の整った立方体の石材を利用している。また、付近の陥穴から採取されたと思われる粘土化したロームが袖の被覆材や天井の構築材として使用されている。**その他の施設** 住居北東側に隅丸長方形の貯蔵穴があり、規模は長軸112cm、短軸102cm、深さ55cm。P1と礎石の間、礎石からP9の間には根太の痕跡が認められ、間仕切りがされていたものと思われる。**炭化材・焼土検出状況** 覆土の大半は失われて

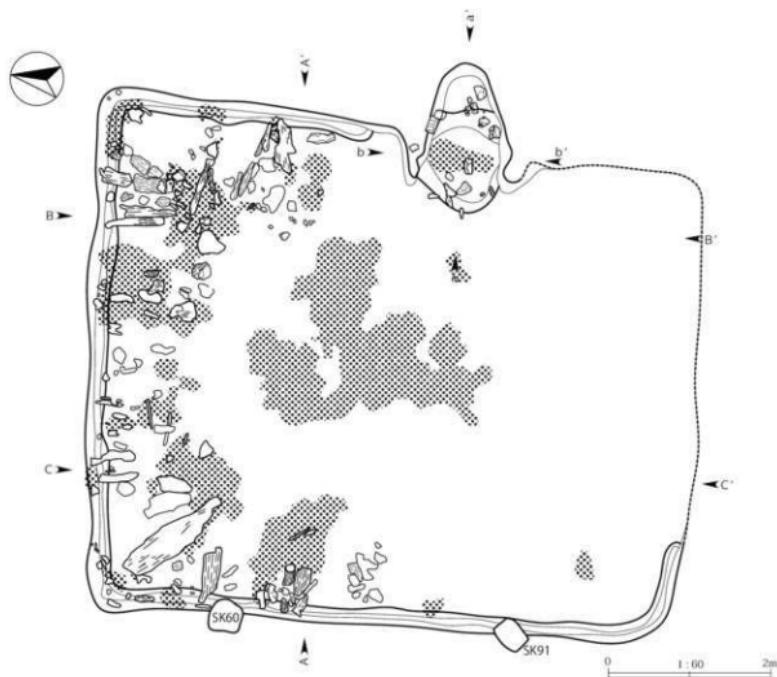




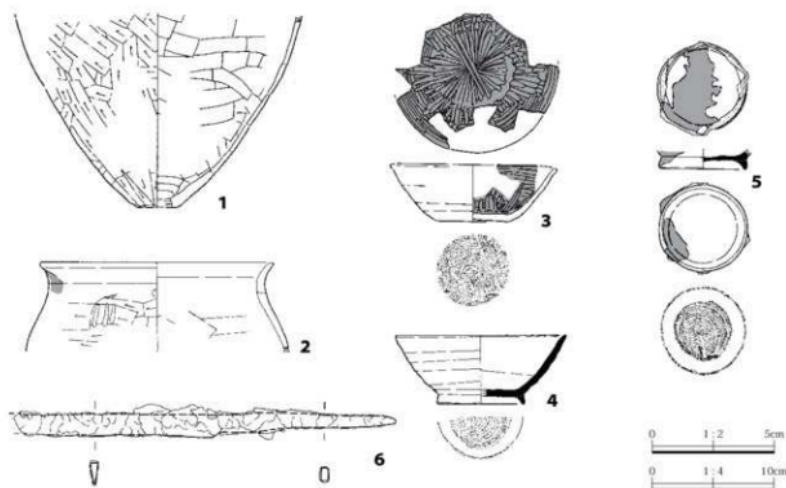
第57図 SI06カマド掘り方実測図(1/30)



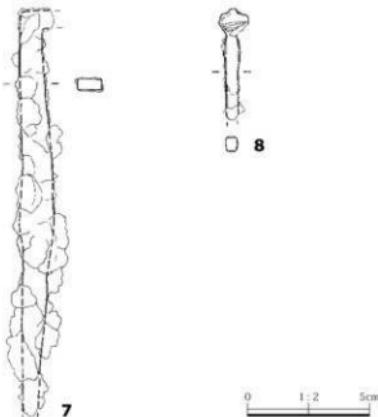
第58図 SI06カマド遺物出土状況図(1/30)



第59図 SI06炭化物・焼土出土状況図(1/60)



第60図 SI06出土遺物実測図①(1/2・1/4)



第61図 SI06出土遺物実測図②(1/2)

いるが、北側で炭化材や焼土が良好に遺存していた。焼土は屋根材と推定される炭化材の上面で検出され、土屋根であった可能性が指摘される。炭化材の形状から屋根 자체は寄棟、梁を支える柱に該当するのがP6と判断される。前述の根太は炭化し、その下面が明確に焼土化しており、床面の被熱もこの内側区画が顕著であるため、出火場所はこの地点と推測される。

遺物出土状況 他の住居に比べ須恵器の占める割合が多い傾向にある。カマド及びその周辺のみ土師器が主体となる。他に大型の釘や刀子も出土する。

遺物 出土遺物のうち、土師器壺2点、内面黒色処理のロクロ使用土師器1点、須恵器碗2点、釘2点、刀子1点を図示した。

備考 本遺構は、大型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第10表 SI06 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
長軸長(cm)	48	30	36	60	74	28	26	30	24	28	50
短軸長(cm)	46	24	20	32	50	20	26	24	18	22	32
深さ(cm)	21	30	20	44	8	10	6	27	7	4	7

	P12	P13	P14	貯蔵穴
長軸長(cm)	28	20	18	112
短軸長(cm)	20	18	14	102
深さ(cm)	13	7	9	55

SI07 (第62～66図／第11・20・21表／PL7・15)

位置 11I-12 (4区2面中央東寄り) **重複関係** SI08と重複し、本遺構の方が新しい。

遺存状態 住居大半を削平により失っており、残存は不良である。

覆土 全て失われており、掘り方の一部が残存する。

平面形と規模 平面形は隅丸方形を呈する。規模は主軸3.92m、副軸4.12m、深さ4cm、底面積は推定14.94m²。

主軸方位 N-100°-E **壁・壁溝** 壁は、ほぼ失われており壁高は不明。壁溝は西壁の南半と南壁の西1/3程度でのみ確認された。溝幅は15～25cm、床面からの深さ10cm。

第11表 SI07 ピット計測表

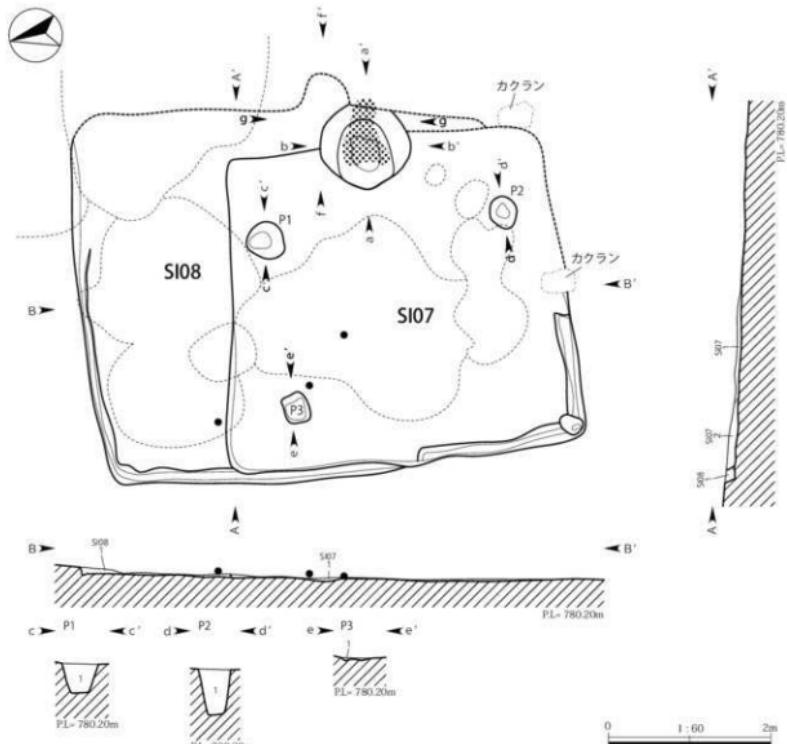
	P1	P2	P3
長軸長(cm)	48	39	36
短軸長(cm)	44	33	31
深さ(cm)	36	56	3

床面 直床式で、西側の一部に貼床が残存しているのみで、床面は失われている。

柱穴 P1～P3まで確認された。平面形はP1・P2は円形、P3は隅丸方形を呈する。

全てのピットがその位置から主柱穴と考えられる。それぞれの規模は、第11表に記載する。

カマド 東壁の中央に位置する。その



SI07 土層説明 AA'-BB'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやや強い、ローム粒(φ0.1~0.2cm)・焼土粒(φ0.1~0.3cm)含む。炭化物(φ0.1~0.5cm)少量化。YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.4cm)少量化。焼土粒(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。

SI07 P1 土層説明 CC'-DD'

1. 明褐色土層: 粘性やや弱い、しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)少量化。炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。

SI07 P2 土層説明 DD'-EE'

1. 褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。ローム粒(φ0.5~1.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。YPk(φ0.1~0.5cm)少量化。炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。

SI07 P3 土層説明 EE'-FF'

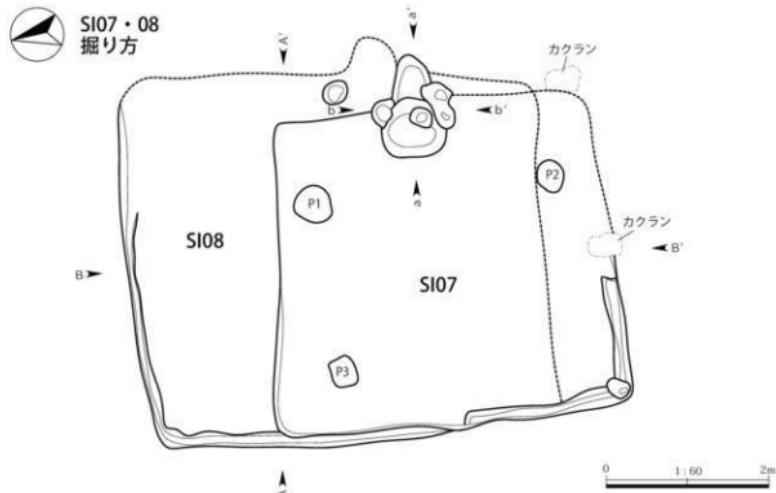
1. 褐色土層: 粘性あり、しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)少量化。YPk(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。

SI08 土層説明 AA'-BB'

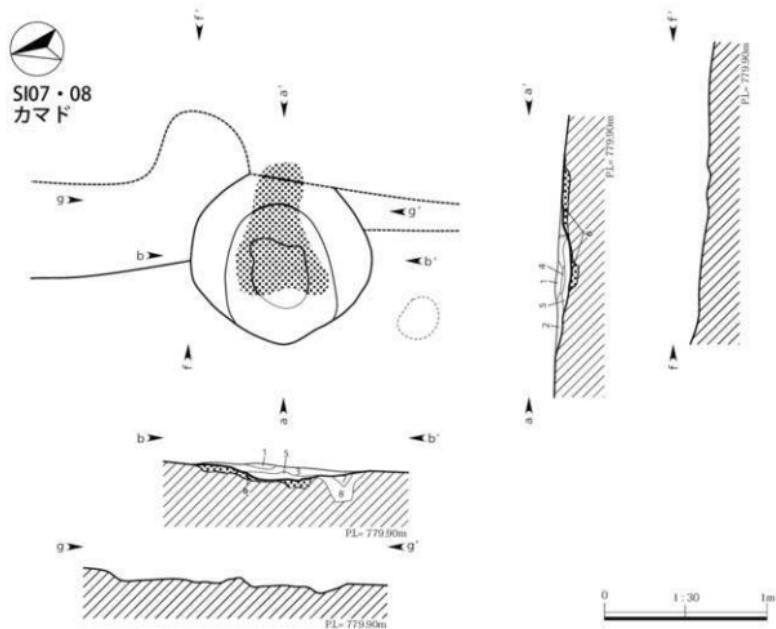
1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)少量化。焼土粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。

第62図 SI07・08実測図(1/60)

形状は失われ、遺存状態は不良である。規模は残存長115cm、残存幅56cm。火床面と考えられる窪みが2cm掘り込まれており、焼土部分は3cmの厚さを有する。地山のロームを掘り込んで外形を造り、支持材の設置場所として袖の内側に土坑状の掘削を施したと思われるが、石材は全く残存しない。**その他の施設 貯蔵穴**・



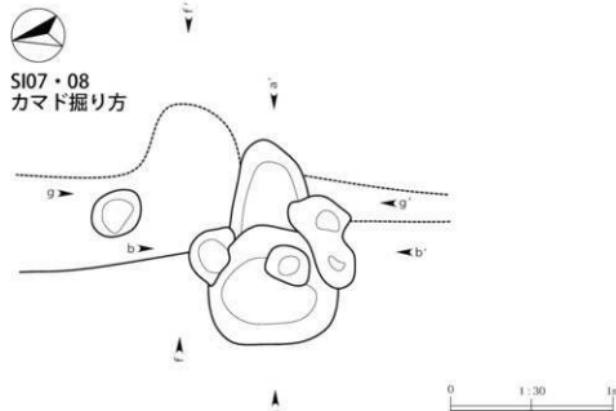
第63図 SI07-08掘り方実測図(1/60)



第64図 SI07-08カマド実測図(1/30)

SI07-08カマド掘り方説明 aa' bb'

1. にぶい褐色土層：粘性あり、しまりあり、焼土粒（φ0.1～1.0cm）多量含む、焼土粒（φ0.1～0.5cm）少量含む、YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
2. 褐色土層：粘性弱い、しまりあり、焼土粒（φ0.1～0.5cm）・粘土ブロック（φ0.2～0.6cm）少量含む、YPk（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。
3. 明褐色土層：粘性弱い、しまりあり、焼土粒（φ0.1～0.5cm）・粘土ブロック（φ0.1～0.5cm）多量含む、YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
4. 棕色土層：粘性弱い、しまり強い、ほぼ焼土粒で構成される、YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
5. 灰褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、灰介在、炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む、YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
6. 棕色土層：粘性弱い、しまり強い、ほぼ焼土粒で構成される、YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
7. にぶい赤褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、YPk（φ0.1～1.0cm）多量含む、焼土粒（φ0.1～1.5cm）・粘土ブロック（φ0.1～0.5cm）含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む、YPk（φ0.1～1.5cm）多量含む、焼土粒（φ0.1～1.0cm）少量含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
8. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk（φ0.1～1.5cm）多量含む、焼土粒（φ0.1～1.0cm）少量含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）微量含む。



第65図 SI07-08カマド掘り方実測図(1/30)



第66図 SI07出土遺物実測図(1/3・1/4)

床下土坑は確認されなかった。**遺物検出状況** 遺物の出土は9点のみで、縄文土器や剥片も混じる。土師器甕・須恵器杯も小破片であるが出土し、灰釉陶器片も含まれる。**遺物** 出土遺物のうち、須恵器杯1点、灰釉陶器片1点を図示した。**備考** 本遺構は、中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

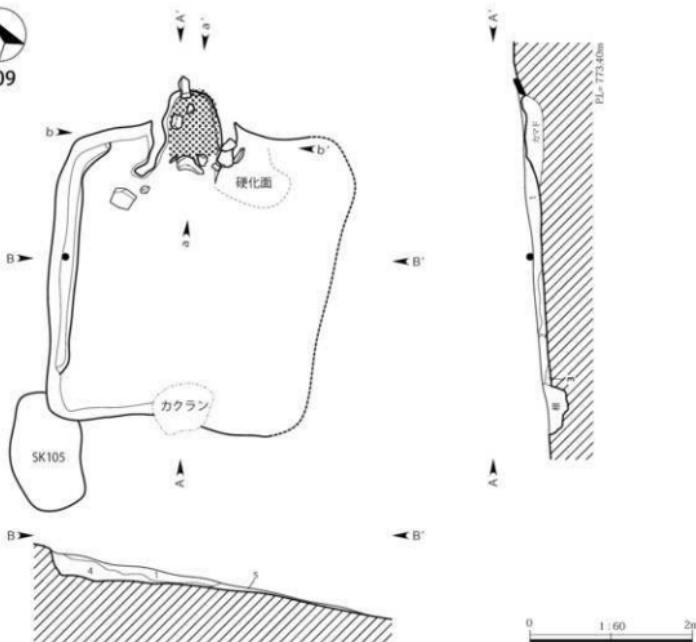
SI08 (第62～65図／第20表／PL7)

位置 11I-12 (4区2面中央東寄り) **重複関係** SI07と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 住居のほとんどを削平により失っており、残存は不良である。 **覆土** 全て失われており、掘り方の一部が残存する。

平面形と規模 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は主軸残存部4.58m、副軸残存部5.15m、深さは残りの良い部分で10cm、底面積は推定23.12ml。 **主軸方位** N-102°-E **壁・壁溝** 壁は、ほぼ失われており壁高は不明。壁溝は西壁の北半と北壁の西半分程度に残されている。溝幅10～20cm、床面からの深さ3cm。

床面 直床式で、西側の一部に貼床が残存しているのみで、床面は失われている。 **柱穴** なし。 **カマド** 東壁の中央に位置する。その形状は失われ、若干の地山焼土化をもって想定するしかなく、規模は計測不能で

SI09

SI09土層説明
AA'-BB'

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）・焼土粒（φ0.1～0.5cm）・粘土ブロック（φ0.5～1.5cm）微量含む。
2. にじみ黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）多量含む。ロームブロック（φ0.5～3.5cm）含む。YPk（φ0.1～1.0cm）、炭化物（φ0.1～3.5cm）少量含む。
3. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。
4. 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～2.0cm）含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
5. にじみ黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い、ロームブロック（φ0.5～4.0cm）多量含む。ローム粒（φ0.1～0.5cm）含む。YPk（φ0.1～0.5cm）、炭化物（φ0.1～0.3cm）・粘土ブロック（φ0.5～2.0cm）微量含む。

第67図 SI09実測図(1/60)

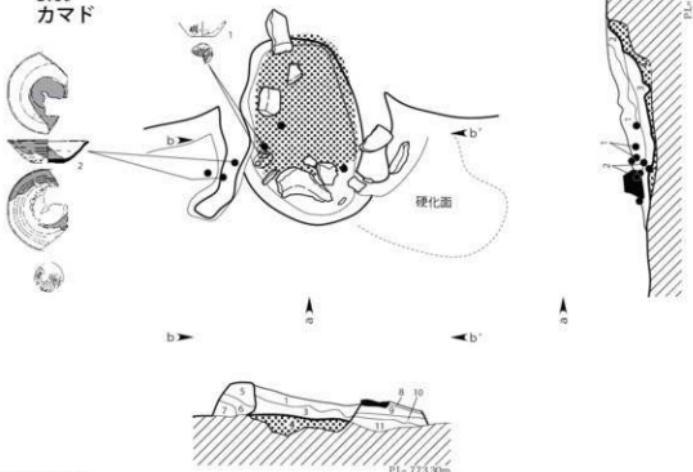
ある。地山のロームを掘り込んで外形を造り、支持材の設置場所として袖の内側に土坑状の掘削を施した掘り方は残存するが、石材は全く残存しない。その他の施設 貯蔵穴・床下土坑は確認されなかった。**遺物検出状況** 遺物の出土は土師器甕が1点のみであった。遺物 小破片のため、図示しなかった。**備考** 本遺構は、中型の堅穴住居跡である。帰属時期は、土師器片が薄手な甕であることと重複関係から9世紀後半とした。

SI09 (第67～69図／第20・21表／PL 7・15)

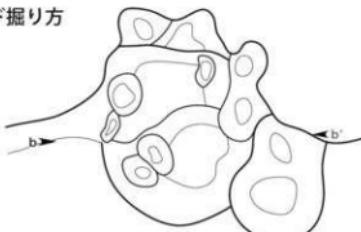
位置 11 Q 1－3 (5区2面北側中央) **重複関係** SK105と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 斜面に位置するため、南壁が失われている。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は主軸3.63m、副軸残存部3.52m、深さ26cm、底面積は推定10.51m²。 **主軸方位** N-41°-E **壁・壁溝** 壁高は北西壁で16cm、南西壁で9cm。ともに外傾して立ち上がる。他の方向の壁は失われている。壁溝は北西壁のみで確認された。溝幅15～20cm、床面からの深さ2～



SI09
カマド

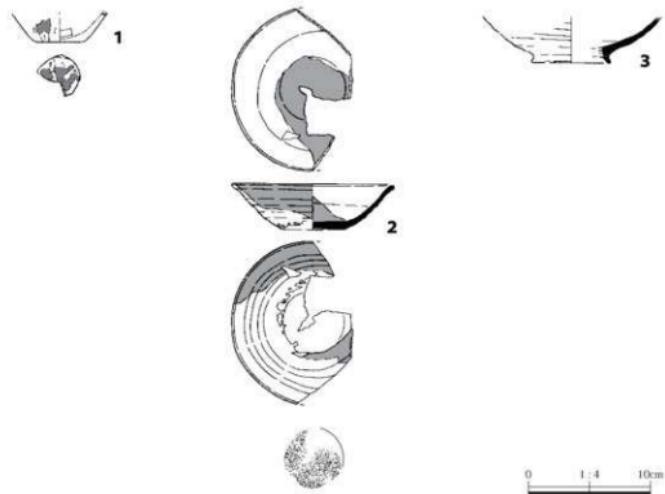


SI09
カマド掘り方



0 1' 30" 1m

第68図 SI09カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



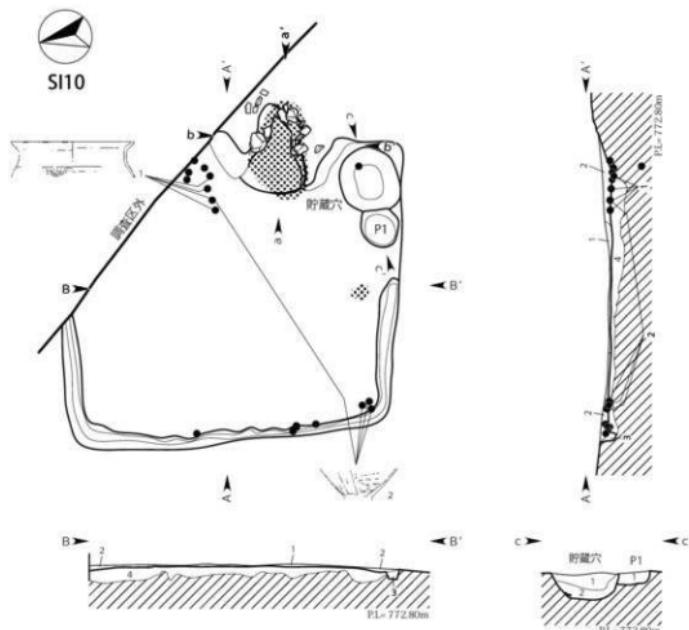
第69図 SI09出土遺物実測図 (1/4)

3cm。 床面 直床式で、貼床は認められない。南方向に傾斜するが、概ね平坦。カマド右脇に硬化面が形成される。 柱穴 なし。 カマド 北東壁の中央に位置する。遺存状態は上半が失われている。規模は残存長114cm、残存幅75cm。火床面と考えられる窪みが4cmほど掘り込まれており、焼土部分は3cmの厚さを有する。地山のロームを掘り込んで外形を造り、袖や天井部に角礫が支持材として使用されていた。また、付近の陥し穴から採取されたと思われる粘土化したロームが袖の被覆材や天井の構築材として使用されている。 その他の施設 貯蔵穴や床下土坑は確認されなかった。 遺物検出状況 土師器壺・須恵器杯が出土しているが、小破片が多い。 遺物 出土遺物のうち、土師器壺1点、須恵器杯1点、須恵器椀1点を図示した。 備考 本遺構は、小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

SI10 (第70～74図／第12・20・21表／PL7・16)

位置 11 T-13 (5区2面北側東端) 重複関係 なし。 遺存状態 遺構の一部が調査区外となる。また、削平により遺構上半が失われている。 覆土 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 平面形と規模 平面形は隅丸方形を呈する。規模は主軸は3.83m、副軸4.1m、深さ7cm、底面積は推定11.11m²。 主軸方位 N-103°-E 壁・壁溝 壁高は東壁で15cm、西壁で11cm、南壁で3cm、北壁で6cm。いずれも外傾して立ち上がる。壁溝は北・西及び南壁の西半分で確認された。溝幅10～20cm、床面からの深さ10～12cm。 床面 直床式で、全体に貼床が確認された。やや南西方向に傾斜するが、概ね平坦。 柱穴 P1のみが検出されたが、強度等から柱穴とは判断できなかった。 カマド 東壁の南寄りに位置する。遺存状態は削平の影響が少なく、良好である。規模は残存長111cm、残存幅76cm。火床面と考えられる窪みが8cmほど掘り込まれており、焼土部分は10cmの厚さを有する。地山のローム漸移層を掘り込んで外形を造り、袖や天井部に角礫が支持材として使用されていた。また、付近の陥し穴から採取されたと思われる粘土化したロームが袖の被覆材や天井の構築材として使用されている。 その他の施設 カマド右脇に貯蔵穴が検出された。平面形は円形。規模は長軸80cm、短軸70cm、床面からの深さ

第12表 SI10 ピット計測表			
	P1	貯蔵穴	床下土坑
長軸長 (cm)	(48)	80	80
短軸長 (cm)	44	70	69
深さ (cm)	16	32	26



SI10 土層説明

AA'-BB'

- 黒色土層：粘性あり、しまりあり、Ypk(φ0.1~0.4cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.3cm)・焼土粒(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.3cm)・Ypk(φ0.1~1.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)少量含む。焼土粒(φ0.1~0.3cm)微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。焼土粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。Ypk(φ0.1~1.0cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- に赤い黃褐色土層：粘性あり、しまりや強め、粘土ブロック(φ0.1~1.5cm)多量含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。Ypk(φ0.1~1.0cm)・焼土粒(φ0.1~0.3cm)微量含む。

SI10 P1 土層説明

CC'

- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.4cm)・ロームブロック(φ0.5~1.3cm)少量含む。Ypk(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.5~1.0cm)微量含む。

SI10 貯藏穴 土層説明

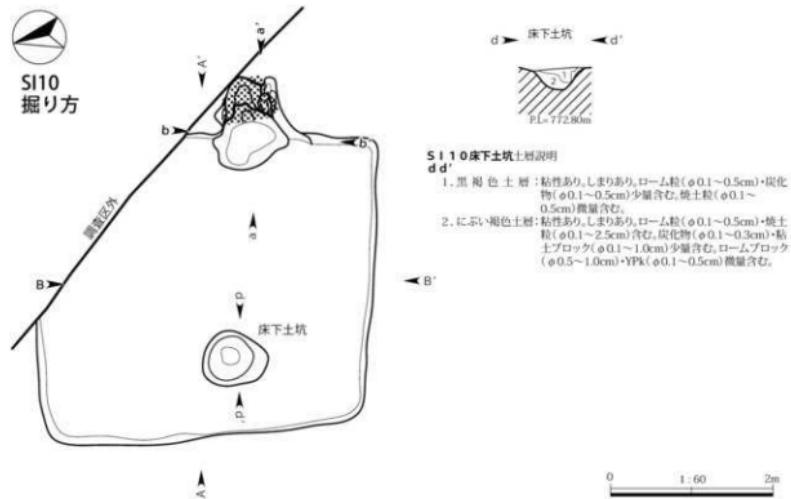
CC'

- 黒色土層：粘性弱い、しまりやや強め、ローム粒(φ0.1~0.3cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・Ypk(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.5~1.0cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや強め、ローム粒(φ0.1~0.3cm)含む。ロームブロック(φ0.5~2.5cm)・Ypk(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.5~2.5cm)微量含む。

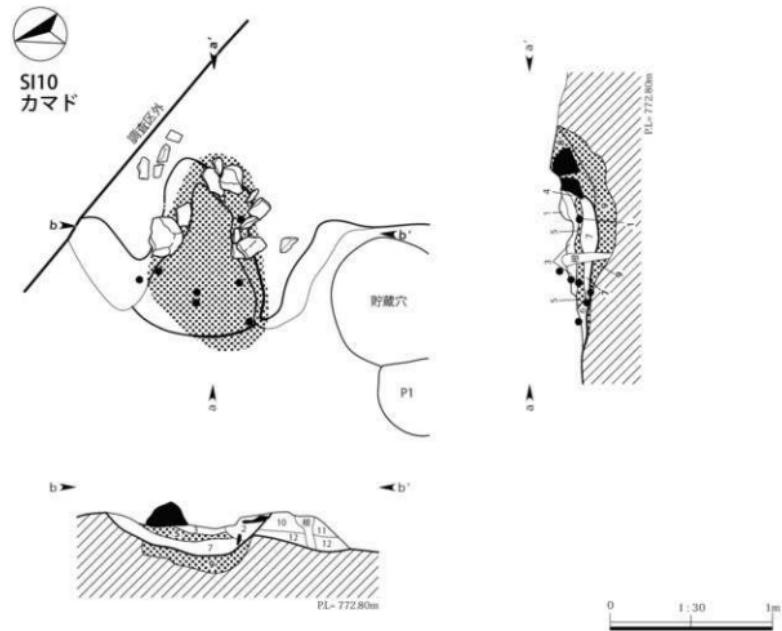
第70図 SI10実測図(1/60)

0 1:60 2m

32cm。床下土坑は住居中央西側にあり、平面形は円形で、規模は長軸80cm、短軸69cm、床面からの深さ26cm。
遺物検出状況 土師器壺がほとんどを占め、須恵器杯は2点のみ出土した。**遺物** 出土遺物のうち、土師器壺1点、土師器台付壺1点を図示した。**備考** 本遺構は、小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第71図 SI10掘り方実測図(1/60)

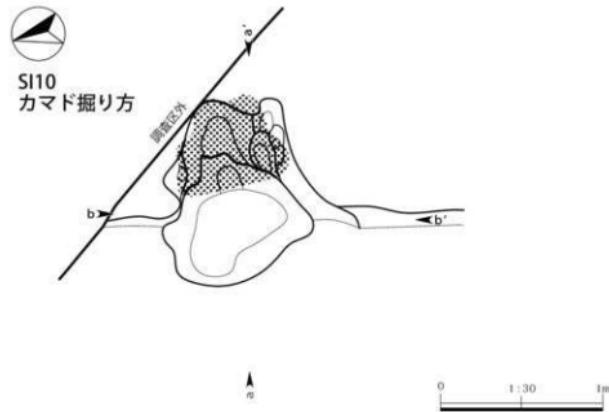


第72図 SI10カマド実測図(1/30)

SI10カマド土層説明

a' a' b' b'

- 褐灰色土層：粘性あり、しまりあり。粘土粒（φ0.1～0.5cm）・粘土ブロック（φ0.1～1.0cm）少量化含む。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い。粘土ブロック（φ0.3～1.5cm）大量に含む。粘土粒（φ0.1～0.5cm）少量化含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性やや強い、しまり強い。ほぼ土粒で構成される。YPk（φ0.1～1.2cm）・粘土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 浅黄褐色土層：粘性あり、しまり強い。粘土ブロック（φ0.1～1.0cm）含む。粘土粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。
- 褐色土層：粘性あり、しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）・粘土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）・粘土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）・粘土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 褐灰色土層：粘性あり、しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）・粘土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 褐色土層：粘性あり、しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）・粘土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）・粘土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）・粘土粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。



第73図 SI10カマド掘り方実測図(1/30)



第74図 SI10出土遺物実測図(1/4)

(2) 鍛冶工房跡

SB01 (第75～82図/第13・14・21表/P L 7・8・16)

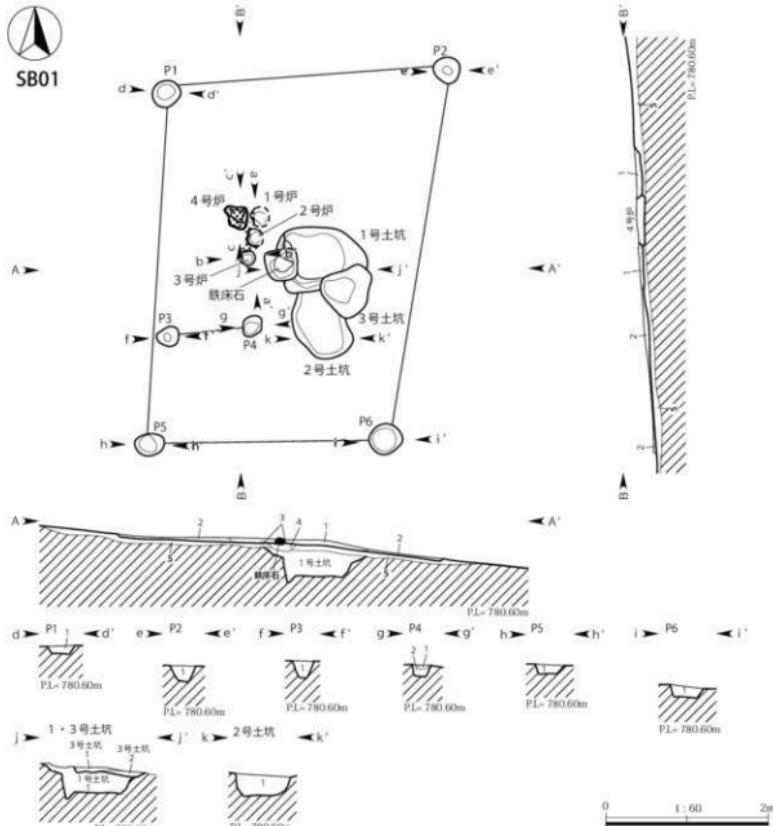
位置 10 T - 16 (4区2面西側中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土を基調とし、自然堆積を示す。 **規模** 長軸 4.6 m、短軸 3.45 m。 **主軸方位** N - 4° - E **柱穴** P1 ~ P6まで確認された。P1・P2・P5・P6が主柱穴、

第13表 SB01 ピット計測表

P3・P4が副柱穴と思われ、工房内を仕切っていたと推定される。柱穴それぞれの規模は、第13表に記載する。 **柱間**

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
長軸長 (cm)	34	32	26	25	36	42
短軸長 (cm)	34	32	24	23	27	38
深さ (cm)	10	20	21	14	12	15

東西の柱間は北から 3.12 m、2.5 m、南北の柱間は東から 4.2 m、3.96 m、副柱穴の柱間は 80cm と近接している。 **遺物** 遺構の性格上、出土遺物のはほとんどを占めるのは鍛冶関連遺物であるが、土師器壺片 17 点、須恵器杯片 5 点が取り上げられている。 **鍛冶関連遺物検出状況** 本遺構は当初より鍛冶工房と認識され、鍛冶炉と鉄床石のセット関係が遺構検出時点で確認されたため、座標に合わせて 25cm 四方のグリッドを設定し、



SB01 土地證明

AA'BB'

1. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや強め。YPk(ϕ 0.1~0.2cm)・炭化物(ϕ 0.1~0.2cm)微量含む。

2. 成褐色土層：粘性弱く、しまりあり、炭化物($\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$)少量含む、YPK($\phi 0.1 \sim 0.4\text{cm}$)・埴上粒($\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$)微量含む。

黒色 土 精：粘性あり。しまりやや弱い。炭化物($\phi 0.1\sim 0.2$ cm)少量含む。YPR($\phi 0.1\sim 0.2$ cm)・壤土(0.1~0.3cm)・腐葉土等、廻遊土等多く含む。

4. 混凝土工法とTYPKの組合せ。TYPK(Φ0.1~0.5cm)と砂利(Φ0.1~0.2cm)を混和し、施工工程(Φ0.1~0.5cm)で砂利(Φ0.1~0.5cm)を混入する。

SB01P1 土壤說明

d d'

1.に示す黄褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5\text{cm}$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.5\text{cm}$ ）含む。Y_{Pk}（ $\phi 0.1\sim0.5\text{cm}$ ）少量含む。

S B O 1 P 2 土感說明

• e' •

1. 黄褐色土壌：粘性あり。しまりあり。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim2.0\text{cm}$ ）多量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5\text{cm}$ ）含む。YpK（ $\phi 0.1\sim0.5\text{cm}$ ）少量含む。

SB01P3 土壤說明
ff'

16

1. 次回開催日程：2024年4月1日（木）～2024年4月3日（土）開催地：東京ビックサイト

3801P4 上海

1. 黏土色土壤：黏性

2. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。炭化物（ $\phi 0.1\sim 1.0\text{cm}$ ）含む。燒土粒（ $\phi 0.1\sim 1.0\text{cm}$ ）少數含む。YPk（ $\phi 0.1\sim 0.3\text{cm}$ ）微量含む。

SB01P5 土標說明

n h'

1. 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPK ($\phi 0.1\sim0.3\text{cm}$)・焼土粒 ($\phi 0.1\sim0.3\text{cm}$)・炭化物 ($\phi 0.1\sim0.5\text{cm}$) 微量含む。

第75図 SB01実測図(1/60)

S B O 1 P 6 土層説明

↓↓↓

1. 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPk(φ0.1～0.3cm)・燒土粒(φ0.1～0.3cm)・炭化物(φ0.1～0.5cm)微量含む。

S B O 1 1号土坑土層説明

↓↓↓

1. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや強い。ローム粒(φ0.1～0.5cm)・炭化物(φ0.1～4.5cm)含む。YPk(φ0.1～1.5cm)・燒土粒(φ0.1～1.5cm)少量含む。ロームロック(φ0.5～1.0cm)微量含む。鍛造剝片・粒状滓・鍛治済・羽口が大量に出土。

S B O 1 3号土坑土層説明

↓↓↓

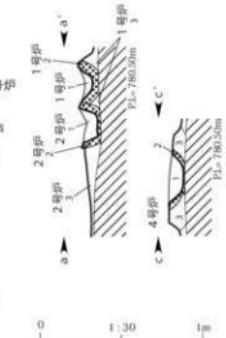
1. 淡灰色土層：粘性弱い。しまりやや強い。炭化物(φ0.1～0.5cm)少量含む。燒土粒(φ0.1～0.3cm)微量含む。

2. 暗褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPk(φ0.1～0.5cm)・燒土粒(φ0.1～0.5cm)・炭化物(φ0.1～3.5cm)少量含む。

S B O 1 2号土坑土層説明

↓↓↓

1. 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。炭化物(φ0.1～1.5cm)含む。ローム粒(φ0.1～0.5cm)・ロームロック(φ0.5～3.0cm)・YPk(φ0.1～0.5cm)・燒土粒(φ0.1～0.8cm)少量含む。



S B O 1 1号炉土層説明

↓↓↓

1. 淡灰色土層：粘性あり。しまり強い。燒土粒(φ0.1～0.5cm)少量含む。YPk(φ0.1～0.5cm)微量含む。鍛造剝片・粒状滓含む。

2. にじむ黄褐色土層：粘性弱い。しまり強い。ほぼ焼土粒で構成される。1号炉壁面。一部に還元部があり。YPk(φ0.1～0.5cm)微量含む。

3. 黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや強い。ローム粒(φ0.1～0.5cm)・燒土粒(φ0.1～0.3cm)・炭化物(φ0.1～0.3cm)微量含む。ロームロック(φ0.5～1.0cm)微量含む。YPk(φ0.1～0.3cm)・燒土粒(φ0.1～0.3cm)・炭化物(φ0.1～0.3cm)微量含む。

S B O 1 2号炉土層説明

↓↓↓

1. 淡灰色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1～0.5cm)・YPk(φ0.1～1.0cm)微量含む。ロームロック(φ0.5～1.5cm)・燒土粒(φ0.1～0.3cm)微量含む。鍛造剝片・粒状滓含む。

2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまり強い。粘土で構成された2号炉壁面の上端付近が還元しているが、大部分は燒土化が弱い。粘土化的段階でYPk(φ0.1～1.0cm)が白色無機粒子化して含まれる。

3. 黄褐色土層：粘性弱い。しまりやや強い。YPk(φ0.1～0.5cm)・燒土粒(φ0.1～0.3cm)・炭化物(φ0.1～0.3cm)微量含む。ローム粒(φ0.1～0.3cm)・YPk(φ0.1～0.5cm)・ロームロック(φ0.5～1.0cm)・炭化物(φ0.1～0.3cm)微量含む。

S B O 1 3号炉土層説明

↓↓↓

1. 黒褐色土層：粘性弱い。しまり強い。炭化物(φ0.1～1.0cm)・燒土粒(φ0.1～0.3cm)微量含む。鍛造剝片・粒状滓含む。

2. 灰褐色土層：粘性弱い。しまり強い。ほぼ焼土粒で構成される。3号炉壁面。YPk(φ0.1～0.2cm)微量含む。

3. にじむ黄褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1～0.3cm)含む。YPk(φ0.1～0.3cm)・燒土粒(φ0.1～0.5cm)微量含む。

S B O 1 4号炉土層説明

↓↓↓

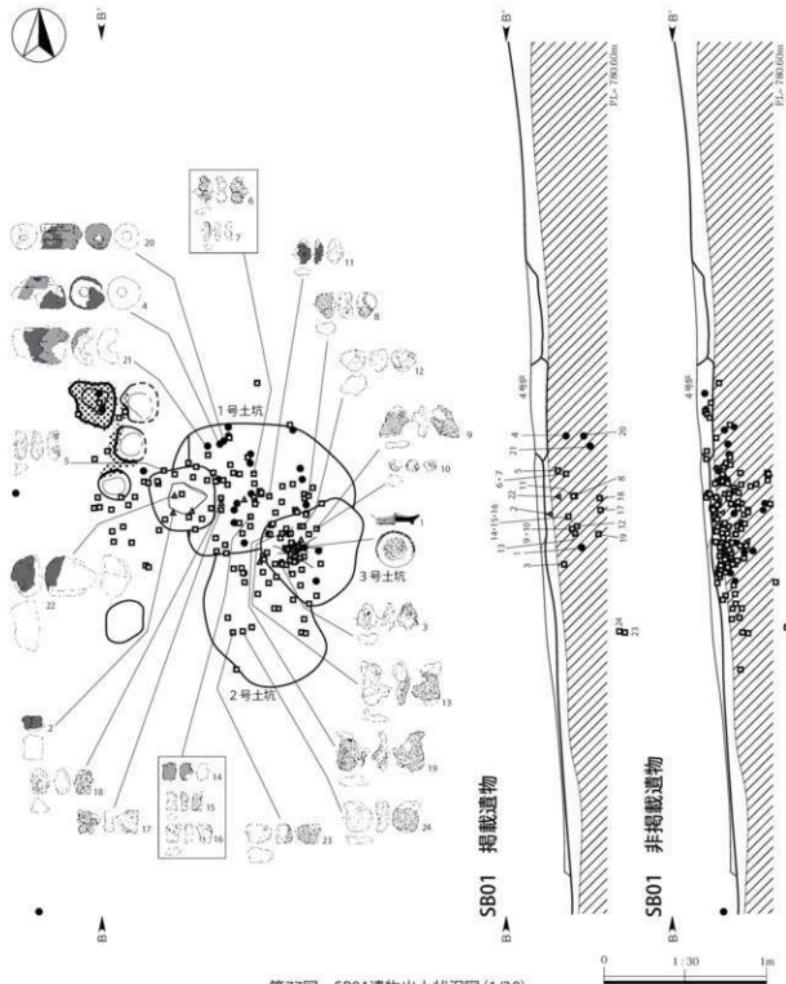
1. にじむ褐色土層：粘性弱い。しまりやや強い。燒土粒(φ0.1～1.5cm)含む。焼土微量含む。楕形鍛治済含む。

2. 晴青灰褐色土層：粘性弱い。しまり強い。ほぼ還元した焼土で構成される。YPk(φ0.1～0.3cm)微量含む。

3. 暗赤褐色土層：粘性弱い。しまり強い。黒色の粘土質で構成され、崩れ・焼成変化を受ける。壁面とは違い、層中の鉄分は酸化傾向にある。YPk(φ0.1～0.2cm)・燒土粒(φ0.1～0.5cm)・炭化物(φ0.1～0.3cm)微量含む。

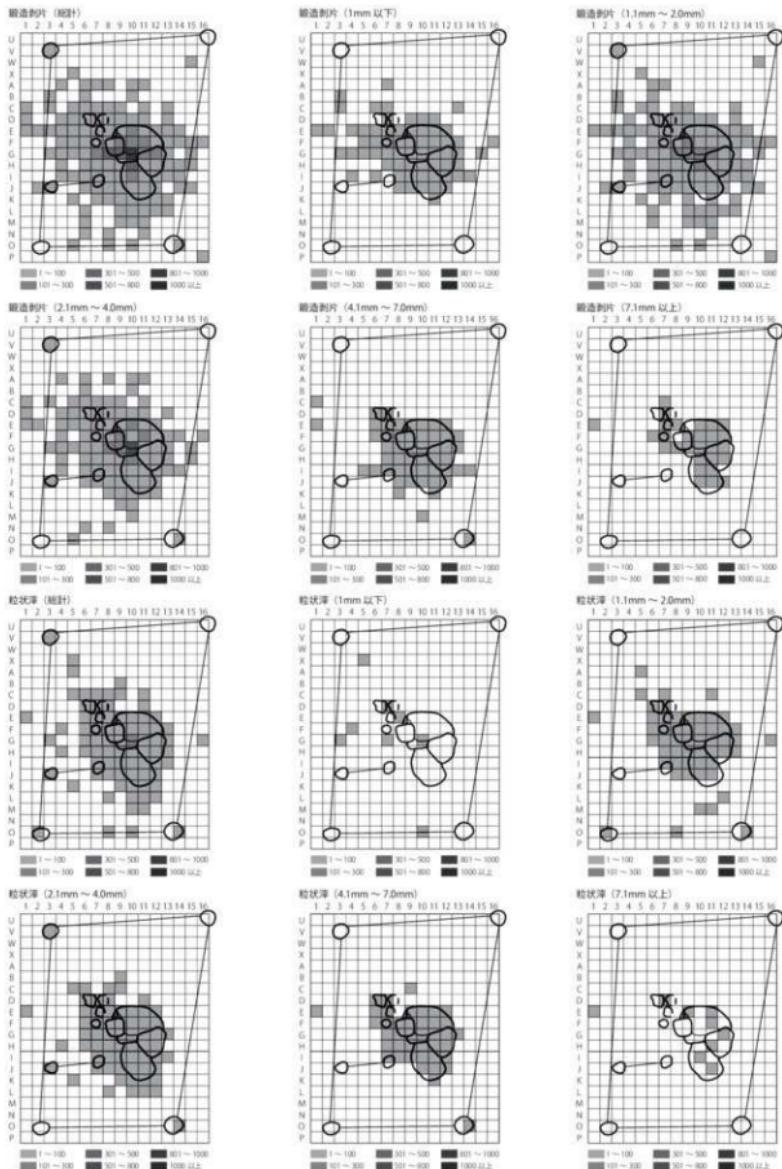
第76図 SB01炉実測図(1/30)

南北方向にA～P、東西方向に1～16を付し、G～10のように呼称して、土ごとに採取し、洗浄を行なつて鍛造剝片や粒状滓などの微細な遺物を取り出すこととした。羽口や鍛治済及び土器片などは番号を付して取り上げ、標高を含めて明確化した。**鍛冶関連遺構 鍛冶炉** 4基の鍛冶炉が確認され、北東のものから南へ順に1号炉～3号炉、そして西に4号炉が併存する。最終段階まで使用されていたのは4号炉だと推測され、その焼土のみが還元色を呈し、他の3基は酸化色に変化してしまっている。形状は1～3号炉までが、平面が円形で断面は楕状を呈する。1号炉の規模は直径28cm、深さ8cm。2号炉の規模は直径21cm、深さ11cm。3号炉の規模は直径18cm、深さ7cm。4号炉は不整形となっており、規模は長軸28cm、短軸24cm、深さ9cm。唯一炉内に楕形鍛治済が残る。**鉄床石** 工房中央に安山岩製の鉄床石が残存し、周辺に破片と思われる石片が散乱している状態が確認された。上面が被熱により酸化色に変化しており、周辺には鍛造剝片や粒状滓が濃密に分布していた。1号土坑と重複関係にあり、本遺構の方が新しく、掘り方は1号土坑埋め戻し後に掘削されている。**施設内土坑** 工房内の土坑は3基検出された。それらは全て重複関係にあり、古い順から1号土坑・2号土坑・3号土坑となり、各々から鍛冶関連遺物が大量に出土している。1・2号炉操業時には1

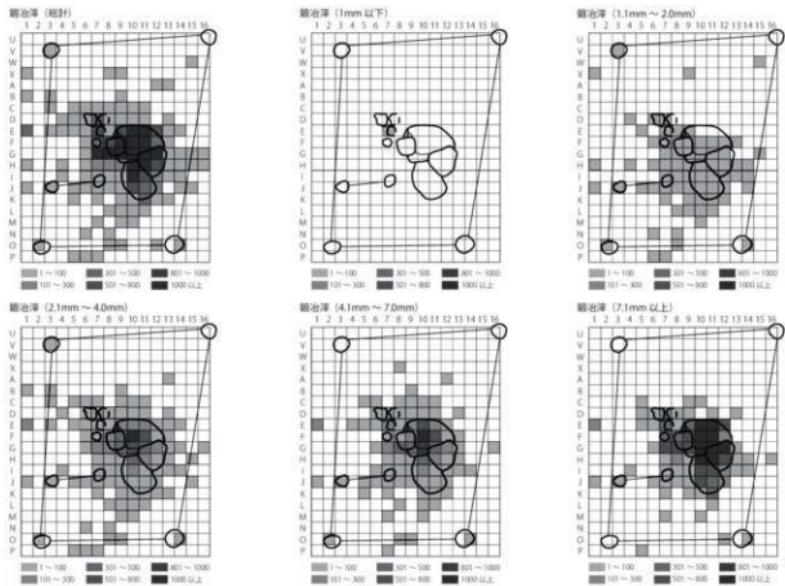


第77図 SB01遺物出土状況図(1/30)

号土坑が機能していたと推測され、3号炉操業時には2号土坑が、4号炉操業時には3号土坑がセット関係にあったものと考えられる。1号土坑の規模は長軸115cm、短軸81cm、最終使用面からの深さ38cm（この遺構に限り深さは最終使用面からのものを示す）。また、2号土坑との間は溝状となっており、その部分だけ深さが50cmとなる。2号土坑の規模は長軸95cm、短軸58cm、深さ25cm。1・2号ともに平面形は梢円形、断面形は銅状を呈する。3号土坑は隅丸三角形を呈し、規模は長軸32cm、短軸29cm、深さ25cm。**鍛冶関連遺物** 本遺構から出土した鍛冶関連遺物は、羽口・楕円鍛治津・鍛治津・鍛造剝片・粒状滓などで、その総量



第78図 SB01鋳造剥片・粒状分布図



第79図 SB01鍛冶滓分布図

出土鍛造剥片

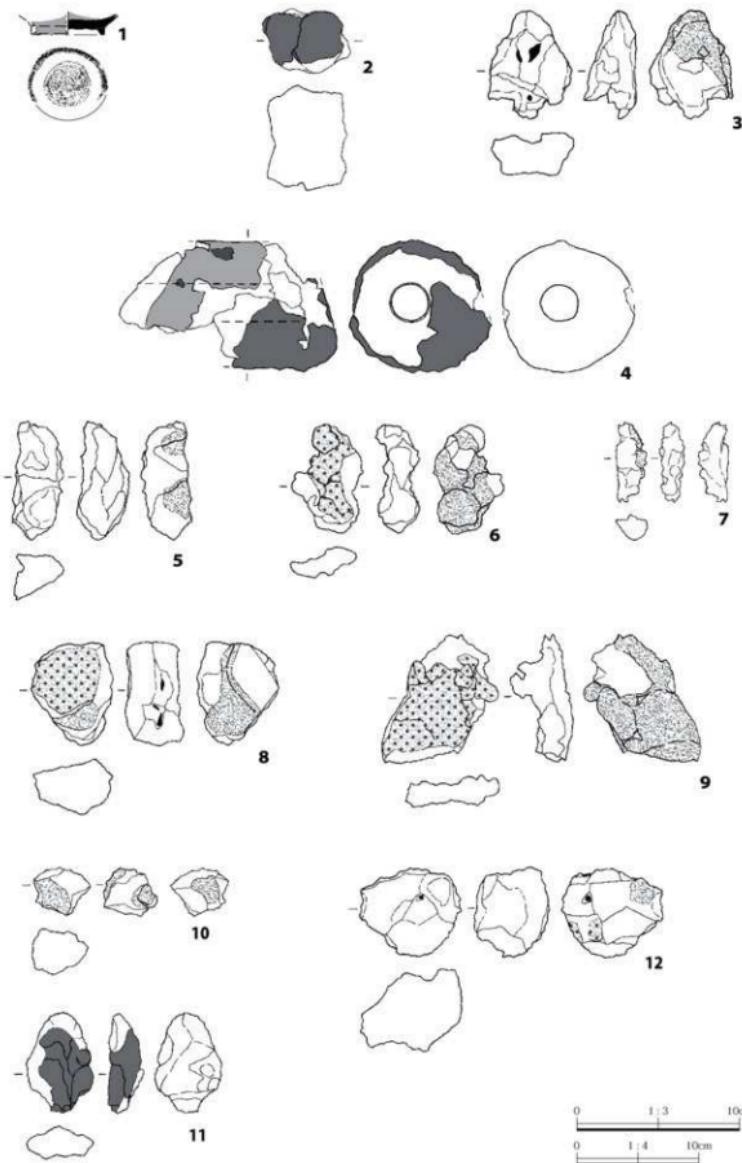
類	大きさ	総重量
1	7.1mm以上	95.7 g
2	4.1～7.0mm	288.8 g
3	2.1～4.0mm	2287.9 g
4	1.1～2.0mm	1595.7 g
5	1.0mm以下	104.2 g
	合計	4372.3 g

出土鍛冶滓

類	大きさ	総重量
1	7.1mm以上	33806.9 g
2	4.1～7.0mm	7821.9 g
3	2.1～4.0mm	6832.4 g
4	1.1～2.0mm	504.6 g
5	1.0mm以下	4.1 g
	合計	48969.9 g

第14表 SB01出土鍛造剥片・粒状滓・鍛冶滓集計表

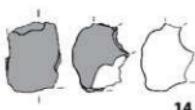
は 59,828.3 g である。第 78・79 図は鍛造剥片・粒状滓・楕形を含む鍛冶滓を大きさ別・重量別にグリッドごとの分布を示したもので、建物中央での操業形態やそれに伴う廃棄方法が看取される。 備考 本遺構は掘立柱建物を使用した鍛冶工房である。鍛冶炉を作り替えながら 4 基構築していることや建物内土坑を掘り直していること、廃棄された鍛冶滓が 50kg 近く出土していることから、長い操業期間が想定される。また、帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半と考えられ、鉄製品の出土する大型住居 SI06 との関係性も指摘される。



第80図 SB01出土遺物実測図①(1/3・1/4)



13



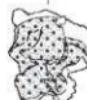
14



15



16



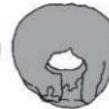
17



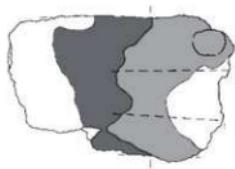
18



19



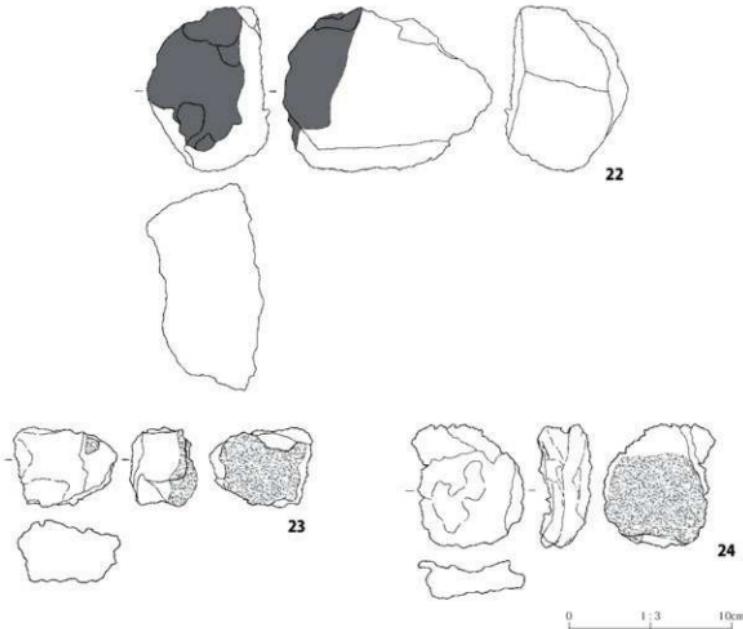
20



21



第81図 SB01出土遺物実測図②(1/3)



第82図 SB01出土遺物実測図③(1/3)

(3) 陥し穴

SK06 (第83図／PL 8)

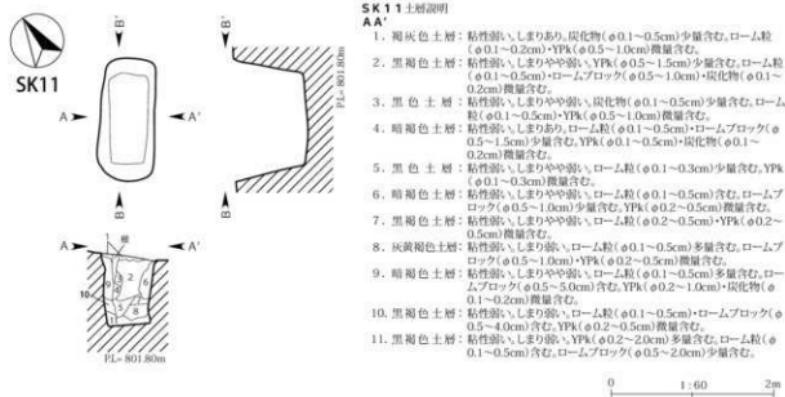
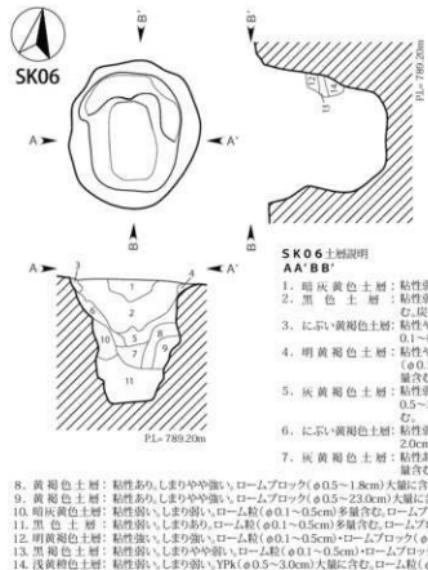
位置 10 G - 19 (1区3面北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 184cm、短軸 160cm、深さ 150cm。 **主軸方位** N - 11° - W **壁面** 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 1区に唯一存在する陥し穴である。他の調査区の陥し穴が数基の連携が想定されるのに対し、異質である。出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属するものと判断した。

SK11 (第83図／PL 8)

位置 3 B - 15 (3区2面北端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 154cm、短軸 65cm、深さ 85cm。 **主軸方位** N - 30° - E **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 南方向にやや傾斜するが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK13 (第84図)

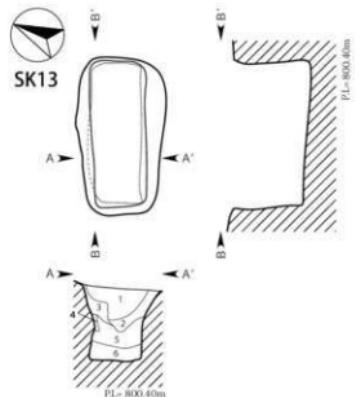
位置 2 T - 19 (3区2面北端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗



第83図 SK06・11実測図(1/60)

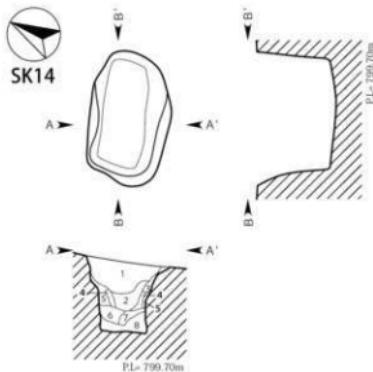
0 1:60 2m

褐色土が基準で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 上面形が卵丸長方形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸195cm、短軸110cm、深さ90cm。**主軸方位** N-62°-E **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は大きく外傾する。**底面** 東方向に傾斜するが、概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。



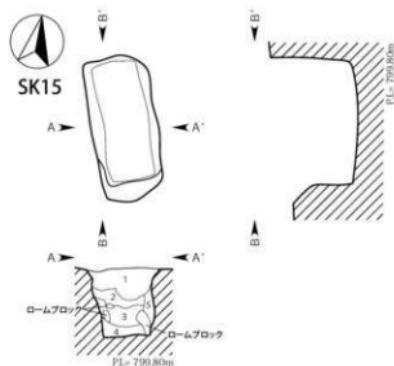
SK13 土層説明
AA'

- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.2\sim2.0cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim2.0cm$ ）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・YPk（ $\phi 0.2\sim1.0cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.2\sim1.0cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
- 明黄褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim4.0cm$ ）多量含む。YPk（ $\phi 0.2\sim1.0cm$ ）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりやや強め、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim2.0cm$ ）含む。YPk（ $\phi 0.2\sim1.5cm$ ）少量含む。炭化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk（ $\phi 0.2\sim1.0cm$ ）多量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）含む。炭化物（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。



SK14 土層説明
AA'

- 黒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。YPk（ $\phi 0.2\sim0.4cm$ ）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性やや強め、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.2\sim0.5cm$ ）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim2.0cm$ ）少量含む。YPk（ $\phi 0.2\sim0.5cm$ ）微量含む。
- 黄褐色土層：粘性あり、しまりやや強め、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）大量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりやや強め、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim3.0cm$ ）少量含む。YPk（ $\phi 0.2\sim3.0cm$ ）微量含む。
- 黒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim2.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.2\sim1.0cm$ ）少量含む。
- 灰黃褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim3.0cm$ ）含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
- 黒色土層：粘性やや強め、しまりあり、YPk（ $\phi 0.2\sim2.0cm$ ）やや多く含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）微量含む。



SK15 土層説明
AA'

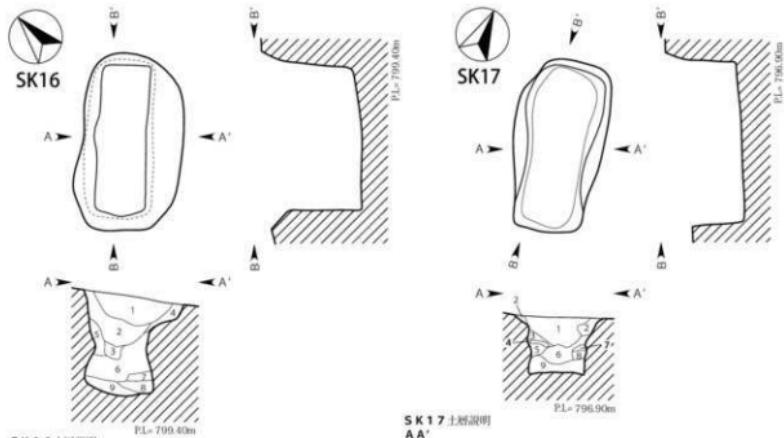
- 黒色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim1.0cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.2\sim1.0cm$ ）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・YPk（ $\phi 0.2\sim1.5cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim2.0cm$ ）微量含む。YPk（ $\phi 0.2\sim0.5cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや強め、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim2.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.2\sim2.0cm$ ）微量含む。炭化物（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。ローム粒（ $\phi 0.5\sim2.0cm$ ）・YPk（ $\phi 0.2\sim3.0cm$ ）微量含む。

0 1:60 2m

第84図 SK13～15実測図(1/60)

SK14 (第84図)

位置 3C-18 (3区2面北西端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色～黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が丸長方形を呈する。規模は長軸165cm、短軸100cm、深さ90cm。 **主軸方位** N-62°-E **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は大きく外



SK16 土層説明

AA'

- 黒褐色土層：粘性あり、しまりやや強い、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）、YPK（φ 0.1~1.5cm）少量含む。炭化物（φ 0.2~0.5cm）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）少量含む。ローム・ブロック（φ 0.5~1.0cm）・YPK（φ 0.2~0.5cm）・炭化物（φ 0.2~0.5cm）微量含む。
- 黒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）少量含む。YPK（φ 0.1~0.5cm）微量含む。
- 褐灰色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）含む。ローム・ブロック（φ 0.5~1.0cm）少量含む。YPK（φ 0.1~0.2cm）微量含む。
- 高い黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム・ブロック（φ 0.5~8.0cm）大量含む。ローム粒（φ 0.1~0.5cm）多量含む。YPK（φ 0.2~0.5cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）・ローム・ブロック（φ 0.5~1.0cm）多量含む。YPK（φ 0.2~1.0cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.3cm）・YPK（φ 0.1~0.2cm）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりやや弱い、YPK（φ 0.2~0.5cm）多量含む。ローム粒（φ 0.1~0.5cm）・ローム・ブロック（φ 0.5~1.0cm）含む。
- 淡黄色土層：粘性なし、しまり弱い、YPK（φ 0.2~1.0cm）大量に含む。ローム粒（φ 0.1~0.5cm）含む。ローム・ブロック（φ 0.5~2.0cm）微量含む。

SK17 土層説明

AA'

- 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPK（φ 0.2~0.5cm）含む。ローム粒（φ 0.1~0.5cm）少量含む。炭化物（φ 0.1~0.2cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.2cm）少量含む。YPK（φ 0.1~0.2cm）微量含む。
- 高い黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）・YPK（φ 0.1~0.2cm）微量含む。
- 明黄褐色土層：粘性あり、しまり弱い、ローム・ブロック（φ 0.5~6.0cm）大量に含む。ローム粒（φ 0.1~0.5cm）・YPK（φ 0.1~0.2cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム・ブロック（φ 0.5~2.0cm）・YPK（φ 0.1~0.2cm）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）・YPK（φ 0.2~0.5cm）少量含む。ローム・ブロック（φ 0.5~1.0cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.2cm）微量含む。
- 明黄褐色土層：粘性あり、しまり弱い、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）・ローム・ブロック（φ 0.5~1.0cm）多量含む。YPK（φ 0.2~0.4cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ 0.1~0.5cm）・ローム・ブロック（φ 0.5~1.0cm）・YPK（φ 0.2~0.8cm）含む。

0 1:60 2m

第85図 SK16・17実測図(1/60)

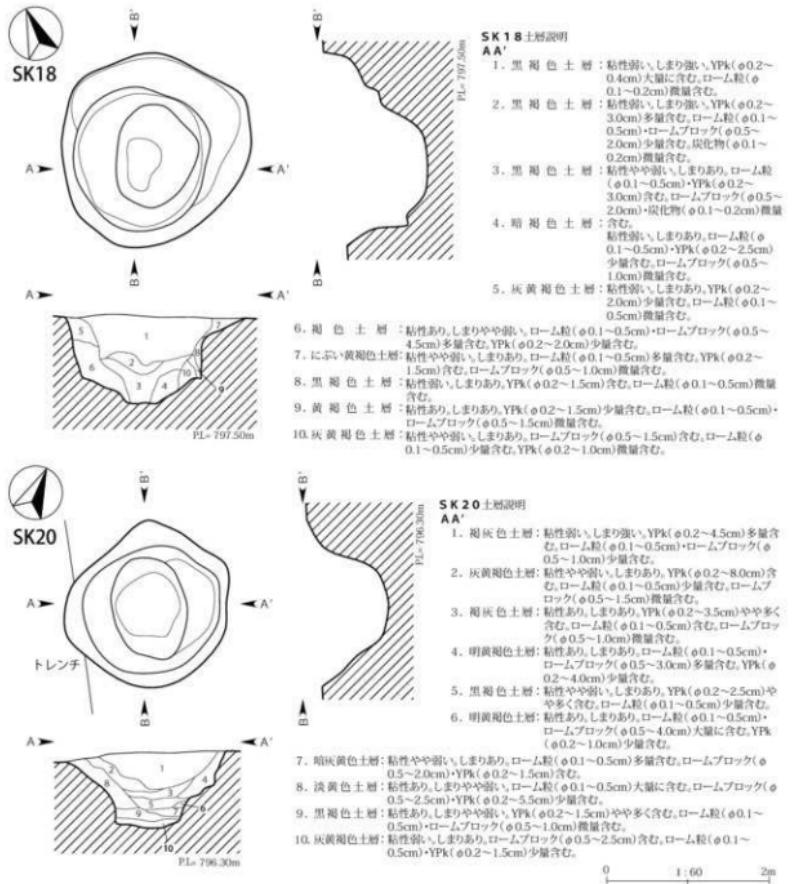
傾する。底面 中央に傾斜するが、概ね平坦。遺物 なし。備考 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK15 (第84図/P.L.8)

位置 3D-18 (3区2面北側) 重複関係 なし。遺存状態 上位のほとんどが削平されている。覆土 黒色～黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。平面形と規模 上面形が不明。下面形が長方形を呈する。規模は長軸180cm、短軸80cm、深さ85cm。主輪方位 N-22°-W 壁面 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は大きく外傾する。底面 概ね平坦。遺物 なし。備考 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK16 (第85図)

位置 3C-20 (3区2面北側) 重複関係 なし。遺存状態 良好。覆土 上層は黒褐色～暗褐色土、



第86図 SK18・20実測図(1/60)

下層は灰褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 上面形が椭円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 220cm、短軸 125cm、深さ 135cm。**主軸方位** N = 43° - E **壁面** 下位は内傾して立ち上がり、上位は外傾する。**底面** 南西方向に傾斜するが、概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥れ穴と判断した。

SK17 (第 85 図)

位置 7C-2 (3区北面側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。**覆土** 上層は暗褐色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 上面形が不明、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 215cm、短軸 110cm、深さ 70cm。**主軸方位** N = 19° - W **壁面** 下位はほ

ば直立して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 南方向に傾斜するが、概ね平坦。 **遺物** なし。

備考 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK18 (第 86 図)

位置 7 E - 1 (3 区 2 面北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整円形、下面形が円形を呈する。規模は長軸 248cm、短軸 228cm、深さ 107cm。 **主軸方位** N - 26° - W **壁面** 下位は外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 中央に傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK20 (第 86 図)

位置 7 E - 2 (3 区 2 面北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 褐灰色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が円形、下面形が梢円形を呈する。規模は長軸 210cm、短軸 200cm、深さ 90cm。 **主軸方位** N - 25° - W **壁面** 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 中央に傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK22 (第 87 図)

位置 7 I - 7 (3 区 2 面中央東側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は淡黄色～黒褐色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形・下面形がともに円形を呈する。規模は長軸 170cm、短軸 160cm、深さ 70cm。 **主軸方位** N - 24° - W **壁面** 下位にローム漸移層土による貼壁が認められる。下位は外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK23 (第 87 図)

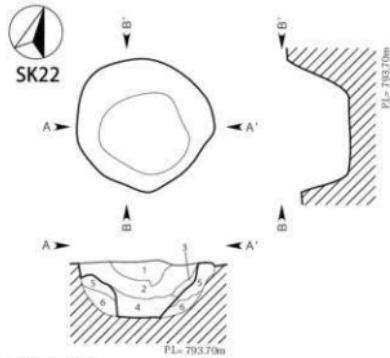
位置 7 J - 7 (3 区 2 面中央東側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は浅黄色～黄灰色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形・下面形がともに円形を呈する。規模は長軸 150cm、短軸 145cm、深さ 65cm。 **主軸方位** N - 23° - W **壁面** 下位にローム漸移層土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK25 (第 87 図／PL 8)

位置 7 H - 9 (3 区 2 面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は褐灰色～暗褐色土、下層は黒褐色～黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形・下面形がともに梢円形を呈する。規模は長軸 210cm、短軸 170cm、深さ 155cm。 **主軸方位** N - 55° - E **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

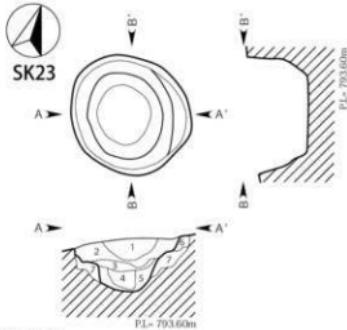
SK26 (第 88 図／PL 8)

位置 7 H - 10 (3 区 2 面中央) **重複関係** SK47 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は褐色～明黄褐色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 195cm、短軸 185cm、深さ 150cm。 **主軸方位** N - 31° - W **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 土師器瓶片 1 点、



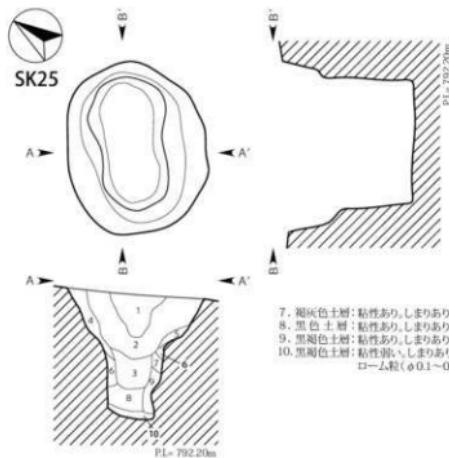
SK22 土層説明

- 淡黄色土層：粘性弱い、しまり強い、YPk(φ0.2~6.0cm)大量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)少量含む。土粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い、YPk(φ0.2~5.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
- 褐灰色土層：粘性あり、しまりやや強い、YPk(φ0.2~1.0cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
- 暗褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、YPk(φ0.2~4.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)微量含む。
- にぶい黄色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~2.5cm)含む。YPk(φ0.2~2.0cm)少量含む。
- 明黄褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~2.5cm)・YPk(φ0.2~3.5cm)多量含む。



SK23 土層説明

- 浅黄色土層：粘性弱い、しまり強い、YPk(φ0.2~5.5cm)大量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)少量含む。
- 黄灰色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.2~2.0cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.2~2.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
- 灰黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.2~3.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)少量含む。
- 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、YPk(φ0.2~3.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)微量含む。
- 灰黄褐色土層：粘性あり、しまり強く、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~2.5cm)多量含む。YPk(φ0.2~0.5cm)微量含む。
- 黄褐色土層：粘性あり、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)多量含む。YPk(φ0.2~2.0cm)含む。



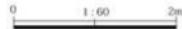
- 褐灰色土層：粘性弱い、しまりやや強い、YPk(φ0.2~3.0cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
- 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.2~1.0cm)少量含む。炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性やや強い、しまりあり、YPk(φ0.2~0.5cm)微量含む。
- 褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.2~1.0cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.2~0.5cm)微量含む。
- 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。

7. 褐灰色土層：粘性あり、しまりあり。

8. 黒色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。

9. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~0.8cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。

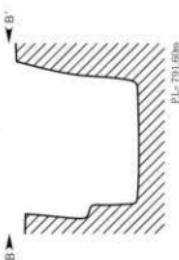
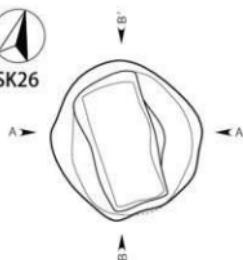
10. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.2~4.0cm)含む。ロームブロック(φ0.5~8.0cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。



第87図 SK22・23・25実測図(1/60)



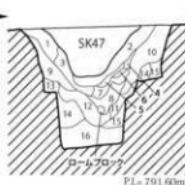
SK26

**SK26 土層説明****AA'**

1. 品褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.1～1.2cm）少量含む。
2. 褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～1.2cm）微量含む。
3. 明黄色褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）多量含む、YPk（φ0.2～2.0cm）炭化物（φ0.1～0.3cm）少量含む、燒土粒（φ0.2～1.5cm）微量含む。
4. 黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.2cm）炭化物（φ0.1～0.5cm）少量含む、YPk（φ0.1～0.2cm）微量含む。
5. に似る黃褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む、YPk（φ0.2～2.0cm）多量含む、YPk（φ0.2～2.0cm）炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。
6. 黒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.2cm）・燒土粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。
7. 明黄色褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒（φ0.5～5.0cm）多量含む、YPk（φ0.2～3.0cm）大量含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
8. 黑褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
9. 黑褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.5cm）・YPk（φ0.2～0.4cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。
10. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk（φ0.2～0.5cm）含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～1.0cm）炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。
11. 黄褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・YPk（φ0.2～0.4cm）微量含む。
12. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～1.5cm）・YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む。
13. 浅黄色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）大量含む、ロームブロック（φ0.5～2.0cm）少量含む、YPk（φ0.2～0.4cm）微量含む。
14. 品褐色土層：粘性あり、しまりあり、ロームブロック（φ0.5～2.5cm）含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。
15. 黄褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～6.0cm）多量含む、YPk（φ0.2～0.5cm）微量含む。
16. 黑色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～3.0cm）含む、YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む。



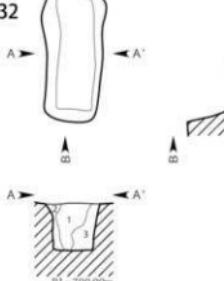
SK47



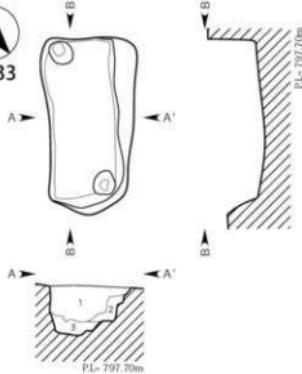
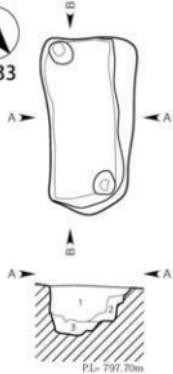
1. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.2cm）・燒土粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。
2. 明黄色褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒（φ0.5～5.0cm）多量含む、YPk（φ0.2～3.0cm）大量含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.5cm）・YPk（φ0.2～0.4cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk（φ0.2～0.5cm）含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～1.0cm）炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。
6. 黄褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.5cm）・YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む。
8. 黑褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
9. 黑褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
10. 黑褐色土層：粘性少く強い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
11. 黄褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む、ロームブロック（φ0.5～1.0cm）微量含む。
12. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
13. 浅黄色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）大量含む、ロームブロック（φ0.5～2.0cm）微量含む。
14. 品褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.5～2.5cm）含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
15. 黄褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
16. 黑色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ローム粒（φ0.5～3.0cm）含む、YPk（φ0.2～1.0cm）微量含む。



SK32



SK33

**SK33 土層説明****AA'**

1. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk（φ0.2～3.0cm）少量含む、ローム粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。
2. 前褐色土層：粘性あり、しまりやや強い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～5.0cm）含む、YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む。
3. 黑色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～2.0cm）・YPk（φ0.2～1.5cm）少量含む。
4. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
5. 黄褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
8. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
9. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
10. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
11. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
12. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
13. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
14. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
15. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
16. 黑褐色土層：粘性少く弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。



第88図 SK26・32・33実測図(1/60)

土師器費小片2点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK32 (第88図／PL8)

位置 6 N-7 (2区2面北端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 黒褐色～黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が長方形を呈する。規模は長軸160cm、短軸70cm、深さ70cm。 **主軸方位** N-0° **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK33 (第88図)

位置 6 K-13 (2区2面北西側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸215cm、短軸105cm、深さ60cm。 **主軸方位** N-7°-W **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 概ね平坦であるが、北西隅と南東隅に坑底ピットが認められた。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK35 (第89図／PL8)

位置 6 Q-10 (2区2面北東側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸160cm、短軸135cm、深さ100cm。 **主軸方位** N-0° **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK36 (第89図)

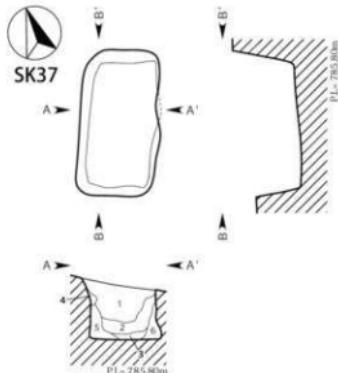
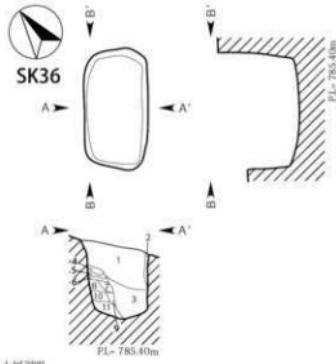
位置 10 S-9 (2区2面南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 黒褐色～黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸145cm、短軸80cm、深さ90cm。 **主軸方位** N-35°-E **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 中央に傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK37 (第89図／PL9)

位置 10 Q-9 (2区2面南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 上層は褐色土、下層は黒褐色～黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が長方形を呈する。規模は長軸180cm、短軸90cm、深さ70cm。 **主軸方位** N-20°-E **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

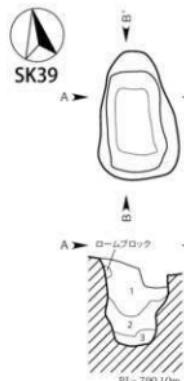
SK39 (第90図)

位置 10 P-2 (2区2面中央南寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は褐灰色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸160cm、短軸75cm、深さ100cm。 **主軸方位** N-10°-E **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴



第89図 SK35~37実測図(1/60)

0 1:60 2m



SK 39 土層説明

AA'

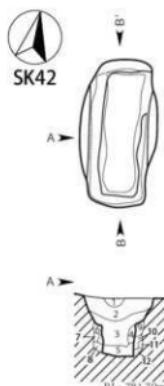
- 黒褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 2.5cm$)少量含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim 1.0cm$)微量含む。
- 褐灰色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 3.5cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 1.5cm$)含む。
- 黒色土層: 粘性やや強い。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 1.5cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 1.0cm$)微量含む。



SK 41 土層説明

AA'

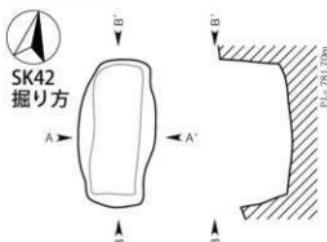
- 灰白色土層: 粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 1.5cm$)多量含む。YPk($\phi 0.2\sim 2.0cm$)微量含む。
- 黄灰色土層: 粘性あり。しまりやや弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 2.5cm$)・YPk($\phi 0.2\sim 2.5cm$)少量化含む。炭化物($\phi 0.1\sim 0.2cm$)微量含む。
- 褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・YPk($\phi 0.2\sim 2.5cm$)少量化含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim 1.0cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
- 黒褐色土層: 粘性やや強い。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 1.5cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 1.5cm$)・炭化物含む。
- 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 1.0cm$)微量含む。YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・炭化物含む。
- 黑褐色土層: 粘性やや強い。しまりあり。YPk($\phi 0.1\sim 1.5cm$)含む。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。



SK 42 土層説明

AA'

- 灰褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 2.0cm$)多量含む。YPk($\phi 0.1\sim 1.0cm$)微量含む。
- 黒褐色土層: 粘性やや弱い。しまりやや弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 3.0cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。
- 黒褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)少量化含む。YPk($\phi 0.1\sim 1.0cm$)微量含む。
- 黒色土層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。YPk($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
- 黑褐色土層: 粘性やや強い。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 1.5cm$)多量含む。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)少量化含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim 1.0cm$)微量含む。
- 灰褐色土層: 粘性やや強い。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim 1.0cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
- 黄色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 4.5cm$)大量含む。YPk($\phi 0.1\sim 1.0cm$)微量含む。
- 黑色土層: 粘性弱い。しまり弱い。YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)含む。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。
- 明褐色土層: 粘性あり。しまり弱い。ほぼローム粒で構成される。YPk($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
- 暗色土層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.3cm$)多量含む。YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。
- 黑褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.3cm$)少量化含む。YPk($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
- 黑色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.3cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.2cm$)微量含む。



0 1:60 2m

第90図 SK39・41・42実測図(1/60)

から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK41 (第90図／PL9)

位置 7F-5 (3区2面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。 **覆土** 上層は黄灰色～褐色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が長方形を呈する。規模は長軸150cm、短軸90cm、深さ75cm。 **主軸方位** N-25°-W **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 南方向に傾斜するが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK42 (第90図)

位置 11A-12 (4区2面北西側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸182cm、短軸93cm、深さ71cm。 **主軸方位** N-13°-W **壁面** 下位にローム漸移層土と黒色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** チャート製刷片1点、頁岩製円碟1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK43 (第91図)

位置 10T-14 (4区2面西側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形は貼壁が崩れて、不整円形を呈する。規模は長軸142cm、短軸96cm、深さ94cm。 **主軸方位** N-26°-E **壁面** 下位にローム土とローム漸移層土、黒色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもってやや外傾する。 **底面** 中央がやや盛り上がるが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK46 (第91図)

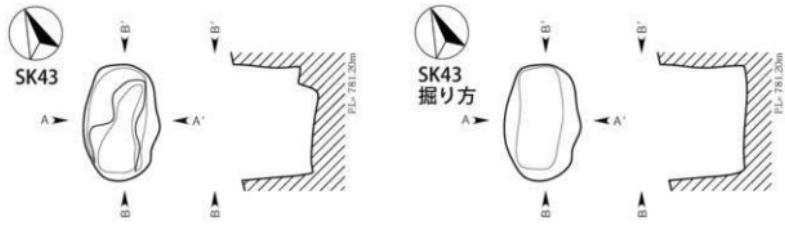
位置 11D-18 (4区2面中央南西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸138cm、短軸90cm、深さ107cm。 **主軸方位** N-14°-W **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片2点、頁岩製刷片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK53 (第91図)

位置 10S-15 (4区2面西端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸140cm、短軸80cm、深さ55cm。 **主軸方位** N-14°-W **壁面** 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK56 (第92図)

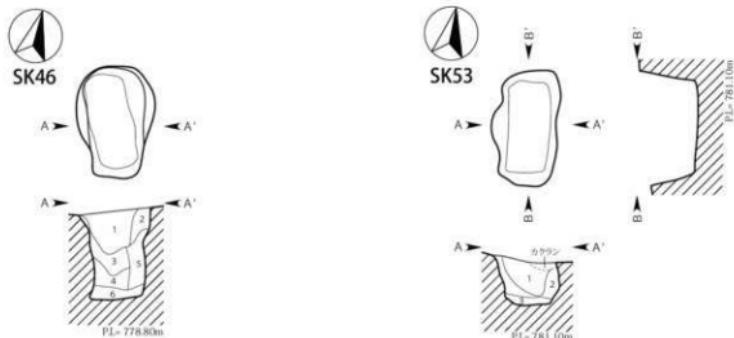
位置 10Q-17 (4区2面西端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 西部の約半分は調査区外で、上位のほとんどを表土掘削で削平してしまった。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形・下面形がともに隅丸長方形を呈する。規模は長軸残存部71cm、短軸74cm、深さ56cm。 **主軸方位** N-



SK43 土層説明

AA'

- 黒色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.1～0.4cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり、ロームブロック（φ0.5～1.0cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、YPk（φ0.1～1.5cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。ロームブロック（φ0.5～1.0cm）微量含む。
- 黄色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～3.5cm）大量に含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）含む。ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。



SK46 土層説明

AA'

- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.2～2.0cm）少量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりやや弱い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～5.0cm）少量含む。YPk（φ0.2～1.0cm）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまり弱い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。YPk（φ0.2～0.4cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～3.0cm）・YPk（φ0.2～0.5cm）少留り。
- にじいろ黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、ロームブロック（φ0.5～8.0cm）多量含む。ローム粒（φ0.1～0.5cm）含む。YPk（φ0.2～0.4cm）微量含む。
- 黒色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk（φ0.2～1.0cm）多量含む。ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～5.0cm）含む。

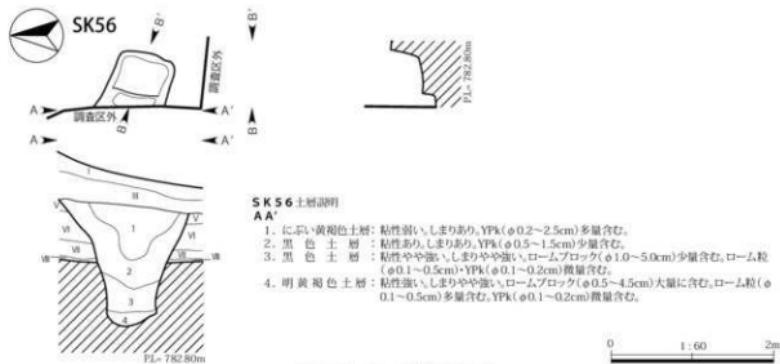
SK53 土層説明

AA'

- 黒色土層：粘性あり、しまりあり、YPk（φ0.1～0.4cm）微量含む。
- 黒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～6.5cm）含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。

0 1:60 2m

第91図 SK43・46・53実測図(1/60)



第92図 SK56実測図(1/60)

72°-W 壁面 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。
備考 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK57 (第93図／PL 9)

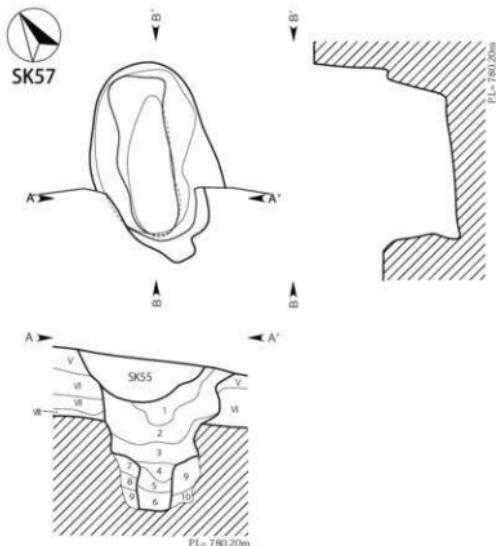
位置 10 S - 18 (4区2面西端) **重複関係** SK55と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側約1/3の上位を表土掘削で削平してしまった。 **覆土** 上層は灰黄褐色～暗褐色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸240cm、短軸145cm、深さ185cm。 **主軸方位** N-25°-E **壁面** 下位にローム土とローム漸移層土、黒色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は段をもって大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片3点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK58 (第94図)

位置 10 T - 15 (4区2面西側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は褐灰色～褐色土、下層は黒色～黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸172cm、短軸108cm、深さ98cm。 **主軸方位** N-3°-W **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 南方向に傾斜するが、概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片13点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

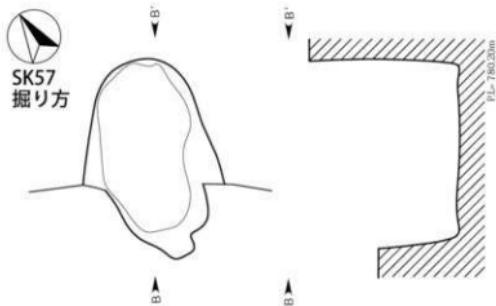
SK62 (第94図)

位置 11 G - 18 (4区2面中央南寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 暗褐色土～黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸134cm、短軸70cm、深さ75cm。 **主軸方位** N-40°-E **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。
備考 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

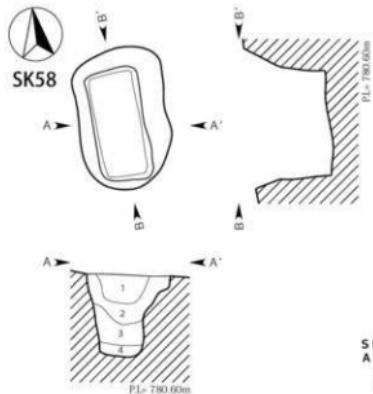


**SK57 土層説明
AA'**

- 灰黄褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。YPk(φ0.1~3.0cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)少量含む。炭化物(φ0.1~1.0cm)微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.4cm)・YPk(φ0.1~1.0cm)少量含む。炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.4cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
- 黒色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.4cm)YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.4cm)YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)ロームブロック(φ0.5~1.5cm)含む。
- 黄褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)大量に含む。ロームブロック(φ0.5~4.5cm)多量含む。YPk(φ0.1~1.5cm)含む。
- 黄色土層：粘性あり。しまりあり。YPk(φ0.1~3.5cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)ロームブロック(φ0.5~1.0cm)含む。
- 黄褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)大量に含む。ロームブロック(φ0.5~4.5cm)多量含む。YPk(φ0.1~1.5cm)少量含む。
- 黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPk(φ0.1~1.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。



第93図 SK57実測図(1/60)



**SK58 土壌説明
AA'**

1. 明褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.1~2.5cm)多量含む、ローム粒(φ0.1~0.2cm)微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.3cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
3. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.3cm)・YPk(φ0.1~1.5cm)微量含む。
4. 黒色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~2.0cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.3cm)微量含む。



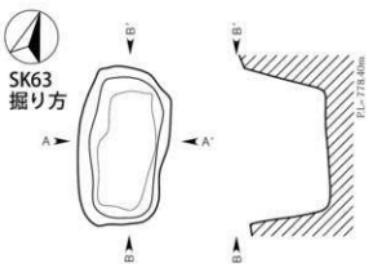
**SK62 土壌説明
AA'**

1. 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
2. に示す黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ0.5~9.0cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
3. 黒褐色土層：粘性やや強し、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ0.5~8.0cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
4. 明褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~3.5cm)多量含む。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
5. 黒褐色土層：粘性あり、しまり強し、YPk(φ0.1~1.0cm)多量含む。ロームアロッグ(φ0.5~1.0cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。
6. 淡黄色土層：粘性弱い、しまり弱い、YPk(φ0.1~2.0cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。



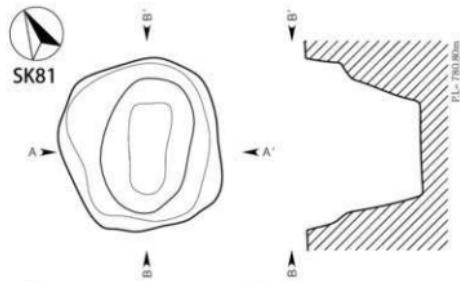
**SK63 土壌説明
AA'**

1. 暗灰色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。ロームブロック(φ0.5~2.0cm)・YPk(φ0.1~1.5cm)微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。YPk(φ0.1~2.0cm)微量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
3. 淡黄色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~15.0cm)・YPk(φ0.1~3.0cm)微量含む。
4. 灰白色土層：粘性あり、しまりやや弱い、ロームブロック(φ0.5~25.0cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~3.0cm)微量含む。
5. に示す黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ0.5~8.0cm)含む。YPk(φ0.1~3.0cm)微量含む。
6. 褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。YPk(φ0.1~1.0cm)微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
8. 灰白色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
9. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~3.0cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。
10. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~3.0cm)微量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。



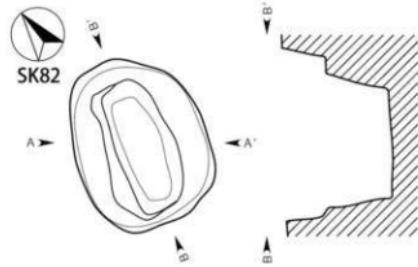
第94図 SK58・62・63実測図(1/60)

0 1:60 200



SK81 土層説明 AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~2.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.3cm)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.3cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
3. にぶい黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。YPk(φ0.1~0.5cm)含む。
4. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒(φ0.1~0.3cm)少量含む。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
5. にぶい黄褐色土層：粘性やや弱い、しまり弱い、ローム粒(φ0.1~0.3cm)含む。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
6. 黒褐色土層：粘性あり、しまり強い、ローム粒(φ0.1~0.3cm)含む。YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
7. 黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、はさむローム粒・ロームブロックで構成される。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
8. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。



SK82 土層説明 AA'

1. にぶい黄色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~3.0cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。
2. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~3.0cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.3cm)微量含む。
3. 灰褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
4. にぶい黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
5. 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.5cm)多量含む。YPk(φ0.1~1.0cm)含む。
6. 褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・ローム粒(φ0.5~1.0cm)少量含む。
7. 浅黄色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)大量に含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)多量含む。YPk(φ0.1~2.5cm)含む。
8. 灰白色土層：粘性弱い、しまり弱い、はさむYPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。

0 1:60 2m

第95図 SK81・82実測図(1/60)

SK63 (第94図／PL9)

位置 11 G-20 (4区2面南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。 **覆土** 上層は褐色～褐色土、下層は黒色～黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸192cm、短軸112cm、深さ101cm。 **主軸方位** N-18°-W **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 南壁の中位に大きな段差をもつが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

SK81 (第95図／PL9)

位置 11 E-12 (4区2面中央北寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸212cm、短軸196cm、深さ152cm。 **主軸方位** N-28°-E **壁面** 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** チャート製剝片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

SK82 (第95図)

位置 11 G-13 (4区2面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層はにぶい黄色土、下層は黒褐色～褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸212cm、短軸164cm、深さ159cm。 **主軸方位** N-16°-E **壁面** 下位にローム土とローム漸移層土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもってやや外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

SK83 (第96図)

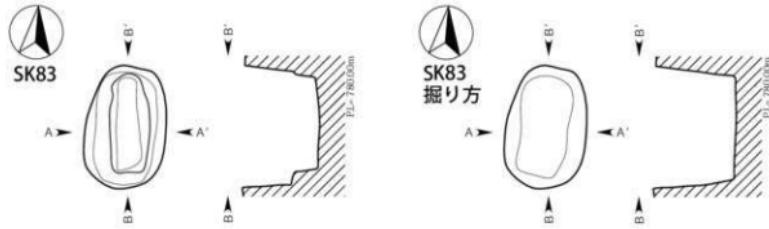
位置 11 I-11 (4区2面中央東寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色～黒褐色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸150cm、短軸100cm、深さ102cm。 **主軸方位** N-5°-W **壁面** 下位にローム土とローム漸移層土、黒色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもってやや外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片7点、繩文土器小片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

SK84 (第96図)

位置 11 J-16 (4区2面中央南東寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色～黒褐色土、下層はにぶい黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸162cm、短軸112cm、深さ97cm。 **主軸方位** N-41°-E **壁面** 下位にローム漸移層土と黒褐色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもってやや外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 近現代陶磁器碗小片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

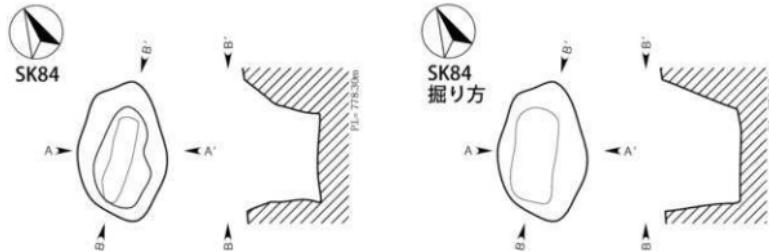
SK85 (第97図)

位置 11 K-16 (4区2面中央南東寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整橢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸164cm、短軸88cm、深さ82cm。 **主軸方位** N-11°-E **壁面** 下位にローム漸移層土



SK83 土層説明 AA'

- 黒色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~3.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。
- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む、ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
- 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む、ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
- 褐色土層：粘性あり、しまり弱い、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~2.5cm)多量含む、YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
- 明黃褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~3.0cm)多量含む、YPk(φ0.1~1.0cm)含む。
- 暗褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~1.0cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。
- 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・YPk(φ0.1~1.0cm)含む。
- 黒色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~1.0cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。

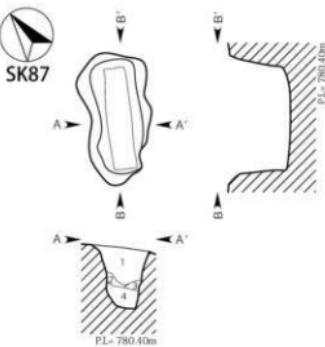
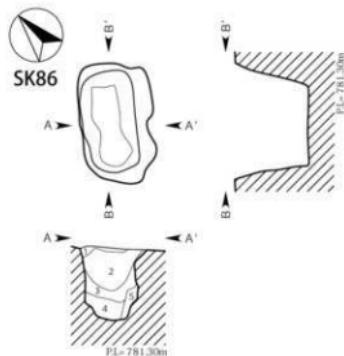


SK84 土層説明 AA'

- 灰褐色土層：粘性あり、しまり強い、YPk(φ0.1~2.0cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。
- 黑色土層：粘性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
- 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。YPk(φ0.1~2.0cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~2.0cm)微量含む。
- 淡黄色土層：粘性弱い、しまり弱い、YPk(φ0.1~0.5cm)大量に含む。
- 暗褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
- 明黃褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~3.0cm)多量含む。YPk(φ0.1~2.0cm)含む。
- にじみ黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~1.0cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。
- 黃褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、YPk(φ0.1~2.5cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)少量含む。
- 黑色土層：粘性やや弱い、しまりあり、YPk(φ0.1~1.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)少量含む。
- 暗褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.1~1.5cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。

0 1:60 2m

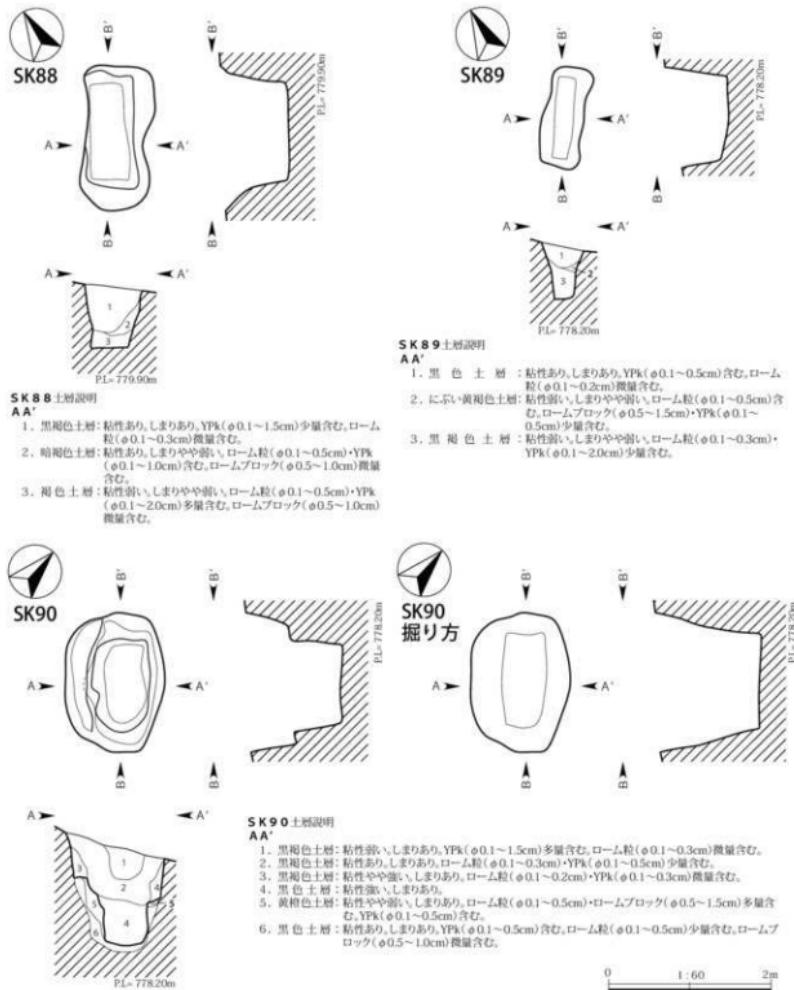
第96図 SK83・84実測図(1/60)



0 1:60 2m

第97図 SK85~87実測図(1/60)

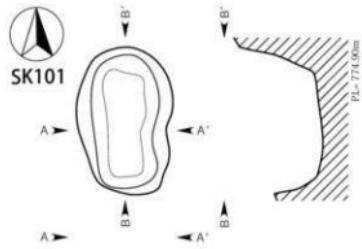
による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。底面概ね平坦。
遺物 繩文土器深鉢片3点が出土したが、図示しなかった。
備考 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陷穴と判断した。



第98図 SK88～90実測図(1/60)

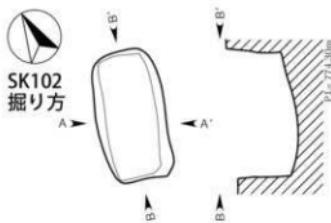
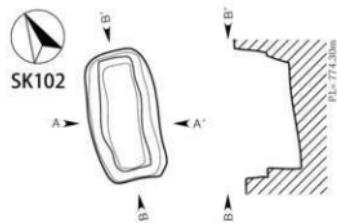
SK86 (第97図)

位置 11 G-9 (4区2面中央北端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。
覆土 黒褐色～暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整梢円形、下面形が卵丸長方形を呈する。規模は長軸144cm、短軸82cm、深さ89cm。 **主軸方位** N-43°-E **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、



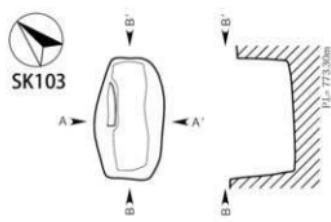
SK101 土層説明

- AA'
1. 黒褐色土層：粘性や弱い。しまりやや弱い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）・Ypk（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）少量含む。
2. 黒色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）・Ypk（ $\phi 0.1\sim 0.8cm$ ）含む。



SK102 土層説明

- AA'
1. 暗褐色土層：粘性や弱い。しまりやや弱い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）・Ypk（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。Ypk（ $\phi 0.1\sim 1.0cm$ ）少量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）微量含む。
3. 暗褐色土層：粘性あり。しまりやや弱い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 6.5cm$ ）含む。Ypk（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）微量含む。
4. 明黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）大量に含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 1.0cm$ ）微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 3.0cm$ ）少量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）・Ypk（ $\phi 0.1\sim 0.2cm$ ）微量含む。
6. 在付黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）・ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 4.0cm$ ）多量含む。Ypk（ $\phi 0.1\sim 0.2cm$ ）微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）少量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 3.0cm$ ）・Ypk（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）微量含む。



SK103 土層説明

- AA'
1. 黒褐色土層：粘性あり。しまりやや弱い。Ypk（ $\phi 0.1\sim 2.0cm$ ）含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）少量含む。
2. 黑色土層：粘性あり。しまりやや弱い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5cm$ ）多量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 1.5cm$ ）・Ypk（ $\phi 0.1\sim 0.4cm$ ）微量含む。

第99図 SK101～103実測図(1/60)



平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK87 (第97図)

位置 11 I-9 (4区2面中央北東寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。
覆土 上層は黒褐色土、下層はにぶい黄色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整梢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 162cm、短軸 70cm、深さ 74cm。 **主軸方位** N-36°-E **壁面** 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 黒曜石製片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK88 (第98図)

位置 11 I-10 (4区2面中央北東寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。
覆土 上層は黒褐色土、下層は褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整梢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 176cm、短軸 70cm、深さ 78cm。 **主軸方位** N-30°-E **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片4点、珪質頁岩製剥片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK89 (第98図)

位置 11 L-11 (4区2面東側南寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が隅丸長方形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 124cm、短軸 52cm、深さ 66cm。 **主軸方位** N-26°-E **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 黒曜石製片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK90 (第98図)

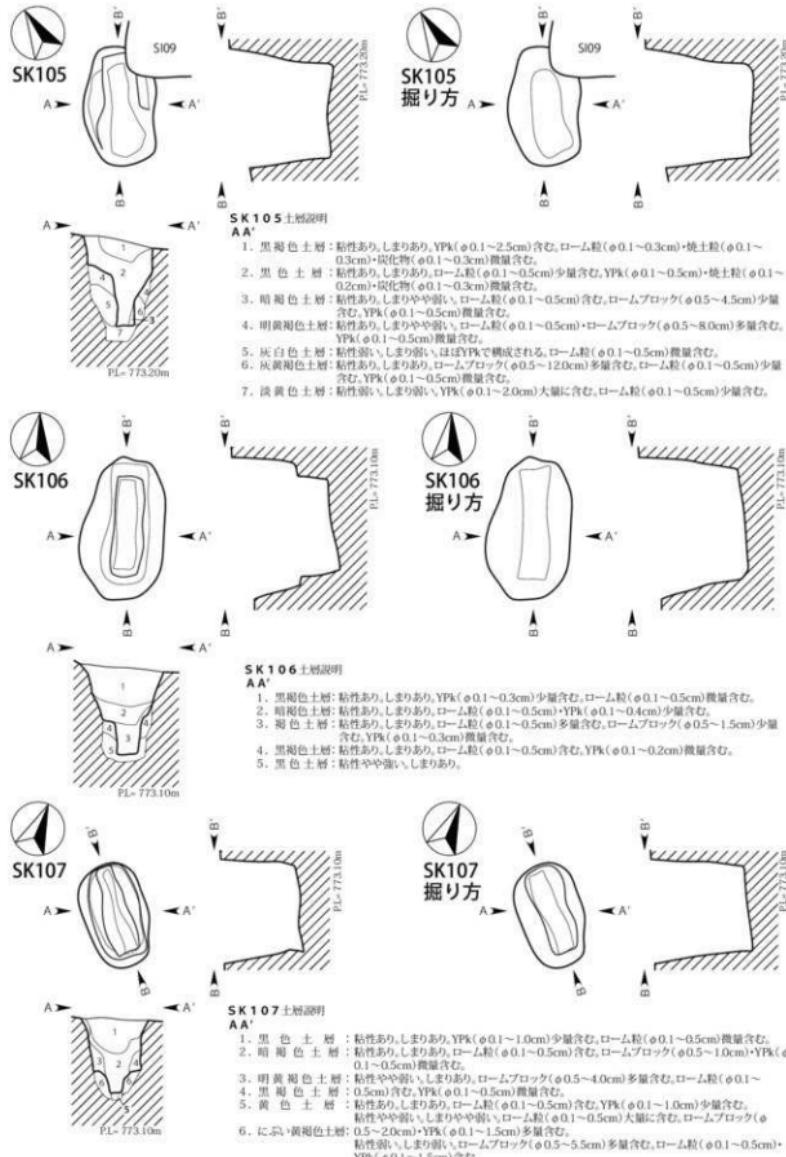
位置 11 K-12 (4区2面東側南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が梢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 172cm、短軸 120cm、深さ 127cm。 **主軸方位** N-44°-W **壁面** 下位にローム土とローム漸移層土、黒色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は段をもってやや外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片10点、土師器表小片4点、黒曜石製石核小片3点、黒曜石製剥片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK101 (第99図)

位置 11 N-13 (5区2面北端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が梢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 182cm、短軸 108cm、深さ 82cm。 **主軸方位** N-0° **壁面** 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK102 (第99図)

位置 11 M-15 (5区2面北側西端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下



第100図 SK105～107実測図(1/60)

0 1:60 2m

層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形・下面形がともに隅丸長方形を呈する。規模は長軸 156cm、短軸 86cm、深さ 71cm。 主軸方位 N-18°-E 壁面 下位にローム土とローム漸移層土、黒色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもってやや外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 繩文土器深鉢片 1 点が出土したが、図示しなかった。 備考 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK103 (第99図)

位置 11 N-16 (5区2面北側) 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 上層は黒褐色土、下層は褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が梢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 150cm、短軸 86cm、深さ 80cm。 主軸方位 N-46°-E 壁面 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 繩文土器深鉢片 1 点が出土したが、図示しなかった。 備考 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK105 (第100図)

位置 11 P-14 (5区2面北側) 重複関係 S109 と重複し、本遺構の方が古い。 遺存状態 良好。 覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が不整梢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 148cm、短軸 90cm、深さ 128cm。 主軸方位 N-31°-E 壁面 下位にローム土とローム漸移層土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもってやや外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 繩文土器深鉢片 3 点が出土したが、図示しなかった。 備考 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK106 (第100図)

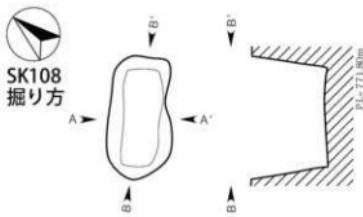
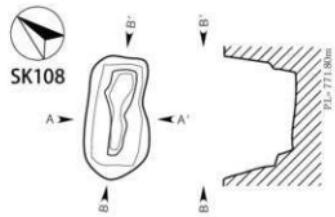
位置 11 R-12 (5区2面北側) 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が梢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 174cm、短軸 102cm、深さ 116cm。 主軸方位 N-5°-W 壁面 下位にローム土とローム漸移層土、黒褐色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK107 (第100図)

位置 11 S-12 (5区2面北側) 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 上層は黒色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が梢円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 126cm、短軸 78cm、深さ 100cm。 主軸方位 N-45°-W 壁面 下位にローム土とローム漸移層土、黒褐色土による貼壁が認められる。下位はやや外傾して立ち上がり、上位は段をもってほぼ直立し、最上位で外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

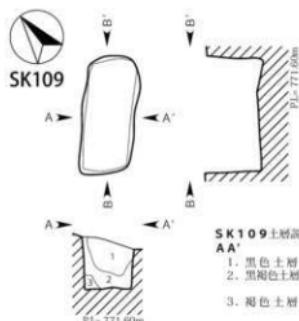
SK108 (第101図)

位置 11 R-15 (5区2面北側) 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 上層は黒色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 上面形が不整隅丸長方形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 154cm、短軸 76cm、深さ 95cm。 主軸方位 N-58°-E 壁面 下位にローム土とローム漸移層土、黒褐色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもってやや外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 なし。 備考 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥



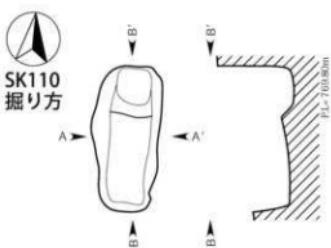
SK108 土層説明 AA'

1. 黒色土層：粘性あり。しまりあり。YPk(φ0.1~1.0cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性や少黏性。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.5cm)・YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
3. 明黄褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~6.0cm)多量含む。YPk(φ0.1~1.0cm)含む。
4. 黄褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ0.5~2.5cm)・YPk(φ0.1~1.0cm)含む。
5. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~1.0cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。
6. 淡黄色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk(φ0.1~0.3cm)大量に含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。



SK109 土層説明 AA'

1. 黒色土層：粘性や強い。しまりあり。YPk(φ0.1~1.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性や強い。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~1.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~2.0cm)微量含む。
3. 褐色土層：粘性や強い。しまりあり。ロームブロック(φ0.5~3.0cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)含む。YPk(φ0.1~1.5cm)少量含む。



SK110 土層説明 AA'

1. 黒色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
2. 褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)含む。YPk(φ0.1~0.4cm)微量含む。
3. 暗褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)多量含む。YPk(φ0.1~0.5cm)少量含む。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量含む。

0 1:60 2m

第101図 SK108～110実測図(1/60)

し穴と判断した。

SK109 (第101図)

位置 11 P-16 (5区2面北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸145cm、短軸64cm、深さ65cm。 **主軸方位** N-38°-E **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK110 (第101図)

位置 11 R-16 (5区2面北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。 **覆土** 上層は黒色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形・下面形がともに隅丸長方形を呈する。規模は長軸181cm、短軸82cm、深さ57cm。 **主軸方位** N-5°-W **壁面** 下位に北側のYpk層が露出する壁面のみにローム土とローム漸移層土、黒褐色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 北側が土坑状に一段下がってYpk層が露出するが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK111 (第102図)

位置 11 Q-17 (5区2面中央北寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位のほとんどが削平されている。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が長方形を呈する。規模は長軸154cm、短軸82cm、深さ43cm。 **主軸方位** N-16°-E **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK112 (第102図)

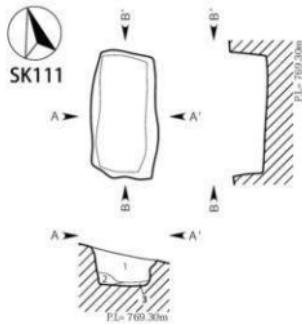
位置 11 S-18 (5区2面中央北寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 黑褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が長方形を呈する。規模は長軸148cm、短軸72cm、深さ32cm。 **主軸方位** N-26°-E **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK113 (第102図)

位置 11 S-18 (5区2面中央北寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黑色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が長方形を呈する。規模は長軸142cm、短軸60cm、深さ49cm。 **主軸方位** N-52°-E **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 中央がやや盛り上がるが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

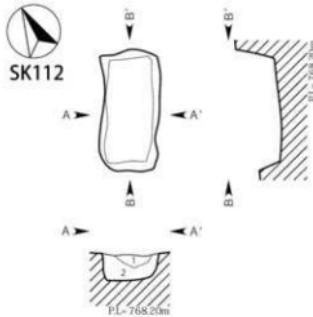
SK114 (第102図)

位置 11 Q-7 (4区2面東端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上位は削平されている。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が長方形を呈する。規模は長軸170cm、短軸78cm、深さ46cm。 **主軸方位** N-45°-W **壁面** 下位はほぼ直立て立ち上がり、上位は削平され



**SK111 土層説明
AA'**

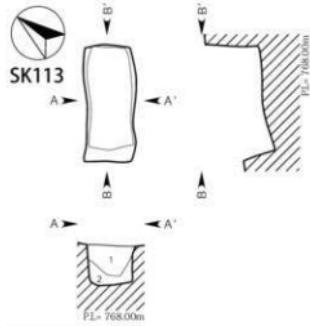
1. 黒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 1.0cm$)少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性強い、しまりあり、ロームブロック($\phi 0.5\sim 2.0cm$)含む。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。
3. 褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim 5.5cm$)多量含む。YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)少量含む。



SK112 土層説明

AA'

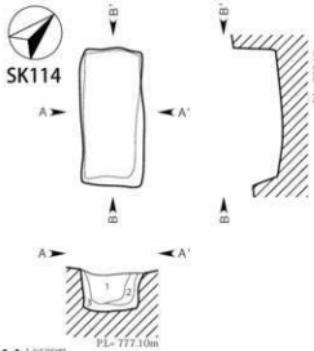
1. 黒色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)少量含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim 1.0cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。



**SK113 土層説明
AA'**

1. 黑褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim 1.0cm$)微量含む。
2. 黑色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、ロームブロック($\phi 0.5\sim 2.0cm$)含む。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。

0 1:60 2m



SK114 土層説明

AA'

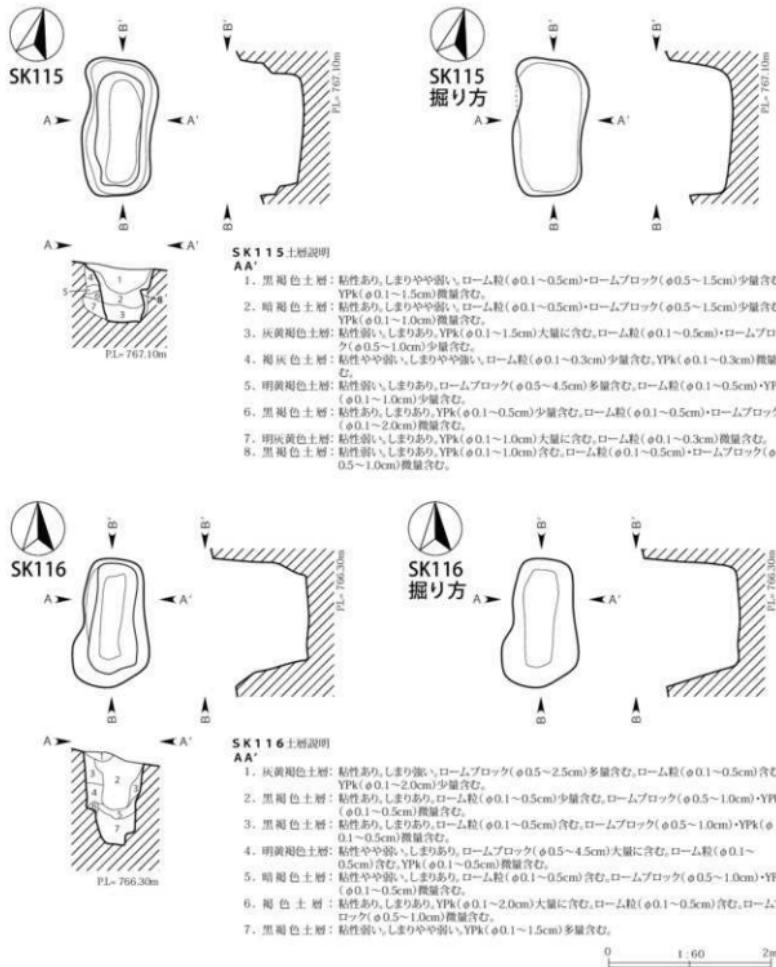
1. 黒色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim 0.3cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)少量含む。YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。
3. 暗褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)含む。ロームブロック($\phi 0.5\sim 3.0cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。

第102図 SK111~114実測図(1/60)

ており不明である。底面概ね平坦。遺物 繩文土器深鉢片1点が出土したが、図示しなかった。備考出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK115 (第103図／PL 9)

位置 15 Q-2 (5区2面中央南寄り) 重複関係なし。遺存状態良好。覆土上層は黒色土、下層は灰黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。平面形と規模 上面形が不整橢円形、下面形が隅丸長方形を呈す

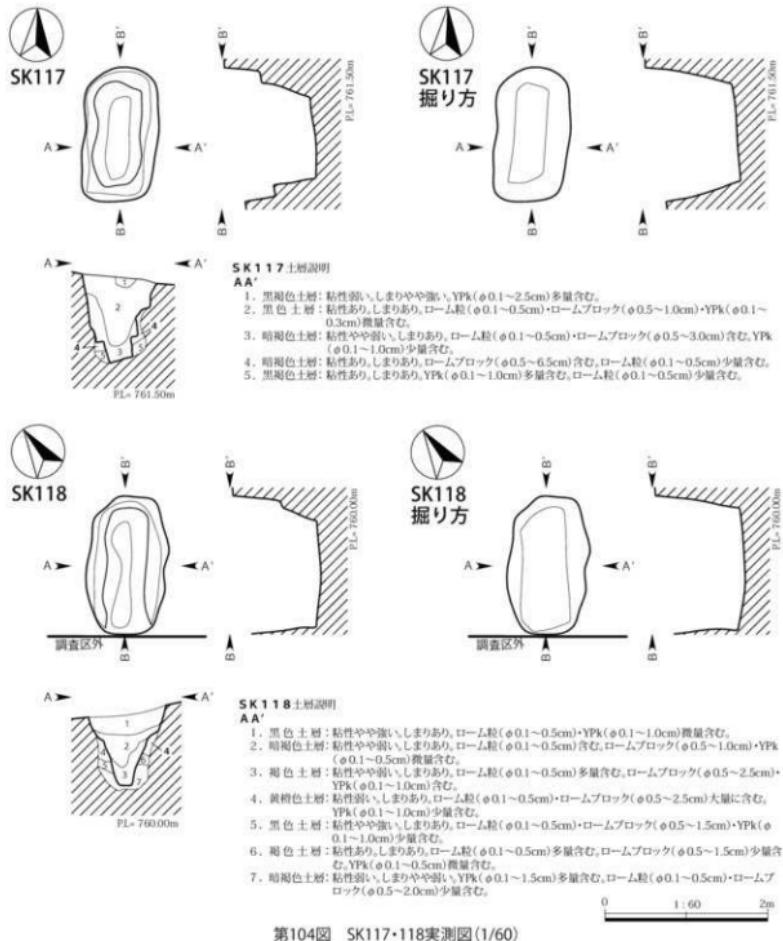


第103図 SK115・116実測図(1/60)

る。規模は長軸 164cm、短軸 86cm、深さ 67cm。**主軸方位** N-15°-W **壁面** 下位にローム漸移層にによる貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。**底面** 概ね平坦。**遺物** なし。**備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK116 (第103図)

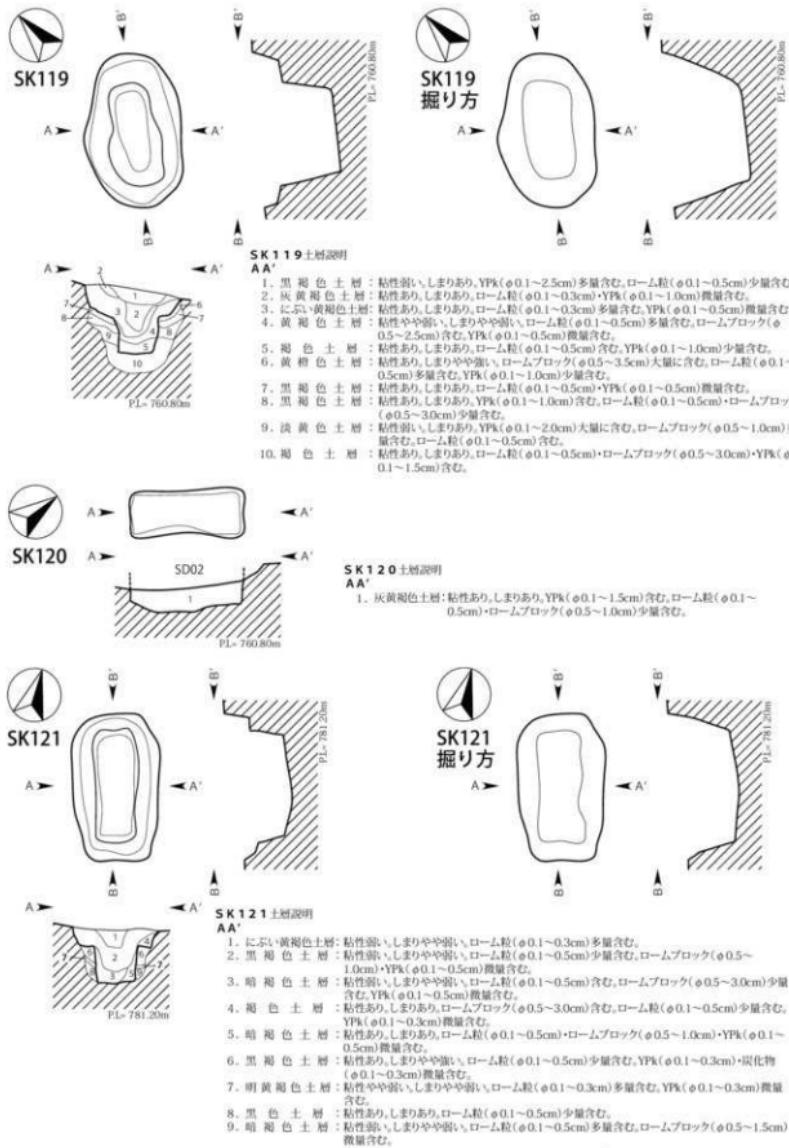
位置 15 Q-3 (5区2面中央南寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、



自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不整橿円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 160cm、短軸 76cm、深さ 112cm。 **主軸方位** N-0°。 **壁面** 下位はやや外傾して立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK117 (第104図)

位置 15 Q-9 (5区2面南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が橿円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長



第105図 SK119～121実測図(1/60)

0 1:60 2m

軸 164cm、短軸 92cm、深さ 107cm。 **主軸方位** N-5°-W **壁面** 下位にローム漸移層土と黒褐色土による貼壁が認められる。下位は外傾して立ち上がり、上位は段をもってやや外傾し、最上位で外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK118 (第104図)

位置 15 R-10 (5区2面南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色～暗褐色土、下層は褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 170cm、短軸 94cm、深さ 92cm。 **主軸方位** N-34°-E **壁面** 下位にローム土とローム漸移層土、黒褐色土による貼壁が認められる。下位は外傾して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK119 (第105図)

位置 15 T-8 (5区2面南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色～灰黄褐色土、下層は黄褐色～褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 192cm、短軸 120cm、深さ 105cm。 **主軸方位** N-35°-E **壁面** 下位にローム土とローム漸移層土、黒褐色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 南方向に傾斜するが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK120 (第105図)

位置 15 P-8 (5区2面南端) **重複関係** SDO2 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上位と下位の大部分は削平されている。 **覆土** 灰黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が不明、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 140cm、短軸 50cm、深さ 32cm。 **主軸方位** N-34°-E **壁面** 下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は削平されており不明である。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK121 (第105図)

位置 11 D-11 (4区2面中央北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色～暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形が楕円形、下面形が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 178cm、短軸 106cm、深さ 66cm。 **主軸方位** N-17°-W **壁面** 下位にローム漸移層土と黒褐色土による貼壁が認められる。下位はほぼ直立して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 黒曜石製剥片 1 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 出土遺物は流れ込みと思われ、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

(4) 炭窯

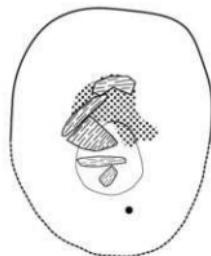
SK47 (第106図)

位置 10 T-13 (3区2面中央、鍛冶工房まで 140 m) **重複関係** SK26 と重複し、本遺構の方が新しい。通常の新旧関係とは違い、ある程度の埋没後にその上面を炭窯として再利用したものである。 **遺存状態** 良好。 **覆土** YPk を多量に含む黒褐色土で、人為堆積を示す。 **形状と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸残存部 150cm、短軸 122 m、深さ 60cm。壁面は外傾して立ち上がる。 **主軸方位** N-14°-W **焼土の状況** 底面が焼土化しているが、他の部分の焼成変化は弱い。 **遺物検出状況** 最下層に炭化材が残されていた。

SK47

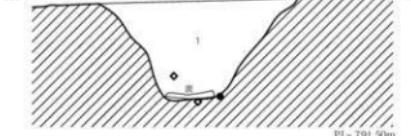
A →

← A'



A →

← A'



SK47 土層説明

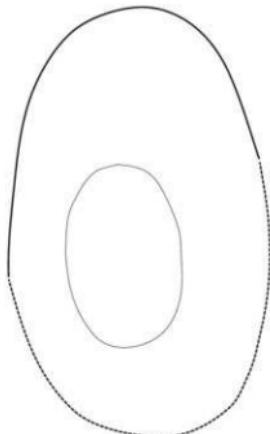
AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり強い、YPk ($\phi 0.2 \sim 40\text{cm}$) 多量含む。ローム粒 ($\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$)・焼土粒 ($\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$)・炭化物 ($\phi 0.1 \sim 0.3\text{cm}$) 微量含む。

SK55

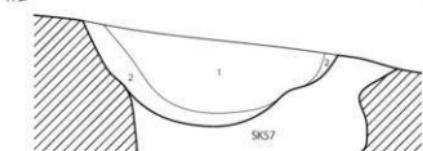
A →

← A'



A →

← A'



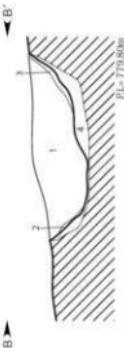
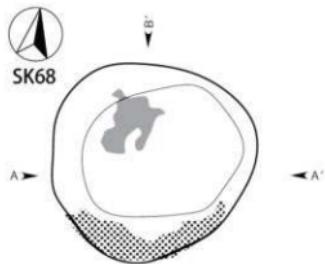
SK55 土層説明

AA'

1. 暗灰黄色土層：粘性弱い、しまり弱い、ははYPkで構成される。ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 15.0\text{cm}$) 多量含む。ローム粒 ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 少量含む。
2. 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。炭化物 ($\phi 0.1 \sim 5.0\text{cm}$) 大量に含む。ローム粒 ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$)・YPk ($\phi 0.1 \sim 0.4\text{cm}$)・焼土粒 ($\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm}$) 微量含む。

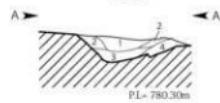
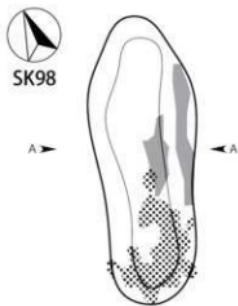
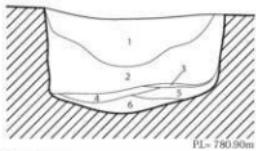
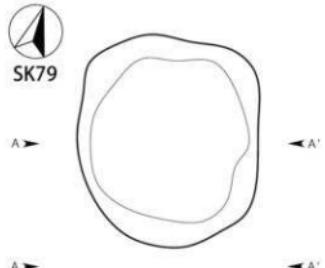
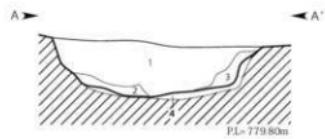
第106図 SK47-55実測図(1/30)





SK 68 土層説明

1. 黒色土層：粘性やや弱い、しまりあり。炭化物($\phi 0.1\sim 3.5cm$)多量含む。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.3cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
2. 黒色土層：粘性あり、しまりあり。炭化物($\phi 0.1\sim 0.2cm$)大層に含む。焼土粒($\phi 0.1\sim 0.2cm$)微量含む。
3. にじい赤褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。焼土粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim 2.0cm$)多量含む。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.3cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.4cm$)微量含む。
4. 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.3cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim 0.4cm$)微量含む。



SK 98 土層説明

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり強い。YPk($\phi 0.1\sim 0.2cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim 0.2cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim 0.3cm$)微量含む。
2. 褐色土層：粘性弱い、しまり弱い。YPk($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim 0.2cm$)・炭化物($\phi 0.1cm$ 程度)微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い。炭化物($\phi 0.1\sim 2.0cm$)多量含む。燒土粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 0.4cm$)微量含む。
4. 黒色土層：粘性弱い、しまりあり。はび炭化物で構成される。焼土粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)微量含む。

SK 79 土層説明

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり。ローム粒($\phi 0.1cm$ 程度)・YPk($\phi 0.1\sim 1.0cm$)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.2cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim 2.5cm$)少量含む。炭化物($\phi 0.1\sim 0.2cm$)微量含む。
3. 褐灰色土層：粘性強い、しまりあり。炭化物($\phi 0.1\sim 0.2cm$)少量含む。焼土粒($\phi 0.1\sim 0.2cm$)微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性やや強い、しまりあり。炭化物($\phi 0.1\sim 1.0cm$)含む。焼土粒($\phi 0.1\sim 1.0cm$)微量含む。
5. にじい褐色土層：粘性あり、しまりあり。燒土粒($\phi 0.1\sim 3.5cm$)多量含む。炭化物($\phi 0.1\sim 4.5cm$)含む。ローム粒($\phi 0.1\sim 0.5cm$)・ブロック($\phi 0.5\sim 1.0cm$)・YPk($\phi 0.1\sim 1.0cm$)微量含む。
6. 黑色土層：粘性やや強い、しまりあり。YPk($\phi 0.1\sim 0.2cm$)・焼土粒($\phi 0.1\sim 0.2cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim 0.2cm$)微量含む。

0 1:30 1m

第107図 SK68-79+98実測図(1/30)

遺物 炭化材が底面に張り付くように5点出土している。 **備考** 本遺構は、土坑状の炭窯である。帰属時期は明確ではないが、多量の炭を使用すると考えられる鍛冶工房SB01と同時期の9世紀後半に帰属すると推定される。

SK55（第106図）

位置 10 Q - 17（4区2面西側、鍛冶工房まで6m） **重複関係** SK57と重複し、本遺構の方が新しい。陥し穴がある程度埋没した後に、その上面を炭窯として再利用したものである。 **遺存状態** 良好。 **覆土** ほとんどYPkのみで形成され、人為堆積を示す。 **形状と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸262cm、短軸160cm、深さ53cm。断面は椀状となる。 **主軸方位** N - 29° - E **焼土の状況** 焼土化はしていないが、全体的に弱い焼成変化が認められる。 **遺物検出状況** 2層目はほとんど炭化物粒子で占められ、炭として利用可能なものは回収されている。 **遺物** 形になる炭化材は見られない。 **備考** 本遺構は、土坑状の炭窯である。多量の炭を使用すると考えられる鍛冶工房SB01と同時期の9世紀後半に帰属すると推定される。

SK68（第107図／PL 9）

位置 10 T - 17（4区2面西側、鍛冶工房まで4.5m） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土主体で、人為堆積を示す。 **形状と規模** 円形を呈する。規模は長軸122cm、短軸122cm、深さ35cm。壁面は外傾して立ち上がる。底面は中央がやや窪む。 **主軸方位** N - 0° **焼土の状況** 全体の壁が焼成変化している。特に焼土化が顕著なのは図示した部分である。 **遺物検出状況** 2層目はほとんど炭化物粒子で占められ、炭として利用可能なものは回収されている。 **遺物** 形になる炭化材は見られない。 **備考** 本遺構は、土坑状の炭窯である。多量の炭を使用すると考えられる鍛冶工房SB01と同時期の9世紀後半に帰属すると推定される。

SK79（第107図／PL 9）

位置 11 F - 12（4区2面中央、鍛冶工房まで35m） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土主体で、自然堆積を示す。 **形状と規模** 平面は隅丸方形を呈する。規模は長軸130cm、短軸112cm、深さ58cm。壁面は垂直気味に立ち上がる。底面は中央がやや窪む。 **主軸方位** N - 19° - W **焼土の状況** 焼土化した部分はないが、全体の壁が弱い焼成変化を受ける。下位層はほとんど焼土で構成される。 **遺物検出状況** 炭化物の出土は多いが、粒子で占められ、炭として利用可能なものは回収されている。 **遺物** 形になる炭化材は見られない。繩文土器片1点及び石核1点は流れ込みと考えられ、土師器腹片3点が当該期のものと判断される。いずれも小破片のため図示しなかった。 **備考** 本遺構は、土坑状の炭窯である。出土遺物と鍛冶工房SB01に近いという状況から9世紀後半に帰属すると推定される。

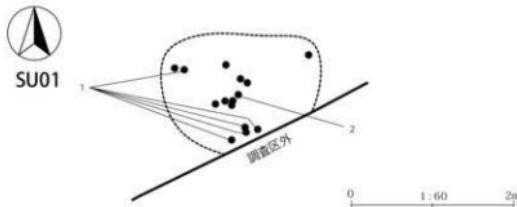
SK98（第107図／PL 10）

位置 11 F - 14（4区2面中央、鍛冶工房まで30m） **重複関係** なし。 **遺存状態** 上面が削平を受けしており、底面付近のみ残存。 **覆土** 下端のみではあるが、黒褐色土主体で、人為堆積を示す。 **形状と規模** 長楕円形を呈する。規模は長軸180cm、短軸62cm、深さ15cm。底面の窪みだけが残存。 **主軸方位** N - 21° - E **焼土の状況** 全体が焼土化しており、特に顕著な部分を図に示した。 **遺物検出状況** 炭としての使用に耐え得る炭化材も残されていた。 **遺物** 残された炭は直径10cm、長さ86cmのものと直径15cm、長さ48cmの2点があった。 **備考** 本遺構は、土坑状の炭窯と思われる。炭が遺棄されている理由については隣接する大型住居の焼失との関係性が指摘される。遺構の時期については、多量の炭を使用すると考えられる鍛冶工房SB01と同時期の9世紀後半に帰属すると推定される。

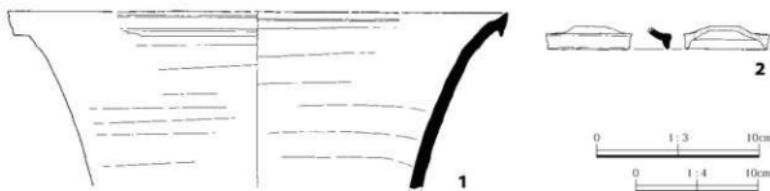
(5) 遺物集中

SU01 (第108・109図／第21表)

位置 11 K-5 (3区2面南端) **重複関係** なし。 **規模** 長軸195cm、短軸148cmの範囲に遺物が集中して出土した。 **遺物検出状況** 調査区南端の造成客土下に須恵器片14点、土師器片4点、弥生土器片1点が出土した。 **遺物** 須恵器の器種は破片ではあるが、皿1点、蓋1点、杯2点、甕9点が出土した。土師器の器種は甕のみであった。そのうち、須恵器蓋と須恵器甕の2点を図示した。 **備考** 出土遺物から9世紀後半に帰属すると推定される。



第108図 SU01実測図(1/60)



第109図 SU01出土遺物実測図(1/3・1/4)

第3節 中世から近世の遺構と遺物

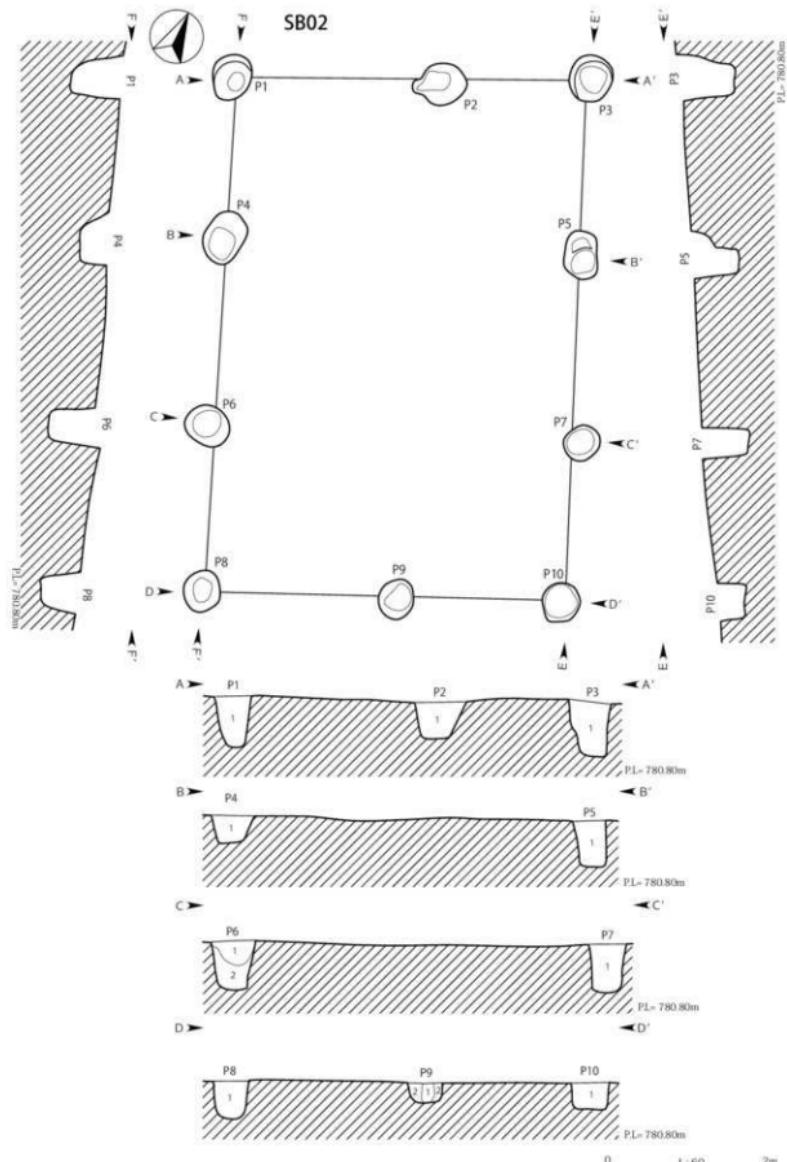
(1) 挖立柱建物跡

S802 (第110・111図／第15・21表／PL 10・17)

位置 11 B-15(4区1面西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **規模** 東西間口は4.4m(2間)、南北間口は6.45m(3間)である。東西柱間は北側が西から2.06m、1.24m、南側が西から1.92m、1.56m、南北柱間は東側が北から1.56m、1.84m、1.52m、西側が北から1.36m、1.76m、1.52m。 **主軸方位** N-24°-W **概要** P1～P10を柱穴とする掘立柱建物跡である。柱穴それぞれの規模は第15表に記載する。 **その他の施設** 認められなかった。 **遺物検出状況** P1～P5及びP8から縄文土器片、黒曜石片、須恵器片が出土しているが全て流れ込みと判断される。 **遺物** 当該期のものではないが、P8出土の墨書き土器(須恵器碗)を図示した。 **備考** 時期を特定し得る遺物は出土していないが、時期としては中世～近世にかけてのものと思われる。また、隣接する2条の柱列との関係が注目される。

第15表 S802 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10
長軸長(cm)	56	67	56	64	58	58	46	52	51	52
短軸長(cm)	50	51	53	48	42	50	44	46	44	48
深さ(cm)	63	39	66	33	58	57	60	45	23	33



第110図 SB02実測図(1/60)

S B O 2 P 1 土層説明**A A'**

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.2cm$
- ）微量含む。

S B O 2 P 2 土層説明**A A'**

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.5cm$
- ）少量含む。Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.4cm$
- ）微量含む。

S B O 2 P 3 土層説明**A A'**

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）少量含む。Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）微量含む。

S B O 2 P 4 土層説明**B B'**

1. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）・Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）微量含む。

S B O 2 P 5 土層説明**B B'**

1. 黑褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）少量含む。Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）微量含む。

S B O 2 P 6 土層説明**C C'**

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）・Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）微量含む。

2. 黒色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）・Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）微量含む。

S B O 2 P 7 土層説明**C C'**

1. 黒色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）・Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.4cm$
- ）微量含む。

S B O 2 P 8 土層説明**D D'**

1. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）・Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.4cm$
- ）微量含む。

2. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.2cm$
- ）・Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.4cm$
- ）少量含む。

S B O 2 P 9 土層説明**D D'**

1. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）・Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.4cm$
- ）微量含む。

S B O 2 P 10 土層説明**D D'**

1. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（
- $\phi 0.1\sim 0.3cm$
- ）・Ypk（
- $\phi 0.1\sim 0.4cm$
- ）微量含む。



第111図 SB02出土遺物実測図(1/4)

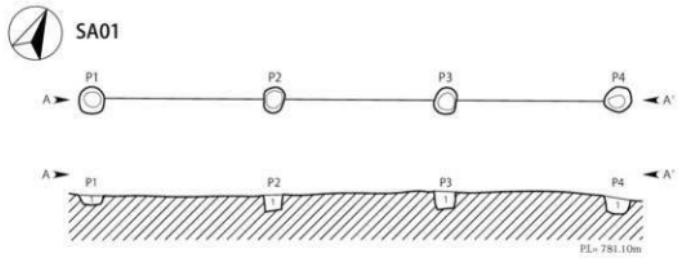
(2) 柱列

SA01 (第112図／第16表)

位置 11 E - 11 (4 区 1 面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **規模** 6.12 m の間にピット 4 基が並ぶ。各柱穴の規模については第16表に記載する。 **主軸方位** N - 65° - E **概要** 柱穴が規則的に並ぶことから柱列とした。 **その他の施設** 認められなかった。 **遺物検出状況** なし。 **遺物** なし。 **備考** 時期を特定し得る遺物は出土していないが、時期としては中世～近世にかけてのものと思われる。また、近くに存在する 2 条の柱穴列と軸線がほぼ平行であり、関係が注目される。

第16表 SA01 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4
長軸長 (cm)	32	32	32	32
短軸長 (cm)	28	24	24	28
深さ (cm)	12	16	20	20



SA01P1 土壌説明

AA'

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）微量含む。

SA01P2 土壌説明

AA'

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）微量含む。

SA01P3 土壌説明

AA'

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）微量含む。

SA01P4 土壌説明

AA'

1. 黒褐色土層：粘性あり。しまり強い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim 0.3cm$ ）・燒土粒（ $\phi 0.1\sim 0.2cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim 0.2cm$ ）微量含む。

第112図 SA01実測図(1/60)

SA02 (第113図／第17表／PL 10)

位置 11C-13 (4区1面西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **規模** 6.84 mの間にピット5基が並ぶ。各柱穴の規模については第17表に記載する。柱間はP1～P5まで順に1.44m、1.40m、

1.52m、1.52m。
主軸方位 N-69°-E
概要 柱穴が規則的に並ぶことから柱列とした。

その他の施設 認められなかった。 遺物検出状況 なし。 遺物 なし。 備考 時期を特定し得る遺物は出土していないが、時期としては中世～近世にかけてのものと思われる。また、ほぼ並行して存在するSA03と一緒に、通路を形成する可能性がある。

SA03 (第113図／第18表／PL 10)

位置 11C-13 (4区1面西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **規模** 4.55 mの間にピット4基が並ぶ。各柱穴の規模については第18表に記載する。

柱間はP1～P4まで順に1.20m、1.08m、1.64m。

主軸方位 N-69°-E
概要 柱穴が規則的に並ぶことから柱列とした。 その他の施設 認められなかった。

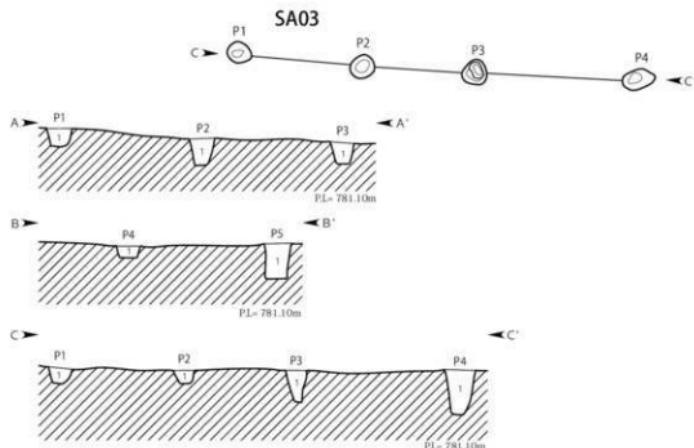
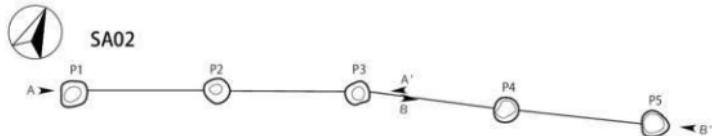
遺物検出状況 なし。 遺物 なし。 備考 時期を特定し得る遺物は出土していないが、時期としては中世～近世にかけてのものと思われる。前述のように、ほぼ並行して存在するSA02と一緒に、通路を形成する可能性がある。

第17表 SA02 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5
長軸長 (cm)	32	32	32	28	36
短軸長 (cm)	32	28	24	28	32
深さ (cm)	20	28	24	12	40

第18表 SA03 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4
長軸長 (cm)	28	28	32	40
短軸長 (cm)	24	28	28	20
深さ (cm)	20	16	38	52



SA02 P1 土壌説明

AA'

- 黒色土層：粘性あり、しまりやや弱い、 $\text{Y}_{\text{pk}} (\phi 0.1 \sim 0.5\text{cm})$ 含む。ローム粒 ($\phi 0.1 \sim 0.3\text{cm}$)・炭化物 ($\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$)微量含む。

SA02 P2 土壌説明

AA'

- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、 $\text{Y}_{\text{pk}} (\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm})$ 微量含む。

SA02 P3 土壌説明

AA'

- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、 $\text{Y}_{\text{pk}} (\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm})$ 微量含む。

SA02 P4 土壌説明

BB'

- 黒色土層：粘性あり、しまりあり。

SA02 P5 土壌説明

BB'

- 黒色土層：粘性あり、しまりあり。

SA03 P1 土壌説明

CC'

- 黒色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、 $\text{Y}_{\text{pk}} (\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm})$ 微量含む。

SA03 P2 土壌説明

CC'

- 黒色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、 $\text{Y}_{\text{pk}} (\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm})$ 微量含む。

SA03 P3 土壌説明

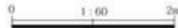
CC'

- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒 ($\phi 0.1 \sim 0.3\text{cm}$)・ $\text{Y}_{\text{pk}} (\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm})$ 微量含む。

SA03 P4 土壌説明

CC'

- 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒 ($\phi 0.1 \sim 0.3\text{cm}$)・ $\text{Y}_{\text{pk}} (\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm})$ 微量含む。



第113図 SA02・03実測図(1/60)

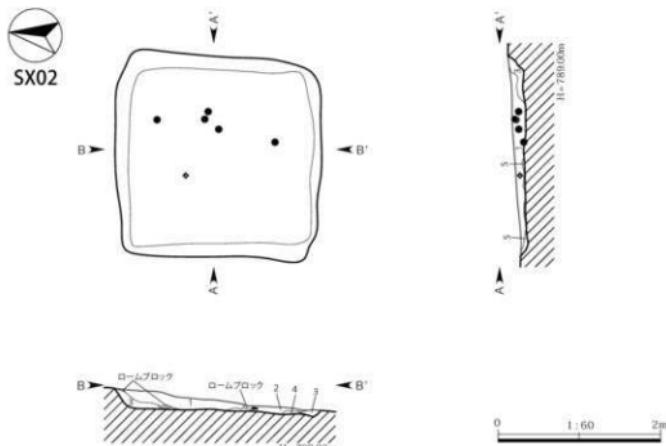
(3) 方形竪穴状遺構

SX02 (第114図／PL 10)

位置 7J-16 (3区2面南寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 削平により遺構上半が失われている。

覆土 灰褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **形状と規模** 順丸方形を呈する。規模は長軸2.56m、短軸2.45m、深さ20cm。床面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。 **主軸方位** N-7°-W **柱穴** なし。

遺物検出状況 繩文土器片6点、土師器表片2点、須恵器瓶片1点、黒曜石片2点が出土した。全て流れ込みと思われる。 **遺物** 全て小破片のため、図示しなかった。 **備考** 本遺構は、中世の遺跡において普遍的に確認される方形竪穴状遺構の範疇に入るものと判断される。



SX02 土層説明

AA'BB'

1. 灰褐色土層：粘性弱く、しまりあり、YPk(φ0.1～0.5cm)含む、ロームブロック(φ0.5cm程度)少量含む、ローム粒(φ0.1～0.2cm)・焼土粒(φ0.1cm程度)・炭化物(φ0.1～0.3cm)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ0.1～0.5cm)・ロームブロック(φ0.5～2.0cm)・YPk(φ0.2～1.0cm)少量含む、炭化物(φ0.1cm程度)微量含む。
3. 灰褐色土層：粘性弱く、しまりやや弱い、ロームブロック(φ0.5～3.0cm)少量含む、ローム粒(φ0.1～0.5cm)・YPk(φ0.1～0.2cm)微量含む。
4. 明黄褐色土層：粘性弱く、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1～0.5cm)多量含む、YPk(φ0.1～0.2cm)微量含む。
5. 浅黄褐色土層：粘性弱く、しまりやや弱い、ロームブロック(φ0.5～5.0cm)多量含む、ローム粒(φ0.1～0.5cm)・YPk(φ0.2～0.5cm)・炭化物(φ0.1cm程度)微量含む。

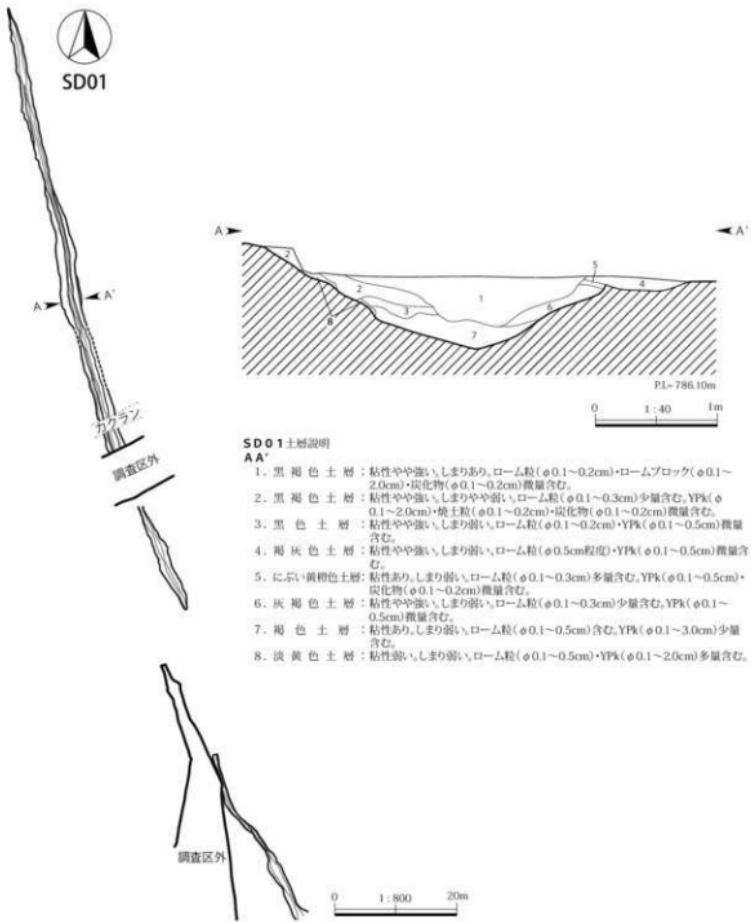
第114図 SX02実測図(1/60)

(4) 溝跡

SD01 (第115・118図／第21表／PL 11・17)

位置 7F-11～15O-1 (3区1面西側中央から5区1面西側中央) **重複関係** なし。 **遺存状態**

3区では擾乱により1ヶ所で、4区では土砂崩れにより1ヶ所で、5区では戦後の削平により2ヶ所で溝が失われている。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **形状と規模** 長さは直線距離で157m、幅は3.4m、確認面からの深さは60cm。断面形は緩い薬研堀。 **主軸方位** N-19°-W **遺物検出状況** 繩文土器片、繩文石器類、土師器表片、須恵器杯片が出土したが、流れ込みと思われる。当該期の遺物は、陶磁器と砥石の2点だけが出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、当該期の遺物2点と石鎌・打製石斧各1点を図示した。 **備考** 江戸期の開発に伴う大溝と思われる。尾根から谷への地形が変化する位置に排水を目的と

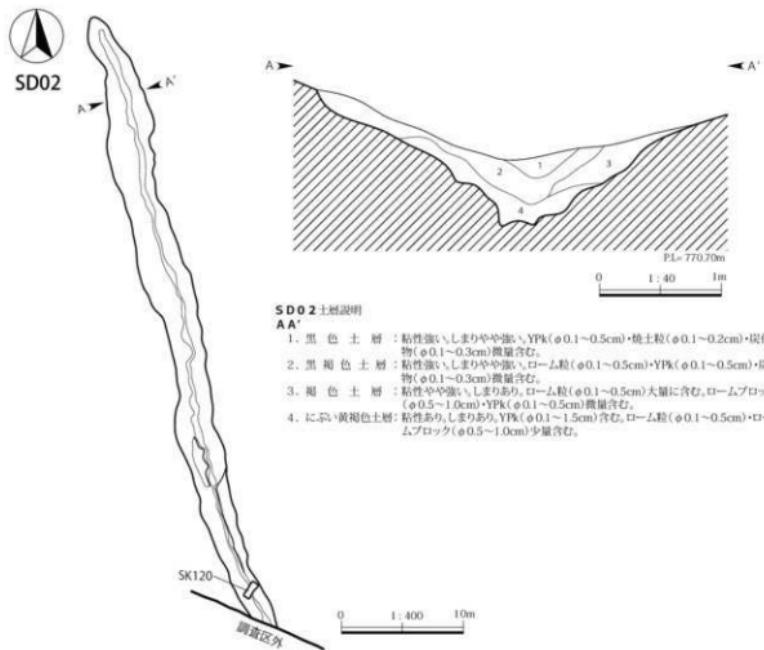


第115図 SD01実測図 (1/40・1/800)

して掘削されたものと推定される。

SD02 (第116図／PL 10)

位置 11 N - 19 ~ 15 Q - 9 (5区1面西端中央から南端) **重複関係** SK120と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **形状と規模** 残存部の長さは直線距離で 51 m、幅は 3.1 m、確認面からの深さは 54 cm。断面形は緩い箱築研。 **主軸方位** N - 16° - W **遺物** 純文土器片 1 点、チャートの剥片 1 点が出土したが、流れ込みと思われる。 **備考** SD01 同様に江戸



第116図 SD02実測図(1/40・1/400)

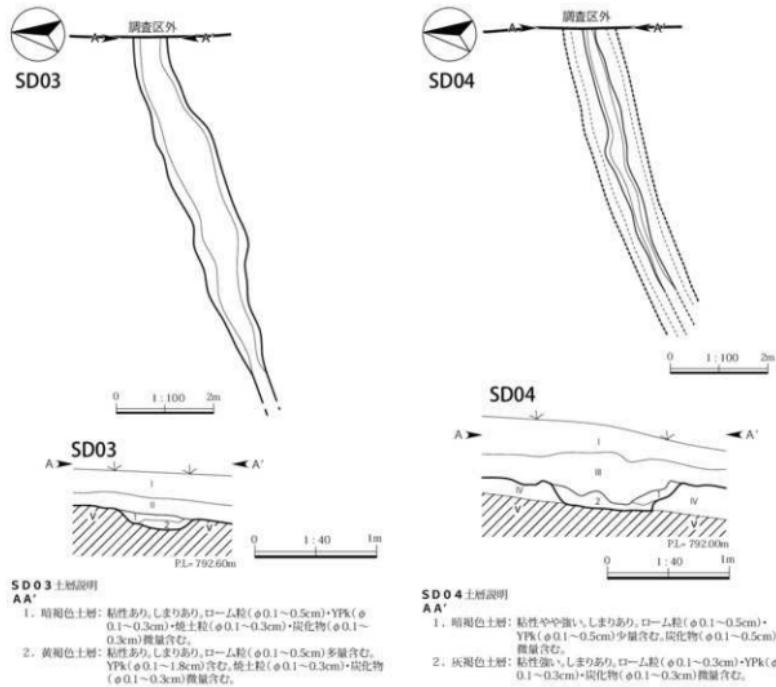
期の開発に伴う大溝と思われる。尾根から谷への地形が変化する位置に掘られている。

SD03 (第 117 図)

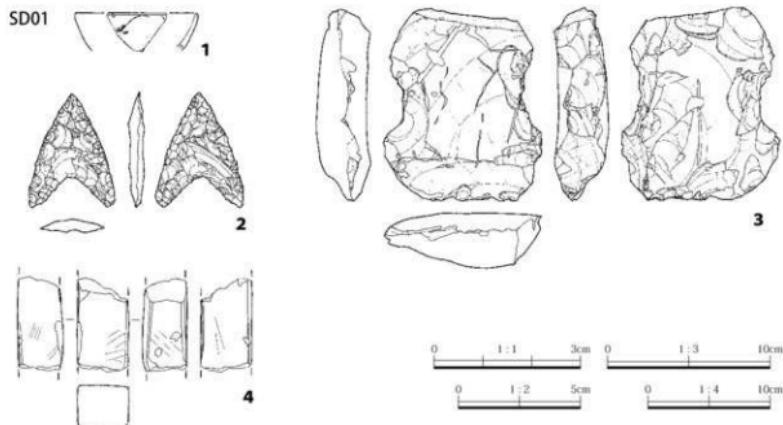
位置 7J-10~7I-11(3区1面中央東端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 明褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **形状と規模** 残存部の長さは直線距離で7.8m、幅は1.1m、確認面からの深さは12cm。断面形は皿状を呈する。 **主軸方位** N-66°-E **遺物** なし。 **備考** この溝の先(東側)の調査区外に草津道の存在が推定され、側溝からの排水を意図したものと推測される。

SD04 (第 117 図)

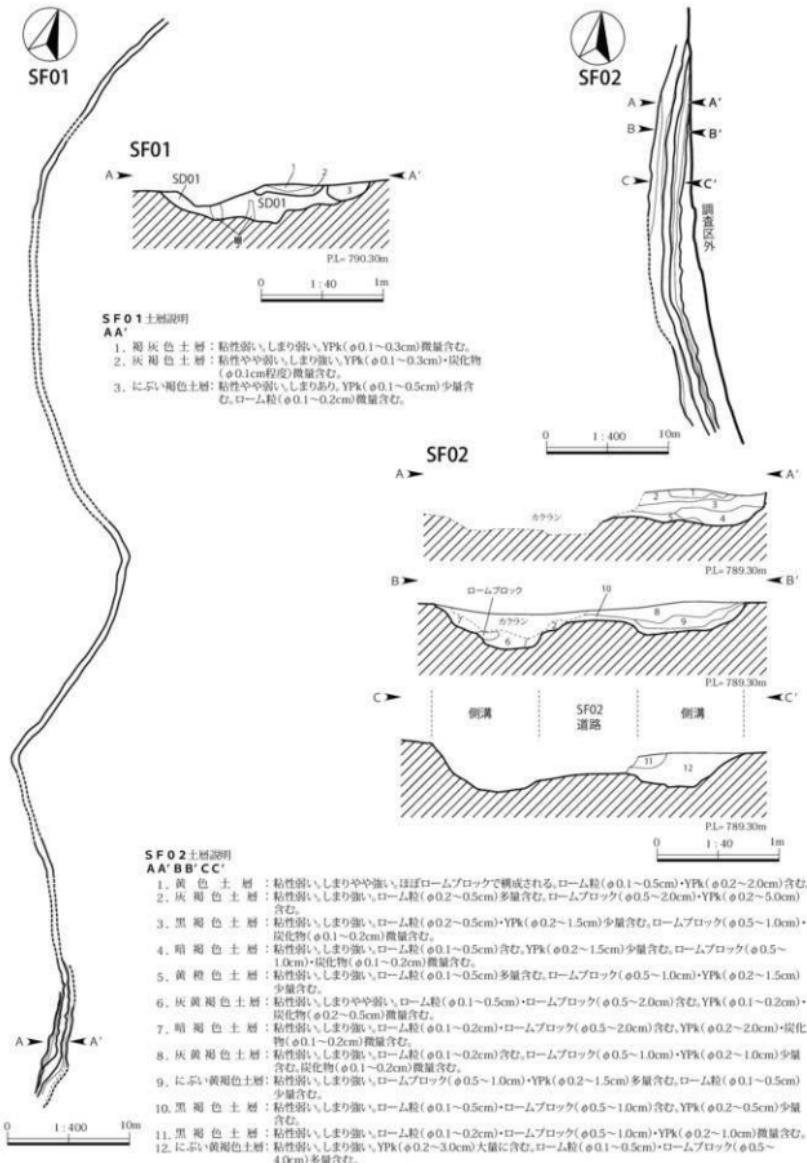
位置 7K-11~7I-12(3区1面中央東端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 明褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **形状と規模** 残存部の長さは直線距離で 5.6m、幅は 0.5m、確認面からの深さは 14cm。断面形は皿状を呈する。 **主軸方位** N-66°-E **遺物** なし。 **備考** この溝の先の調査区外に草津道の存在が推定され、SD03 同様に側溝からの排水を意図したものと考えられる。また、SD03 とは 6m 間隔で平行に掘削されており、関係性が注目される。



第117図 SD03・04実測図(1/40・1/100)



第118図 溝跡出土遺物実測図(1/1・1/2・1/3・1/4)



第119図 SF01・SF02実測図(1/40・1/400)

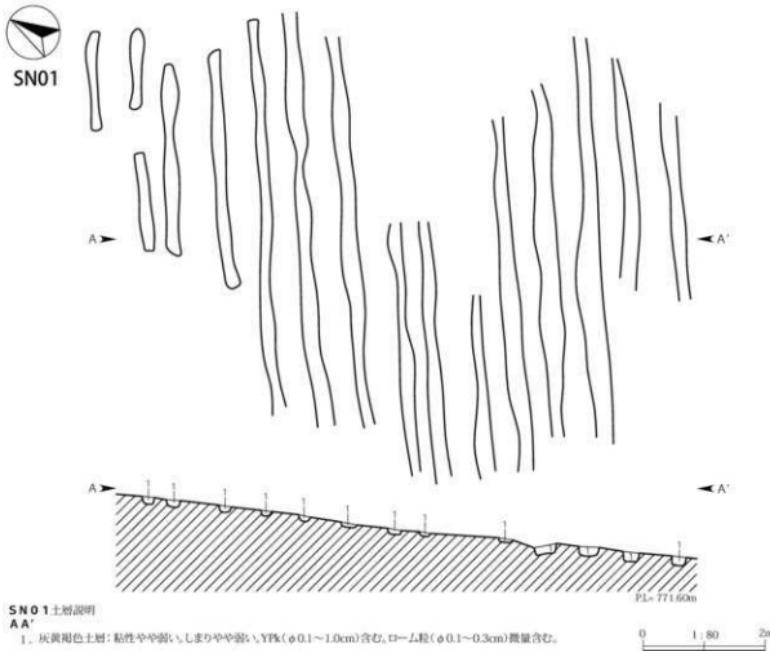
(5) 道跡

SF01 (第119図／PL 11)

位置 3B-17 ~ 7F-16 (3区1面中央北端付近から3区中央西側) **重複関係** SD01と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 調査区の南側で削平により失われている。 **形状と規模** 長さは直線距離で104m、幅は0.6m、硬化面の厚みは8cm。断面皿状の硬化範囲を持つ。 **主軸方位** N-12°-W **遺物検出状況** なし。 **備考** 確認面の標高から江戸時代の踏み分け道と判断され、地形に沿って屈曲する。SD01に沿って南へ続くと思われる。

SF02 (第119図／PL 11)

位置 7K-14 ~ 7L-20 (3区1面南側東端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 一部搅乱により破壊されている。 **形状と規模** 残存部の長さは直線距離で32.8m、路面の幅は0.8m、硬化面の厚みは4cm。両側に側溝を持つ。山側の側溝の規模は幅82cm、路面からの深さ11cm。谷側の側溝の規模は幅90cm、路面からの深さ20cm。山側に比べ谷側の方が水の影響を受け、山側の断面が皿状なのに対し、谷側の断面は階段状となり一段下がる。 **主軸方位** N-11°-W **遺物検出状況** 地表面に現道が走り、本遺構よりも上位に旧道が存在したため、造成客土持ち込みにより縄文土器片1点、スクレイパーと思われる黒曜石片1点、黒曜石の剥片1点が混入していた。 **備考** 道路・側溝の形状から江戸時代に使われた「草津道」がこの道路に当たると判断した。



第120図 SN01実測図(1/80)

(6) 番跡

SN01 (第120図／PL 11)

位置 12 A-15 (5区1面中央東側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** YPKを含む灰褐色土を基調とし、人為堆積を示す。

規模 長軸 9.7m、短軸 7.9mの範囲に、15条の歓サクが確認された。歓高は2~8cm、歓幅は12~42cm。面積は推定で76.63m²。**主軸方位** N-57°-E **遺物検出状況** なし。

備考 発掘調査前まで造成土と表土で覆われており、下位に位置する倒木痕も見られないことから、近年のものとは考えられず、草津道に隣接する近世の番跡と判断した。

(7) ヤックラ

1号ヤックラ (第121図)

位置 7C-7 (3区1面北側西端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上面は伐根により失われている。 **覆土** 黒色土を基調とし、人為堆積を示す。

規模 長軸 126cm、短軸 124cm、深さ 46cm。 **主軸方位** N-26°-E **遺物検出状況** なし。 **備考** 上面にも石が積まれていたものと推測され、周囲に同様の礫が散乱していた。

2号ヤックラ (第121図)

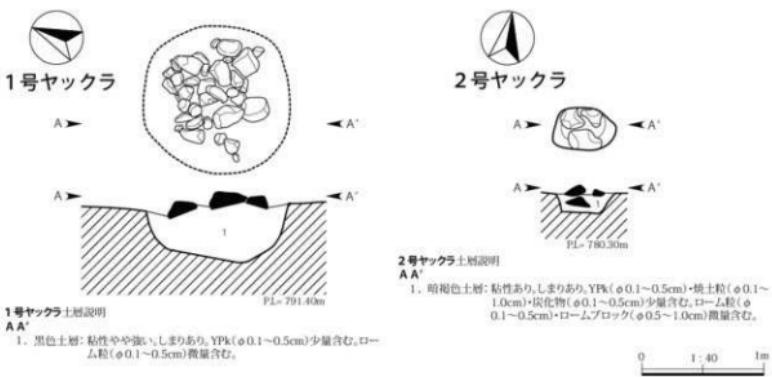
位置 11 G-13 (4区1面中央東寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 上面は削平により失われている。

覆土 黒褐色土を基調とし、人為堆積を示す。 **規模** 長軸 48cm、短軸 34cm、深さ 16cm。 **主軸方位** N-80°-E **遺物検出状況** なし。 **備考** 上面にも石が積まれていたものと推測され、周囲に同様の礫が散乱していた。

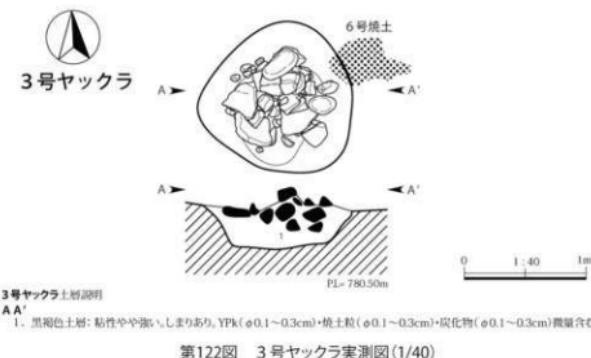
3号ヤックラ (第122図／PL 11)

位置 11 G-12 (4区1面中央東寄り) **重複関係** 6号焼土遺構と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態**

上面は削平により失われている。 **覆土** 黒色土を基調とし、人為堆積を示す。 **規模** 長軸 122cm、短軸 118cm、深さ 32cm。 **主軸方位** N-80°-E **遺物検出状況** なし。 **備考** 上面にも石が積まれていたものと推測され、周囲に同様の礫が散乱していた。2号ヤックラとは2mの間隔しかなく、同時期に存在し、一体として機能していたものと思われる。



第121図 1・2号ヤックラ実測図(1/40)



第122図 3号ヤックラ実測図(1/40)

第4節 その他の遺構と遺物

(1) 土坑

SK02 (第123図)

位置 10 D - 19 (1区3面北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整椭円形を呈する。規模は長軸 118cm、短軸 88cm、深さ 22cm。 **主軸方位** N - 55° - W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 1区に存在する縄文時代前期の土坑や平安時代の陥し穴とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK03 (第123図)

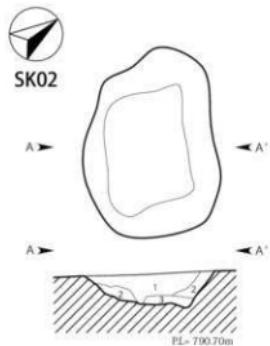
位置 10 D - 20 (1区3面中央西側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圓丸長方形を呈する。規模は長軸 216cm、短軸 114cm、深さ 22cm。 **主軸方位** N - 34° - E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向に傾斜するが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 1区に存在する縄文時代前期の土坑や平安時代の陥し穴とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK04 (第123図)

位置 14 C - 2 (1区3面中央西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 椭円形を呈する。規模は長軸 220cm、短軸 130cm、深さ 20cm。 **主軸方位** N - 32° - E **壁面** 緩やかに立ち上がる。 **底面** 浅い丸底。 **遺物** なし。 **備考** 1区に存在する縄文時代前期の土坑や平安時代の陥し穴とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

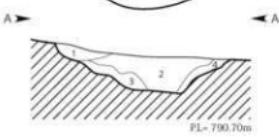
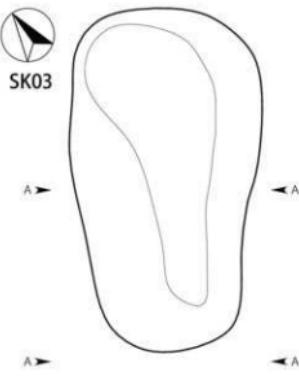
SK05 (第123図)

位置 14 D - 7 (1区3面南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 灰褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整長方形を呈する。規模は長軸 142cm、短軸 78cm、深さ 22cm。 **主軸方位** N - 66° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 北側に大きな段差を有するが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 1区に存在する縄文時代前期の土坑や平安時代の陥し穴とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。



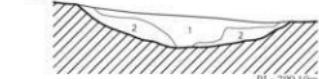
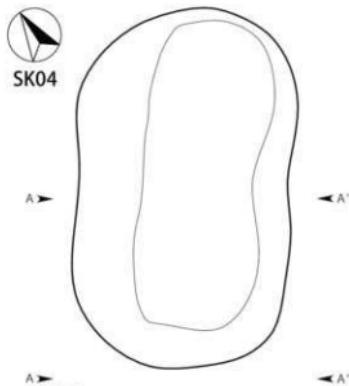
SK02 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ 0.05~0.2cm)・YPk(φ 0.5~3.0cm)・燒土粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.2~0.5cm)微量含む。
2. 灰褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ 0.5~2.0cm)含む。YPk(φ 0.2~0.5cm)・燒土粒(φ 0.2~0.5cm)・炭化物(φ 0.5~1.0cm)微量含む。
3. 明黃褐色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ 0.5~2.0cm)多量含む。YPk(φ 0.2~0.5cm)微量含む。



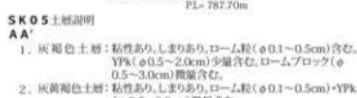
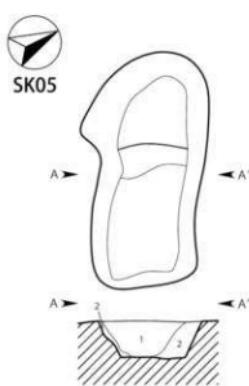
SK03 土層説明
AA'

1. 塗褐色土層: 粘性あり、しまり弱い、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)少量含む。YPk(φ 2.0cm)・燒土粒(φ 1.0cm)・炭化物(φ 1.0cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、ローム粒(φ 0.1~0.2cm)・YPk(φ 0.2~3.0cm)少量含む。炭化物(φ 0.1cm)微量含む。
3. 暗褐色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ 0.1~0.2cm)含む。YPk(φ 0.2~0.5cm)微量含む。
4. 灰褐色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)含む。YPk(φ 0.2~0.4cm)・燒土粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。



SK04 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・ロームブロック(φ 0.5~3.0cm)・YPk(φ 0.5~1.0cm)微量含む。燒土粒(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
2. 灰褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)多量含む。ロームブロック(φ 0.5~1.5cm)含む。YPk(φ 0.2~0.4cm)・燒土粒(φ 0.1~0.2cm)微量含む。

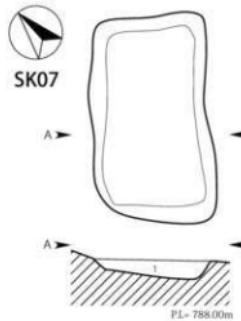


SK05 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)含む。YPk(φ 0.5~2.0cm)少量含む。ロームブロック(φ 0.5~3.0cm)微量含む。
2. 灰黃褐色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・YPk(φ 0.5~2.0cm)微量含む。



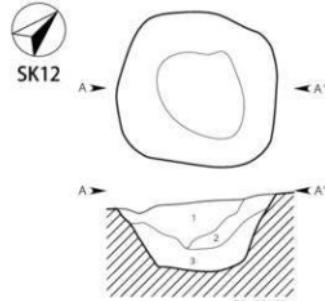
第123図 SK02~05実測図(1/30)



SK07 土層説明

AA'

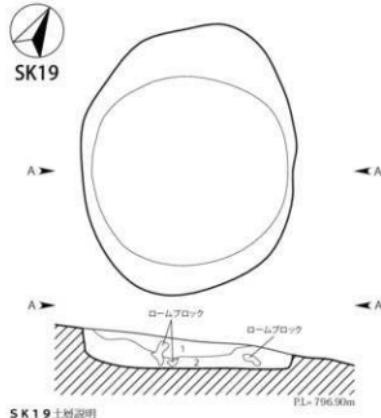
1. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（φ0.5～2.0cm）・YPk（φ0.2～0.5cm）少量含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。



SK12 土層説明

AA'

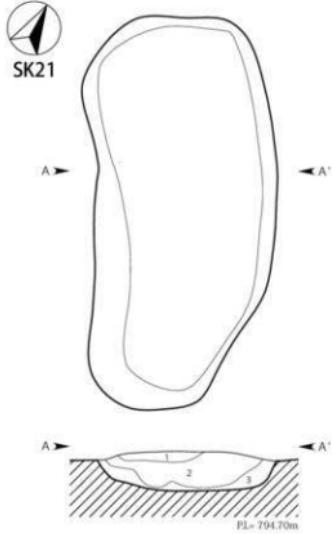
1. 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまり強い、ローム粒（φ0.1～0.2cm）・YPk（φ0.2～1.5cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。
2. 褐灰色土層：粘性やや弱い、しまり強い、ローム粒（φ0.1～0.2cm）少量含む、YPk（φ0.2～1.0cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。
3. 灰褐色土層：粘性やや弱い、しまり強い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）含む、ローム粒（φ0.5～1.0cm）・YPk（φ0.2～1.0cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）微量含む。



SK19 土層説明

AA'

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2. 明褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.0cm）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。



SK21 土層説明

AA'

1. 褐灰色土層：粘性弱い、しまり弱い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～2.0cm）含む、YPk（φ0.2～3.0cm）少量含む。
2. 黑色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・ロームブロック（φ0.5～4.5cm）・YPk（φ0.2～4.0cm）少量含む。
3. ぶく黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ロームブロック（φ0.5～8.5cm）多量含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）含む、YPk（φ0.2～3.0cm）少量含む。



第124図 SK07・12・19・21実測図(1/30)

SK07 (第124図)

位置 14 H-2 (1区3面東端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 圓丸長方形を呈する。規模は長軸126cm、短軸72cm、深さ10cm。 **主軸方位** N-43°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 南東方向に傾斜するが、概ね平坦。 **遺物** なし。
備考 1区に存在する縄文時代前期の土坑や平安時代の陥し穴とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK12 (第124図)

位置 3 B-16 (3区2面北端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は灰黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸195cm、短軸190cm、深さ85cm。 **主軸方位** N-44°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸があるが、概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK19 (第124図)

位置 7 B-3 (3区2面北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸162cm、短軸130cm、深さ22cm。 **主軸方位** N-30°-W **壁面** ほぼ直立して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。
備考 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK21 (第124図)

位置 7 H-5 (3区2面北側西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圓丸長方形を呈する。規模は長軸240cm、短軸112cm、深さ24cm。 **主軸方位** N-33°-W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土が異なり、その形状から近世以降の土坑であると判断した。

SK24 (第125図)

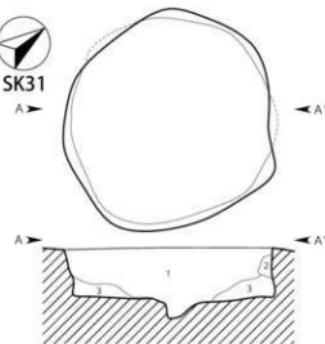
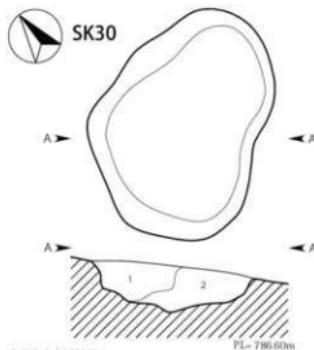
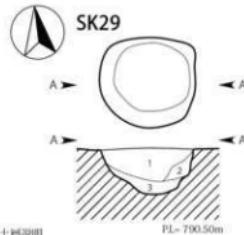
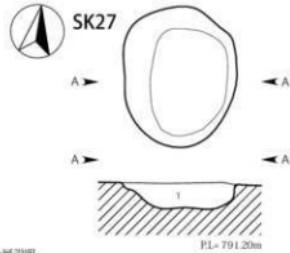
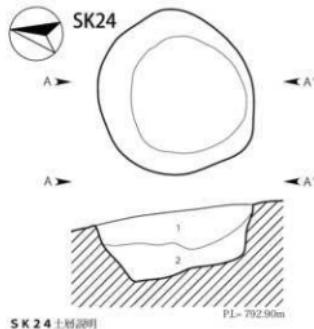
位置 7 F-9 (3区2面中央北寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は暗褐色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸102cm、短軸96cm、深さ40cm。 **主軸方位** N-27°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 西方向に傾斜し、凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK27 (第125図)

位置 7 G-11 (3区2面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** にぶい黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸86cm、短軸68cm、深さ16cm。 **主軸方位** N-10°-W **壁面** 西壁は大きく外傾し、西壁以外はやや外傾して立ち上がる。 **底面** 南方向に傾斜するが、概ね平坦。 **遺物** 縄文土器小片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK28 (第125図)

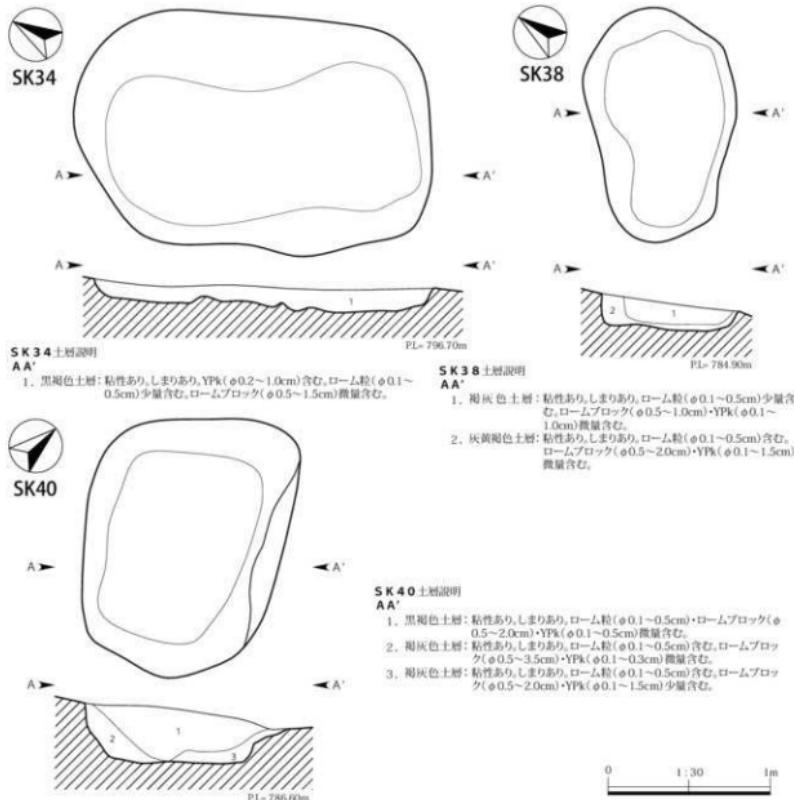
位置 7 F-12 (3区2面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層はにぶい黄褐色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圓丸長方形を呈する。規模は長軸74cm、短軸54cm、深さ10cm。 **主軸方位** N-66°-W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 東方向に傾斜し、凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来な



第125図

SK24~27~31実測図(1/30)





第126図 SK34・38・40実測図(1/30)

かった。

SK29 (第 125 図)

位置 7 H - 12 (3区2面中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は暗褐色土、下層は黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圓丸形を呈する。規模は長軸 58cm、短軸 56cm、深さ 28cm。 **主軸方位** N - 83° - W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 南方向に傾斜し、凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK30 (第 125 図)

位置 7 J - 18 (3区2面南側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は褐灰色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整椭円形を呈する。規模は長軸 144cm、短軸 94cm、深さ 28cm。 **主軸方位** N - 65° - E **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK31 (第 125 図)

位置 6 N - 5 (2 区 2 面北端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 270cm、短軸 250cm、深さ 95cm。 **主軸方位** N - 55° - W **壁面** やや内傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、検出された位置も高いことから、近世以降のものであると判断した。

SK34 (第 126 図)

位置 6 L - 16 (2 区 2 面中央北寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 220cm、短軸 142cm、深さ 14cm。 **主軸方位** N - 29° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、試掘調査時にも高い位置で検出されていることから、近世以降のものであると判断した。

SK38 (第 126 図)

位置 10 Q - 10 (2 区 2 面南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 褐灰色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 144cm、短軸 92cm、深さ 18cm。 **主軸方位** N - 53° - E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK40 (第 126 図)

位置 11 B - 6 (2 区 2 面南東端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圓丸長方形を呈する。規模は長軸 158cm、短軸 120cm、深さ 34cm。 **主軸方位** N - 48° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、時期の判断は出来なかった。

SK44 (第 127 図)

位置 11 D - 20 (4 区 2 面南西端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** にぶい黄褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整円形を呈する。規模は長軸 192cm、短軸 188cm、深さ 51cm。 **主軸方位** N - 37° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、南東隅に円形の土坑状の落ち込みが認められた。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、また、旧地形では表土が厚く堆積していたと思われる。この遺構の成立は戦後の削平後である可能性が高い。

SK45 (第 127 図)

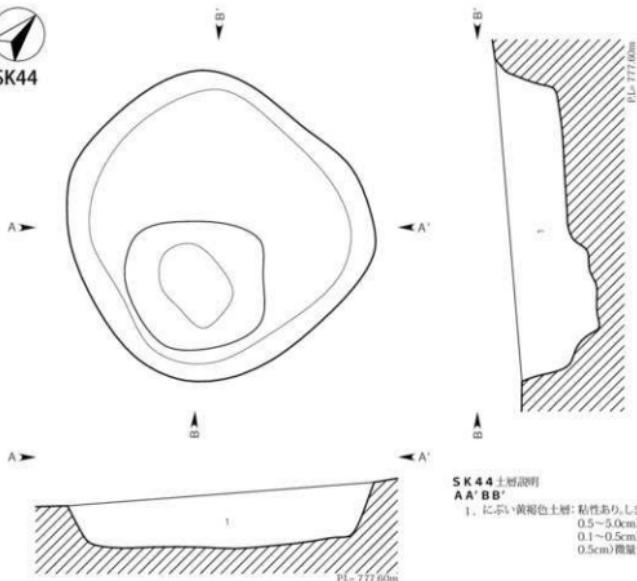
位置 11 I - 18 (4 区 2 面南側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は褐灰色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 120cm、短軸 104cm、深さ 26cm。 **主軸方位** N - 17° - W **壁面** 緩やかに立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片 22 点、黒曜石製石核 1 点、黒曜石製剥片 12 点、チャート製剥片 2 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 繩文土器片が多数出土するが、時期の異なるものが混じるため、後世の廃棄と判断し、繩文時代の遺構に含めなかった。上面の削平が顯著なため、時期の判断は出来なかった。

SK54 (第 127 図)

位置 11 B - 12 (4 区 2 面北西側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層はにぶい黄橙色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整梢円形を呈する。規模は長軸 152cm、短



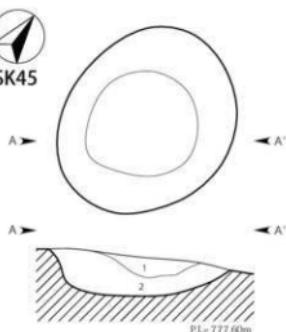
SK44

SK44 土層説明
AA' BB'

1. に赤い黄褐色土層：粘性あり、しまりあり、ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 5.0\text{cm}$ ）大層に含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5\text{cm}$ ）多量含む。YPk（ $\phi 0.2\sim 0.5\text{cm}$ ）微量含む。



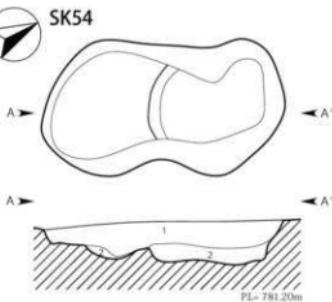
SK45

SK45 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり強い、ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5\text{cm}$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim 0.4\text{cm}$ ）少量含む。粘土粒（ $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ ）微量含む。
2. 褐灰色土層：粘性弱い、しまり強い、YPk（ $\phi 0.1\sim 0.3\text{cm}$ ）多量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.5\text{cm}$ ）少量含む。炭化物（ $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ ）微量含む。



SK54

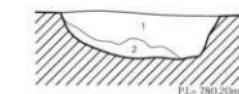
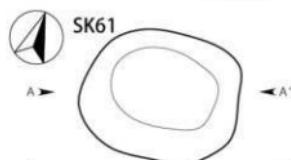
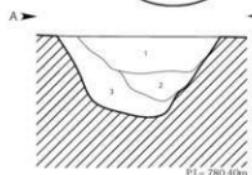
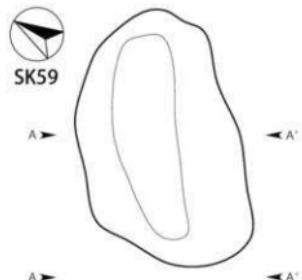
SK54 土層説明
AA'

1. 黒色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.4\text{cm}$ ）含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 11.0\text{cm}$ ）少量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim 0.8\text{cm}$ ）微量含む。
2. に赤い黄褐色土層：粘性あり、しまりやや弱い、ローム粒（ $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ ）含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim 11.0\text{cm}$ ）少量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ ）微量含む。



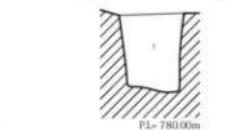
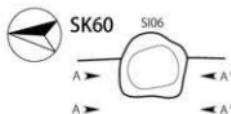
第127図 SK44・45・54実測図(1/30)

軸 72cm、深さ 27cm。 主軸方位 N-20°-E 壁面 外傾して立ち上がる。 底面 北側が一段下がるが、概ね平坦。 遺物 純文土器深鉢片 8点が出土したが、図示しなかった。 備考 地形から縄文土器は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。



SK 61 土層説明

- AA'**
1. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、炭化物(φ 0.2~7.5cm)多量含む。YPh(φ 0.1~1.0cm)・純土粒(φ 0.1~0.5cm)少量化。
 2. 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPh(φ 0.1~0.5cm)少量化含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。



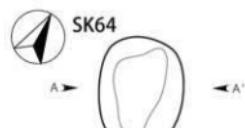
SK 60 土層説明

- AA'**
1. 暗褐色土層：粘性あり、しまりやや弱い、炭化物(φ 0.1~2.5cm)含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)少量化含む。ロームブロック(φ 0.5~1.5cm)・YPh(φ 0.1~0.5cm)・焼土粒(φ 0.1~0.2cm)微量含む。

SK 59 土層説明

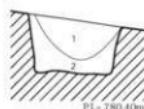
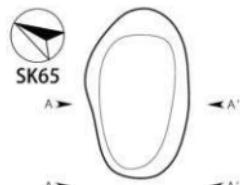
AA'

1. 褐灰色土層：粘性やや弱い、しまりあり。YPh(φ 0.1~1.0cm)・炭化物(φ 0.2~0.5cm)少量含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)微量含む。
2. 褐黃褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・YPh(φ 0.1~0.8cm)少量含む。炭化物(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
3. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・YPh(φ 0.1~1.0cm)微量含む。



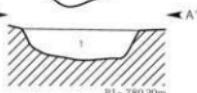
SK 64 土層説明

- AA'**
1. 暗褐色土層：粘性弱い、しまりあり。ローム粒(φ 0.1~0.2cm)・YPh(φ 0.1~0.4cm)微量含む。



SK 65 土層説明

- AA'**
1. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり、炭化物(φ 0.2~7.5cm)多量含む。YPh(φ 0.1~1.0cm)・純土粒(φ 0.1~0.5cm)少量化。
 2. 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、YPh(φ 0.1~0.5cm)少量化含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・炭化物(φ 0.1~0.5cm)微量含む。



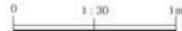
SK 66 土層説明

- AA'**
1. 黒褐色土層：粘性あり、しまりあり。YPh(φ 0.1~0.5cm)含む。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)少量化。

SK 65 土層説明

AA'

1. 黑色土層：粘性やや弱い、しまり弱い。ローム粒(φ 0.1~0.2cm)・YPh(φ 0.1~0.2cm)微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり。ローム粒(φ 0.1~0.5cm)・YPh(φ 0.1~0.1cm)少量化含む。ロームブロック(φ 0.1~0.2cm)微量含む。



第128図 SK59~61・64~66実測図(1/30)

SK59 (第 128 図)

位置 11 A - 15 (4 区 2 面西側中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は褐灰色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 154cm、短軸 98cm、深さ 49cm。 **主軸方位** N - 50° - E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 南方向に傾斜し、やや凹凸がある。 **遺物** 繩文土器深鉢片 10 点、土師器壺片 10 点、黒曜石製剝片 3 点、黒色頁岩製剝片 1 点、チャート製石片 1 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 地形から縄文土器は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK60 (第 128 図)

位置 11 G - 14 (4 区 2 面中央) **重複関係** S106 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 概ね良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 不整圓丸方形を呈する。規模は長軸 40cm、短軸 38cm、深さ 48cm。 **主軸方位** N - 86° - E **壁面** ほぼ直立して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片 4 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 地形から縄文土器は流れ込みと思われる。覆土は付近に存在する撫亂と類似しており、撫亂からは昭和 30 年代の缶詰等が出土するため、時期を近代以降と判断した。

SK61 (第 128 図)

位置 11 B - 16 (4 区 2 面西側中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 100cm、短軸 82cm、深さ 28cm。 **主軸方位** N - 70° - E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 剥片石器類 1 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 地形から剥片は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK64 (第 128 図)

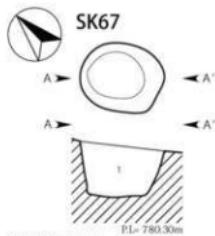
位置 11 B - 15 (4 区 2 面西側中央寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 褐灰色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 68cm、短軸 52cm、深さ 34cm。 **主軸方位** N - 29° - W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片 3 点、黒曜石製剝片 1 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 地形から縄文土器は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK65 (第 128 図)

位置 11 C - 15 (4 区 2 面西側中央寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 106cm、短軸 60cm、深さ 36cm。 **主軸方位** N - 60° - E **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片 1 点、土師器壺片 3 点、須恵器杯碗片 2 点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

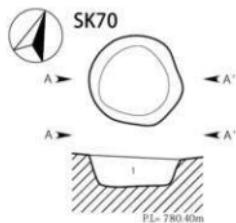
SK66 (第 128 図)

位置 11 B - 15 (4 区 2 面西側中央寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 76cm、短軸 72cm、深さ 19cm。 **主軸方位** N - 24° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。



SK67 土層説明
AA'

1. 品褐色土層: 黏性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~0.5cm)含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。



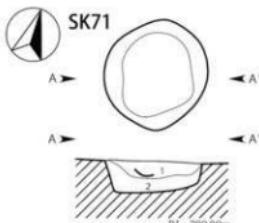
SK70 土層説明
AA'

1. 品褐色土層: 黏性あり、しまりあり、YPk(φ0.1~1.0cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.5cm)少量含む。炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。



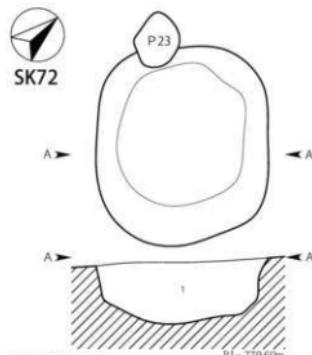
SK69 土層説明
AA'

1. 品褐色土層: 黏性やや弱い、しまりやや強い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.4cm)少量含む。



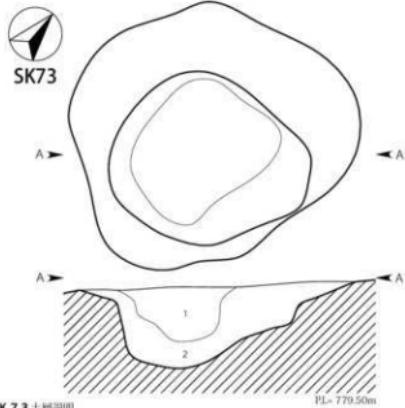
SK71 土層説明
AA'

1. 黒色土層: 黏性弱い、しまりあり。YPk(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。
2. 品褐色土層: 黏性弱い、しまりあり。YPk(φ0.1~0.3cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。



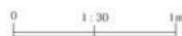
SK72 土層説明
AA'

1. 品褐色土層: 黏性あり、しまりやや強い。YPk(φ0.1~4.0cm)多量含む。ローム粒(φ0.1~0.2cm)微量含む。



SK73 土層説明
AA'

1. 黒色土層: 黏性やや弱い、しまりあり。YPk(φ0.1~0.7cm)少量含む。ローム粒(φ0.1~0.3cm)微量含む。
2. 品褐色土層: 黏性やや弱い、しまりあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)・YPk(φ0.1~0.3cm)少量含む。



第129図 SK67・69~73実測図(1/30)

SK67 (第129図)

位置 11 C - 15 (4区2面西側中央寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 52cm、短軸 42cm、深さ 32cm。 **主軸方位** N - 47° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK69 (第129図)

位置 11 B - 14 (4区2面西側北寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 93cm、短軸 60cm、深さ 38cm。 **主軸方位** N - 6° - W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片 5点、土師器杯片 1点、頁岩製剝片 1点、チャート製石鐵 1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK70 (第129図)

位置 11 B - 15 (4区2面西側中央寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 56cm、短軸 56cm、深さ 19cm。 **主軸方位** N - 21° - W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片 1点、黒曜石製剝片 1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK71 (第129図)

位置 11 D - 13 (4区2面西側中央寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 68cm、短軸 66cm、深さ 20cm。 **主軸方位** N - 17° - W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片 1点、土師器瓶片 12点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK72 (第129図)

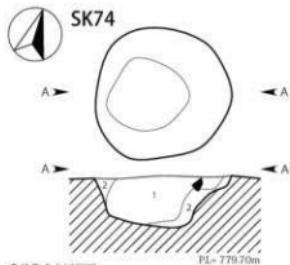
位置 11 D - 16 (4区2面西側中央寄り) **重複関係** P23と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 方形を呈する。規模は長軸 122cm、短軸 108cm、深さ 37cm。 **主軸方位** N - 47° - W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK73 (第129図)

位置 11 D - 17 (4区2面西側中央寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整円形を呈する。規模は長軸 182cm、短軸 156cm、深さ 50cm。 **主軸方位** N - 49° - E **壁面** 下位は北壁が大きく外傾し、他はやや外傾して立ち上がり、上位は大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片 15点、黒曜石製剝片 5点、頁岩製打製石斧小片 1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、繩文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

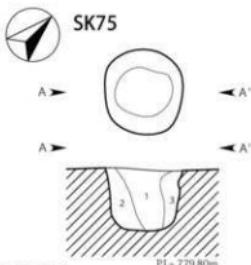
SK74 (第130図)

位置 11 D - 16 (4区2面西側中央寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、



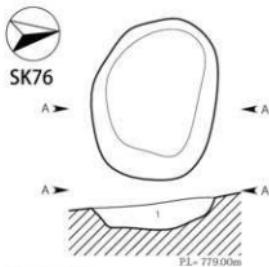
SK74 土層説明
AA'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）・炭土粒（ $\phi 0.1\sim0.2cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。
2. 明黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）多量含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）・炭化物（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。



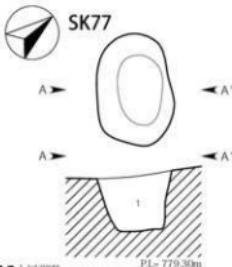
SK75 土層説明
AA'

1. 黒色土層：粘性あり、しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）微量含む。
2. にぶい黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）含む。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。ロームブロック（ $\phi 0.5\sim1.0cm$ ）微量含む。
3. 黄褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.4cm$ ）微量含む。



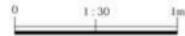
SK76 土層説明
AA'

1. 黒色土層：粘性あり、しまりやや強い。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）・YPk（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）少量含む。



SK77 土層説明
AA'

1. 黒色土層：粘性あり、しまりやや強い。YPk（ $\phi 0.1\sim0.5cm$ ）少量含む。ローム粒（ $\phi 0.1\sim0.3cm$ ）微量含む。



第130図 SK74~77実測図(1/30)

自然堆積を示す。 平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 82cm、短軸 80cm、深さ 32cm。 主軸方位 N = 74° - E 壁面 下位は外傾して立ち上がり、上位は東壁が段をもって外傾する。 底面 概ね平坦。 遺物 繩文土器小片 3点、チャート製石匙片 1点が出土したが、図示しなかった。 備考 遺物は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK75 (第130図)

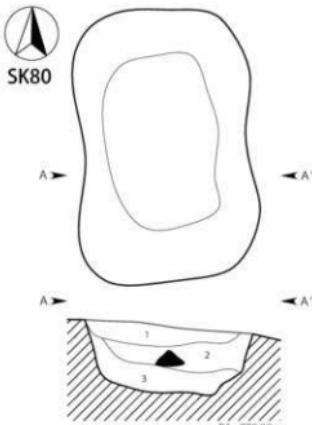
位置 11 D - 16 (4区2面西側中央寄り) 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 中央は黒色土、壁際はにぶい黄褐色～黄褐色土が基調で、人為堆積を示す。 平面形と規模 円形を呈する。規模は長軸 52cm、短軸 48cm、深さ 38cm。 主軸方位 N = 41° - W 壁面 ほぼ直立して立ち上がる。 底面 概ね平坦。 遺物 土器師表片 1点が出土したが、図示しなかった。 備考 遺物は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。



SK78 土層説明

AA'

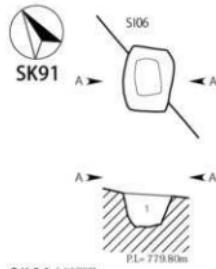
- 褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）、YPk（φ0.1～0.5cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.0cm）微量含む。
- 暗褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）、YPk（φ0.1～1.5cm）含む。
- 灰褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.5cm）、YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。



SK80 土層説明

AA'

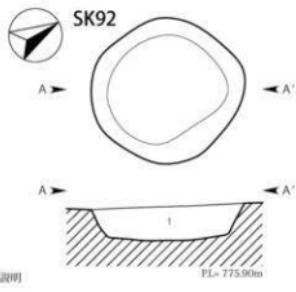
- 灰褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ロームブロック（φ0.5～1.5cm）、YPk（φ0.1～1.0cm）含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）・炭化物（φ0.2～0.5cm）少量含む、ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ロームブロック（φ0.5～1.5cm）、YPk（φ0.1～1.0cm）含む、ローム粒（φ0.1～0.3cm）、YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
- 褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）、ロームブロック（φ0.5～5.5cm）含む、YPk（φ0.1～0.5cm）、土粒（φ0.1～0.3cm）・炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。



SK91 土層説明

AA'

- 黒褐色土層：粘性弱い、しまり強い、ローム粒（φ0.1cm程度）、YPk（φ0.1～0.2cm）、土粒（φ0.1cm程度）・炭化物（φ0.1～0.2cm）微量含む。



SK92 土層説明

AA'

- 黒色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、ローム粒（φ0.1～0.5cm）、YPk（φ0.1～0.5cm）少量含む、ロームブロック（φ0.5～1.0cm）微量含む。



第131図 SK78・80・91・92実測図(1/30)

SK76 (第130図)

位置 11B-17 (4区2面西侧南寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸100cm、短軸76cm、深さ17cm。 **主軸方位** N-80°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器深鉢片1点、繩文土器小片5点、黒曜石製石核片1点、黒曜石製剥片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思

われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK77（第130図）

位置 11 B-18（4区2面西侧南寄り） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸70cm、短軸46cm、深さ34cm。 **主軸方位** N-55°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 縄文土器小片2点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK78（第131図）

位置 11 C-19（4区2面西侧南端） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は褐灰色土、下層は暗褐色～灰褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 不整圓丸方形を呈する。規模は長軸142cm、短軸120cm、深さ30cm。 **主軸方位** N-13°-E **壁面** 下位は大きく外傾して立ち上がり、上位は北壁が段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK80（第131図）

位置 11 H-16（4区2面中央南寄り） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は灰黄褐色土、下層は黒褐色～褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 圓丸長方形を呈する。規模は長軸166cm、短軸104cm、深さ42cm。 **主軸方位** N-2°-W **壁面** やや外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 縄文土器深鉢片1点、縄文土器小片1点、土師器腹片8点、土師器腹小片2点、土師器杯片3点、須恵器壺片1点、須恵器杯碗片2点、須恵器杯碗小片1点、黒曜石製剥片2点、チャート製石核片2点、チャート製剥片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK91（第131図）

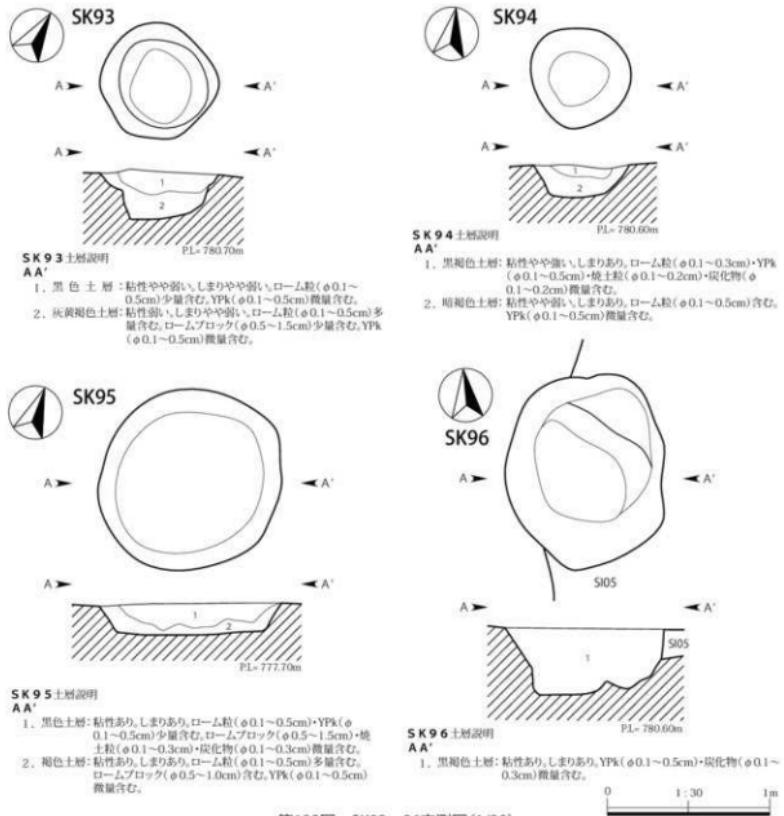
位置 11 G-15（4区2面中央） **重複関係** S106と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 長方形を呈する。規模は長軸40cm、短軸30cm、深さ20cm。 **主軸方位** N-34°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 地形から縄文土器は流れ込みと思われる。覆土は付近に存在する擾乱と類似しており、擾乱からは昭和30年代の缶詰等が出土するため、時期を近代以降と判断した。

SK92（第131図）

位置 11 K-17（4区2面南東端） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸96cm、短軸90cm、深さ21cm。 **主軸方位** N-11°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK93（第132図）

位置 11 F-11（4区2面中央北側） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は灰黃褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸70cm、短軸70cm、深さ31cm。 **主軸方位** N-0° **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。



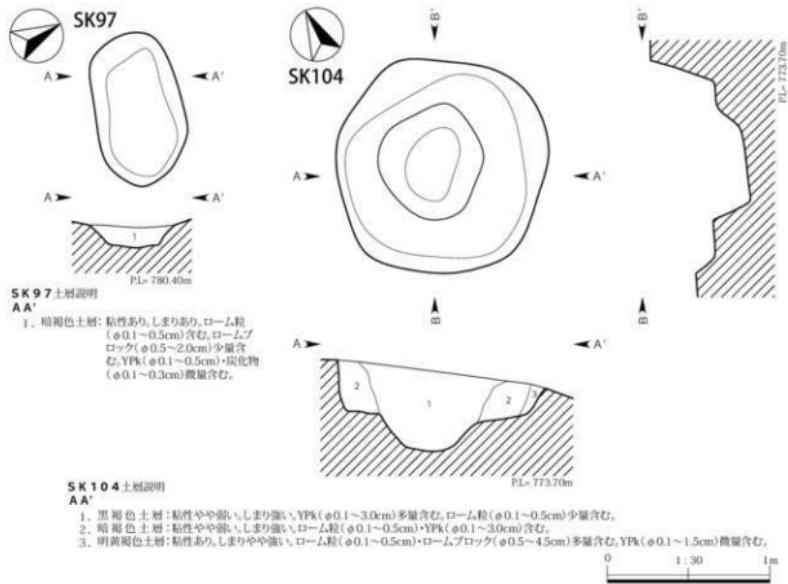
第132図 SK93～96実測図(1/30)

SK94 (第132図)

位置 11G-12 (4区2面中央北側) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸62cm、短軸60cm、深さ20cm。 **主軸方位** N-10°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器小片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK95 (第132図)

位置 11M-11 (4区2面東側南端) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸120cm、短軸110cm、深さ19cm。 **主軸方位** N-39°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。



第133図 SK97・104実測図(1/30)

SK96 (第132図)

位置 11 G - 12 (4区2面中央北側) **重複関係** SI05と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸118cm、短軸96cm、深さ17cm。 **主軸方位** N - 6° - E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** 繩文土器小片1点、土師器片1点、土師器蓋小片1点が出土したが、図示しなかった。 **備考** 遺物は流れ込みと思われ、縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK97 (第133図)

位置 11 G - 12 (4区2面中央北側) **重複関係** SI05と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸95cm、短軸54cm、深さ13cm。 **主軸方位** N - 72° - W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 凹凸がある。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なるため、時期の判断は出来なかった。

SK104 (第133図)

位置 11 O - 14 (5区2面北側中央) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 中央に黒褐色土、壁際に暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸130cm、短軸128cm、深さ50cm。 **主軸方位** N - 25° - E **壁面** 下位は大きく外傾して立ち上がり、上位は段をもって外傾する。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 縄文時代や平安時代の遺構とは覆土や形状が異なり、また、旧地形では表土が厚く堆積していたと思われる。この遺構の成立は戦後の削平後である可能性が高い。

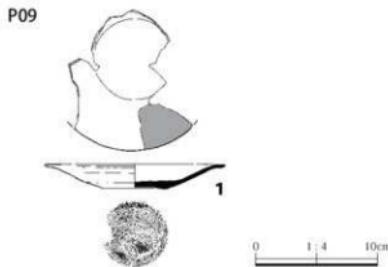
(2) ピット (第134図／第19・21表／PL 17)

今回の調査では、ピットは25基確認された。調査区分では、1区6基、3区5基、4区14基となっている。全てのピットが掘立柱建物跡や柱列とは無関係に存在している。ピットの平面形や規模などの諸属性は第19表に記載した。

第19表 ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考	遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ						長軸長	短軸長	深さ		
P01	10 F - 19	円形	36	36	34	B		P19	11 C - 13	円形	22	22	22	A	
P02	10 F - 19	円形	30	28	28	B		P20	11 F - 13	円形	38	36	36	B	
P03	10 F - 19	椭円形	54	40	22	C		P21	11 E - 17	円形	54	50	26	B	
P04	10 G - 20	円形	30	26	24	B		P22	11 F - 11	円形	28	24	18	A	
P05	14 E - 4	椭円形	40	33	26	C		P23	11 D - 16	椭円形	34	28	16	A	
P06	14 D - 5	円形	38	30	30	B		P24	11 D - 17	円形	50	48	30	A	
P07	7 I - 11	円形	42	40	44	C		P25	10 T - 13	不整円形	46	42	30	A	
P08	7 G - 12	椭円形	66	48	26	C		P26	11 B - 12	円形	28	26	14	C	
P09	11 J - 5	椭円形	Q41	36	34	C		P27	11 B - 12	円形	30	26	36	C	
P10	11 J - 5	円形	52	44	32	C		P28	11 B - 12	不整円形	44	40	19	C	
P11	7 G - 13	円形	32	32	54	B		P29	11 B - 13	円形	46	42	15	C	
P17	11 B - 13	楕円形	32	30	31	A		P30	11 B - 13	円形	30	26	16	C	
P18	11 C - 14	円形	30	26	26	A									

※ A: 黒色土 B: 黒褐色土 C: 暗褐色土



第134図 ピット出土遺物実測図(1/4)

(3) 焼土遺構

1号焼土 (第135図)

位置 10 D - 20 (1区3面中央北寄り) 重複関係 なし。 遺存状態 焼土面の一部が失われている。

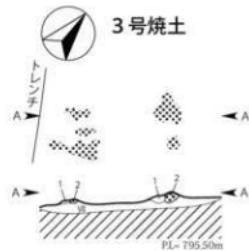
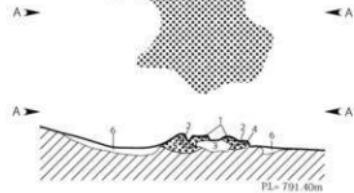
覆土 褐灰色土を基調とする。焼土厚は6cm。 形状と規模 平面形は不整形を呈す。規模は長軸110cm、短軸78cm、掘り方の深さは12cm。 主軸方位 N - 44° - W 遺物 なし。 備考 焼土上面まで戦後の削平にあっており、時期等は不明である。

3号焼土 (第135図)

位置 7 E - 4 (3区2面中央北寄り) 重複関係 なし。 遺存状態 焼土面の一部が失われている。 覆土 にぶい黄褐色土を基調とする。焼土厚は3cm。 形状と規模 平面形は不整形を呈す。規模は長軸83cm、短軸36cm、掘り方の深さは8cm。 主軸方位 N - 35° - E 遺物 なし。 備考 歸属時期は、遺構を確認した位置が近世の道路跡の検出面に近く、近世以降の可能性が高い。

4号焼土 (第135図)

位置 15 F - 1 (4区1面南端) 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黄色土を基調とする。焼土厚は8cm。 形状と規模 平面形は不整形を呈す。規模は長軸68cm、短軸64cm、掘り方の深さは10cm。



3号焼土土層説明
AA'

1. にふい黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、燒土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)微量含む。
2. 黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い、ほぼ燒土粒で構成される。YPK($\phi 0.1\sim0.5cm$)微量含む。

1号焼土土層説明

AA'

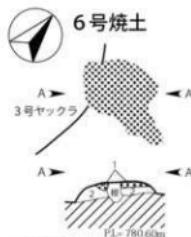
1. にふい赤褐色土層：粘性弱い、しまり強い、燒土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。ローム粒($\phi 0.1\sim0.3cm$)・YPK($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。
2. 棕色土層：粘性弱い、しまり強い、燒土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)多量含む。
3. 暗褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・YPK($\phi 0.1\sim0.5cm$)・燒土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。
4. にふい褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・燒土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・YPK($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。
5. にふい赤褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、燒土粒($\phi 0.1\sim0.8cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim1.5cm$)含む。ローム粒($\phi 0.1\sim1.0cm$)・YPK($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。
6. 褐灰色土層：粘性あり、しまり弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・YPK($\phi 0.1\sim0.5cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim1.5cm$)微量含む。



4号焼土土層説明

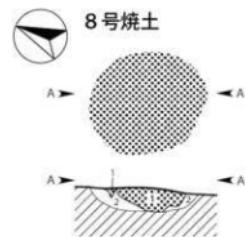
AA'

1. 棕色土層：粘性弱い、しまり弱い、ほぼ燒土ブロックで構成される。ローム粒($\phi 0.1cm$ 程度)・YPK($\phi 0.2cm$ 程度)微量含む。
2. 棕色土層：粘性弱い、しまり弱い、燒土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)多量含む。ローム粒($\phi 0.1\sim0.3cm$)・YPK($\phi 0.2cm$ 程度)・炭化物($\phi 0.1cm$ 程度)微量含む。
3. 黄色土層：粘性やや弱い、しまりやや弱い、ローム粒($\phi 0.1\sim0.3cm$)大量に含む。
4. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒($\phi 0.1\sim0.3cm$)・燒土粒($\phi 0.1\sim0.4cm$)少量含む。炭化物($\phi 0.1cm$ 程度)微量含む。
5. 灰褐褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・燒土粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)少量含む。YPK($\phi 0.1\sim0.5cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。



6号焼土土層説明
AA'

1. 黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い、ほぼ燒土粒で構成される。YPK($\phi 0.1\sim0.5cm$)微量含む。
2. 褐灰色土層：粘性あり、しまりあり、燒土粒($\phi 0.1\sim1.0cm$)少量含む。



8号焼土土層説明

AA'

1. 黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い、燒土粒($\phi 0.1\sim7.5cm$)大量に含む。YPK($\phi 0.1\sim1.0cm$)少量含む。炭化物($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。
2. 灰褐褐色土層：粘性やや弱い、しまり強い、ローム粒($\phi 0.1\sim0.5cm$)・ロームブロック($\phi 0.5\sim7.0cm$)多量含む。YPK($\phi 0.1\sim0.5cm$)・燒土粒($\phi 0.1\sim0.2cm$)・炭化物($\phi 0.1\sim0.3cm$)微量含む。



第135図 1・3・4・6・8号焼土実測図(1/30)

主軸方位 N-51°-W **遺物** なし。 **備考** 帰属時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

6号焼土（第135図）

位置 11 G-12（4区1面中央） **重複関係** 3号ヤックラと重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 褐灰色土を基調とする。焼土厚は2cm。 **形状と規模** 平面形は不整形を呈す。規模は長軸66cm、短軸36cm、掘り方の深さは10cm。 **主軸方位** N-89°-W **遺物** なし。 **備考** 帰属時期は、3号ヤックラより新しいことから、近世以降と考えられる。

8号焼土（第135図）

位置 11 E-11（4区1面中央） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 灰黄褐色土を基調とする。焼土厚は7cm。 **形状と規模** 平面形は円形を呈す。規模は長軸70cm、短軸60cm、掘り方の深さは14cm。 **主軸方位** N-24°-W **遺物** なし。 **備考** 帰属時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

9号焼土（第136図）

位置 11 E-12（4区1面中央） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とする。焼土厚は4cm。 **形状と規模** 平面形は不整形を呈す。規模は長軸50cm、短軸46cm、掘り方の深さは9cm。 **主軸方位** N-71°-E **遺物** なし。 **備考** 帰属時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

10号焼土（第136図）

位置 11 D-12（4区1面中央） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とする。焼土厚は12cm。 **形状と規模** 平面形は梢円形を呈す。規模は長軸122cm、短軸84cm、掘り方の深さは18cm。 **主軸方位** N-40°-E **遺物** なし。 **備考** 帰属時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

11号焼土（第136図）

位置 11 E-13（4区1面中央） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とする。焼土厚は6cm。 **形状と規模** 平面形は不整形を呈す。規模は長軸90cm、短軸50cm、掘り方の深さは11cm。 **主軸方位** N-49°-W **遺物** なし。 **備考** 帰属時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

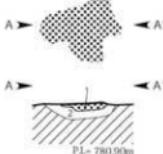
12号焼土（第136図）

位置 11 C-13（4区1面中央） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** にぶい黄褐色土を基調とする。焼土厚は2cm。 **形状と規模** 平面形は不整形を呈す。規模は長軸46cm、短軸34cm、掘り方の深さは11cm。 **主軸方位** N-71°-E **遺物** なし。 **備考** 帰属時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

13号焼土（第136図）

位置 11 C-14（4区1面中央西寄り） **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 褐灰色土を基調とする。焼土厚は6cm。 **形状と規模** 平面形は梢円形を呈す。規模は長軸40cm、短軸32cm、掘り方の深さは9cm。 **主軸方位** N-78°-E **遺物** なし。 **備考** 帰属時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高

9号焼土



9号焼土土層説明

AA'

1. 黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い、ほぼ統土粒で構成される。Ypk(φ0.1~0.5cm)少額含む。
2. 黒褐色土層：粘性やや弱い、しまり強い、Ypk(φ0.1~0.3cm)・統土粒(φ0.1~0.5cm)少額含む。

10号焼土

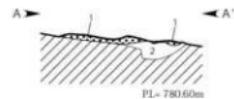


10号焼土土層説明

AA' BB'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり強い、ローム粒(φ0.1~0.2cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)・統土粒(φ0.1~0.5cm)微量含む。
2. 黄褐色土層：粘性弱い、しまり強い、ほぼ統土粒で構成される。Ypk(φ0.1~0.3cm)少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い、Ypk(φ0.1~0.5cm)・統土粒(φ0.1~0.5cm)・炭化物(φ0.1~0.5cm)微量含む。

11号焼土

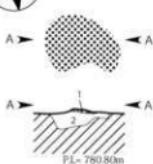


11号焼土土層説明

AA'

1. 粗色土層：粘性弱い、しまりやや強い、統土粒(φ0.1~1.5cm)多量含む。Ypk(φ0.1~0.8cm)少額含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ローム粒(φ0.1~0.3cm)・Ypk(φ0.1~0.3cm)・統土粒(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.2cm)微量含む。

12号焼土

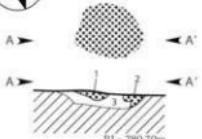


12号焼土土層説明

AA'

1. 浅黄褐土層：粘性弱い、しまり強い、ほぼ統土粒で構成される。Ypk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
2. にふい黄褐色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ローム粒(φ0.1~0.3cm)含む。Ypk(φ0.1~0.5cm)少額含む。紺土粒(φ0.1cm程度)・炭化物(φ0.1cm程度)微量含む。

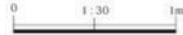
13号焼土



13号焼土土層説明

AA'

1. 粗色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ほぼ統土粒で構成される。Ypk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
2. 粗色土層：粘性弱い、しまりやや強い、ほぼ統土粒で構成される。Ypk(φ0.1~0.3cm)微量含む。
3. 棕灰色土層：粘性やや弱い、しまりやや強い、ローム粒(φ0.1~0.2cm)少額含む。Ypk(φ0.1~0.3cm)・紺土粒(φ0.1~0.3cm)・炭化物(φ0.1~0.3cm)微量含む。

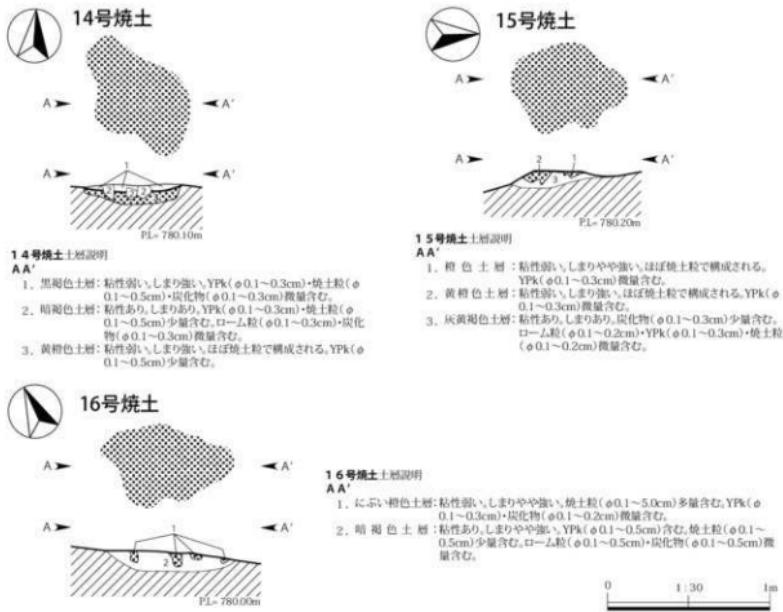


第136図 9～13号焼土実測図(1/30)

く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

14号焼土(第137図)

位置 11D-15(4区1面中央西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土を基調とする。焼土厚は6cm。**形状と規模** 平面形は不整形を呈す。規模は長軸84cm、短軸58cm、掘り方の深さは12cm。**主軸方位** N-35°-W **遺物** なし。 **備考** 虹橋時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。



第137図 14～16号焼土実測図(1/30)

15号焼土(第137図)

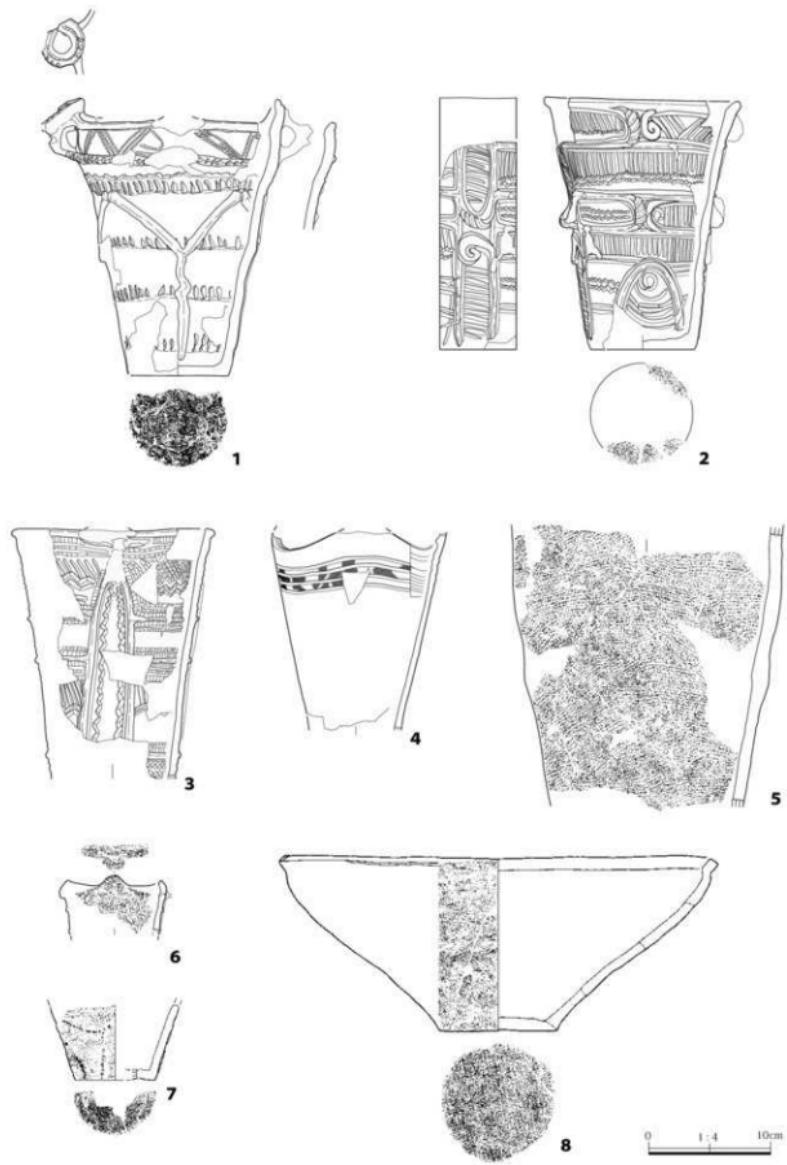
位置 11C-15(4区1面中央西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 灰黄褐色土を基調とする。焼土厚は8cm。**形状と規模** 平面形は不整形を呈す。規模は長軸70cm、短軸52cm、掘り方の深さは10cm。**主軸方位** N-0° **遺物** なし。 **備考** 彌生時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

16号焼土(第137図)

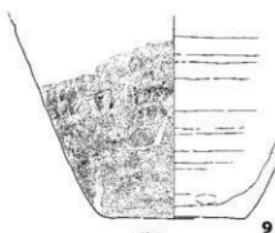
位置 11B-16(4区1面中央西寄り) **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗褐色土を基調とする。焼土厚は8cm。**形状と規模** 平面形は不整形を呈す。規模は長軸70cm、短軸50cm、掘り方の深さは13cm。**主軸方位** N-64°-W **遺物** なし。 **備考** 彌生時期は不明であるが、遺構を確認した位置が高く、近代以降の可能性が高いと考えられる。

(4) 遺構外出土遺物(第138～144図/第21表/PL17～20)

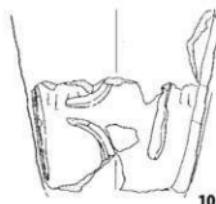
ここでは、調査区表土および確認面出土遺物、遺構内の流れ込み遺物を掲載する。特に4区3面からは繩文土器が大量に出土した。時期は前期初頭の塙田式から後期中葉の加曾利B式頃までの長期間にわたり、一部には早期末まで遡る可能性のあるものも見られる(5)。また、塙田式や後沖式といった長野系の土器が掲載しなかった小破片も含めて100点以上出土しており、長野県域の影響が強く見られる点も特筆される。大木式と考えられる東北系の土器も少数だが確認されている(19・41・42)。



第138図 遺構外出土遺物実測図①(1/4)



9



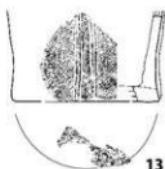
10



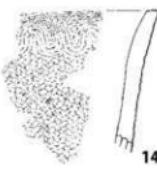
11



12



13



14



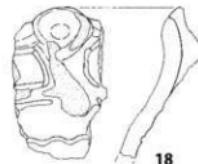
15



16



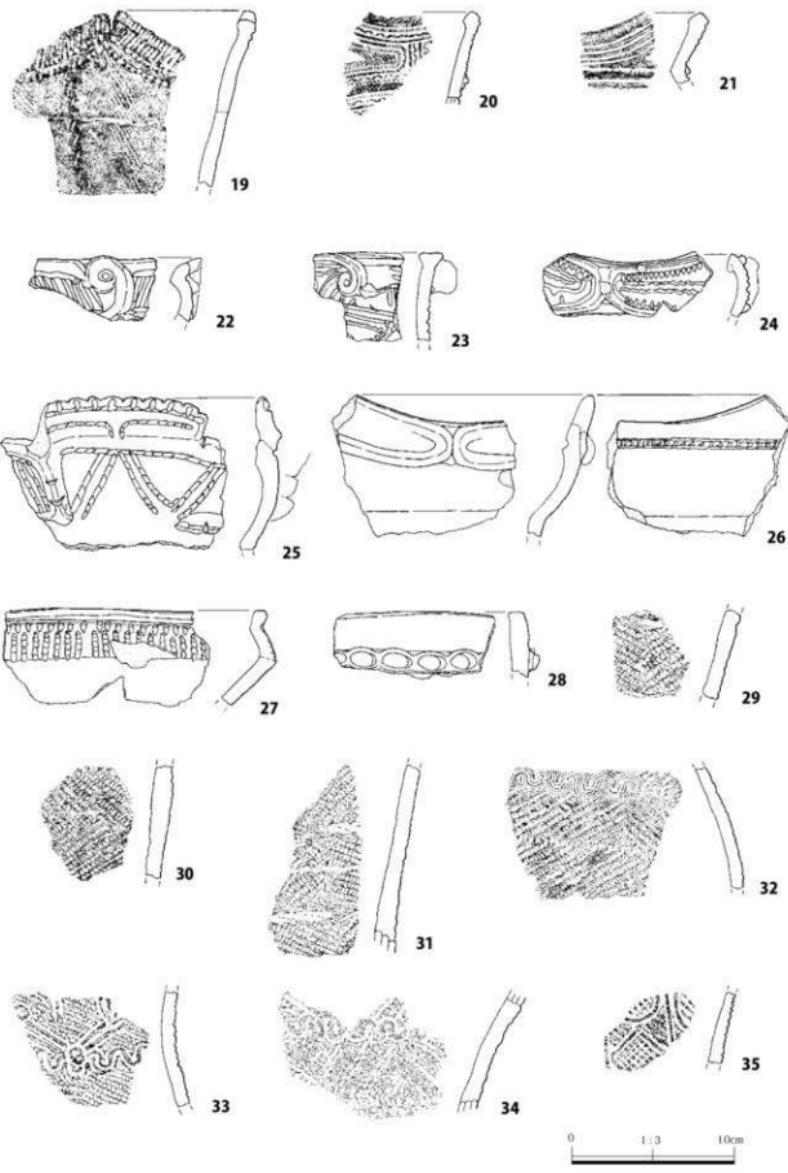
17



18



第139図 遺構外出土遺物実測図②(1/3・1/4)



第140図 遺構外出土遺物実測図③(1/3)



36



37



38



39



40



41



42



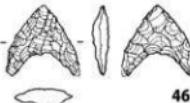
43



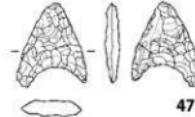
44



45



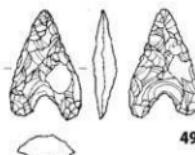
46



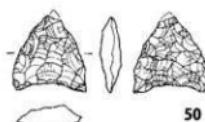
47



48



49



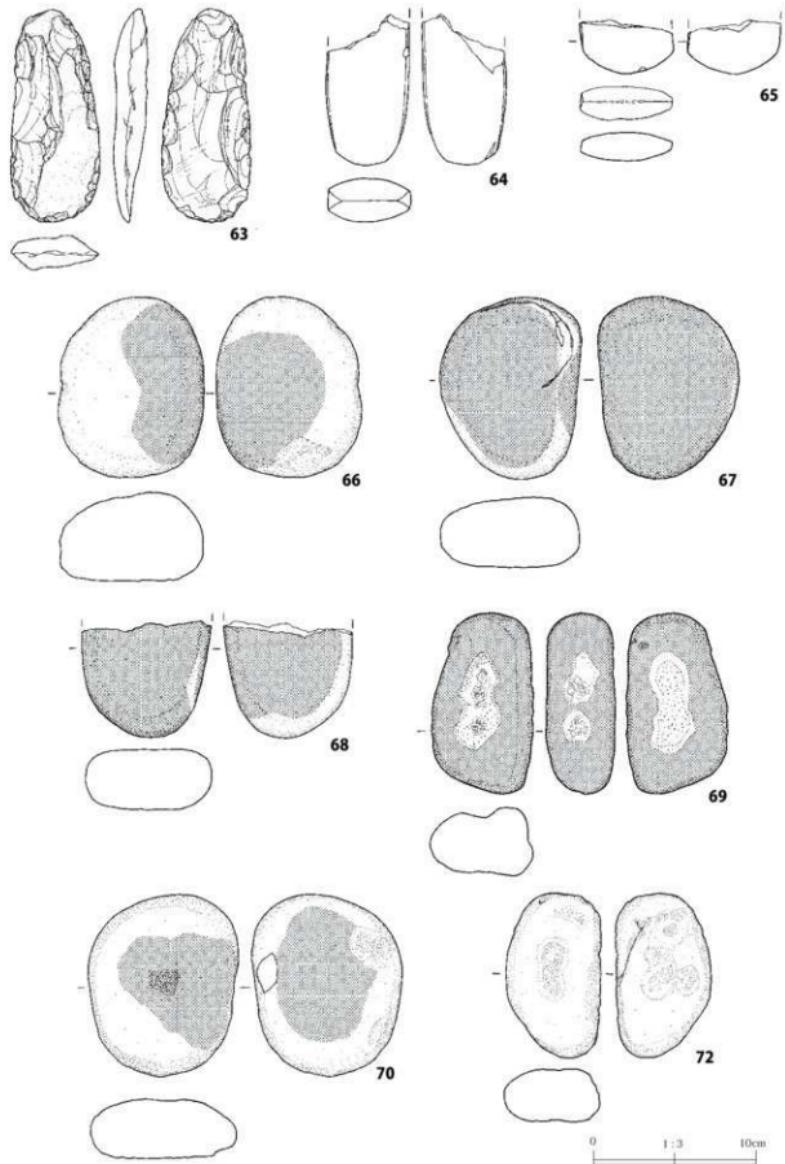
50

0 1:1 3cm 0 1:3 10cm

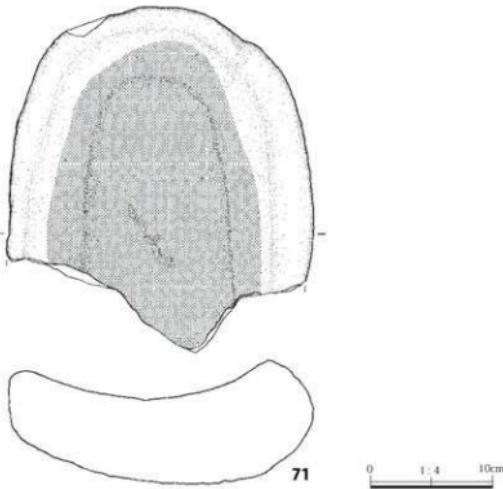
第141図 遺構外出土遺物実測図④(1/1・1/3)



第142図 遺構外出土遺物実測図⑤(1/1・1/2・1/3)



第143図 遺構外出土遺物実測図⑥(1/3)



第144図 遺構外出土遺物実測図⑦(1/4)

石器類も多数出土し、種類も豊富である。石鎚・石匙・石核・打製石斧・磨製石斧・磨石・凹石・石皿・尖頭器・スクレイバーを掲載したが、中でも3区3面で出土した尖頭器(53)は旧石器時代にまで遡る可能性があり注目される。

第4章 まとめ

本遺跡は、縄文時代前期初頭の石器製作工房、縄文時代中期前葉の土器埋設遺構、平安時代（9世紀後半）の集落・鍛冶工房・陥し穴、中近世の掘立柱建物跡、近世の道路等を中心として、幅広い年代と多くの種類にわたる遺構が検出された。

縄文時代前期初頭の塙田式期には、1区で台石と多数のチップを出土する石器製作工房 SX01 と4基の土坑が確認された。SK01 は床面を持たないが、底面中央付近に焼土が検出され、居住という範疇には入らないものの休息程度の使用が想起される。SX01 との距離も 6 m と近接しており、接合しなかったものの、同一個体と思われる土器片が出土していることから生産と生活の場として一対で機能していた可能性が指摘される。縄文中期前葉では、4区において、阿玉台 I a 式の浅鉢を埋設した SJ01、深鉢 2 個体を埋設した SJ03 や、後沖式の深鉢と周囲を対称に打ち欠いた石皿を安置した SJ02、小型の深鉢を埋設した SJ04 が検出されている。それらの遺構は、谷を取り囲む斜面上に設置されており、谷部からは他に多くの土器片が採取されるが、トレンチ掘削の結果、層位が逆転していることが判明しており、高位にある 2 区からの流れ込みと思われる。

約 46,000m² の事業地内は、東西に展開する 2 本の高めの尾根に挟まれた斜面を 4 条の谷が解析して樹枝状の地形を形成する。4 区中央の遺構が密集する平坦面が現れるのは、土層から平安時代になってからと推測される。4 区中央の居住環境が整ったと思われる平安時代には、9世紀後半の住居跡が 10 軒確認された。竪穴住居の耐用年数を 20 年と仮定したとしても、4 軒以上の住居が併存していたと考えられる。また、集落中に主軸 6.3 m、副軸 7.48 m の大型の焼失住居 SJ06 が検出され、鉄製品が出土している。生産に関わる遺構としては、4 区西側に平地式の鍛冶工房があり、鍛冶津・鍛造剥片・粒状津・羽口等を合わせ 59,828.3 g の

鍛冶関連遺物が出土している。鍛冶炉も4基残されており、長期の操業が行われていたものと判断される。操業主は前出のSI06の居住者であった可能性が高く、鉄製品は材料としての放鉄と判断される。他に鍛冶工房で大量に使用される木炭の入手のため、土坑状の炭窯が5基作られていた。居住と生業の関係から言えば、1～5区で普遍的に検出された陥し穴が注目される。本遺跡で検出された全ての土坑の半数以上を占める59基の陥し穴は、平坦面上ではランダムに設置され、獲物が水を求めて来るであろう谷部では、谷に沿って設置されていた。調査区中最も傾斜の厳しい5区においても、19基の土坑のうち、18基が陥し穴で、全てが谷部を囲むように設置されていた。これら9世紀の遺構は住居跡から羽釜が出土しないことから10世紀初頭もしくは9世紀末には廃絶したと考えられ、集落の存続期間は最長でも50年程度と推測される。

中世では、方形堅穴状遺構が1基検出されているが、遺物は出土せず、時期の特定はできなかった。近世には3区～5区にかけて、開発に伴うと思われる大溝SD01・02が掘削され、そこから東側の土地利用が図られたようである。4区中央には2間×3間の掘立柱建物跡SB02が確認され、近接する2条の柱列SA02・03とは東西方向の軸線も平行に近いことから、関連する遺構だと判断される。3区東端には両側溝を持つ幅90cm(半間)程度の道跡が確認され、「草津道」跡と考えられる。前出の2条の柱列はこの「草津道」への通路である可能性が指摘され、並行する柱列SA01も軸線を同じくすることから一体化して機能したことが窺われる。また、本遺跡南側の現道下段には赤羽根の一里松があり、その根元に「左草津へ 右入山へ」と刻まれた道しるべが残され、隣地では茶店が営まれていたと伝えられる。天保3年(1832)に起きた水戸藩士と幕府勘定方の刃傷事件である立石坂事件の舞台は3区で検出された「草津道」上であったと思われる。

この「草津道」ルートは等高線の最も緩やかな部分を繋ぎ、古来より人の往来が盛んであったとの想われ、草津を抜けて長野方面へと至る経路でもある。また、「右入山へ」と刻まれたルートも入山、野反峠経由で津南方面へと至る。ただし距離的な条件から绳文時代、平安時代を通じて、本遺跡の出土遺物には長野県側の影響が顕著である。

参考文献

谷藤保彦 2019 「群馬県内における縄文時代前期の異型式土器」研究紀要 37 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県教育委員会 1983 「吾妻の諸街道」群馬県歴史の道調査報告書第15集

長野原町誌編纂委員会 1976 「長野原町誌」

第20表 平安時代住居跡諸属性一覧

遺構名	主軸方向	規模(cm・m)				主柱配置	カマド		壁溝	付帯施設	遺物			時期
		主軸	副軸	深さ	面積		位置	構築方法			灰塙	墨書き	鉄製品	
SI01	N-90°-E	517	418	40	14.50	4本	東壁	石組・土で造成・粘土多用	全周	—	—	—	○	9世紀後半
SI02	N-70°-E	378	404	67	11.03	4本	東壁	石組・土で造成・粘土多用	東・西・北・南西	—	—	—	—	9世紀後半
SI03	N-67°-E	588	(350)	55	(21.09)	—	東壁	石組・土で造成・粘土多用	—	—	—	○	—	9世紀後半
SI04	N-87°-E	460	506	7	<21.3>	3本	東壁	石組・土で造成・粘土多用	—	—	—	—	—	9世紀後半
SI05	N-115°-E	355	452	19	12.01	3本	東壁	石組・土で造成・粘土多用	—	—	—	○	—	9世紀後半
SI06	N-85°-E	630	748	20	<38.46> (礎石1)	4本	東壁	石組・土で造成・粘土多用	東・西・北・南西	陥落穴 根太跡	○	—	○	9世紀後半
SI07	N-100°-E	392	412	4	<14.94>	3本	東壁	—	西・南西	—	○	—	—	9世紀後半
SI08	N-102°-E	458	515	10	<23.12>	—	東壁	—	西・北西	—	—	—	—	9世紀後半
SI09	N-41°-E	363	352	26	<10.51>	—	北東壁	石組・土で造成・粘土多用	北	—	—	—	—	9世紀後半
SI10	N-103°-E	383	410	7	{11.11}	—	東壁	石組・土で造成・粘土多用	北・西・南	陥落穴	—	—	—	9世紀後半

第21表 出土遺物觀察表

SK01出土遺物觀察表

測量No.	箇所No.	器種	法面(正面・背面・底面) / 頂面(底面)	特徴(形態・手法等)	焼成	施上・材質等	色調(外面/内部)	備考
20. 1	12	陶文上器・ 石器	— / (4.1) / —	灰面・素面か、外側の文様は不規則。内面は褐色で茶褐色。	良好	織目	にみる赤褐色～褐色	焼付資料(底面) SK01
20. 2	12	陶文上器・ 石器	— / (6.1) / —	灰面・素面か、外側の文様は不規則。内面は褐色で茶褐色。	良好	織目	赤褐色～褐褐色	焼付資料(底面) SK01
20. 3	12	削竹石器・ 石器	(1.7) / 縦1.4 / 幅0.4 長1.0g	削竹石器。表面研削面。先端部わずかに欠損。 削竹石器・長1.0g。凹凸感有り。表面研削面。表面には横長削り跡に、裏面には中央削り跡方に横 縦の削り跡が認められる。先端部はすこし削れ。	—	黒墨石	—	ほぼ完存。 SK01
20. 4	12	削竹石器・ 石器	(2.1) / 縦1.6 / 幅0.4 長1.0g	削竹石器。表面研削面。日本に見当たるまじめ。	—	黒墨石	—	ほぼ完存。 SK01
20. 5	12	削竹石器・ 石器	(2.3) / 縦1.75 / 幅0.5 長1.0g	削竹石器。表面研削面。日本に見当たるまじめ。	—	黒墨石	—	ほぼ完存。 SK01
20. 6	12	削竹石器・ 石器	3.6 / 縦2.4 / 幅0.6 長1.0g	削竹石器。表面研削面。日本に見当たるまじめ。	—	月質貝岩	—	ほぼ完存。 SK01
20. 7	12	削竹石器・ 石器	(1.4) / 縦1.7 / 幅0.5 長1.0g	削竹石器。表面研削面。表面研削面。	—	黒墨石	—	50%程度残存。 SK01
20. 8	12	削竹石器・ 石器	14.1 / 縦12.7 / 幅6.0 長1.0g	削竹石器。表面研削面。表面研削面。裏面には削竹跡が認められることなく、末尾に1／4程度が削り取れ て削りした感じと判断される。裏面は1／4が削り取れる。表面と内部度は84度を測る。	—	安息香	—	完存。 SK01

縄文時代土坑出土遺物觀察表

測量No.	箇所No.	器種	法面(正面・背面・底面) / 頂面(底面)	特徴(形態・手法等)	焼成	施上・材質等	色調(外面/内部)	備考
25. 1	13	研石密剝・ 石器	10.6 / 縦6.2 / 幅3.1 柱4.1 / かぶせ部	研石30kg。裏面に1輪の研削面を持ち、裏面中央部に1面のミガカが施される。裏面に丸みと 柱4.1cmが認められる。	—	泡立石	—	完存。 SK01
25. 2	13	研石密剝・ 石器	(1.05) / 縦1.6 / 幅0.5 柱4.0g	研石1kgが認められる。裏面中央部に横長い研削面が施される。	—	黒墨石	—	ほぼ完存。 SK02
25. 3	13	研竹石器・ 石器	(3.65) / 縦1.55 / 幅0.55 柱4.2g	両端加工有り。裏面柱4.2g。裏面柱2g。両端加工有り。裏面・底面ともに削竹跡が認められる。基部欠損。	—	月質貝岩	—	ほぼ完存。 SK10
25. 4	13	削竹石器・ 石器	6.6 / 縦5.1 柱4.0g	削竹石器。表面研削面。柱4.0g。裏面柱4.0g。柱4.0gが認められる。	—	月質貝岩	—	基部欠損。 SK10
25. 5	14	陶文上器・ 石器	< 20.8 / > (37.1) / — 底面	削竹石器 R-L端を柱状に整文する。1輪柱部には深爪を1本がささるが、隣帶にも 横文が施される。前斜面(底面)R-L。	良好	織目	暗赤褐色／ にみる赤褐色	口掛赤～赤褐色70%程度。 SK12

土器埋設遺構出土遺物觀察表

測量No.	箇所No.	器種	法面(正面・背面・底面) / 頂面(底面)	特徴(形態・手法等)	焼成	施上・材質等	色調(外面/内部)	備考
27. 1	12	陶文上器・ 石器	< 23.5 / > (13.9) / —	U字型外周面にむすらく4面柱となる柱状部を削り、長幅面を盛り、側面とし縫合。U字型面下部斜面(1.0cm)が する柱部を下方に削り柱となる。外側とし縫合。U字型面下部斜面(1.0cm)が削り柱となる。柱部を下方に削り柱となる。 柱部を下方に削り柱となる。柱部を下方に削り柱となる。柱部を下方に削り柱となる。柱部を下方に削り柱となる。	良好	砂粒	赤褐色	口掛赤～赤褐色70%程度。 SK01
27. 2	13	陶文上器・ 石器	20.0 / (22.6) / —	柱4.0cmが認められる。裏面柱4.0cmが認められる。柱部を下方に削り柱となる。柱部を下方に削り柱となる。 柱部を下方に削り柱となる。柱部を下方に削り柱となる。柱部を下方に削り柱となる。柱部を下方に削り柱となる。	良好	砂粒	赤褐色	口掛赤～赤褐色90%程度。 SK02
28. 3	13	研石密剝・ 石器	36.9 / 縦20.6 / 幅4.6 柱4.0cm	裏面柱4.0cm。柱4.0cmと中間に削竹を持ち、裏面は大くむけ。裏面には穿孔したと思われる 4輪柱が3輪柱ある。輪柱は直径約3mmの柱である。輪柱は直径約3mmの柱である。	—	綠色片岩	—	完存。 SK02

S01 出土遺物観察表									
測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.
28-4	12	國文上部・ 底部	— / (20.5) / 10.8	外縁部には、1枚の引抜き跡を有する。体面上部には横引抜き跡 帶。中央から下にかけて削られた跡が確認される。削削時に刃物を伴うもの。 と、削削時に刃物を伴うものがある。	やや不良。	砂粒・金具等	に点状・黒斑	体面～底面(底面充分)。	S03
28-5	12	國文上部・ 底部	— / (18.6) / —	外縁部上部は内縫合部に施され、中央から下位にかけて削られた跡が確認される。削削時に刃物を伴うものがある。	良好	砂粒・金具等	点状／に点状・少斑(底面60%残存)。	底面(底面充分)。	S03
28-6	12	國文上部・ 底部	— / (8.0) / —	内縫合部の子、中縫合部、外縫合部より剥離。16箇所に極めて小さな付着部・黄枝・黒斑 の付着部を有す。中縫合部より剥離。	やや不良	砂粒	点状(底面90%残存)。	底面(底面充分)。	S04

S02 出土遺物観察表									
測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.
35-1	14	上端部・裏	20.0 / (15.2) / —	20.0mm(縫合部)。内部に縫合部を有する。外縫合部下部は底面～中縫合部～上縫合部 へテラード。斜面は内縫合部～底面を有す。口縫合部～底面は側面を有り、内縫合部側面 は側面を有す。内縫合部側面は側面を有す。内縫合部側面は側面を有す。	酸化物・ 砂粒・長石	点状／に点状・少斑(底面20%残存)。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01
35-2	14	上端部・裏	< 20.0 > / (6.6) / —	内縫合部底面は内縫合部～底面を有す。内縫合部側面は側面を有す。内縫合部側面は側面を有す。	酸化物・ 砂粒・長石	に点状・少斑／底面15%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01
35-3	14	上端部・裏	< 12.0 > / (6.8) / —	内縫合部底面は内縫合部～底面を有す。内縫合部側面は側面を有す。内縫合部側面は側面を有す。	酸化物・ 砂粒・長石	底面～底面15%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01
35-4	14	上端部・裏	< 12.0 > / (4.0) / —	内縫合部底面は内縫合部～底面を有す。内縫合部側面は側面を有す。内縫合部側面は側面を有す。	酸化物・ 砂粒・長石	底面～底面15%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01(底面充分)
35-5	14	裏端部・裏	— / (16.6) / —	9.5mm(縫合部)。底面は内縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・白色粘	底面20%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01
35-6	14	裏端部・杯	13.2 / 32 / 7.4	内縫合部クロロナデ。底面は内縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・白色粘	底面20%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01
35-7	14	裏端部・杯	< 14.0 > / 3.3 / < 7.0 >	内縫合部クロロナデ。底面は内縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・白色粘	底面20%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01
35-8	14	裏端部・杯	< 11.2 > / 4.2 / < 6.0 >	内縫合部クロロナデ。底面は内縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・白色粘	底面20%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01
35-9	14	裏端部・杯	< 12.8 > / 3.5 / < 7.0 >	内縫合部クロロナデ。底面は内縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・白色粘	底面20%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S01
35-10	14	質別品・邊	長 (6.4) 幅 38.79 0.3 高 (3.9) 前付直	—	—	—	—	底面(底面充分)。	S01

S03 出土遺物観察表									
測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.	測定No.
39-1	14	上端部・裏	— / (3.3) / —	コロナデ(縫合部)。底面は内縫合部～底面を有す。内縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・黑色粘	底面～底面(底面充分)。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S02
39-2	14	台形部・裏	— / (3.4) / —	台形部底面。外縫合部～底面を有す。内縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・黑色粘	底面60%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S02
39-3	14	台形部・裏	— / (3.2) / 8.2	内縫合部とも底面を有す。外縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・黑色粘	底面20%残存。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S02
43-1	14	上端部・裏	< 16.0 > / (8.2) / —	外縫合部底面～底面を有す。内縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・白色粘	底面～底面(底面充分)。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S03
43-2	14	上端部・裏	— / (4.6) / —	20.0mm(縫合部)。底面は内縫合部～底面を有す。外縫合部～底面を有す。	酸化物・ 砂粒・白色粘	底面～底面(底面充分)。	砂粒	底面～底面(底面充分)。	S03

43. 3	14	箇虫器・大鏡	—／(12.2)／—	(内)外口クロコナデ。頭部テリ打目模様有。	面元輪・良好	直角	セリガーブラフ/黄青/褐色/質目/黒地	SD3
43. 4	14	箇虫器・杯	< 14.0 > / 3.6 - 7.4	(内)外口クロコナデ。底面部底糸有。	面元輪・良好	斜角・小鏡	圓弧	SD3・カマド
43. 5	14	箇虫器・柄	14.6 / 5.0 - 7.0	(内)外口クロコナデ。底面部底糸有。底面部有凹窓。底面部有凹窓。	面元輪・良好	斜角・小鏡	圓弧	SD3
43. 6	14	箇虫器・柄	—／(3.2) / 7.6	(内)外口クロコナデ。底面部底糸有。	面元輪・良好	斜角・細色	長鏡	体部～底部 25% 異形。
S104 出土物觀察表								
種別No.	内筋No.	基盤	法員(口)径・周長・底高・底径(cm)	特徴(形態・手当)	面元輪・良好	船上・材質質	色調(外面・内面)	備考
46. 1	15	箇虫器・裏	—／(3.3) / < 20.2 >	(内)外口底部縫合ナデ。外縫合付付。内縫合部ナデ。	面元輪・良好	斜角・黑色	从黄/淡黄	底部 15% 異形。
S105 出土物觀察表								
種別No.	内筋No.	基盤	法員(口)径・周長・底高・底径(cm)	特徴(形態・手当)	船成	船上・材質質	色調(外面・内面)	備考
51. 1	15	箇虫器・裏	< 19.0 > / (16.2) / —	(コロナ) 特口縫合。外縫合底部縫合ナデ。内縫合底部縫合ナデ。内縫合底部縫合ナデ。内縫合底部縫合ナデ。	船成	船上・材質質	1. 検出・小鏡	SD3・カマド
51. 2	15	箇虫器・裏	< 20.8 > / (6.4) / —	(コロナ) 特口縫合。くれたコの子全て有する。外縫合底部縫合ナデ。内縫合底部縫合ナデ。	船成	船上・材質質	2. 検出・小鏡	SD3・カマド
51. 3	15	箇虫器・裏	< 19.8 > / (4.8) / —	(コロナ) 特口縫合。外縫合底部縫合ナデ。	船成	船上・材質質	3. 検出・小鏡	SD3・カマド
51. 4	15	箇虫器・裏	—／(4.4) / 3.0	外縫合底部縫合ナデ。内縫合底部縫合ナデ。	船成	船上・材質質	4. 検出・小鏡	SD3・カマド
51. 5	15	箇虫器・杯	< 14.2 > / 4.9 / < 7.0 >	(内)外口クロコナデ。底面部底糸有。	面元輪・良好	面元輪・小鏡	1. 検出・底部 20% 異形。	SD3
51. 6	15	箇虫器・杯	—／(2.0) / 7.0	(内)外口クロコナデ。底面部底糸有。	面元輪・良好	面元輪・小鏡	2. 検出・底部 20% 異形。	SD3・カマド
51. 7	15	箇虫器・柄	—／(3.5) / < 8.0 >	(内)外口クロコナデ。底面部底糸有。	面元輪・良好	面元輪・小鏡	3. 検出・底部 20% 異形。	SD3
51. 8	15	箇虫器・刀子・長	(13.3) / 1.12 / < 0.04 >	周長 25.4g、万骨は切欠有。柄部の木質が剥離する。	—	—	—	SD3
S106 出土物觀察表								
種別No.	内筋No.	基盤	法員(口)径・周長・底高・底径(cm)	特徴(形態・手当)	船成	船上・材質質	色調(外面・内面)	備考
60. 1	15	箇虫器・裏	—／(15.7) / < 5.2 >	外縫合底部縫合ナデ。内縫合底部縫合ナデ。	船成	船上・材質質	1. 検出・小鏡	SD6・カマド
60. 2	15	箇虫器・裏	< 19.2 > / (7.4) / —	外縫合底部縫合ナデ。内縫合底部縫合ナデ。	船成	船上・材質質	2. 検出・小鏡	SD6
60. 3	15	箇虫器・杯	13.6 / 4.6 - 6.0	底面部底糸有。口縫合部底糸有。	船成	船上・材質質	3. 検出・小鏡	SD6・P1
60. 4	15	箇虫器・杯	14.0 / 5.6 / < 7.2 >	(内)外口クロコナデ。底面部底糸有。	船成	船上・材質質	4. 検出・底部 50% 異形。	SD6
60. 5	15	箇虫器・柄	—／(1.7) / 7.1	(内)外口クロコナデ。底面部底糸有。外縫合底部縫合ナデ。内縫合底部縫合ナデ。	船成	船上・材質質	5. 検出・底部 50% 異形。	SD6
60. 6	15	箇虫器・刀子・長	(15.6) / 0.9 / 7.9 / 6.3	周長 15.6g、万骨は切欠有。底部 6.3g、大型の孔有。下端部 7.9g、直角形状。直角部分が大きめ。	船成	船上・材質質	6. 検出・底部 60% 異形。	SD6
61. 7	15	箇虫器・刀子・長	(16.7) / 0.14 / 7.9 / 6.5	周長 16.7g、万骨 0.14g、底部 7.9g、下端部 6.5g、直角形状。直角部分が大きめ。	船成	船上・材質質	7. 検出・底部 60% 異形。	SD6
61. 8	15	箇虫器・刀子・長	(4.5) / 0.05 / 7.0 / 6.0	周長 4.5g、万骨 0.05g、底部 7.0g、下端部 6.0g、直角形状。直角部分が大きめ。	船成	船上・材質質	8. 検出・底部 60% 異形。	SD6

S107 出土遺物観察表

種別No.	内訳No.	器種	法面(口縁・底面・底径)(mm)	特徴(形態・手法等)	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	断上・材質等 砂粒・小砾 墨色粒	色調(外面・内面)	備考
665.1	15	直底器・杯	—／(3.5)／4.0	[内]外口クロコナデ。底面周縁部切り欠く。	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	砂粒・小砾	底面～体部20%焼け。	S107 H面
665.2	15	直底器・杯	—／(3.5)／—	[内]外口クロコナデ。外周面ともに施釉される。先端は淡褐色を呈する。	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	砂粒	底面資料(口縁部)	S107 カマ下

S109 出土遺物観察表

種別No.	内訳No.	器種	法面(口縁・底面・底径)(mm)	特徴(形態・手法等)	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	断上・材質等 砂粒・黑白粒 墨色粒	色調(外面・内面)	備考
695.1	15	直底器・瓶	—／(2.5)／4.0	外周面底部へテカズリ、底部へテカズリ。内面ハナナフ。外周面・底面朱赤色。	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	砂粒・黑白粒 墨色粒	底面50%焼け。 内面5%焼け。	S109
695.2	15	直底器・杯	13.3／3.8／5.2	[内]外口クロコナデ。底面周縁部底切り縫。外周面と底部の剥落が異常に多い。外周面紫青色。	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	砂粒・白色粒	底面50%焼け。	S109 カマ下 墨
695.3	15	直底器・瓶	—／(3.7)／<6.2>	[内]外口クロコナデ。	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	砂粒	底面～高さ部20%焼け。 底面焼夷。	S109 H面

S110 出土遺物観察表

種別No.	内訳No.	器種	法面(口縁・底面・底径)(mm)	特徴(形態・手法等)	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	断上・材質等 砂粒	色調(外面・内面)	備考
74.1	16	直底器・瓶	<20.0>／(5.9)／—	[コロ]外周面剥離。外周面底縁部へテカズリ。底部はヘアアタリも確認できる。内面赤色。	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	砂粒	口縁部～底部40%焼け。	S110 H面下
74.2	16	直底器・瓶	—／(4.8)／—	[底縁部]外周面剥離ナフ。底面付近焼夷ナフ。内面底部・瓶底へテナフ。内面表面は焼夷化している。	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	砂粒	底面下部～底部80%焼夷。	S110

S801 銀治工房跡出土遺物観察表

種別No.	内訳No.	器種	法面(口縁・底面・底径)(mm)	特徴(形態・手法等)	焼成・ 適正・ 底面・ 裏面	断上・材質等 砂粒・黑白粒 墨色粒	色調(外面・内面)	備考
80.1	16	直底器・碗	—／(1.9)／8.4	底面部内面ともに剥離。	—	—	底部灰化。	S801
80.2	16	直底石	長(5.2)／幅(4.9)／厚(6.1)	底面103g。上部が熱風分がむかに付着し、熱化。	—	—	底部灰化。	S801
80.3	16	楕円形割付平	長(6.7)／幅(5.0)／厚(3.0)	重箱86g。側面が焼夷。下面に焼夷上の付着物有り。	—	—	(白) 黄褐色 底部灰化。	S801
80.4	16	直底器・瓶口	長(1.2)／幅(1.2)／厚(1.6)	重箱43g。内径2.7cm。中心部底付2.3cm。中心部外径7.8cm。先端部外径5.5cm。	—	—	—	S801
80.5	16	楕円形割付平	長(7.2)／幅(3.0)／厚(2.8)	重箱(7.0)g。側面が焼夷。下面に付着土が付着。	—	—	—	S801
80.6	16	楕円形割付平	長(6.6)／幅(4.1)／厚(2.4)	重箱(6.0)g。上面が黄分焼夷化する。下面に側面土が付着。	—	—	—	S801
80.7	16	楕円形割付平	長(4.9)／幅(1.9)／厚(1.6)	重箱(1.5)g。側面が焼夷。下面に側面上部が付着する。	—	—	—	S801
80.8	16	楕円形割付平	長(6.4)／幅(4.9)／厚(3.4)	重箱(1.9)g。3面が焼夷。厚い部分付着。	—	—	底部灰化。	S801
80.9	16	楕円形割付平	長(7.8)／幅(5.7)／厚(3.3)	重箱(1.34)g。2面が焼夷。厚い部分付着。	—	—	—	S801
80.10	16	楕円形割付平	長(2.9)／幅(3.5)／厚(3.3)	重箱(4.7)g。周囲全面焼夷。厚手で、焼夷は密。表面に広く焼夷上部が付着する。	—	—	—	S801

SU01 出土遺物觀察表

掘立柱建物跡出土遺物観察表		溝跡出土遺物観察表	
標印名	箇所名	器種	法長(口径)×法高(底径)(cm)
109-1	17	圓底盤・鑊	< 11.0 > / (14.5) /—
109-2	17	圓底盤・杯盤	— / (1.3) /—
111-1	17	圓底盤・網	(2.5) / < 7.0 >
特徴(形態・手法等)		特徴(形態・手法等)	
内面鏡口クロナデ。外側口斜面のひな子。		底面も丸い鏡口クロナデ、口縁部ナデ。	
底面中央とも僅に残存。底付近が細め。内面底部に凹凸がある。		底付近が残り、内面底部に凹凸がある。	
底付近が残り、内面底部に凹凸がある。		底付近が残り、内面底部に凹凸がある。	
標印名	箇所名	器種	法長(口径)×法高(底径)(cm)
118-1	17	圓底盤・鑊	< 10.0 > / (4.1) /—
118-2	17	圓底盤・鑊	長 2.4 幅 1.8 厚 0.7cm
内面鏡口黄色で、コトコトの丸窓が開く。内外口クロナデ。		内面鏡口黄色で、コトコトの丸窓が開く。内面口クロナデ。	
直径 0.9cm。口縁部斜面。底付近が細め。		直径 0.9cm。口縁部斜面。底付近が細め。	
底付近が残り、内面底部に凹凸がある。		底付近が残り、内面底部に凹凸がある。	
底付近が残り、内面底部に凹凸がある。		底付近が残り、内面底部に凹凸がある。	
標印名	箇所名	器種	法長(口径)×法高(底径)(cm)
5001	—	圓底盤・鑊	—
5002	—	圓底盤・鑊	—
特徴(形態・手法等)		特徴(形態・手法等)	
内面鏡口白色で、コトコトの丸窓が開く。内外口クロナデ。		内面鏡口白色で、コトコトの丸窓が開く。内面口クロナデ。	
直径 0.9cm。口縁部斜面。底付近が細め。		直径 0.9cm。口縁部斜面。底付近が細め。	
底付近が残り、内面底部に凹凸がある。		底付近が残り、内面底部に凹凸がある。	
底付近が残り、内面底部に凹凸がある。		底付近が残り、内面底部に凹凸がある。	
標印名	箇所名	器種	法長(口径)×法高(底径)(cm)
5003	—	圓底盤・鑊	—
5004	—	圓底盤・鑊	—

溝跡出土遺物觀察表

標高(m)	固結	法線(11番) / 距離(底面) (m)	特徴(形態・手法等)	地質	地質外観 / (内部)	備考
118.1	17 堅密な 堅密な 堅密な	< 10.0 > (4.1) —	外に突出する、文様は細かい色で、2つ以上の塊が複数ある。	砂岩	砂岩	S001
118.2	17 石墨 石墨	長 2.4 幅 1.8 厚 0.3	重複 0.98、凹凸感強め、表面凹凸感強め、突出部が複数ある。	砂岩	砂岩	S001

5001	褐色真珠	宝山?	—
5001	黑色真珠	—	—
5001	褐色真珠	—	95%以上。
5001	黑色真珠	—	—

卷之二

表紙番号5258 表紙は綺打による装飾・画化により日本本来の色調が失われているが、新たに裏面は表書きよりも調節の回数が多い。基層は一部膨張し、調和感が失われた形に見受けられる。裏面は表面と同色だが、新しい裏面の断面を示す所見は25%。

表銀物遺出土トビツ

139-12	18	原文上巻・ 深林	—／(6.1)／100	無し、外側は黒く、内側は白く、表面が分離しない。 外側から黒い、裏面の黒膜を剥がし、黒膜に付いて右側に「落葉を撒す」。地文には複数位。	不良	砂利・小砂 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
139-13	18	原文上巻・ 深林	—／(7.5)／<12.0>	甲部丸を落葉する。外側は黒膜に付いて右側に「落葉を撒す」。地文には複数位。 外側は黒膜に付いて右側に「落葉を撒す」。地文には複数位。外側は黒膜に付いて右側に「落葉を撒す」。地文には複数位。	良好	砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
139-14	18	原文上巻・ 深林	—／(8.6)／—	外側は黒膜に付いて右側に「落葉を撒す」。その下に複数位。 外側は黒膜に付いて右側に「落葉を撒す」。その下に複数位。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
139-15	18	原文上巻・ 深林	—／(5.2)／—	外側は黒膜に付いて右側に「落葉を撒す」。おもらく黒膜の表面文字と思われる。 外側は黒膜に付いて右側に「落葉を撒す」。おもらく黒膜の表面文字と思われる。	良好	砂利・角砂石 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
139-16	18	原文上巻・ 深林	<25.0>／(10.3)／—	原木丸を落葉する。地文には複数位。 原木丸を落葉する。地文には複数位。	良好	砂利・砂粒 砂粒	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
139-17	18	原文上巻・ 深林	—／(5.2)／—	波状紋理、輪廓線、外側は黒膜は「落葉」が複数位。 波状紋理、輪廓線、外側は黒膜は「落葉」が複数位。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
139-18	18	原文上巻・ 深林	—／(9.2)／—	波状紋理、輪廓線、外側は黒膜は「落葉」。 波状紋理、輪廓線、外側は黒膜は「落葉」。	良好	砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	1区6面
140-19	18	原文上巻・ 深林	—／(10.7)／—	外側を落葉する。外側は黒膜に付いて右側に「落葉」。 外側を落葉する。外側は黒膜に付いて右側に「落葉」。	良好	砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-20	18	原文上巻・ 深林	—／(5.6)／—	外側は黒膜に付いて右側を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 外側は黒膜に付いて右側を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-21	18	原文上巻・ 深林	—／(4.3)／—	波状紋理、輪廓線、外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 波状紋理、輪廓線、外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-22	18	原文上巻・ 深林	—／(3.9)／—	LH断面下に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 LH断面下に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-23	18	原文上巻・ 深林	—／(5.4)／—	内側は黒膜に付いて右側を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 内側は黒膜に付いて右側を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-24	18	原文上巻・ 深林	—／(3.8)／—	折れ目なし口縫、外側は黒膜に付いて右側を落葉する。内側は黒膜に付いて右側を落葉する。 折れ目なし口縫、外側は黒膜に付いて右側を落葉する。内側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-25	18	原文上巻・ 深林	—／(9.3)／—	LHカリエー尾、LH断面下に複数位を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 LHカリエー尾、LH断面下に複数位を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-26	18	原文上巻・ 深林	—／(8.6)／—	半弓形に複数位の輪廓線を落葉する。その後の内側は黒膜に付いて右側を落葉する。 半弓形に複数位の輪廓線を落葉する。その後の内側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-27	18	原文上巻・ 深林	—／(5.8)／—	輪廓線位の角瓣を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 輪廓線位の角瓣を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-28	18	原文上巻・ 深林	—／(4.0)／—	外側に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 外側に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	3区3面
140-29	18	原文上巻・ 深林	—／(5.5)／—	外側に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 外側に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-30	18	原文上巻・ 深林	—／(6.8)／—	内側に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 内側に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-31	18	原文上巻・ 深林	—／(11.5)／—	外側に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。 外側に複数位の輪廓線を落葉する。外側は黒膜に付いて右側を落葉する。	良好	砂利・白色粒 砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面
140-32	18	原文上巻・ 深林	—／(7.4)／—	前輪輪幅(輪幅日立)。	良好	砂利	明るい にぶい にぶい にぶい	明るい にぶい にぶい にぶい	4区3面

140.33	18	獨立文上部・ 深鉢	— / (7.1) / —	印字はコシハシス文、上位に斜角の(左)波線を施し、空間に円形の(右)波線を書き文。地文には単節 BL範囲文を施す。内部織合文字。右側端下。(0.8)波線。(L.R.)か。	良好	織合・斜角	織合・斜角	織合・斜角	織合・斜角	4 区 3 画
140.34	18	獨立文上部・ 深鉢	— / (7.4) / —	外方に右側の(左)波線を引く。左側端下。(0.8)波線。(L.R.)か。	良好	織合・斜角	織合・斜角	織合・斜角	織合・斜角	1 区 6 画
140.35	18	獨立文上部・ 深鉢	— / (4.3) / —	地文には単節BL範囲文を施す。右側端下。(1.1)波線。(L.R.)か。	良好	織合	織合	織合	織合	4 区 3 画
141.36	18	獨立文上部・ 深鉢	— / (5.1) / —	外方に格子状の波線、織合文を書き文。地文には単節BL範囲文を施す。	良好	斜角・全波線	斜角・全波線	斜角・全波線	斜角・全波線	4 区
141.37	18	獨立文上部・ 深鉢	— / (4.6) / —	外方に格子状の波線、織合文を書き文。地文には単節BL範囲文を施す。	良好	織合	織合	織合	織合	2 区 3 画
141.38	18	獨立文上部・ 深鉢	— / (4.5) / —	外方に格子状の波線、織合文を書き文。地文には単節BL範囲文を施す。	良好	織合・斜角	織合・斜角	織合・斜角	織合・斜角	3 区 3 画
141.39	18	獨立文上部・ 深鉢	— / (5.2) / —	外方に左側の(左)波線・右側の(右)波線、横子状文を施す。面部未か。	良好	斜角	斜角	斜角	斜角	SK45
141.40	19	獨立文上部・ 深鉢	— / (4.8) / —	印字は通常の(左)波線・(右)波線による三行波線を施す。地文には単節BL範囲文を施す。中 間部。	良好	斜角・白色	斜角・白色	斜角・白色	斜角・白色	4 区 3 画
141.41	19	獨立文上部・ 深鉢	— / (7.9) / —	PLKには水平または直角に波線を交叉し、一部で斜角に引出する。地文には単節BL範囲文 を施す。中間部。(左)波線。(L.R.)か。	良好	斜角・白色	斜角・白色	斜角・白色	斜角・白色	4 区
141.42	19	獨立文上部・ 深鉢	— / (10.5) / —	PLKには直角の(左)波線と(右)波線を交叉し、頭部にて(左)波線の(左)波線を書き文を 施す。内面織合ナダ。	良好	斜角・全波線	斜角・全波線	斜角・全波線	斜角・全波線	4 区 3 画
141.43	19	獨立文上部・ 深鉢	— / (9.6) / —	印字により斜角(左)波線を施す。面部に沿って波線を施す。地文には単節BL範囲文を施す。	良好	斜角・小波	斜角・小波	斜角・小波	斜角・小波	3 画
141.44	19	獨立文上部・ 深鉢	— / (4.8) / —	印字波線(左)波線を施す。面部に沿って波線を施す。	良好	斜角・小波	斜角・小波	斜角・小波	斜角・小波	4 区 3 画
141.45	19	上部品・ 記由子	2.1 / 1.7 / 0.6	外側波線。(左)波線は人筋。(上)ド波線にして人筋となる。	—	黑色	黑色	黑色	黑色	3 区 3 画
141.46	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 1.5 / 幅 1.5 / 厚 0.4	組目 0.5g。凹凸無差異。両面斜井口斜面。	—	黑色石	—	黑色石	—	4 区 3 画
141.47	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 1.8 / 幅 1.4 / 厚 0.3	組目 0.6g。凹凸無差異。両面斜井口斜面。	—	黑色石	—	黑色石	—	4 区 3 画
141.48	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 1.8 / 幅 1.5 / 厚 0.5	組目 1.0g。凹凸無差異。両面斜井口斜面。	—	黑色石	—	黑色石	—	4 区 3 画
141.49	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 2.3 / 幅 1.5 / 厚 0.5	組目 1.0g。凹凸無差異。両面斜井口斜面。	—	黑色石	—	黑色石	—	4 区 3 画
141.50	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 1.6 / 幅 1.5 / 厚 0.5	組目 0.8g。凹凸無差異。両面斜井口斜面。先端膨らむ部分に穴開き。	—	黑色石	—	黑色石	—	4 区 3 画
142.51	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 1.1 / 幅 1.1 / 厚 0.3	組目 0.2g。凹凸無差異。両面斜井口斜面。石材は斜井口斜面を引する。基部欠け。	—	黑色石	—	黑色石	—	4 区 3 画
142.52	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 1.8 / 幅 1.5 / 厚 0.4	組目 0.8g。凹凸無差異。両面斜井口斜面。	—	チャート	—	チャート	—	4 区 3 画
142.53	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 4.6 / 幅 2.1 / 厚 0.5	組目 1.9g。両面斜井口斜面。底部中心部は僅か、周辺に粗粒化 した部分がある。	—	黑色石	—	黑色石	—	3 区 3 画
142.54	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 2.9 / 幅 4.8 / 厚 0.9	組目 8.6g。轉角。小切で。はげ正面には織合織合が施される。	—	チャート	—	チャート	—	4 区 3 画
142.55	19	新竹石鑑・ 石鑑	長 3.2 / 幅 7.3 / 厚 0.8	組目 12.7g。轉角。輪郭で。是が正面には織合織合が施されるが、裏面には見られない。	—	安山岩	—	安山岩	—	4 区 3 画

142.56	19	新竹石頭 • 石塊	長 4.7 / 幅 (5.4) / 厚 1.1 重量 19.0kg. 構造: 丸頭大頭。表面は平滑。表面とともに引張・側面には微細な擦れが発生される。	—	玉髓	—	80%現存。	4 区 3 画
142.57	19	新竹石頭 • 石塊	長 6.1 / 幅 2.1 / 厚 0.8 重量 7.5kg. 構造: 小型で、表面と裏面とも異なる色彩。表面全体と裏面の底面と下間に微細な擦れが発生する。	—	チャート	—	完形。	4 区 3 画
142.58	19	新竹石頭 • 石塊	長 (8.9) / 幅 2.9 / 厚 1.4 重量 31.0kg. 構造: 四面とともに引張・側面には微細な擦れが発生する。つまり面部が粗。	—	黒色瑪瑙	—	90%現存。	4 区 3 画
142.59	19	新竹石頭 • 石塊	長 (14.9) / 幅 (3.9) / 厚 1.1 重量 30.1kg. 表面とともに引張・側面には微細な擦れが発生する。裏面に引けを過剰な引伸正彫刻。R.R.	—	桂臘瑪瑙	—	50%現存残存。	3 区 3 画
142.60	19	新竹石頭 • 石塊	長 3.6 / 幅 3.1 / 厚 1.4 重量 14.0kg. スケレーバーの凹面性も。	—	チャート	—	完形。	4 区 3 画
142.61	19	打羅石頭 • 石塊	長 10.8 / 幅 4.4 / 厚 2.0 重量 122.3kg. 表面: 弓く平面を呈す。表面とともに引張・側面が発生する。	—	碧石	—	完形。	4 区 3 画
142.62	19	打羅石頭 • 石塊	長 10.7 / 幅 5.5 / 厚 2.1 重量 124.0kg. 相似。	—	良玉	—	完形。	4 区 3 画
143.63	20	打羅石頭 • 石塊	長 13.0 / 幅 5.5 / 厚 2.1 重量 140.5kg. 丸頭形。表面前面のみ引張・側面には引けを呈する。表面には白い斑状の斑紋がある。	—	黑色瑪瑙	—	完形。	4 区 3 画
143.64	20	磨石石頭 • 石塊	長 (9.2) / 幅 5.1 / 厚 2.7 重量 18.1kg. 品質良好。引けに向かって屈くる形態。表面には引けが見られる。表面は引けでできなくなつた。	—	無色玛	—	60%現存残存。	4 区 3 画
143.65	20	磨石石頭 • 石塊	長 (3.5) / 幅 (5.7) / 厚 (2.1) 重量 4.0kg. 表面前面は引けに引け上げられ、表面は引けで引張できない。引けには過敏し	—	綠色玛	—	50%現存残存。	3 区 3 画
143.66	20	磨石石頭 • 石塊	長 11.0 / 幅 6.9 / 厚 2.4 重量 85.0kg. 表面とともに引張を伴つ。表面欠損。	—	安山玛	—	完形。	4 区 3 画
143.67	20	磨石石頭 • 石塊	長 11.2 / 幅 8.5 / 厚 4.3 重量 63.0kg. 表面とともに引張を伴つ。側面から正面にかけて擦痕がある。	—	綠色玛	—	完形。	4 区 3 画
143.68	20	磨石石頭 • 石塊	長 (6.9) / 幅 7.7 / 厚 3.7 重量 37.0kg. 表面: 引張を伴つ。	—	綠色玛	—	50%現存残存。	4 区 3 画
143.69	20	磨石石頭 • 石塊	長 11.1 / 幅 6.2 / 厚 4.9 重量 55.6kg. 全面擦痕。表面: 側面の中央部に引張が見られる。側面の周囲は赤い変色してゐるが、表面と裏面のものは青緑。	—	綠色玛	—	完形。	4 区 3 画
143.70	20	磨石石頭 • 石塊	長 11.2 / 幅 9.2 / 厚 2.6 重量 55.0kg. 表面と裏面とも引張が見られる。表面の周囲は白い斑状の斑紋を持つ。表面の中央には灰い擦痕がある。表面を引いて引張る。	—	綠色玛	—	完形。	4 区 3 画
144.71	20	磨石石頭 • 石塊	長 (28.2) / 幅 25.0 / 厚 9.0 重量 560.0kg. 表面上に擦痕を持ち大きく複数。表面と裏面とも引張の周囲は赤く変色しているが、	—	綠色玛	—	60%現存残存。	3 区
143.72	20	磨石石頭 • 石塊	長 10.1 / 幅 5.8 / 厚 2.2 重量 28.0kg. 表面: 引張と裏面のものは引張が見られる。両面とも引張の周囲は赤く変色しているが、	—	綠色玛	—	完形。	4 区 2 画